

令和6年度

第41号

# 病院 年報



桐生地域医療企業団  
桐生厚生総合病院



# 巻 頭 言

院 長 加 藤 広 行

皆様、こんにちは。平素より大変お世話になっております。

このたび、桐生厚生総合病院の令和6（2024）年度の年報を上梓いたしましたので、謹んでお届けいたします。ご笑納いただければ幸甚に存じます。

さて、令和6年を振り返りますと、1月の能登半島地震、9月に発生した奥能登豪雨という2度の大きな災害がありました。犠牲になられた方々に哀悼の意を表しますとともに、ご遺族と被災された皆様にお見舞いを申し上げたいと存じます。また被災地の一日も早い復旧・復興を衷心よりお祈り申し上げます。

明るいニュースは、パリ五輪での日本選手団の活躍（日本45個メダル獲得）、大谷翔平選手の活躍（結婚発表、50-50達成など）、被団協のノーベル平和賞の受賞などがあります。ノーベル賞は、更に令和7年にも大阪大学の坂口教授と京都大学の北川教授が授賞され、大変名誉あることで祝意を表したいと存じます。



当院では、令和5年4月から桐生地域医療企業団に変更となり、内科の初診紹介患者に対し完全予約制を導入、そのほかに訪問看護室やヘルニアセンターの設置、人間ドックおよび健診室を8階に移設しました。令和6年は、市民の皆様に理解しやすく、高度な医療を提供できるよう脊椎センターの設置と、身体の負担を少なく医療の質の向上を目指し、手術支援ロボットの導入を実施して参りました。当初は直腸手術と前立腺手術を中心に稼働を始めております。

令和7年には、前立腺センターと訪問看護ステーションの開設を予定しております。そのほかに政府が進めている医療DXの推進や、クラウドファンディングの挑戦を進めて参る予定でいます。医療DXの推進に関しては、マイナ保険証の利用促進を進めるとともに、電子処方せんの導入準備を進め、令和7年には両者ともに運用普及の拡充を図って参りたいと考えております。

また令和5年に企業団として新たなスタートを切り、令和6年2月に開院90周年を迎えたことから、令和7年2月に病院のロゴマークの刷新をはかりました。新ロゴマークは、市民からの公募から採択され、愛称が「ツナグ」とされ、患者さんと病院が手を取り合って笑顔になるイメージを想定されたようです。末永く親しまれることを心より祈念したいと存じます。

今後は病院経営や地域の少子高齢化・人口減少などの課題が山積みではありますが、これらに対応できる病院機能を確保しつつ、かつ持続可能な医療提供体制を目指したいと考えております。皆様のご支援、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

最後に令和6年度に群馬県医師会、桐生市医師会の皆様、および群馬大学附属病院をはじめとする県内医療機関の各関係者に格別なるご指導とご支援を頂戴しましたことに衷心より感謝し御礼申し上げます。

# 目 次

## まえがき

I	病院の現況と沿革	1
1	病院の現況	1
	(1) 病院の概況	1
	(2) 組合構成団体の地勢と位置	5
2	病院の沿革	6
II	組 織	15
1	組 織 図	15
2	管理職員氏名	16
3	職員数の推移	21
4	年度別職種別職員数	22
5	歴代管理者・副管理者及び院長	23
6	組合議会の現況	24
7	開設者協議会	27
8	医療企業団各種委員氏名等	27
9	会計監査開催状況	27
10	病院倫理委員会開催状況	28
11	医師確保対策事業について	28
III	会 議 等	29
1	委員会組織図	29
IV	教 育 研 修	30
1	病院実習	30
2	医師臨床研修制度	34
V	経 営 状 況	37
1	比較損益計算書	37
2	比較貸借対照表	38
VI	重要な成果	39
1	脊椎センターの解説	39
2	手術支援ロボットHugoの導入	39
3	マイナ保険証利用促進を図るための取り組み	39
4	病院ロゴマークの刷新	40
5	瑞宝章の受章	40

VII	業務概要	41
1	診療圏患者受診状況	41
2	入院・外来患者状況	42
3	科別入院患者数	43
4	科別外来患者数	44
5	科別時間外受診患者状況	45
5-1	小児科時間外受診患者状況（再掲）	45
5-2	科別時間外診察費特別料金徴収対象患者状況	46
5-3	月別時間外診察費特別料金徴収対象患者状況（再掲）	46
6	科別救急搬送患者状況	47
7	年齢別患者年報（年度別）	47
8	死亡・剖検数の疾病分類	48
9	手術	55
	(1) 科別・麻酔別手術件数	55
	(2) 科別・疾患別手術件数	55
10	内視鏡患者数	61
11	分娩件数・内訳	63
12	新生児未熟児センター	63
13	ICU・CCU入室患者数	64
	ICU・CCU稼働率	64
14	腎センター	65
	(1) 慢性透析の概要	65
15	人間ドック・健康診断等	65
	(1) 人間ドック・健康診断利用者数	65
16	薬剤部	66
	(1) 処方箋枚数と院外処方箋発行率	66
	(2) 医薬品使用状況	66
	(3) 麻薬施用状況	66
	(4) 薬事審議委員会審議医薬品件数	67
	(5) DI(医薬品情報管理業務)への項目別問合せ件数	68
	(6) 特殊調剤・特殊製剤	69
	(7) 注射薬セット	70
	①入院注射（TPN含む）件数	70
	②がん化学療法件数	70
	(8) 薬剤管理指導業務	70
	①服薬指導件数	70
	②退院指導件数	71
	③病棟業務実施加算1	71
	④病棟業務実施加算2	71

(9) 持参薬報告件数 .....	71
(10) 無菌製剤調製 .....	72
17 リハビリテーション科 .....	73
(1) 理学療法 .....	73
(2) 作業療法 .....	73
(3) 言語療法 .....	74
18 放射線科・放射線技術科 .....	75
(1) 部門別年度別総件数 .....	75
(2) 一般撮影部門 .....	75
(3) マンモグラフィ部門 .....	75
(4) ポータブル撮影部門 .....	76
(5) CT部門 .....	76
(6) MRI部門 .....	76
(7) 血管撮影部門 .....	77
(8) 透視(X-TV)部門 .....	78
(9) RI部門 .....	78
(10) 放射線治療部門 .....	79
(11) 骨密度検査部門 .....	79
(12) 画像入出力部門 .....	79
19 中央検査部・病理診断科 .....	80
(1) 検査種目別件数の推移 .....	80
(2) 検査種目別件数の構成比 .....	80
(3) 年度別検査項目別件数 .....	81
(4) 剖検件数 .....	82
(5) 細胞診件数 .....	82
(6) 細菌同定検査情報 .....	83
(7) 外部委託検査件数 .....	86
(8) 血液製剤使用状況 .....	86
(9) 血液製剤購入・廃棄状況 .....	87
(10) 自己血採血状況 .....	88
(11) お手軽けんさ .....	88
20 栄養管理科 .....	90
(1) 患者延食数 .....	90
(2) 個人指導件数 .....	91
(3) 選択食延食数 .....	92
(4) お祝い膳延食数 .....	92
21 臨床工学科 .....	93
(1) 医療機器管理 .....	93
(2) 臨床技術提供 .....	93

22	訪問看護室	95
23	通院治療センター	97
24	ヘルニアセンター	97
25	再診電話受付受診件数	98
	(1) 診療科別	98
	(2) 市町村別	99
26	診断書文書作成件数	99
27	専門外来件数	100
28	医療の質（臨床指標：クリニカル・インジケーター）	100
	(1) 病院全体のクリニカル・インジケーター	100
	① 病床利用率、平均在院日数	100
	② 救急車搬入患者数	100
	③ 退院後4週間以内の緊急入院率	100
	④ 24時間以内の再手術率	100
	⑤ 年間退院患者に占めるがん患者の割合	101
	⑥ 2週間以内の退院サマリー作成率	101
	⑦ 剖検率	101
	⑧ ワーファリン服用患者における出血傾向モニタリング(INR)	102
	⑨ 輸血製剤廃棄率	103
	⑩ 意見箱投書(感謝の占める割合)	104
	⑪ 褥瘡発生率	104
	(2) 感染のクリニカルインジケーター	105
	① 血液培養での表皮ブドウ球菌コンタミネーション率	105
	② 血液培養のボトルが複数提出された患者の割合	106
	③ MRSA検出状況	107
	(3) 医療安全のクリニカルインジケーター	108
<b>VIII</b>	<b>チーム医療</b>	<b>109</b>
1	医療安全対策室	109
2	感染制御チーム（ICT）	110
3	褥瘡対策チーム	111
4	栄養サポートチーム（NST）	113
5	呼吸器サポートチーム（RST）	114
6	緩和ケアチーム	116
7	排尿ケアチーム	117
8	摂食嚥下支援チーム	118
9	骨折リエゾンサービスチーム（FLS）	119
<b>IX</b>	<b>地域医療連携室</b>	<b>120</b>
1	医療相談業務	120
2	科別紹介患者数・入院	122

3	科別紹介患者数・外来	122
4	地域別紹介患者数・入院	123
5	地域別紹介患者数・外来	123
6	科別戻し・逆・新規紹介患者数	124
7	地域別戻し・逆・新規紹介患者数	124
8	科別紹介患者数（当日救急対応分）	125
9	科別事前予約患者数	126
10	オンライン検査予約	126
11	母体搬送・新生児搬送受入れ数	127
12	在宅医療未熟児等一時受入事業	127
13	退院調整患者数	127
<b>X</b>	<b>地域がん診療連携拠点病院</b>	<b>128</b>
1	がん相談支援センター	128
2	院内がん登録	129
3	化学療法・通院治療センター委員会	129
4	緩和ケアチーム	130
5	がん患者サロン（サロンあおぞら）	130
6	がんセンターボード	131
<b>XI</b>	<b>地域支援活動</b>	<b>132</b>
1	地域講演会	132
2	地域への情報提供	134
3	母親学級	137
4	職場体験受入	137
5	極低出生体重児の親の会「クラブ・プリミー」	138
6	桐生市堀マラソン大会の支援	138
7	リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2024ぐんま	138
8	令和6年度（第5回）桐生厚生総合病院連携登録医大会	138
<b>XII</b>	<b>研修業績</b>	<b>139</b>
1	学会及び院外研修会	139
2	学会発表・講演・論文	151
3	主な講演会・研修会	166
4	研修実績	170
<b>XIII</b>	<b>災害拠点病院</b>	<b>182</b>
1	指定要件	182
2	群馬県の災害拠点病院	182
3	DMA T	182

XIV	各部署の紹介	183
XV	病院施設及び医療機器	215
	1 建設改良工事等	215
	2 病院施設設備の概要	216
	3 主な医療機器購入一覧表	219
XVI	図 書	220
	1 受入図書	220
	2 受入雑誌	224
XVII	病院行事	227
	1 主な行事	227
	2 職員健康管理	228
	3 職員共済会	229
XVIII	付属施設等	230
	1 群馬県立赤城特別支援学校桐生厚生総合病院内教室	230
XIX	編集委員・部員名簿	232

## 《基本理念》

信頼され、心が通う地域医療

## 《基本方針》

- 1 患者さんの権利を尊重します。
- 2 患者さん自身で治療を選べるよう、わかりやすく十分に説明します。
- 3 地域の急性期医療を担います。
- 4 地域の医療・介護機関と緊密に連携します。
- 5 診療の質を高めるため、研鑽・研修に努めます。
- 6 医療の安全確保に努めます。
- 7 効率的で健全な病院経営を目指します。
- 8 職員が誇りを持って働ける病院を目指します。

## 《患者さんの権利》

- 1 個人として尊重され、適切で良質な医療を平等に受けられます。
- 2 プライバシー・個人情報保護が保たれます。
- 3 診療に関して、わかりやすい説明を受けられます。
- 4 検査・治療について、自らの意思で選択できます。
- 5 他の医師の意見（セカンドオピニオン）を聞くことができます。
- 6 診療記録の開示を請求することができます。

## 《患者さんの責務》

- 1 自身の健康に関する情報を正確に伝えてください。
- 2 納得できるよう、わからないことは質問してください。
- 3 自身の医療に積極的に参加してください。
- 4 他の患者さんの診療に支障を来さないよう配慮してください。
- 5 院内の規則や医療者の指示を守ってください。
- 6 教育病院として多くの実習生が研修していますので、ご理解ください。
- 7 診療費は適切にお支払いください。

# I 病院の現況と沿革

## 1 病院の現況（令和7年3月31日現在）

### （1）病院の概況

名称	桐生厚生総合病院
所在地	〒376-0024 群馬県桐生市織姫町6番3号 電話番号 (0277) 44-7171 代表 FAX番号 (0277) 44-7170 U R L <a href="https://www.kosei-hospital.kiryu.gunma.jp/">https://www.kosei-hospital.kiryu.gunma.jp/</a> E-mail <a href="mailto:webmaster@kiryuhp.jp">webmaster@kiryuhp.jp</a>
開設者	桐生地域医療企業団（桐生市とみどり市で共同設置）
企業長	加藤 広行
病院長	加藤 広行
標榜科目	内科、精神科、神経内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、血管外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓外科、乳腺外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、麻酔科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、救急科、緩和ケア内科、歯科・歯科口腔外科
施設	敷地面積 17,220.57 m <sup>2</sup> 建物面積 34,088.69 m <sup>2</sup> 〔地下1階（一部地下2階）・地上8階・養護学校 582.710 m <sup>2</sup> 含む〕
病床数	一般病床 420床 感染症病床 4床 計 424床
病院機能評価認定	一般病院2（3rdG:Ver.2.0）
診療指定	保険医療機関 国保療養取扱機関 労災保険指定病院 指定難病指定医療機関 救急告示指定病院 短期人間ドック 生活保護法指定病院 養育医療機関指定病院 群馬県エイズ診療協力病院 第二種感染症指定医療機関 地域がん診療連携拠点病院 災害拠点病院（地域災害医療センター） 災害派遣医療チーム群馬 DMAT 指定病院 群馬県地域周産期母子医療センター 原爆被爆者一般疾患医療取扱病院 指定小児慢性特定疾病医療機関 肝疾患専門医療機関 指定自立支援医療機関（育成・更生医療・精神通院医療） 母体保護法指定医 身体障害者福祉医療指定医 地域医療支援病院 診療・検査医療機関 紹介受診重点医療機関
教育指定	臨床研修病院（平成14年4月1日厚生労働省指定） 日本内科学会教育関連施設 日本呼吸器学会認定施設（内科系） 日本アレルギー学会基幹施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会特別連携施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本小児科学会小児科専門医研修施設 日本周産期・新生児医学界周産期専門医（新生児）暫定認定施設 日本外科学会外科専門医制度修練施設 日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設 日本消化器管学会指導施設 日本腹部救急医学会腹部救急認定医・教育医制度認定施設 日本胃癌学会認定施設B

日本乳癌学会関連施設  
 日本整形外科学会専門医研修施設  
 日本脳神経外科学会専門医制度連携施設  
 日本皮膚科学会認定専門医研修施設  
 日本泌尿器科学会専門医拠点教育施設  
 日本産婦人科学会専門医制度専攻医指導施設  
 日本周産期・新生児医学会周産期専門医（母胎・胎児）暫定認定施設  
 日本産婦人科内視鏡学会認定研修施設  
 日本眼科学会専門医制度研修施設  
 日本麻酔科学会麻酔科認定病院  
 日本ペインクリニック学会指定研修施設  
 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関  
 日本口腔外科学会認定准研修施設  
 日本病理学会研修登録施設  
 日本臨床細胞学会認定施設  
 日本がん治療認定医機構認定研修施設  
 日本臨床栄養代謝学会 NST 稼動認定施設  
 認定輸血検査技師制度指定施設  
 認定臨床微生物検査技師制度研修施設  
 日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師暫定研修施設  
 薬学教育協議会薬学生長期実務実習受入施設

## 施設基準

○基本診療科の施設基準等に関する届出

- ・急性期一般入院基本料 2 ・入退院支援加算 1(地域連携診療計画加算・入院時支援加算・総合機能評価加算)
- ・ハイケアユニット入院医療管理料 1 ・新生児特定集中治療室管理料 2
- ・地域歯科診療支援病院歯科初診料 ・歯科外来診療環境体制加算 2
- ・歯科診療特別対応連携加算
- ・医師事務作業補助体制加算 1(25 対 1)
- ・栄養サポートチーム加算
- ・医療安全対策加算 1(地域連携加算)
- ・感染対策向上対策加算 1(地域連携加算・抗菌薬適正使用加算)
- ・診療録管理体制加算 1 ・医療的ケア児（者）入院前支援加算
- ・後発医薬品使用体制加算 1
- ・救急医療管理加算 ・超急性期脳卒中加算
- ・データ提出加算 ・医療 DX 推進体制整備加算
- ・患者サポート体制充実加算 ・急性期看護補助体制加算（50 対 1）  
（夜間急性期看護補助体制加算（100 対 1）・夜間看護体制加算・看護補助体制充実加算） ・バイオ後発品使用体制加算 1
- ・療養環境加算 ・重症者等療養環境特別加算
- ・ハイリスク妊娠管理加算 ・ハイリスク分娩管理加算
- ・呼吸ケアチーム加算 ・認知症ケア加算 2
- ・せん妄ハイリスク患者ケア加算 ・排尿自立支援加算
- ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算 ・地域医療体制確保加算
- ・地域包括ケア病棟入院料 2 ・回復期リハビリテーション病棟入院料 3

○特掲診療料の施設基準等に関する届出

- ・薬剤管理指導料
- ・検体検査管理加算（I） ・検体検査管理加算（IV）
- ・小児食物アレルギー負荷検査
- ・喘息治療管理料 ・糖尿病合併症管理料
- ・がん性疼痛緩和指導管理料 ・がん患者指導管理料イ・ロ・ハ・ニ

- ・がん治療連携計画策定料　・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- ・外来腫瘍化学療法診察料1　・連携充実加算　・無菌製剤処理料
- ・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
- ・糖尿病透析予防指導管理料　・二次性骨折予防継続管理料1
- ・二次性骨折予防継続管理料2　・二次性骨折予防継続管理料3
- ・下肢創傷処置管理料　・外来放射線照射診療料
- ・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
- ・在宅患者訪問看護・指導料の注16(同一建物居住者訪問看護・指導料の注6の規定により準用する場合を含む。)に規定する専門管理加算
- ・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
- ・肝炎インターフェロン治療計画料
- ・夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算
- ・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算
- ・開放型病院共同指導料
- ・医療機器安全管理料1　・医療機器安全管理料2
- ・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
- ・遺伝子学的検査　・神経学的検査
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
- ・運動器リハビリテーション料(I)
- ・呼吸器リハビリテーション料(I)
- ・摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算1
- ・がん患者リハビリテーション料
- ・人工腎臓(慢性維持透析1)(導入期加算1)(透析液水質確保加算)
- ・CAD/CAM冠
- ・ニコチン依存症管理料　・内服・点滴誘発試験
- ・外来排尿自立指導料　・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
- ・ヘッドアップティルト試験　・悪性腫瘍病理組織標本加算
- ・補聴器適合検査　・CT透視下気管支鏡検査加算
- ・CT撮影及びMRI撮影
- ・輸血管管理料I(輸血適正使用加算)
- ・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
- ・麻酔管理料(I)　・放射線治療専任加算　・外来放射線治療加算
- ・高エネルギー放射線治療
- ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
- ・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
- ・腹腔鏡下直腸切除・切断術
- ・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
- ・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術　・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
- ・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術　・人工尿道括約筋植込・置換術
- ・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術　・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- ・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
- ・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
- ・クラウン・ブリッジ維持管理料　・地域連携診療計画加算
- ・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
- ・1回線量増加加算
- ・画像誘導放射線治療(IGRT)　・体外照射呼吸性移動対策加算
- ・定位放射線治療
- ・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算
- ・婦人科特定疾患治療管理料　・BRCA1/2遺伝子検査

- ・先天性代謝異常症検査 ・小児運動器疾患指導管理料
- ・椎間板内酵素注入療法
- ・精密触覚機能検査 ・腹腔鏡下仙骨腫固定術
- ・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
- ・胃瘻造設時嚥下機能評価加算 ・外来栄養食事指導料の注2

○入院時食事療養の基準等に関する届出

- ・入院時食事療法(I)…1食につき・特別食加算…1食につき・食堂加算
- 午前8時45分から午後5時30分まで

1日ドック週5回

ベッド数 13床 定数 25名

ベッド数 12床

救急治療室、救急指定、第二次救急病院群輪番制

ライナック、全身用マルチスライスCT(128列)2台、

連続血管撮影装置、MRI(1.5T・3T)2台

リハビリテーション室、言語療法室、水治療法室

ベッド数 9床

ベッド数 6床(ICU3床、CCU3床)

病理組織検査室、解剖室、標本室

総数 552人(令和7年3月31日現在)

診療時間  
人間ドック  
腎センター  
通院治療センター  
救急体制  
高度医療機器

リハビリテーション科  
新生児未熟児施設  
特定集中治療室  
病理解剖施設  
職員数

(2) 企業団構成団体の地勢と位置

当企業団の構成市は、関東地方の北西部、群馬県の東端にあり、栃木県と隣接します。中央部を渡良瀬川が流れ県境とほぼ平行するように桐生川が流れています。やがて合流して関東平野へと続いて行きます。平成18年3月27日から桐生市とみどり市の2市から構成されており、人口は約15万人、面積は484 km<sup>2</sup>でその75%以上が山林に占められていて典型的な盆地の地形と気象を呈しています。

医療企業団構成団体の地勢



市名	人口(人)	世帯数
桐生市	98,556	44,444
みどり市	47,786	19,922
合計	146,342	64,366

令和7.3.1現在『群馬県移動人口調査』



交通 ● J R 桐生駅(南口)から徒歩約10分  
● 東武新桐生駅から車で5分

## 2 病院の沿革

昭和 9 年 2 月 1 1 日	桐生市諏訪町(現東一丁目)881-1 番地において、桐生医療購買利用組合立の「桐生組合病院」として病床数 20 床で発足した (診療科 4 科 医師 4 名 病床 20 床)
昭和 1 6 年 1 2 月 2 6 日	同年 5 月末日にさかのぼって群馬県購買販売利用組合連合会の経営となり、病院の名称も「桐生組合病院」から「桐生厚生病院」となる
昭和 1 8 年 2 月	群馬県購買連は県信連と総合して群馬県信用販売購買利用連合会となる
昭和 1 9 年 1 月	利用組合連合会が群馬県農業会に改組となる
昭和 2 3 年 8 月 1 6 日	県農業会が解散したため群馬県生産農業共同組合連合会に委譲となる
昭和 2 3 年 1 2 月	桐生地方国民健康保険団体連合会が設立され、同年 8 月にさかのぼって生産農業協同組合連合会から一切を譲り受けた
昭和 2 5 年 1 2 月 2 6 日	診療科 7 科、外科・内科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・歯科及び理学診療科
昭和 2 6 年 4 月 5 日	地方自治法第 284 条による地方公共団体の組合として、桐生市外十二箇町村医療事務組合(構成市町村は、桐生市、大間々町、梅田村、相生村、川内村、福岡村、毛里田村、黒保根村、東村、新里村、笠懸村、藪塚本町及び強戸村)が設置され国保連合会から引き継がれた
昭和 2 6 年 1 1 月 1 日	小児科標榜(8 科)
昭和 2 7 年 4 月 2 日	2 箇町村(栃木県小俣町と菱村)加入により桐生市外十四箇町村医療事務組合となる
昭和 2 7 年 8 月 1 8 日	一般病床 100 床、結核病床 60 床、計 160 床
昭和 2 9 年 7 月 2 8 日	一般病床 108 床、結核病床 102 床、計 210 床
昭和 3 0 年 8 月 2 日	梅田・相生・川内村が桐生市に、川内村の一部と福岡村が大間々町にそれぞれ合併になり桐生市外十箇町村医療事務組合となる
昭和 3 2 年度～ 昭和 3 5 年度	4 箇年継続事業として、厚生年金保険積立金還元融資を受け、桐生市織姫町 6 番 3 号に鉄筋コンクリート 6 階建(延 6, 185. 58 m <sup>2</sup> )を新築
昭和 3 3 年 9 月 1 6 日	開設許可(群馬県指令医 第 198 号)
昭和 3 4 年 1 1 月 7 日	町村合併(強戸村が太田市に、菱村が桐生市に合併した)により桐生市外八箇町村医療事務組合となる
昭和 3 5 年 6 月 1 4 日	一般病床 216 床(2 類看護)、結核病床 71 床(3 類看護)、計 287 床
昭和 3 5 年 6 月 2 0 日	諏訪町から現在地に移転
昭和 3 5 年 6 月 2 0 日	開設届出(群馬県指令医 第 112 号)
昭和 3 5 年 9 月 3 0 日	「総合病院」として承認され名称も「桐生厚生総合病院」となる 診療科 10 科、内科・小児科・外科・整形外科・皮膚泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・歯科及び理学診療科
昭和 3 7 年 1 0 月 6 日	看護婦宿舎 2 階建新築(延 1, 207. 50 m <sup>2</sup> )
昭和 3 8 年 7 月 2 9 日	町村合併(坂西町「旧小俣町」が足利市に合併した)により桐生市外七箇町村医療事務組合(昭 39. 3. 19)となる
昭和 3 9 年 9 月 2 8 日	病棟、鉄筋コンクリート 4 階建(延 1, 264. 64 m <sup>2</sup> )を増築、この病床数 105 床、全病床数は一部使用変更により一般病床 314 床、結核病床 71 床、計 385 床

昭和40年	1月26日	歯科診療廃止(9科となる)
昭和40年	4月26日	町村合併(毛里田村が太田市に合併した)により桐生市外六箇町村医療事務組合となる
昭和44年	3月24日	新病棟、鉄筋コンクリート2階建(延918.72㎡)を増築、この病床にコバルト室・ラジウム病床・手術室4室・リハビリテーション室等を設置した 病床数は377床(うち結核病床71床)となる
昭和44年	6月26日	病床数は383床(うち結核病床71床)となる
昭和45年	8月1日	脳神経外科を新設、診療科は10科となる
昭和46年	1月18日	結核病床を71床から32床減床し、一般病床に振り替えた 病床数は一部使用変更により一般病床348床、結核病床32床、計380床となり、結核病棟は6階から4階に移動した
昭和46年	5月20日	皮膚泌尿器科は皮膚科と泌尿器科に分かれ診療科は11科となる
昭和47年	8月14日	診療棟、3階建(延844.32㎡)を増築、小児科・脳神経外科・泌尿器科・皮膚科・眼科検査室・図書室・研究室などが入る 小児病棟、3階建(延411.42㎡)を増築、小児病棟は34床増えて一般病床382床、結核病床32床、合わせて414床となる
昭和48年	3月5日	独協医科大学研究室、2階建(延476.38㎡)を新築 病床数は一部使用変更により一般病床362床、結核病床32床、計394床
昭和48年	3月10日	一部使用変更により一般病床360床、結核病床32床、計392床となる
昭和48年	12月6日	看護婦宿舎・鉄筋コンクリート6階建(延2,954.64㎡)を新築した 定員:170人 所在地:織姫町5番43号
昭和48年	12月10日	看護婦宿舎の一部に院内託児所(桐の子保育所)を開設し、看護婦の幼児の保育を始めた
昭和49年	4月9日	桐生市立昭和小学校病弱学級を旧看護婦宿舎内に開設した
昭和49年	5月29日	伝染病隔離病舎・鉄筋コンクリート2階建(延669.86㎡)を病院敷地内に新築、伝染病舎の病床数は30床、一般360床・結核32床、計422床
昭和49年	8月27日	人工腎臓装置・循環器系X線装置等を設置し、小児病棟を10床増床して一般病床は370床となる(結核・伝染病床は変わらず)
昭和49年	9月28日	6階病棟が2床減床となり一般病床368床となる
昭和50年	11月17日	結核病床を15床減床して17床とした一般病床は12床増床して380床となり、合わせて病床数は427床となる(伝染病床数は30床のまま)
昭和53年	5月18日	独協医科大学研究室に3階(238.19㎡)を増築した
昭和54年	4月1日	病弱学級が群馬県立東毛養護学校桐生厚生総合病院分室となり、小・中学部を設置した
昭和55年	3月22日	中庭に管理・診療棟(223.487㎡)を増築、ギプス室・水治療室(ハバートタンク)・中央注射室・小会議室などを設置した
昭和55年	4月1日	養護学校分教室が東毛養護学校桐生分校に昇格した
昭和55年	4月7日	放射線科を標榜、診療科は12科となる
昭和56年	10月28日	一般病床380床、結核病床11床、伝染病床30床、合わせて421床となる。
昭和58年	6月11日	結核病床を廃止
昭和58年	7月4日	一般病床398床、伝染病床30床、合わせて428床となる
昭和59年	5月23日	桐生厚生総合病院開院50周年記念式典並びに祝賀会を開催(桐生市産業文化会館にて)

昭和59年10月1日	第101回定例議会終了後の全員協議会において病院増改築計画案が原案で了承された
昭和61年3月1日	第105回定例議会で病院増改築事業費(継続費)が承認された
昭和61年6月14日	病院増改築事業のため伝染病床30床の廃止が許可される
昭和61年10月30日	病院増改築第1期工事(病棟工事)に着手
昭和62年5月19日	中国陝西省人民医院と友好病院締結の調印式が行われた
昭和63年8月1日	神経内科を標榜、診療科は13科となる
昭和63年10月28日	病院増改築第1期工事(病棟工事)完成 新病棟は鉄骨鉄筋コンクリート造、地下1階(一部地下2階)地上8階建てで一般病床510床、伝染病床20床となる
昭和63年11月1日	心臓血管外科を標榜、診療科は14科となる
昭和64年1月1日	新病棟完成に伴い、看護基準・基準給食・寝具基準を再申請する
平成2年1月26日	病院増改築第2期工事(外来棟工事)完成
平成2年2月1日	麻酔科及び歯科を標榜、診療科は16科となる
平成2年5月7日	病院増改築第3期工事(外構工事)完成 病院増改築工事竣工
平成2年5月23日	病院増改築落成式
平成3年10月25日	中国陝西省人民医院との「友好病院締結に関する覚書」延長の調印式が行われた(中国西安)
平成6年5月16日	磁気共鳴断層撮影装置(MRI)の運用を開始する
平成6年6月1日	精神科と呼吸器外科を標榜、診療科は18科となる
平成8年7月31日	骨密度測定装置導入
平成8年7月31日	ICUの3床を2床に、NICU・新生児未熟児センターの16床を17床に変更
平成8年10月1日	中国陝西省人民医院との「盟約書及び盟約書に基づく友好病院締結に関する覚書」の調印式が行われた(中国西安)
平成9年3月27日	災害拠点病院として指定
平成9年4月1日	特定療養費に係る療養の提供実施(1,050円)
平成9年4月1日	標榜診療科変更届出(理学療法科からリハビリテーション科、歯科から歯科・歯科口腔外科へ変更)
平成9年8月18日	NICU改修工事着工
平成9年11月30日	NICU改修工事完成
平成11年3月31日	伝染病床20床廃止
平成11年4月1日	一般病床510床、感染症病床4床、合わせて514床となる
平成11年11月1日	オーダーリングシステム導入
平成12年11月1日	診療録等開示を開始
平成13年3月31日	院内保育所及び看護婦宿舎廃止
平成13年5月1日	桐生厚生総合病院のホームページを開設
平成14年4月1日	臨床研修病院として厚生労働省から指定
平成14年6月21日	院外広報誌<ほほえみ>創刊号発刊(以降3ヵ月毎に刊行)
平成14年11月18日	病院機能評価(一般病院種別B)の認定
平成15年1月23日	中国陝西省人民医院との「友好病院締結に伴う調印式」及び「人民医院院長へ名誉顧問称号の贈呈式」を行う

平成15年	2月	3日	感染症病棟の改修工事が完了し、感染症病棟4床及び人間ドック待合室・会議室等の使用を開始する
平成15年	4月	1日	回復期リハビリテーション病棟を6階東病棟に36床設置する
平成15年	4月	1日	地域医療連携室新設
平成15年	5月	1日	地域医療連携室を外来棟2階に移設し、外来棟1階に精神科を移設し、病棟1階に移設した中央注射室にて外来化学療法も開始した
平成15年	12月	1日	女性専用外来の開始(毎週月曜日午後、完全予約制)
平成16年	2月	9日	急性期患者への高度医療提供としてMRIを増設し、2基の運用を開始する
平成16年	3月	11日	コバルト照射治療を廃止し、放射線発生装置(ライナック)の施設検査の合格を受け運用を開始する
平成16年	5月	1日	循環器科を標榜、診療科は19科となる
平成16年	7月	1日	回復期リハビリテーション病棟を6階西病棟へ移設、11床増床し、43床とした
平成16年	8月	1日	亜急性期入院医療管理料(36床)の施設基準
平成16年	9月	1日	全館禁煙の実施
平成16年	10月	1日	放射線発生装置の運用により高エネルギー放射線治療等の施設基準
平成17年	3月	28日	藪塚本町が、新設合併により組合を脱退。(構成団体:1市2町3村)
平成17年	3月	31日	看護婦宿舎の解体工事により70台分の駐車場が整備された。
平成17年	4月	1日	亜急性期入院医療管理料(36床→30床)
平成17年	4月	1日	病院図書室開放
平成17年	6月	1日	お見舞いメールお届けサービス開始
平成17年	6月	1日	群馬県地域周産期母子医療センター
平成17年	6月	13日	桐生市、新里村、黒保根村編入合併により桐生市を形成 (構成団体:1市2町1村)
平成17年	12月	1日	再診電話当日受付開始
平成18年	3月	27日	笠懸町、大間々町、(勢多)東村新設合併によりみどり市を形成 (構成団体:2市)
平成18年	3月	27日	組合名称を「桐生地域医療組合」に変更し、2市で運営することとなる
平成18年	4月	1日	医療安全対策室を新設
平成18年	5月	1日	褥瘡対策室を新設
平成18年	6月	1日	敷地内禁煙
平成18年	7月	1日	禁煙外来を開設
平成18年	11月	1日	一般病棟入院基本料(7対1)施設基準 (特定集中治療室管理料及び新生児入院医療管理加算取下げ)
平成19年	1月	1日	亜急性期入院医療管理料(30床→24床)
平成19年	1月	31日	地域がん診療連携拠点病院として厚生労働省から指定
平成19年	2月	2日	患者さんの権利・責務制定
平成19年	3月	1日	亜急性期入院医療管理料(24床→6床)
平成19年	3月	1日	電子レセプト運用開始
平成19年	4月	1日	NICU病棟(6床→9床)、GCU病棟(11床→12床)に増床した
平成19年	4月	1日	入院基本料等(7対1看護)の施設基準(一般入院)第78号 457床から419床(休床35床+NICU3床)に変更
平成19年	4月	1日	医事システム入れ替え(HOPE WIN)

平成19年	4月	1日	がん相談支援センター開設
平成19年	7月	1日	DPC準備病院認定
平成19年	11月	18日	病院機能評価(Ver. 5.0)の更新認定
平成19年	11月	26日	病院情報システム(含電子カルテ)
平成20年	1月	7日	セカンドオピニオン外来開設
平成20年	4月	1日	臨床工学科設置
平成20年	4月	1日	初診に係る保険外併用療養費の改正(1,580円)
平成20年	6月	9日	地域医療連携室移設拡充工事完了
平成20年	11月	1日	回復期リハビリテーション病棟入院料(6階西病棟43床)を辞退
平成20年	12月	1日	6階西病棟を亜急性期病床37床・一般病床6床に移行 亜急性期入院医療管理料I(6階西病棟37床)を取得
平成21年	3月	31日	桐生厚生総合病院改革プラン策定
平成21年	3月	31日	日本輸血・細胞治療学会I&A認定施設
平成21年	4月	1日	お手軽けんさ開設
平成21年	5月	1日	オンライン検査(CT・MRI)予約システム(C@Rna:カルナ)導入
平成21年	7月	1日	DPC対象病院に移行
平成21年	7月	1日	乳腺外来開設
平成21年	7月	7日	フットケア外来開設
平成21年	10月	1日	バナー広告開設・患者サロン開設
平成22年	1月	6日	助産師外来開設
平成22年	3月	25日	ESCO事業者選定(H23.3.31 工事完了引渡)
平成22年	4月	1日	感染対策室新設
平成22年	6月	1日	亜急性期入院医療管理料I(37床→36床)
平成22年	8月	1日	小児時間外受診体制の新たな取組
平成23年	2月	1日	時間外診療費特別料金(3,360円)の徴収
平成23年	4月		群馬県の要請に基づき、医療救護班(医師1名・看護師2名・事務1名)派遣 【宮城県南三陸町・志津川中学校 3日～6日(4日間)】
平成23年	7月	12日	厚生労働省より、災害派遣医療チーム群馬DMA T病院に指定 【医師1名・看護師2名・薬剤師1名・事務1名】
平成23年	10月		地域医療再生基金補助金によるMRI(3.0T)、DSA(多目的血管撮影装置)導入
平成23年	12月		地域医療再生基金補助金による障害者歯科のための外来診療室改修工事等
平成24年	3月		地域医療再生基金補助金による小児周産期医療拡充整備事業 【NICU・GCU各3床増床、母児同室等の施設機器整備】
平成24年	4月	1日	地域再生基金実施に伴い、一般病床502床、感染症病床4床、計506床
平成24年	4月	1日	亜急性期入院医療管理料I(36床→35床)
平成24年	4月	1日	感染防止対策加算1の施設基準
平成24年	7月	1日	亜急性期入院医療管理料I(35床→29床)
平成24年	11月		ハッピー健康相談室(新規)
平成24年	11月	1日	病理診断部を中央検査部から分離
平成24年	12月	7日	病院機能評価(Ver. 6.0)の更新認定
平成25年	2月	1日	初診に係る保険外併用療養費の改正(2,100円)
平成25年	3月	1日	1階正面玄関横旧喫茶コーナーを「情報コーナー」として改装

平成25年	3月29日	第2期桐生厚生総合病院改革プラン策定
平成25年	4月1日	臨床研修病院入院診療加算(協力型から基幹型へ変更)
平成25年	7月1日	療養環境加算(75床)の施設基準
平成25年	7月1日	亜急性期入院医療管理料(29床→23床)
平成25年	12月1日	医師事務作業補助体制加算区分(25対1→30対1へ変更)
平成26年	2月1日	地域医療連携室だより「きずな」を発刊する
平成26年	2月1日	透析液水質確保加算(加算1→加算2へ変更)
平成26年	3月31日	桐生厚生総合病院ホームページ リニューアル
平成26年	4月1日	病理診断科を標榜、診療科は20科となる
平成26年	4月1日	循環器科を循環器内科に耳鼻咽喉科を耳鼻いんこう科に名称変更
平成26年	4月1日	消費税率改正に伴う使用料・手数料の料金改定
平成26年	4月1日	小児外来診療料の施設基準
平成26年	4月1日	HPV核酸同定検査(簡易ジェノタイプ)の施設基準
平成26年	4月1日	経皮的冠動脈形成術の施設基準
平成26年	4月1日	経皮的冠動脈ステント留置術の施設基準
平成26年	4月1日	腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術の施設基準
平成26年	4月1日	貯血式自己輸血管理体制加算の施設基準
平成26年	4月1日	腹腔鏡下肝切除術の施設基準の辞退
平成26年	6月18日	地域医療支援病院の承認
平成26年	7月1日	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術の施設基準
平成26年	7月1日	開放型病院共同指導料の施設基準
平成26年	7月1日	CAD/CAM冠の施設基準
平成26年	8月1日	小児食物アレルギーの施設基準
平成26年	8月1日	がん患者指導管理料2・3の施設基準
平成26年	9月1日	ハイケアユニット入院医療管理料1の施設基準
平成26年	9月30日	亜急性期入院医療管理料1(23床)終了
平成26年	10月1日	糖尿病透析予防指導管理料の施設基準
平成26年	10月23日	地域医療勉強会を桐生地域の医療機関等の従事者を対象に開催する
平成26年	12月20日	日本輸血・細胞治療学会I&Aの更新認定
平成27年	1月10日	病院情報システムの更新拡充
平成27年	2月21日	多数傷病者受入訓練の実施
平成27年	3月2日	地域医療再生基金補助金により非常用発電装置拡充更新事業完工
平成27年	4月1日	心臓血管外科を心臓外科に変更し、血管外科、救急科、緩和ケア内科を標榜、診療科は23科となる
平成27年	5月1日	持続血糖測定器加算の施設基準
平成27年	5月1日	皮下連続式グルコース測定の施設基準
平成27年	7月1日	CT透視下気管支鏡検査加算の施設基準
平成27年	12月2日	院外骨塩定量(骨密度)検査の実施
平成28年	3月1日	病棟薬剤業務実施加算1の施設基準
平成28年	4月1日	乳房MRI撮影加算の施設基準
平成28年	7月1日	総合評価加算の施設基準
平成28年	8月1日	病棟薬剤業務実施加算2の施設基準
平成28年	9月1日	下肢末梢動脈疾患指導管理加算の施設基準

平成28年10月	1日	地域包括ケア病棟入院料1の施設基準
平成28年11月	1日	認知症ケア加算2の施設基準
平成29年	1月1日	呼吸ケアチーム加算の施設基準
平成29年11月	18日	病院機能評価 3rdG:Ver1.1 更新認定
平成30年	4月1日	感染防止対策加算1(抗菌薬適正使用支援加算)の施設基準 後発医薬品使用体制加算1の施設基準
平成30年	5月1日	入退院支援加算1(地域連携診療計画加算・入院時支援加算)の施設基準
平成30年	6月1日	悪性腫瘍病理組織標本加算および遺伝子学的検査の施設基準
平成30年	7月1日	強度変調放射線治療 (IMRT) の施設基準 診療録管理体制加算1(加算2→加算1)の施設基準 医療安全対策加算1(医療安全対策地域連携加算1)の施設基準 夜間休日救急搬送医学管理料(救急搬送看護体制加算)の施設基準
平成30年	8月1日	回復期リハビリテーション病棟を6階西病棟に31床設置する 回復期リハビリテーション病棟入院料6の施設基準 地域包括ケア病棟を6階西病棟から4階東病棟へ移設(44床) 地域包括ケア病棟入院料2(入院料1→入院料2)の施設基準
平成30年10月	1日	平成30年4月の診療報酬改定で、紹介状なしで400床以上の地域医療支援病院を受診した患者等へ定額負担を徴収することに伴い次に係る保険外併用療養費の改正を行う 初診に係る保険外併用療養費の改正(2,160円→5,400円) 再診に係る保険外併用療養費の設定(2,700円) 時間外診療費特別料金の改正(3,460円→5,400円)
平成30年11月	1日	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術の施設基準
平成31年	2月1日	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術の施設基準
平成31年	3月1日	回復期リハビリテーション病棟入院料3(入院料6→入院料3)施設基準
平成31年	3月7日	日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価認定制度(I&A)の更新認定
令和元年	9月1日	急性期看護補助体制加算 25対1(50対1→25対1) セカンドオピニオン外来無料化
令和元年10月	1日	消費税率改正に伴う使用料・手数料の料金改定
令和2年	4月1日	一般病床429床、感染症病床4床、合わせて433床となる 通院治療センター(9床)開設 医師事務作業補助体制加算1(30対1→25対1へ変更)の施設基準 せん妄ハイリスク患者ケア加算の施設基準 排尿自立支援加算の施設基準 地域医療体制確保加算の施設基準 入退院支援加算1(総合機能評価加算)の施設基準 心臓ペースメーカー指導管理料 がん患者指導管理料ニの施設基準 婦人科特定疾患治療管理料の施設基準 BRCA1/2 遺伝子検査の施設基準 先天性代謝異常症検査の施設基準
令和2年	5月1日	小児運動器疾患指導管理料の施設基準 椎間板内酸素注入療法の施設基準

令和	2年	10月	1日	新生児特定集中治療室管理料 2(12床→9床)の施設基準
令和	3年	4月	1日	小児入院医療管理料 3(管理料 2→管理料 3)の施設基準 連携充実加算の施設基準 外来栄養食事指導料の注 2 に規定する施設基準 通院治療センター増床(9床→12床)
令和	3年	8月	1日	小児入院医療管理料 3(15床→9床)の施設基準
令和	3年	9月	1日	精密触覚機能検査の施設基準
令和	3年	10月	1日	新生児特定集中治療室管理料 2(9床→6床)の施設基準
令和	4年	2月	1日	医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 16 に掲げる手術の施設基準 胃瘻造設時嚥下機能評価加算の施設基準
令和	4年	3月	1日	腹腔鏡下仙骨腫固定術の施設基準
令和	4年	3月	14日	電子カルテシステムの更新
令和	4年	4月	1日	外来腫瘍化学療法診察料 1 の施設基準 摂食機能療法の注 3 に規定する摂食嚥下機能回復体制加算 1 の施設基準 感染対策向上加算 1 の施設基準
令和	4年	6月	1日	栄養サポートチーム加算の施設基準 二次性骨折予防継続管理料 1 の施設基準 二次性骨折予防継続管理料 2 の施設基準 二次性骨折予防継続管理料 3 の施設基準
令和	4年	7月	1日	補聴器適合検査の施設基準
令和	4年	10月	1日	看護職員処遇改善評価料の施設基準
令和	5年	1月	1日	貯血式自己血輸血管理体制加算の施設基準の辞退 療養・就労両立支援指導料の注 3 に規定する相談支援加算の施設基準 小児入院医療管理料 4 の施設基準の辞退 報告書管理体制加算の施設基準
令和	5年	4月	1日	桐生地域医療組合から桐生地域医療企業団となる 報告書管理体制加算の施設基準の辞退 外来放射線照射診療料の施設基準 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注 2 の施設基準 在宅患者訪問看護・指導料の注 16(同一建物居住者訪問看護・指導料の注 6 の規定により準用する場合を含む。)に規定する専門管理加算の施設基準 強度変調放射線治療(IMRT)の施設基準の辞退 病理診断管理加算 1 の施設基準の辞退
令和	5年	5月	1日	入退院支援加算 3 の施設基準 急性期看護補助体制加算(夜間急性期看護補助体制加算(100 対 1)・看護補助体制充実加算)の施設基準 下肢創傷処置管理料の施設基準
令和	5年	12月	1日	急性期看護補助体制加算(25 対 1→50 対 1・夜間看護体制加算)の施設基準 膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)の施設基準
令和	6年	1月	3日	能登半島沖地震に伴う群馬県の要請に基づき、災害派遣医療チーム(DMA T) 5名(医師 1名、看護師 2名、業務調整員 2名)派遣 【石川県公立能登総合病院他 3日～7日(5日間)】

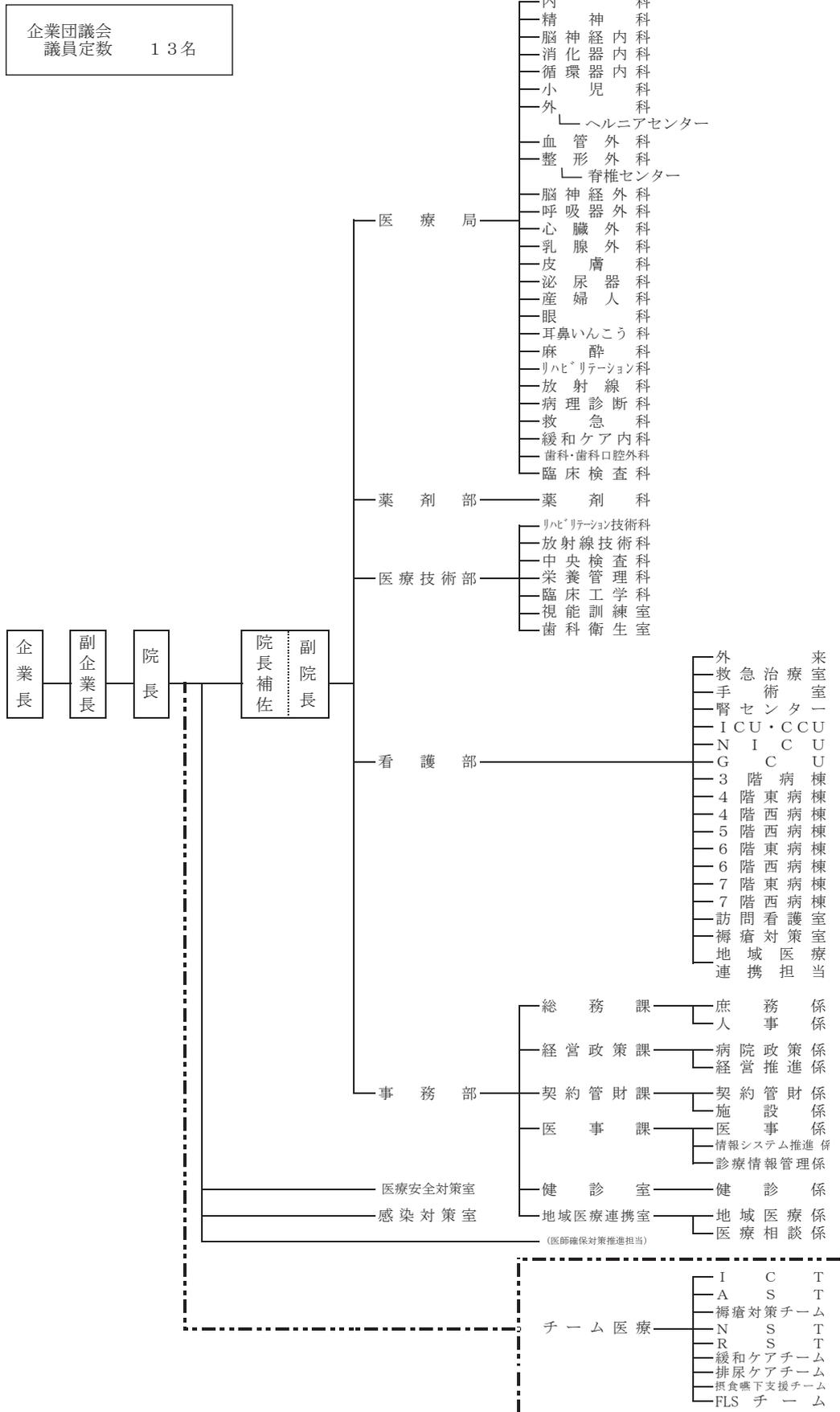
令和	6年	4月	1日	救急センター及び脊椎センター開設
令和	6年	6月	1日	医療DX推進体制整備加算の施設基準 診療録管理体制加算1の施設基準 医療的ケア児(者)入院前支援加算の施設基準 腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)の施設基準 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)の施設基準 外来・在宅ベースアップ評価料(I)の施設基準 歯科外来・在宅ベースアップ評価料(I)の施設基準 入院ベースアップ評価料69の施設基準
令和	6年	7月		手術支援ロボット稼働
令和	6年	9月	1日	摂食嚥下機能回復体制加算2(加算1→加算2)の施設基準
令和	6年	10月	1日	入退院支援加算1(地域連携診療計画加算・入退院支援加算・総合機能評価加算)(加算3→加算1)の施設基準
令和	6年	11月	1日	一般病棟入院基本料(急性期一般入院料2)(入院料1→入院料2)の施設基準
令和	7年	2月		病院ロゴマークを「ツナグ」へ変更
令和	7年	2月	1日	一般病棟入院基本料(急性期一般入院料1)(入院料2→入院料1)の施設基準

# II 組織

## 1 組織図

桐生地域医療企業団  
桐生厚生総合病院

(令和7年3月31日現在)



## 2 管理職員氏名

(令和7年3月31日)

企業長 加藤 広行 (兼院長)

所 属	役 職 名	氏 名	摘 要
	院 長	加 藤 広 行	兼企業長
	副 院 長	曲 澤 聡	兼脳神経外科部長兼地域医療連携 室長
	〃	森 永 暢 浩	兼外科部長兼感染対策室長
	〃	岡 田 克 之	兼皮膚科部長兼医療安全対策室長
	〃	大 木 康 史	兼小児科部長兼医療技術部長
	医 療 局 長	飯 田 智 広	兼内科部長
医 療 局 (内 科)	部 長	飯 田 智 広	兼医療局長
	〃	加 嶋 耕 二	
	〃	小 野 昭 浩	
	〃	野 中 真 知	
	〃	菅 間 一 乃	
	〃	大 澤 翔	
	医 長	福 地 達	
	〃	原 健太郎	
	〃	相 原 幸祐	
	〃	根 岸 駿	
(脳神経内科)	部 長	高 田 しのぶ	
(循環器内科)	部 長	桑 原 渉	
	〃	千吉良 彩 花	
(小児科)	〃	大 木 康 史	兼副院長兼医療技術部長
	〃	袖 野 玲 子	
	〃	浦 野 博 央	
	〃	関 根 和 彦	
	〃	齊 藤 亜希子	
(外科)	部 長	森 永 暢 浩	兼副院長兼感染対策室長
	〃	和 田 渉	
	〃	緒 方 杏 一	
	〃	田 中 成 岳	兼ヘルニアセンター長
(整形外科)	部 長	斯 波 俊 祐	兼リハビリテーション科部長兼脊 椎センター長
	〃	角 田 陽 平	
	〃	上 野 哲	
	〃	工 藤 千 佳	
	〃	齋 田 竜 太	
(脳神経外科)	部 長	曲 澤 聡	副院長兼医療技術部長兼地域医療 連携室長
	〃	橋 場 康 弘	兼救急センター長
	医 長	石 井 希 和	
(乳腺外科)	部 長	森 下 亜希子	

(皮膚科)	部長	岡田克之	兼副院長兼医療安全対策室長
(泌尿器科)	部長	上井崇智	
	〃	岡本亘平	
(産婦人科)	部長	林拓磨	
(眼科)	部長	鏡一成	
	〃	丸山泰弘	
(耳鼻いんこう科)	部長	田村明洋	
	〃	梅村崇貴	
(麻酔科)	部長	山田由淳	
	〃	佐藤淳裕	
	〃	塚越尚彰	
	〃	入内島伸友	
(リハビリテーション科)	部長	高瀬友彰	兼整形外科部長兼脊椎センター長
	〃	斯波俊祐	
(放射線科)	部長	有阪眞由美	
	部長	小林茂弘	
(歯科・歯科口腔外科)	部長	小高橋満	兼参与兼健診室長
	〃	今井正之	
(臨床検査科)	部長	田中舞聡	兼小児科部長
薬剤部	部長	阿部正樹	
	科長	河井利恵子	
	科長補佐	細谷潤	
	〃	森田由香利	
	〃	根岸由美佳	
	係長	矢古宇由佳	
医療技術部	部長	大木康史	副院長兼小児科部長兼医療技術部長
リハビリテーション技術科	科長	勝山典年	
	科長補佐	飯塚史子	
	係長	橋場聡志	
放射線技術科	科長	見留豊久	
	科長補佐	林克政	
	〃	小林啓誠	
	〃	高林啓司	
	係長	須永眞一	
	〃	中村昌弘	
中央検査科	科長	梶田幸夫	
	科長補佐	三田修道	
	〃	鈴木晶子	
	〃	田村典子	
	〃	永井羊子	
	〃	今泉智博	
	〃	高田剛	

栄 養 管 理 科	科 長	小 林 誠	
臨 床 工 学 科	係 長	三 木 康 正	
看 護 部	看 護 部 長	粕 川 由 貴 子	兼4階西病棟看護師長事務取扱
	副 看 護 部 長	鈴 木 由 美 子	
	〃	堀 越 美 智 代	
	〃	井 上 由 子	
	〃	関 靖 枝	
	〃	上 原 美 奈 子	兼地域医療連携室主幹兼医療相談 係長事務取扱
	〃	武 田 智 子	兼救急治療室看護師長事務取扱
( 救 急 治 療 室 )	看 護 師 長 事 務 取 扱	武 田 智 子	兼副看護部長
	看 護 副 師 長	朽 津 麻 美	
	〃	奥 村 佳 恵	
( 外 来 )	看 護 師 長	西 場 里 香	
	看 護 副 師 長	林 由 里	
	〃	大 川 三 登 利	
( 手 術 室 )	看 護 師 長	佐 藤 祥 代	
	看 護 副 師 長	高 草 木 綾	
	〃	古 澤 悟	
( 腎 セ ン タ ー )	看 護 師 長	小 林 葉 子	
( I C U ・ C C U )	看 護 師 長	小 野 里 貴 子	
	看 護 副 師 長	石 川 典 子	
	〃	鈴 木 美 樹	
	〃	岡 田 理 絵 子	
( N I C U )	看 護 師 長	野 村 美 菜 子	
	〃	阿 左 美 ま ゆ 美	
	看 護 副 師 長	小 林 孝 子	
	〃	小 林 千 恵	
( 3 階 病 棟 )	看 護 師 長	鈴 木 ひ ろ 美	
	看 護 副 師 長	鈴 木 久 美 恵	
	〃	今 井 恵	
( 4 階 東 病 棟 )	看 護 師 長	山 口 景 子	
	看 護 副 師 長	岡 村 美 幸 子	
	〃	小 林 良 子	
( 4 階 西 病 棟 )	看 護 師 長 事 務 取 扱	鈴 木 由 美 子	兼副看護部長
	看 護 副 師 長	瀬 谷 好 美	
	〃	大 川 里 美	
( 5 階 西 病 棟 )	看 護 師 長	石 関 しのぶ	
	看 護 副 師 長	本 橋 由 香	
	〃	坂 本 雅 美 子	
	〃	桐 生 諭 子	
( 6 階 東 病 棟 )	看 護 師 長	深 井 昌 美 子	
	看 護 副 師 長	荒 牧 恵 子	
	〃	青 山 真 由 美	

(6階東病棟)	看護副師長	井原昌利	
(6階西病棟)	看護師長 看護副師長	秋間由博 金澤典子	
(7階東病棟)	看護師長 看護副師長 "	小澤裕美 中野理恵 伊藤知恵美	
(7階西病棟)	看護師長 看護副師長 "	小倉直子 高山明美 和田順子	
(訪問看護室)	看護師長 看護副師長	伊藤さやか 村田絹代 田中愛	
褥瘡対策室	看護師長	大谷内千恵	
医療安全対策室	室長 看護師長	岡田克之 高橋紀子	兼副院長兼皮膚科部長
感染対策室	室長 看護副師長 "	森永暢浩 山田あゆり 須永泰明	兼副院長兼外科部長
事務部	事務長		
(総務課)	課長	宮田晋一	兼事務長代理兼経営政策課主幹 (病院政策担当) 兼医師確保対策 推進担当(正)
	課長補佐	石井理彦	兼庶務係長兼経営政策課長補佐兼 病院政策係長
	"	剣物裕司	兼人事係長兼医師確保対策推進担 当(副)
(経営政策課)	主幹(病院政 策担当)	宮田晋一	兼総務課長兼医師確保対策推進担 当(正)
	課長補佐	石井理彦	兼総務課長補佐兼庶務係長兼病院 政策係長
	主幹(経営政 策担当)	宇津野 貴	兼契約管財課長
(契約管財課)	課長補佐	高草木 有里子	兼経営政策係長
	課長	宇津野 貴	兼経営政策課主幹(経営推進担 当)
	課長補佐	藺田達也	兼施設係長
	"	石原孝泰	兼契約管財係長
(医事課)	次長	新井教弘	兼医事課長兼健診室主幹兼診療情 報管理係長事務取扱
	課長補佐	本田英之	兼医事係長兼情報システム推進係 長
(健診室)	室長 部長	高橋満弘 白須達也	兼参与兼放射線科医長
	主幹	新井教弘	兼次長兼医事課長兼診療情報管理 係長事務取扱
(地域医療連携室)	室長	曲澤 聡	兼副院長兼脳神経外科部長兼医療 技術部長

( 地域医療連携室 )	主 幹 室 長 補 佐 看 護 師 長 看 護 副 師 長	上 原 美 奈 子 金 子 孝 進 岡 田 牧 子 荒 川 浩	兼副看護部長兼医療相談係長事務 取扱 兼地域医療係長
-------------	--	--	----------------------------------

### 3 職員数の推移

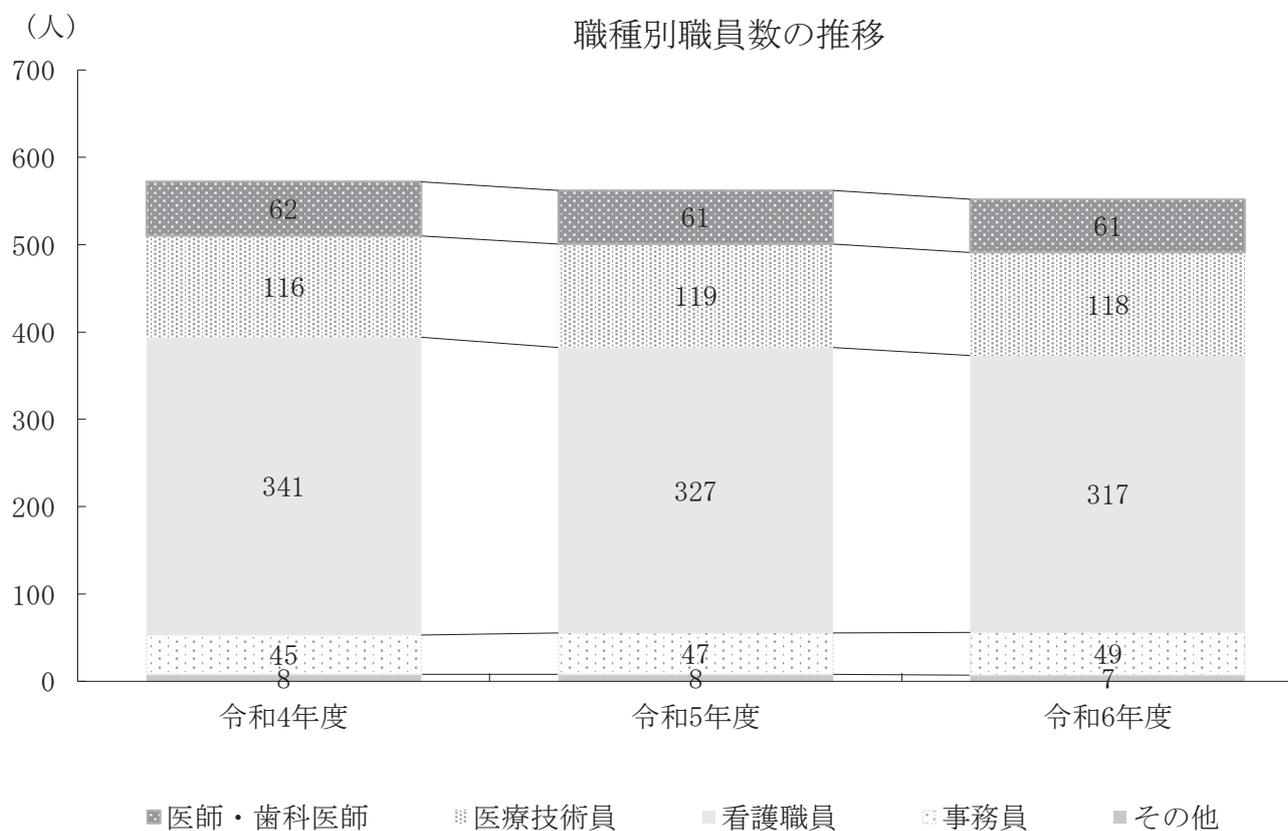
職種別		年 度		令和4年度		令和5年度		令和6年度			
		職員数		職員数		職員数		前年度比			
		常 勤	非 常 勤	常 勤	非 常 勤	常 勤	非 常 勤	常 勤	非 常 勤		
医 局	医 師	人	人	人	人	人	人	%	%		
	歯 科 医 師	60	71	59	69	58	68	98.3	98.6		
	臨 床 研 修 医	2		2		2		100.0	-		
	計		13		14		15		107.1		
		62	84	61	83	60	83	98.4	100.0		
医 療 技 術 部 門	薬 剤 部	薬 剤 師	18		19		18		94.7		
		助 手		3		2		1		50.0	
	栄 養 管 理 科	栄 養 士	7	1	6	1	7	1	116.7	100.0	
		調 理 師 ( 員 )	7		7		7		100.0		
		事 務 員								-	
	放 射 線 技 術 科	診 療 放 射 線 技 師	20	3	21	1	21	1	100.0	100.0	
		検 査 部	臨 床 検 査 技 師	27	4	28	5	28	5	100.0	100.0
			看 護 師								
		准 看 護 師									
	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 技 術 科	理 学 療 法 士	22		22		21	1	95.5		
		作 業 療 法 士	7		7		7		100.0		
		言 語 聴 覚 士	3		3		3		100.0		
		助 手		2		2		2		100.0	
眼 科	視 能 訓 練 士	3		3		3		100.0			
循 環 器 内 科	臨 床 工 学 技 士										
歯 科	歯 科 衛 生 士	3	1	3	1	3	1	100.0			
臨 床 工 学 科	臨 床 工 学 技 士	6	1	7		7		100.0			
	計	123	15	126	12	125	12	99.2	100.0		
事 務 部 門	事 務 長	1		1				0.0			
	医 師 確 保 対 策 担 当										
	総 務 課	事 務 員	8	3	10	1	9	1	90.0	100.0	
		保 育 士		1				1		#DIV/0!	
	経 営 政 策 課	事 務 員	4	2	3	1	4	1	133.3		
	契 約 管 財 課	事 務 員	6		6		6		100.0		
		技 師		1		1				0.0	
	医 事 課	事 務 員	15	9	15	9	16	7	106.7	77.8	
		健 診 室	医 師		2	1		1			
			事 務 員	2	1	1	1	2		200.0	0.0
		看 護 師									
		准 看 護 師									
	地 域 医 療 室 地 連 携	事 務 員	6	1	6		8		133.3		
看 護 師		8		9		7	1	77.8			
臨 床 心 理 士		1	1	1	1	1	1	100.0	100.0		
事 務 部	事 務 員	2		3		3		100.0			
	臨 床 心 理 士										
	計	53	21	56	14	57	12	101.8	85.7		
看 護 部 門	助 産 師	23		22		19	2	86.4			
	看 護 師	306	38	292	42	288	42	98.6	100.0		
	准 看 護 師	4	2	4	3	3	4	75.0	133.3		
	看 護 助 手	1	1	1	4		6	0.0	150.0		
	事 務		1		1		1		100.0		
	計	334	42	319	50	310	55	97.2	110.0		
合 計		572	162	562	159	552	162	98.2	101.9		

注1 職員数は各年度末の人数

## 4 年度別職種別職員数

職種別	年度		令和6年度	
	令和4年度	令和5年度	人	前年度比
	人	人	人	%
医師	62	61	61	100.0
医療技術員	116 ( 9 )	119 ( 8 )	118 ( 9 )	99.2 ( 112.5 )
看護職員	341 ( 48 )	327 ( 46 )	317 ( 49 )	96.9 ( 106.5 )
事務員	45 ( 20 )	47 ( 14 )	49 ( 11 )	104.3 ( 78.6 )
その他	8 ( 10 )	8 ( 8 )	7 ( 10 )	87.5 ( 125.0 )
計	572 ( 87 )	562 ( 76 )	552 ( 79 )	98.2 ( 103.9 )

注 ( ) 内は臨時職員の別掲



## 5 歴代管理者・副管理者及び院長

### (1) 管理者

氏名	就任期間	備考
森 正 雄	昭和 9年 2月11日 ~ 昭和23年12月	
前 原 一 治	昭和23年12月 ~ 昭和38年 4月29日	
荒 木 勲一郎	昭和38年 4月30日 ~ 昭和46年 5月 1日	
小 山 利 雄	昭和46年 5月 2日 ~ 昭和63年 5月 1日	
大 澤 善 隆	昭和63年 5月 2日 ~ 平成 3年 5月 1日	
日 野 茂	平成 3年 5月 2日 ~ 平成11年 5月 1日	
大 澤 善 隆	平成11年 5月 2日 ~ 平成19年 5月 1日	
亀 山 豊 文	平成19年 5月 2日 ~ 令和元年 5月 1日	
荒 木 恵 司	令和元年 5月 2日 ~ 令和 6年 3月31日	

### (2) 副管理者

氏名	就任期間	備考
石 原 条	平成18年 4月23日 ~ 平成30年 4月22日	
須 藤 昭 男	平成30年 4月23日 ~ 令和 6年 3月31日	

### (3) 企業長

代	氏名	就任期間	備考
1	加 藤 広 行	令和 6年 4月 1日 ~	

### (4) 院 長

代	氏名	就任期間	担当科	備考
1	生 駒 正 志	昭和 9年 2月11日 ~ 昭和 9年 4月28日	内科	
2	加 藤 三九朗	昭和 9年 4月29日 ~ 昭和12年 8月15日	外科	
3	和 田 義 夫	昭和12年 8月16日 ~ 昭和13年 5月 2日	内科	
4	佐 野 武 四	昭和13年 5月12日 ~ 昭和17年 3月31日	内科	
5	八 木 忠 雄	昭和17年 4月 1日 ~ 昭和19年 3月 6日	外科	
6	竹 下 三男吉	昭和19年 3月31日 ~ 昭和19年 9月16日	内科	
7	福 田 通	昭和19年 9月30日 ~ 昭和21年 3月 5日	外科	院長心得となる
8	八 木 忠 雄	昭和21年 3月 6日 ~ 昭和26年 4月27日	外科	(5代目同)
	(小 口 武 久)	昭和26年 4月28日 ~ 昭和27年 5月26日	眼科	代理
9	堀 尾 茂 生	昭和27年 5月27日 ~ 昭和56年 3月31日	外科	名誉院長の称号贈呈
10	松 本 芳 郎	昭和56年 4月 1日 ~ 平成 6年 3月31日	小児科	名誉院長の称号贈呈
11	山 田 衛	平成 6年 4月 1日 ~ 平成14年 3月31日	内科	名誉院長の称号贈呈
12	河 野 徳 雄	平成14年 4月 1日 ~ 平成16年 3月31日	脳神経外科	
13	藤 岡 進	平成16年 4月 1日 ~ 平成19年 3月31日	外科	
14	丸 田 栄	平成19年 4月 1日 ~ 平成29年 3月31日	内科	名誉院長の称号贈呈
15	桑 島 信	平成29年 4月 1日 ~ 令和 2年 3月31日	小児科	名誉院長の称号贈呈
16	加 藤 広 行	令和 2年 4月 1日 ~	外科	

## 6 企業団議会の現況

当病院の議会は、昭和26年6月8日第1回桐生市外十二箇町村医療事務組合議会として開催されました。以降、構成市町村の合併等を経て、平成18年3月27日桐生地域医療組合と名称を改め、令和5年4月1日に公営企業法の全部適用により、桐生地域医療企業団と名称を改め、第196回を数えるまでに至ります。

議員定数は13人とし、構成市である桐生市から9人、みどり市から4人の議会から選出された者により組織し、任期はそれぞれが就任した市議会議員の任期としています。

### (1) 議会の開会経過

(令和7年3月31日現在)

回数 (開会年月日)	組合議会名	議長
第1回(昭和26. 6. 8)～第3回	桐生市外十二箇町村医療事務組合議会	森 正 雄
第4回(昭和27. 3. 24)～第12回	桐生市外十四箇町村医療事務組合議会	〃
第13回(昭和31. 9. 26)～第23回	桐生市外十箇町村医療事務組合議会	〃
第24回(昭和35. 3. 8)～第38回	桐生市外八箇町村医療事務組合議会	〃
第40回(昭和39. 2. 29)～第43回	桐生市外七箇町村医療事務組合議会	〃
第44回(昭和40. 9. 29)～第89回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	〃
第90回(昭和55. 10. 1)～第97回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	堀 越 至一郎
第98回(昭和58. 9. 3)～第107回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	加 藤 隆 司
第108回(昭和62. 9. 25)～第111回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	笠 井 秋 夫
第112回(平成元. 10. 31)～第116回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	飯 田 隆 雄
第117回(平成 3. 10. 29)～第120回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	福 田 金次郎
第121回(平成 5. 10. 25)～第124回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	中 村 清
第125回(平成 7. 7. 31)～第129回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	佐 藤 光 好
第130回(平成 9. 10. 28)～第133回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	吉 野 剛 八
第134回(平成11. 10. 28)～第137回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	田 島 信 夫
第138回(平成13. 10. 26)～第141回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	高 橋 定二郎
第142回(平成15. 6. 30)～第146回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	森 下 清 秀
第147回(平成17. 8. 25)～第149回	桐生市外六箇町村医療事務組合議会	西 牧 秀 乗
第150回(平成18. 7. 14)～第152回	桐 生 地 域 医 療 組 合 議 会	〃
第153回(平成19. 7. 13)～第157回	桐 生 地 域 医 療 組 合 議 会	石 井 秀 子
第158回(平成21. 7. 27)～第162回	桐 生 地 域 医 療 組 合 議 会	河原井 始
第163回(平成23. 7. 22)～第167回	桐 生 地 域 医 療 組 合 議 会	周 東 照 二
第168回(平成25. 7. 22)～第173回	桐 生 地 域 医 療 組 合 議 会	小 滝 芳 江
第174回(平成27. 10. 30)～第178回	桐 生 地 域 医 療 組 合 議 会	佐 藤 幸 雄
第179回(平成29. 10. 30)～第191回	桐 生 地 域 医 療 組 合 議 会	河原井 始
第192回(令和 5. 7. 28)～	桐 生 地 域 医 療 企 業 団 議 会	北 川 久 人

※ 第39回組合議会は不詳

## (2) 議会議員氏名等

(令和7年3月31日現在)

議席 番号	氏 名	役 職	選出母体	公 職 名	任 期
1	森 昭 寿	常任副委員長	桐 生 市	合資会社代表社員	令和 5. 6. 9 ~ 令和 9. 5. 1
2	渡 辺 恒		桐 生 市	市 議 会 議 員	令和 5. 6. 9 ~ 令和 9. 5. 1
3	柴 崎 訓 佳	副議長	みどり市	市 議 会 議 員	令和 5. 5. 15 ~ 令和 9. 4. 30
4	工 藤 英 人		桐 生 市	市 議 会 議 員	令和 5. 6. 9 ~ 令和 9. 5. 1
5	高草木 弘 子	常任委員長	みどり市	市 議 会 議 員	令和 5. 5. 15 ~ 令和 9. 4. 30
6	北 川 久 人	議長	桐 生 市	市 議 会 議 員	令和 5. 6. 9 ~ 令和 9. 5. 1
7	菊 地 一 真	常任委員	桐 生 市	桐生市医師会長	令和 5. 6. 9 ~ 令和 9. 5. 1
8	丹 羽 孝 志		桐 生 市	市 議 会 議 員	令和 5. 6. 9 ~ 令和 9. 5. 1
9	藤 生 吉 顕	常任委員	みどり市	市 議 会 議 員	令和 5. 5. 15 ~ 令和 9. 4. 30
10	岡 部 純 朗		桐 生 市	市 議 会 議 員	令和 5. 6. 9 ~ 令和 9. 5. 1
11	深 澤 輝 彦		みどり市	市 議 会 議 員	令和 5. 5. 15 ~ 令和 9. 4. 30
12	河原井 始		桐 生 市	市 議 会 議 員	令和 5. 6. 9 ~ 令和 9. 5. 1
13	星 野 浩 之	常任委員	桐 生 市	桐生市歯科医師会長	令和 5. 6. 9 ~ 令和 9. 5. 1

(3) 議会議決事項等

議会名	開催日時	議 案 名	結 果
第195回定例会	R6. 10. 25	議案第3号 令和5年度桐生地域医療企業団病院事業決算の認定について	同日認定
		議案第4号 監査委員の選任につき同意を求めるについて	同日同意
第196回定例会	R7. 2. 18	報告第1号 専決処分(桐生地域医療企業団企業長等の給与及び旅費に関する条例の一部改正)の承認を求めるについて	同日承認
		報告第2号 専決処分(示談について)の承認を求めるについて	同日承認
		議案第1号 病院事業の付帯事業として訪問看護事業を設置することに伴う関係条例の整備に関する条例案	同日原案可決
		議案第2号 令和7年度桐生地域医療企業団病院事業会計予算	同日原案可決
		議案第3号 令和6年度桐生地域医療企業団病院事業会計補正予算	同日原案可決

## 7 開設者協議会

会議名	開催日時	議 題
第3回管理者・副管理者会議	令和 6.10. 4	(1) 第195回桐生地域医療企業団議会の議案について (2) 令和6年度及び令和7年度新規事業・主要事業について (3) その他
第4回管理者・副管理者会議	令和 7. 1.31	(1) 第196回桐生地域医療企業団議会の議案について (2) 令和6年度及び令和7年度新規事業・主要事業について (3) その他

## 8 医療企業団各種委員氏名等

名 称	氏 名	任 期	備 考
監 査 委 員	園 田 誠	令和 6.11. 1～令和 10.10.31	識見を有する者
	岡 部 純 朗	令和 5. 7.28～令和 9. 5. 1	企業団議会選出
情報公開及び個人情報保護審査会委員	押 見 新一郎	令和 5. 4. 1～令和 7. 3.31	情報公開及び個人情報保護審査会条例施行に伴い平成29年4月1日から設置
	久保田 寿 栄	令和 5. 4. 1～令和 7. 3.31	
	和 泉 直 樹	令和 5. 4. 1～令和 7. 3.31	

## 9 会計監査開催状況

監 査 名	開 催 年 月 日	出 席 者
決 算 監 査	令和 6. 8. 6 (月)	監 査 委 員 院 長 他 病 院 職 員
上 半 期 監 査	令和 6.11.26 (火)	
第 3 四 半 期 監 査	令和 7. 3.25 (火)	

## 1 0 病院倫理委員会開催状況

委員会名	開催年月日	出席者
第1回病院倫理委員会	令和6.8.5(月)	院長、副院長、事務長代理、 看護部長、薬剤部長、 顧問弁護士、他 病院職員

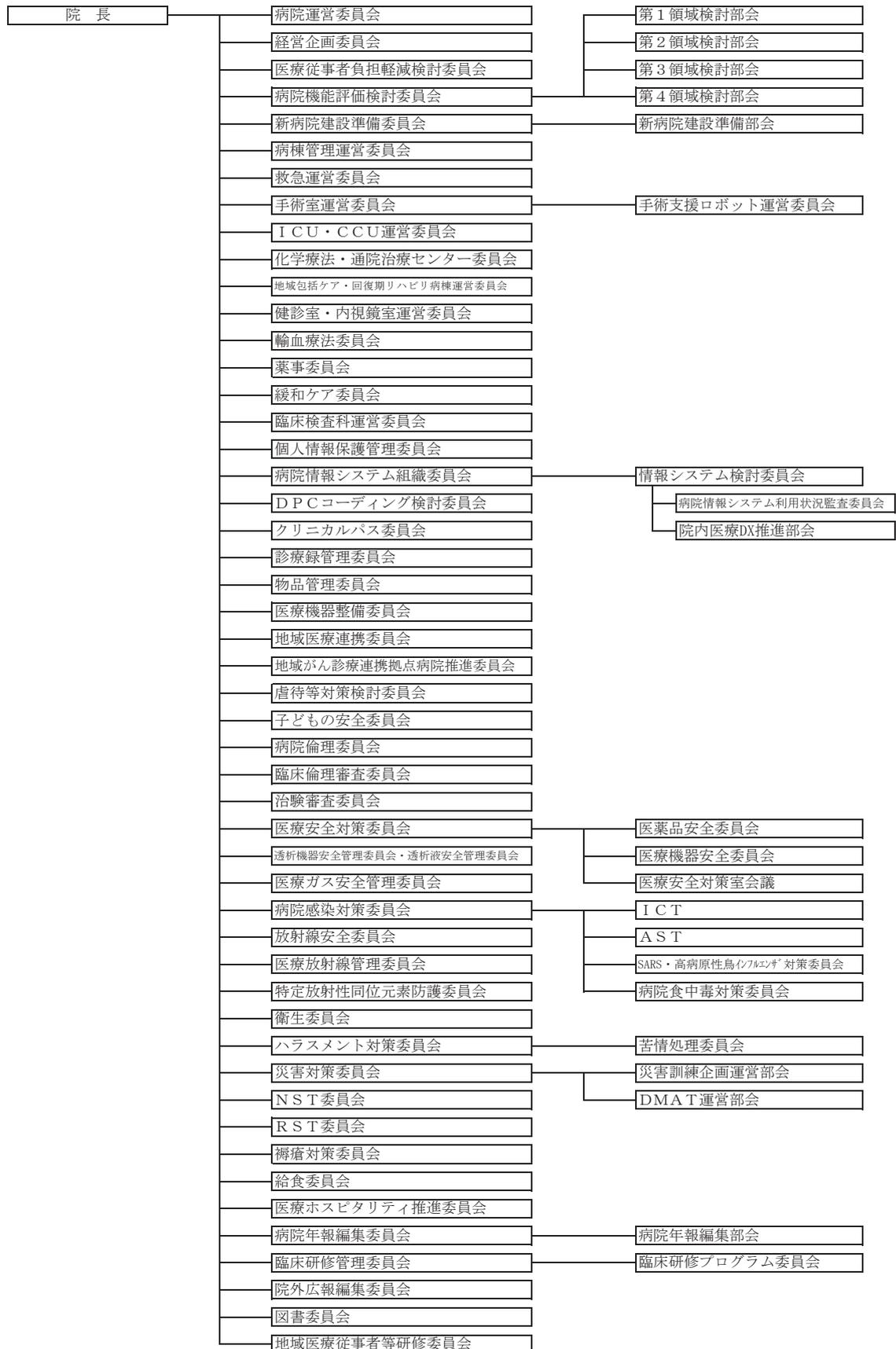
## 1 1 医師確保対策事業について

桐生地域住民の安心・安全を確保するため、医療の安定的な提供は不可欠です。全国的な医師不足の状況の中、当院においても一部診療科において退職医師を非常勤で補う状況にあるなど、医師確保対策が急務であり、桐生地域医療改善協議会からの提言に基づき、当院の開設者である桐生市・みどり市の支援のもと、独自の医師確保並びに医師の負担軽減を図るため、下記の11事業を実施しています。

- ①医師の定住促進として桐生市・みどり市に在住する医師に対して手当の支給
- ②桐生市・みどり市に住所を有する研修医に対し、住居借り上げ支援
- ③市外居住の医師の夜間緊急呼出等通勤負担軽減のために市内ビジネスホテルの宿泊を確保
- ④医師負担軽減のため医療クランクの増員
- ⑤医師の診療補助となる看護師や薬剤師等が高度専門資格を取得する際の経費の一部を支援
- ⑥医師の学会、研修会の参加及び医学書籍等への論文掲載に対する支援
- ⑦研修医の学会参加及び医学図書等研修教材購入支援
- ⑧当直をはじめ、様々な場面で研修医を指導する指導医に対する手当支給
- ⑨医局、休憩室等の勤務環境の改善
- ⑩地域内での講演研修会開催支援
- ⑪医師招聘及び医学研究支援

# Ⅲ 会議等

## 1 委員会組織図



## IV 教育研修

### 1 病院実習

#### (1) 診療部実習

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
群馬大学	選択実習	3人	4/15～4/26 (10日)	整形外科、小児科、麻酔科
〃	選択実習	4	5/13～5/24 (10日)	内科 (消化器)、産婦人科、皮膚科、麻酔科
〃	選択実習	2	5/27～6/7 (10日)	産婦人科、麻酔科
〃	選択実習	2	6/10～6/21 (10日)	小児科、脳神経外科
〃	選択実習	3	6/24～7/5 (10日)	小児科、整形外科、麻酔科
〃	選択実習	1	7/8～7/19 (9日)	皮膚科
〃	選択実習	4	9/30～10/11 (10日)	小児科、内科 (消化器)、皮膚科、麻酔科
〃	選択実習	4	10/15～10/25 (9日)	内科 (消化器)、産婦人科、泌尿器科、皮膚科
〃	選択実習	4	10/28～11/8 (9日)	内科 (消化器)、産婦人科、麻酔科、皮膚科
〃	選択実習	3	11/11～11/22 (10日)	内科 (消化器)、脳神経外科、泌尿器科
〃	選択実習	4	11/25～12/6 (10日)	内科 (消化器)、小児科、皮膚科、麻酔科
〃	選択実習	3	1/6～1/17 (9日)	産婦人科、泌尿器科、皮膚科
〃	選択実習	4	1/20～1/31 (10日)	内科 (消化器)、整形外科、脳神経外科、麻酔科
〃	選択実習	2	2/3～2/14 (9日)	内科 (消化器)、麻酔科
〃	選択実習	1	2/17～2/28 (9日)	小児科
〃	選択実習	1	3/3～3/14 (10日)	麻酔科
〃	選択実習	2	3/17～3/28 (9日)	脳神経外科、皮膚科
群馬大学	病院見学	1	4/30 (1日)	外科
東邦大学	病院見学	1	5/1 (1日)	外科、内科 (消化器)
群馬大学	病院見学	1	6/10 (1日)	小児科、麻酔科
鹿児島大学	病院見学	1	6/25 (1日)	小児科
宮崎大学	病院見学	1	6/20 (1日)	内科 (呼吸器)
弘前大学 (既卒)	病院見学	1	7/25 (1日)	泌尿器科
群馬大学	病院見学	2	7/26 (1日)	内科 (消化器)

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
富山大学	病院見学	1人	8/2 (1日)	小児科
三重大学	病院見学	1	8/5 (1日)	小児科
獨協医科大学	病院見学	2	8/6 (1日)	救急科、整形外科
群馬大学	病院見学	1	8/7 (1日)	内科 (消化器)、感染対策室
横浜市立大学 (既卒)	病院見学	1	8/14 (1日)	内科 (消化器)
東京医科大学	病院見学	2	8/26、27 (2日)	内科 (消化器)、救急科
群馬大学	病院見学	1	10/22 (1日)	産婦人科
群馬大学	病院見学	1	12/26 (1日)	小児科
山形大学	病院見学	1	2/10 (1日)	産婦人科
群馬大学	病院見学	1	3/7 (1日)	小児科

(2) 診療部実習：群馬大学医学部附属病院 群馬県地域医療支援センター

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
前橋高等学校 前橋女子高等学校 桐生清桜高等学校 桐生高等学校	医学部医学科をめざす 高校生の職場体験セミナー 2024夏	5人	7/23 (1日)	講堂、手術室、中央検査科
高崎女子高等学校 前橋女子高等学校 市立太田高等学校 ぐんま国際アカデミー高等部	医学部医学科をめざす 高校生の職場体験セミナー 2025春	5	3/28 (1日)	講堂、手術室、中央検査科
群馬大学 埼玉医科大学	令和6年度夏季 利根川プログラム 臨地実習バスツアー	7	8/21 (1日)	薬剤部、放射線技術科、中央検査科
群馬大学	令和6年度夏季 利根川プログラム 病院実習	1	8/8 (1日)	耳鼻いんこう科、小児科
群馬大学 埼玉医科大学	令和6年度春季 利根川プログラム 臨地実習バスツアー	3	3/6 (1日)	薬剤部、放射線技術科、中央検査科
群馬大学	令和6年度春季 利根川プログラム 病院実習	2	3/14 (1日)	外科

看護部実習

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
桐生大学 医療保健学部 看護学科	早期体験合同実習	人 29	6/3～6/7	7東/6西/4東
	基礎看護学実習Ⅰ	18	11/18～11/22	7東/7西/6東/6西/5西/4東
	基礎看護学実習Ⅱ	29	1/20～30、2/3～14	6東/6西/5西/4東
	急性期看護学実習	20	4/16～10/3	5西
	慢性期看護学実習	23	4/16～5/30	7東/7西
	高齢期看護学実習	37	4/16～10/17	4東/6東
	小児看護学実習	18	4/16～9/27	3階
	母性看護学実習	9	7/16～9/27	4西
	看護セミナー	15	8/20～8/29	7西/6東/4東/5西
桐生大学別科 助産専攻	分娩介助実習	2	9/30～12/27	4西
	NICU実習	18	8/27～12/4	NICU
群馬パース大学	NICU実習	30	10/7～11/27	NICU
桐生高等 看護学院	基礎看護学実習Ⅰ	13	10/31～11/8	7東/7西/6東/6西/5西/4東
	基礎看護学実習Ⅱ	23	12/3～12/13	7東/7西/6東/6西/5西/4東
	領域別実習	111	4/9～9/20	7東/7西/6東/6西/5西/4東/4西/3階/NICU
	統合実習	17	10/8～10/18	7東/7西/6東/6西
館林高等 看護学院	母性看護学実習	7	7/1～9/5	4西
	小児看護学実習	9	7/1～7/9	3階
太田医療技術 看護専門学校	急性期看護学実習	5	1/29～2/9	7東/7西
	慢性期・終末期看護学実習	14	1/9～1/19	7西/5西/4東
	回復期看護学実習	9	9/5～2/10	実習中止
	小児看護学実習	31	9/25～11/9	3階/NICU
	母性看護学実習	23	5/20～3/14	4西
深谷大里 看護専門学校	母性看護学実習	38	4/16～3/18	産婦人科外来
桐生准看護学校	基礎実習		11/21～3/23	各外来
	臨地実習		4/13～11/4	7東/7西/6東/5西/4東/4西/3階/NICU

薬剤部6年制実務実習

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
高崎健康福祉大学	調剤・製剤・TPN調整 医薬品情報・医薬品管理 病棟業務・化学療法・治験	人 1	8/19～11/1	薬剤部・病棟

リハビリテーション技術科実習

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
群馬医療福祉大学	臨床実習（PT）	1人	7/16～9/3	リハビリテーション室
群馬パース大学	評価実習（PT）	1	9/23～10/19	〃
前橋医療福祉大学	評価実習（PT）	1	11/28～12/9	〃
群馬医療福祉大学	評価実習（OT）	1	9/9～10/8	〃
太田医療技術専門学校	評価実習（OT）	1	11/11～12/14	〃

放射線技術科実習

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
群馬パース大学	臨床実習	4人	5/7～7/12	放射線技術科・他
群馬県民健康科学大学	保健医療チーム連携	5	7/18～7/23	放射線技術科
群馬パース大学	臨床実習（導入実習）	8	9/2～9/12	〃
つくば国際大学	〃	1	1/16～2/28	〃

中央検査科実習

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
群馬パース大学	臨床検査臨地実習	4人	5/20～7/12	中央検査部・他
帝京大学	臨床検査臨地実習	1	1/14～3/21	〃

栄養管理科

学校名	実習内容	人数	期間	実習場所
東洋大学	管理栄養士課程履修の 病院臨地実習	4人	4/7～4/18	栄養管理科
高崎健康福祉大学	〃	4	6/3～6/14	〃
桐生大学	〃	4	3/3～3/14	〃

## 2 医師臨床研修制度

平成 16 年 4 月、厚生労働省は新医師臨床研修制度を導入し、医師が将来専門とする分野に関らず基本的な診療能力を身につけることができるよう必修化しました。当院においては、すでに平成 14 年臨床研修指定病院に認定されておりましたが、新制度になり改めて平成 16 年 4 月に厚生労働省より臨床研修指定病院として認定を受けております。

診療に従事しようとする医師は2年以上臨床研修を受けなければならないとされ、人格の涵養と、基本的な診療能力の修得を基本理念に医学全般の広い知識をもった医師を養成することを目的としました。新制度導入後 5 年を経過した平成 21 年、プログラムの見直しが行われ厚生労働省の省令改正を受け平成 22 年度研修プログラムを変更しました。また、令和 2 年度、新たにプログラムの見直しが行われ、大幅にプログラムを変更しました。

### (1) 臨床研修の概要

#### ■ 研修期間割 (標準)

区 分	6 ヶ月			2 ヶ月	1 ヶ月	2 ヶ月	1 ヶ月
1 年 目	内科			救急	麻酔	外科	小児
	救 急 医 療						
区 分	1 ヶ月	1 ヶ月	1 ヶ月	9 ヶ月			
2 年 目	地域	産婦	精神	選 択			
	救 急 医 療						

- <必 修> ・内科研修 6 ヶ月
- ・救急部門研修 3 ヶ月は救急部門と麻酔科において行い、2 年間を通じ、時間外・休日・夜間は地域において日常よく遭遇する様々な症例について副当直として関わり、指導医とともに救急医療も行う。
  - ・地域医療研修 1 ヶ月は、あい太田クリニック、原町赤十字病院、沼田病院の協力を得て行う。
  - ・外科 2 ヶ月、小児科 1 ヶ月、産婦人科 1 ヶ月、精神科 1 ヶ月
  - ・精神科研修については県立精神医療センター、岸病院にて実施。
- <選 択> ・研修医の希望を考慮し、9 ヶ月を分割し複数科の研修が可能。
- ・群馬大学医学部附属病院、筑波大学附属病院、県立心臓血管センター、恵愛堂病院、東邦病院の研修も可能。
- <院外研修> ・当院以外での研修期間は 2 年間で 4 ヶ月までとする。

## ■研修協力

当院は、自ら「基幹型臨床研修病院」として医師の初期研修に携わるほか、「協力型臨床研修病院」として群馬大学医学部附属病院、筑波大学附属病院や館林厚生病院に所属する研修医の初期研修も受入れております。

## ■臨床研修医受け入れ状況

氏名	年次	期間	在籍	修了者	備考
岩崎 功典	1	R6. 4. 1 ~R8. 3. 31 (2年)	当院		
本多 賢也	1	R6. 4. 1 ~R8. 3. 31 (2年)	当院		
藤見 公香	1	R6. 4. 1 ~R8. 3. 31 (2年)	当院		
黒須 柁紀	1	R6. 4. 1 ~R8. 3. 31 (2年)	当院		
福嶋 大誠	1	R6. 4. 1 ~R8. 3. 31 (2年)	当院		
上井 康成	1	R6. 4. 1 ~R8. 3. 31 (2年)	当院		
春山 景子	1	R6. 4. 1 ~R8. 3. 31 (2年)	当院		
松浦 優佑	2	R5. 4. 1 ~R7. 3. 31 (2年)	当院	○	
猿渡 広輝	2	R5. 4. 1 ~R7. 3. 31 (2年)	当院	○	
中村 香織	2	R5. 4. 1 ~R7. 3. 31 (2年)	当院	○	
吉田 昌平	2	R5. 4. 1 ~R7. 3. 31 (2年)	当院	○	
高田 良	2	R5. 4. 1 ~R7. 3. 31 (2年)	当院	○	
森田 美保	2	R5. 4. 1 ~R7. 3. 31 (2年)	当院	○	
牧 千博	2	R5. 4. 1 ~R7. 3. 31 (2年)	当院	○	
高畑 和也	1	R6. 7. 1 ~R7. 3. 31 (9ヵ月)	群大		

## ■臨床研修勉強会

病院全体で行うCPCや集談会、各診療科で行われるカンファレンス等のほか、毎週水曜日に各科指導医による救急医療に関するテーマを中心にした勉強会（約45回/年）を実施。勉強会では研修医による症例報告も行われています。

また、外部講師による感染症診療講座を年5回行っています。

(2) 研修医対象 救急に関する勉強会及び研修医症例報告

日付	名 称	担 当 者
5/22	診療録の記載の仕方	稲 川 茂
5/29	小児科救急 (子どものRed flag)	大 木 康 史
6/5	脳梗塞の治療	橋 場 康 弘
6/12	眼科救急疾患	丸 山 泰 弘
6/19	気管挿管のテクニック	佐 藤 淳
6/26	N S Tについて	飯 田 智 広
7/3	産婦人科領域の救急疾患	鏡 一 成
7/10	[研修医症例発表] 巨大アスペルギノーマに対し内科的治療を行った症例	黒 須 柁 紀 中 村 香 織
7/17	Risk Management	高 橋 紀 子
7/24	C Vカテーテルの留置	鈴 木 一 設
7/31	[研修医症例発表] 総胆管結石症	藤 見 公 香 牧 千 博
8/7	上肢外傷診察時のpitfallと初期対応	工 藤 千 佳
8/14	[研修医症例発表] 急性肝不全	福 嶋 大 誠 猿 渡 広 輝
8/28	[研修医症例発表] 脱水症に脳梗塞を併発した症例	本 多 賢 也 森 田 美 保
9/4	[研修医症例発表] 肺血栓塞栓症	上 井 康 成 松 浦 優 佑
9/11	[研修医症例発表] 脳動脈瘤破裂を合併した感染性心内膜炎の1例	岩 崎 功 典 吉 田 昌 平
9/18	四肢外傷の応急処置 (下肢)	上 野 哲
9/25	救急外来でよく遭遇する皮膚科疾患	岡 田 克 之
10/9	医師が遭遇する歯科口腔外科領域の救急疾患	今 井 正 之
10/23	消化管出血について	飯 田 智 広
10/30	よくみる子どもの症状の重症度評価	大 木 康 史
11/6	創処置 (縫合)	鈴 木 一 設
11/13	急性腹症	森 永 暢 浩
11/20	救急外来で遭遇する呼吸器疾患の診断と治療	小 野 昭 浩
11/27	血液浄化療法	岡 本 亘 平
12/5	心房細動	桑 原 渉
12/11	妊娠時の薬の使い方	鏡 一 成
12/18	熱傷の治療	岡 田 克 之
12/25	非専門医のための肝疾患について	福 地 達
1/15	泌尿器科的救急疾患	林 拓 磨

名 称	担 当 者	実施回数
研修医 感染症診療講座 (年5回)	吉村 章 (外部講師)	5回
研修医 PICC研修会 (年1回)	岩澤 恵美 (特定認定看護師)	1回

# V 経 営 状 況

## 1 比較損益計算書

年 度		令和4年度	令和5年度	令和6年度		
		金 額	金 額	金 額	前年比	対医業 収益比
科 目		千円	千円	千円	%	%
		収	医 業 収 益	9,119,917	8,863,644	8,816,479
入 院 収 益	6,064,855		5,957,770	6,169,600	103.6	70.0
外 来 収 益	2,798,847		2,650,520	2,395,684	90.4	27.2
そ の 他 医 業 収 益	256,215		255,354	251,195	98.4	2.8
益	医 業 外 収 益	2,099,221	1,306,609	1,125,733	86.2	12.8
	受 取 利 息 及 び 配 当 金	50	58	3,758	6,479.3	0.0
	構 成 団 体 負 担 金 補 助 金	822,320	739,784	681,562	92.1	7.7
	補 助 金	997,487	220,058	140,355	63.8	1.6
	負 担 金 交 付 金	0	0	0	-	-
	長 期 前 受 金 戻 入	242,447	309,640	256,440	82.8	2.9
	そ の 他 医 業 外 収 益	36,917	37,069	43,618	117.7	0.5
	特 別 利 益	2,179,000	68,355	64,851	94.9	0.7
	収 益 合 計	13,398,138	10,238,608	10,007,063	97.7	113.5
	費	医 業 費 用	9,838,424	9,900,348	9,818,047	99.2
給 与 費		5,473,845	5,499,123	5,613,221	102.1	63.7
材 料 費		2,228,389	2,277,436	2,108,803	92.6	23.9
経 費		1,522,359	1,523,987	1,502,575	98.6	17.0
減 価 償 却 費		586,373	567,534	561,358	98.9	6.4
資 産 減 耗 費		6,044	3,020	2,987	98.9	0.0
研 究 研 修 費		21,414	29,248	29,103	99.5	0.3
医 業 外 費 用		387,632	391,728	395,926	101.1	4.5
支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費		807	944	1,401	148.4	0.0
繰 延 勘 定 償 却		0	0	0	-	-
用	雑 損 失	386,825	390,784	394,525	101.0	4.5
	特 別 損 失	2,903,813	0	0	-	-
	費 用 合 計	13,129,869	10,292,076	10,213,973	99.2	115.9
純 損 益		268,269	△ 53,468	△ 206,910	387.0	-

## 2 比較貸借対照表

科 目		年 度		令 和 6 年 度		
		令和4年度	令和5年度	金 額	前年比	構成比
		金 額	金 額	金 額	%	%
資 産	固 定 資 産	千円	千円	千円	%	%
	有 形 固 定 資 産	5,787,818	5,416,630	5,064,930	93.5	40.8
	土 地	5,785,710	5,414,522	5,062,822	93.5	40.8
	償 却 資 産	287,003	287,003	287,003	100.0	2.3
	減 価 償 却 累 計 額 (△)	18,315,904	18,444,447	18,641,145	101.1	150.3
	建 設 仮 勘 定	12,817,197	13,316,928	13,865,326	104.1	111.8
	無 形 固 定 資 産	0	0	0	-	-
	投 資	2,108	2,108	2,108	100.0	0.0
		0	0	0	-	-
	流 動 資 産	5,286,657	7,660,530	7,334,235	95.7	59.2
	現 金 及 び 預 金	3,297,775	5,542,175	5,700,116	102.8	46.0
	未 収 金	1,979,059	2,118,003	1,646,375	77.7	13.3
	貸 倒 引 当 金 (未 収 △)	31,441	34,812	53,329	153.2	0.4
	貯 蔵 品	38,136	31,948	37,678	117.9	0.3
前 払 費 用	1,128	1,216	1,395	114.7	0.0	
そ の 他 流 動 資 産	2,000	2,000	2,000	100.0	0.0	
繰 延 勘 定	0	0	0	-	-	
控 除 対 象 外 消 費 税	0	0	0	-	-	
資 産 合 計		11,074,475	13,077,160	12,399,165	94.8	100.0
負 債	固 定 負 債	1,871,831	4,227,040	3,812,494	90.2	30.7
	企 業 債	1,871,831	1,482,908	1,211,357	81.7	9.8
	リ ー ス 債	0	0	0	-	-
	引 当 金	0	2,744,132	2,601,137	-	21.0
	流 動 負 債	2,482,694	1,872,100	1,737,928	92.8	14.0
	企 業 債	370,183	531,923	494,551	93.0	4.0
	リ ー ス 債	0	0	0	-	-
	未 払 金	1,715,249	938,164	868,234	92.5	7.0
	引 当 金	350,659	354,969	364,967	102.8	2.9
	前 受 金	0	0	0	-	-
そ の 他 流 動 負 債	46,603	47,044	10,176	21.6	0.1	
繰 延 収 益	1,595,847	1,585,648	1,509,839	95.2	12.2	
長 期 前 受 金	7,070,512	7,339,689	7,636,159	104.0	61.6	
長 期 前 受 金 収 益 化 累 計 額	△5,474,665	△ 5,754,041	△ 6,126,320	106.5	△49.4	
資 本	資 本 金	7,196,376	7,196,376	7,196,376	100.0	58.0
	資 本 金	7,196,376	7,196,376	7,196,376	100.0	58.0
	借 入 資 本 金	0	0	0	-	-
	剰 余 金	△2,072,273	△ 1,804,004	△ 1,857,472	103.0	△15.0
本	資 本 剰 余 金	3,400	3,400	3,400	100.0	0.0
	利 益 剰 余 金	△2,075,673	△ 1,807,404	△ 1,860,872	103.0	△15.0
負 債 ・ 資 本 合 計		11,074,475	13,077,160	12,399,165	94.8	100.0

※ 平成26年度から新たな地方公営企業会計制度を適用しています。

## VI 重要な成果

### 1 脊椎センターの開設

2024年4月から脊椎センターを開設しました。

脊椎管狭窄症、椎間板ヘルニア、靭帯骨化症などの脊椎疾患や圧迫骨折、脱臼骨折、脊椎損傷などの外傷を脊椎脊髄外科指導医が中心となり、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、放射線技師、栄養士、事務員など多職種がチームとなって、より安全にスムーズな診療を行うことを目指しています。

早急に手術がなどの治療が必要な状態でなければ、可能な限り投薬や日常生活指導、リハビリテーションなどの保存的治療で対処し、手術が必要な場合には、内視鏡手術などなるべく侵襲の少ない手術を選択して患者様の負担を減らすように努力しています。病状によっては、侵襲の大きな手術が必要な場合もあり、そのような場合にも、0-アーム（ポータブルCT）やナビゲーションシステムや MEP（全身麻酔をしている状態でも神経の機能を評価できる筋電図）などを駆使して、できる限り安全に手術を行うようにしています。

脊椎の手術件数は、2022年は121件、2023年は159件、2024年が172件と徐々に増加しています。

### 2 手術支援ロボット Hugo の導入

令和6年4月に日本で12台目、北関東では初となる Hugo RAS システム（Medtronic 社）を導入いたしました。ロボット手術に関わる医師、看護師及び臨床工学技士からなるチームを結成し、シミュレーションやトレーニング、手術見学などを積み重ね、また医療安全面の整備などを行い、同年7月に泌尿器科でロボット支援下前立腺手術を、9月に外科でロボット支援下直腸手術をスタートしました。

令和6年度の手術実績としましては、泌尿器科11件、外科8件でした。

今後とも、がん患者さんの治療選択肢として、高度で先進的な医療を提供していきたいと考えております。

### 3 マイナ保険証利用促進を図るための取り組み

当院では、患者対応業務の効率化および医療 DX の推進を目的として、「マイナ保険証」の利用促進に関する取り組みを実施いたしました。マイナンバーカードによる本人確認ならびに保険資格の自動照合機能を導入することで、受診手続きの簡素化と診療情報の取得精度向上を図ることができました。これにより、患者さんにとって利便性の高い受診環境が整備されております。

厚生労働省の方針を受け、当院では「受診者利便性の向上」「窓口業務の合理化」「診療の質的向上」に資する重要施策として位置づけ、院内全体で周知および活用促進に努めてまいりました。また、医療 DX の推進に伴い、オンライン資格確認体制の整備や電子的な診療情報の取得を行うことで、令和6年度診療報酬改定において新設された「医療 DX 推進体制整備加算（医療 DX 加算）」の算定要件を満たす体制を構築しております。

具体的な取り組みといたしましては、院内において「マイナ保険証」の意義および使用方法に関する啓発活動を継続的に実施しております。これには、ポスター掲示や動画放映が含まれており、視認性に優れた案内媒体を用いて来院者への理解推進を図っております。また、初診・再診を問わず、マイナ保険証をご持参いただいた患者さんには、職員がカードリーダーの操作手順についての説明と支援を行っております。とりわけ、高齢者や機械操作に不慣れな方々には個別対応を実施し、円滑な受診体制の確保に尽力しております。

さらに今後におきましては、これらの取り組みを通じて、マイナ保険証の利用率向上を一層推進してまいります。患者さんに安心してご利用いただける環境づくりに努めるとともに、医療 DX の観点からも持続可能で信頼性の高い医療提供体制の整備に取り組んでまいります。

## 4 病院ロゴマークの刷新

令和5年4月1日から「桐生地域医療企業団」として新たにスタートし、令和6年2月11日で開院90周年を迎えたことから、広く住民から親しまれるような新ロゴマークの募集を行いました。皆様から多数のご応募をいただき、病院ロゴデザイン選考委員会にて厳正な審査の結果、右のとおり決定し、令和7年2月10日に発表会及び表彰式を挙行いたしました。



## 5 瑞宝章の受章

令和6年秋の叙勲伝達式並びに受章者式典が、令和6年11月18日（月）に、ホテルニューオータニで執り行われ、福岡厚生労働大臣から国及び地方公共団体の公務、または公共的な業務に長年にわたり従事して功労を残された方に勲記が伝達されました。

そして、当院の前看護部長であります村岡容子様、長年の功績を讃えられ、名誉ある瑞宝章を受章されました。心より敬意とお祝いを申し上げます。

## VII 業務概要

### 1 診療圏患者受診状況

市町村名	令和4年度				令和5年度			
	入院	外来	合計	構成比	入院	外来	合計	構成比
	人	人	人	%	人	人	人	%
桐生市	74,738	105,897	180,635	66.0	76,213	96,923	173,136	66.2
(旧桐生市)	69,109	95,019	164,128	60.0	69,423	87,699	157,122	60.1
(旧黒保根村)	911	1,549	2,460	0.9	1,106	1,207	2,313	0.9
(旧新里村)	4,718	9,329	14,047	5.1	5,684	8,017	13,701	5.2
みどり市	20,346	33,553	53,899	19.7	20,997	31,268	52,265	20.0
(旧大間々町)	7,906	12,862	20,768	7.6	9,337	12,083	21,420	8.2
(旧勢多東村)	1,212	1,772	2,984	1.1	1,318	1,576	2,894	1.1
(旧笠懸町)	11,228	18,919	30,147	11.0	10,342	17,609	27,951	10.7
太田市 (旧藪塚本町)	3,745	6,573	10,318	3.8	3,124	5,786	8,910	3.4
小計	98,829	146,023	244,852	89.5	100,334	133,977	234,311	89.7
県内	9,422	9,982	19,404	7.1	9,463	9,762	19,225	7.4
県外	4,326	5,102	9,428	3.4	3,568	4,238	7,806	3.0
小計	13,748	15,084	28,832	10.5	13,031	14,000	27,031	10.3
合計	112,577	161,107	273,684	100.0	113,365	147,977	261,342	100.0

市町村名	令和6年度				前年度比			
	入院	外来	合計	構成比	入院	外来	合計	構成比
	人	人	人	%	人	人	人	%
桐生市	78,223	92,075	170,298	66.5	102.6	95.0	98.4	100.4
(旧桐生市)	70,915	82,693	153,608	60.0	102.1	94.3	97.8	99.8
(旧黒保根村)	917	1,160	2,077	0.8	82.9	96.1	89.8	91.7
(旧新里村)	6,391	8,222	14,613	5.7	112.4	102.6	106.7	108.9
みどり市	22,589	30,146	52,735	20.6	107.6	96.4	100.9	103.0
(旧大間々町)	8,859	11,761	20,620	8.1	94.9	97.3	96.3	98.3
(旧勢多東村)	1,235	1,686	2,921	1.1	93.7	107.0	100.9	103.0
(旧笠懸町)	12,495	16,699	29,194	11.4	120.8	94.8	104.4	106.6
太田市 (旧藪塚本町)	3,501	5,303	8,804	3.4	112.1	91.7	98.8	100.9
小計	104,313	127,524	231,837	90.5	104.0	95.2	98.9	101.0
県内	8,144	9,228	17,372	6.8	86.1	94.5	90.4	92.2
県外	3,161	3,675	6,836	2.7	88.6	86.7	87.6	89.4
小計	11,305	12,903	24,208	9.5	86.8	92.2	89.6	91.4
合計	115,618	140,427	256,045	100.0	102.0	94.9	98.0	100.0

※入院欄患者内訳（在院患者延数＋退院患者数） ※人間ドックは除く

## 2 入院・外来患者状況

(入院)

項目	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
一般病床数		417床	417床	417床	100.0 %
新入院患者数		6,720人	6,834人	7,384人	108.0 %
退院患者数		6,711人	6,875人	7,359人	107.0 %
延在院患者数		105,866人	106,490人	108,259人	101.7 %
一日平均患者数		290人	292人	296人	101.4 %
平均在院日数		15.7日	15.5日	14.6日	94.2 %
病床利用率		69.6 %	70.0 %	70.9 %	101.4 %
病床回転率		23.2回	23.5回	25.0回	106.2 %

※人間ドックを除く

(外来)

項目	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
延外来患者数		161,107人	147,977人	140,427人	94.9 %
一日平均患者数		663人	609人	578人	94.9 %
新来患者数		15,162人	13,747人	14,233人	103.5 %
再来患者数		145,945人	134,230人	126,194人	94.0 %
一日外来患者数	最高	817人	815人	738人	90.6 %
	最低	445人	376人	399人	106.1 %
新来比		9.4 %	9.3 %	10.1 %	109.1 %
外来・入院比		152.2 %	139.0 %	129.7 %	93.3 %

※女性外来を除く

### 3 科別入院患者数

科 別	令和4年度		令和5年度		令和6年度		前年度比較	
	患者数	1日平均	患者数	1日平均	患者数	1日平均	比率	1日平均 人数比較
	人	人	人	人	人	人	%	人
内 科	37,582	97.5	40,485	103.0	43,297	118.3	106.9	15.3
精 神 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	-	-
神 経 内 科	605	1.9	911	1.7	1,528	4.2	167.7	2.5
循 環 器 内 科	1,929	5.6	1,621	5.3	3,243	8.9	200.1	3.6
小 児 科	5,491	18.0	5,946	15.0	5,021	13.7	84.4	△1.3
外 科	13,554	37.7	11,142	37.1	11,336	31.0	101.7	△6.1
血 管 外 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	-	-
整 形 外 科	17,770	44.5	16,075	48.7	15,373	42.0	95.6	△6.7
脳 神 経 外 科	10,063	27.5	12,934	27.6	11,687	31.9	90.4	4.3
呼 吸 器 外 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	-	-
心 臓 血 管 外 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	-	-
乳 腺 外 科	728	-	943	2.0	858	2.3	+	2.0
皮 膚 科	949	4.6	999	2.6	827	2.3	82.8	△0.3
泌 尿 器 科	5,101	17.7	4,659	14.0	5,446	14.9	116.9	0.9
産 婦 人 科	5,113	15.0	5,157	14.0	4,630	12.7	89.8	△1.3
眼 科	475	1.4	445	1.3	491	1.3	110.3	0.0
耳 鼻 い ん こ う 科	385	0.3	254	1.1	433	1.2	170.5	0.1
麻 酔 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	-	-
リハビリテーション科	4,884	16.6	3,918	13.4	3,338	9.1	85.2	△4.3
放 射 線 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
救 急 科	780	1.7	386	2.1	0	0.0	0.0	△2.1
緩 和 内 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	-	-
歯 科	457	1.2	615	1.3	751	2.1	122.1	0.8
合 計	105,866	291.2	106,490	290.2	108,259	295.9	101.7	5.7

## 4 科別外来患者数

科 別	令和4年度		令和5年度		令和6年度		前年度比較	
	患者数	1日平均	患者数	1日平均	患者数	1日平均	患者数比率	1日平均人数比較
	人	人	人	人	人	人	%	人
内 科	32,454	138.8	30,335	133.6	29,050	119.5	95.8	△14.1
精 神 科	351	1.4	334	1.4	279	1.1	83.5	△0.3
神 経 内 科	4,929	19.5	4,757	20.3	4,575	18.8	96.2	△1.5
循 環 器 内 科	4,635	20.7	4,416	19.1	4,441	18.3	100.6	△0.8
小 児 科	10,040	40.9	8,680	41.3	8,515	35.0	98.1	△6.3
外 科	7,597	41.9	6,540	31.3	6,003	24.7	91.8	△6.6
血 管 外 科	250	0.9	247	1.0	193	0.8	78.1	△0.2
整 形 外 科	15,381	64.8	14,978	63.3	10,704	44.0	71.5	△19.3
脳 神 経 外 科	6,156	25.5	5,829	25.3	5,736	23.6	98.4	△1.7
呼 吸 器 外 科	653	2.6	540	2.7	528	2.2	97.8	△0.5
心 臓 血 管 外 科	-	-	-	-	-	-	-	-
乳 腺 外 科	3,369	-	3,195	13.9	3,334	13.7	+	13.9
皮 膚 科	11,193	45.9	10,325	46.1	11,029	45.4	106.8	△0.7
泌 尿 器 科	19,636	80.7	18,642	80.8	18,499	76.1	99.2	△4.7
産 婦 人 科	11,093	47.8	10,445	45.7	8,722	35.9	83.5	△9.8
眼 科	12,627	54.5	12,275	52.0	12,473	51.3	101.6	△0.7
耳 鼻 い ん こ う 科	2,867	11.0	2,558	11.8	2,967	12.2	116.0	0.4
麻 酔 科	859	3.9	981	3.5	1,076	4.4	109.7	0.9
リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	-	-
放 射 線 科	5,662	20.8	1,205	23.3	1,227	5.0	101.8	△18.3
救 急 科	778	3.5	592	3.2	118	0.5	19.9	△2.7
緩 和 内 科	16	0.1	44	0.1	52	0.2	118.2	0.1
歯 科	10,561	46.9	11,059	43.5	10,906	44.9	98.6	1.4
合 計	161,107	672.1	147,977	663.2	140,427	577.6	94.9	△85.6

## 5 科別時間外受診患者状況

科別	令和4年度			令和5年度			令和6年度			前年度比		
	入院	外来	合計									
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	%	%	%
内科	712	1,225	1,937	843	1,238	2,081	987	1,360	2,347	117.1	109.9	112.8
精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
神経内科	1	3	4	0	1	1	2	3	5	+	300.0	500.0
循環器内科	9	2	11	2	0	2	15	4	19	750.0	+	950.0
小児科	130	593	723	153	546	699	149	460	609	97.4	84.2	87.1
外科	161	85	246	87	77	164	113	80	193	129.9	103.9	117.7
血管外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
整形外科	165	544	709	150	459	609	157	524	681	104.7	114.2	111.8
脳神経外科	137	346	483	157	330	487	159	363	522	101.3	110.0	107.2
呼吸器外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
心臓血管外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
乳腺外科	3	3	-	3	2	5	1	7	8	+	+	-
皮膚科	2	172	174	3	146	149	5	151	156	166.7	103.4	104.7
泌尿器科	52	271	323	41	248	289	66	294	360	161.0	118.5	124.6
産婦人科	138	182	320	122	149	271	127	129	256	104.1	86.6	94.5
眼科	0	38	38	0	15	15	0	15	15	0.0	100.0	100.0
耳鼻いんこう科	2	110	112	4	99	103	1	98	99	25.0	99.0	96.1
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
救急科	14	103	117	8	89	0	0	1	1	-	1.1	0.0
緩和内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
歯科	2	49	51	0	29	29	1	58	59	+	200.0	203.4
合計	1,528	3,726	5,248	1,573	3,428	5,001	1,783	3,547	5,330	113.4	103.5	106.6

※ 時間外診療会計を実施した診療科にて集計。

### 5-1 小児科時間外受診患者状況（再掲）

診療月	令和4年度			令和5年度			令和6年度			前年度比		
	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	%	%	%
4月	17	43	60	10	37	47	10	30	40	100.0	81.1	85.1
5月	17	49	66	13	51	64	15	40	55	115.4	78.4	85.9
6月	8	49	57	15	47	62	18	32	50	120.0	68.1	80.6
7月	15	75	90	25	59	84	14	41	55	56.0	69.5	65.5
8月	10	38	48	19	51	70	13	34	47	68.4	66.7	67.1
9月	7	42	49	8	38	46	4	41	45	50.0	107.9	97.8
10月	15	51	66	10	40	50	10	36	46	100.0	90.0	92.0
11月	12	61	73	6	43	49	14	43	57	233.3	100.0	116.3
12月	4	62	66	16	61	77	15	53	68	93.8	86.9	88.3
1月	12	53	65	14	44	58	17	52	69	121.4	118.2	119.0
2月	9	36	45	4	33	37	5	32	37	125.0	97.0	100.0
3月	4	34	38	13	42	55	14	26	40	107.7	61.9	72.7
合計	130	593	723	153	546	699	149	460	609	97.4	84.2	87.1

※平成22年8月から看護師による「電話相談」などによる小児科時間外診療の新たな取り組みを実施。

## 5-2 科別時間外診察費特別料金徴収対象患者状況

科別	令和4年度			令和5年度			令和6年度			前年度比		
	受診	対象	対象率									
	人	人	%	人	人	%	人	人	%	%	%	ポイント
内科	1,937	702	36.2	2,081	582	28.0	2,347	613	26.1	112.8	105.3	△1.8
精神科	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	-	-	-
神経内科	4	0	0.0	1	0	0.0	5	1	20.0	500.0	+	20.0
循環器内科	11	1	9.1	2	0	0.0	19	0	0.0	950.0	0.0	0.0
小児科	723	339	46.9	699	227	32.5	609	178	29.2	87.1	78.4	△3.2
外科	246	26	10.6	164	24	14.6	193	20	10.4	117.7	83.3	△4.3
血管外科	0	0	0.0	0		0.0	0	0	0.0	-	-	-
整形外科	709	226	31.9	609	229	37.6	681	242	35.5	111.8	105.7	△2.1
脳神経外科	483	88	18.2	487	154	31.6	522	156	29.9	107.2	101.3	△1.7
呼吸器外科	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
心臓血管外科	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
乳腺外科	6	0	-	5	2	40	8	0	0.0	+	-	-
皮膚科	174	77	44.3	149	103	69.1	156	114	73.1	104.7	110.7	3.9
泌尿器科	323	82	25.4	289	123	42.6	360	144	40.0	124.6	117.1	△2.6
産婦人科	320	30	9.4	271	40	14.8	256	27	10.5	94.5	67.5	△4.2
眼科	38	11	28.9	15	5	33.3	15	8	53.3	100.0	160.0	20.0
耳鼻いんこう科	112	57	50.9	103	58	56.3	99	49	49.5	96.1	84.5	△6.8
麻酔科	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	-	-	-
放射線科	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	-	-	-
救急科	117	50	42.7	97	46	47.4	1	0	0.0	1.0	-	△47.4
緩和内科	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	-	-	-
歯科	51	9	17.6	29	8	27.6	59	10	16.9	203.4	125.0	△10.6
合計	5,254	1,698	32.3	5,001	1,601	32.0	5,330	1,562	29.3	106.6	97.6	△2.7

※平成23年2月から時間外診察費特別料金の実費徴収開始。

※対象項目については、時間外診察費特別料金を徴収した患者数。

## 5-3 月別時間外診察費特別料金徴収対象患者状況（再掲）

診療月	令和4年度			令和5年度			令和6年度			前年度比		
	受診	対象	対象率									
	人	人	%	人	人	%	人	人	%	%	%	ポイント
4月	475	115	24.2	316	108	34.2	370	102	27.6	117.1	94.4	△6.6
5月	522	152	29.1	403	156	38.7	447	122	27.3	110.9	78.2	△11.4
6月	475	131	27.6	397	130	32.7	431	126	29.2	108.6	96.9	△3.5
7月	581	186	32.0	500	171	34.2	425	137	32.2	85.0	80.1	△2.0
8月	367	111	30.2	460	170	37.0	461	150	32.5	100.2	88.2	△4.4
9月	421	112	26.6	428	137	32.0	460	136	29.6	107.5	99.3	△2.4
10月	469	178	38.0	399	123	30.8	423	125	29.6	106.0	101.6	△1.3
11月	358	126	35.2	393	134	34.1	424	125	29.5	107.9	93.3	△4.6
12月	480	179	37.3	481	136	28.3	534	156	29.2	111.0	114.7	0.9
1月	449	188	41.9	475	146	30.7	550	156	28.4	115.8	106.8	△2.4
2月	307	111	36.2	349	87	24.9	411	110	26.8	117.8	126.4	1.8
3月	350	109	31.1	400	103	25.8	394	117	29.7	98.5	113.6	3.9
合計	5,254	1,698	32.3	5,001	1,601	32.0	5,330	1,562	29.3	106.6	97.6	△2.7

## 6 科別救急搬送患者状況

科別	令和4年度			令和5年度			令和6年度			前年度比		
	入院	外来	合計									
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	%	%	%
内科	739	300	1,039	911	400	1,311	1,125	475	1,600	123.5	118.8	122.0
精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
神経内科	7	8	15	6	4	10	0	0	0	-	-	0.0
循環器内科	20	1	21	14	0	14	32	20	52	228.6	+	371.4
小児科	50	186	236	67	263	330	79	220	299	117.9	83.7	90.6
外科	115	11	126	73	15	88	147	125	272	201.4	833.3	309.1
血管外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
整形外科	183	129	312	185	165	350	215	226	441	116.2	137.0	126.0
脳神経外科	195	147	342	228	166	394	266	238	504	116.7	143.4	127.9
呼吸器外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
心臓血管外科	0	0	0			0	0	0	0	-	-	-
乳腺外科	3	0	-	3	1	4	5	0	5	+	0.0	0.0
皮膚科	2	9	11	8	13	21	8	25	33	100.0	192.3	157.1
泌尿器科	67	35	102	42	43	85	66	50	116	157.1	116.3	136.5
産婦人科	62	26	88	57	23	80	61	24	85	107.0	104.3	106.3
眼科	0	6	6	0	5	5	0	9	9	0.0	180.0	180.0
耳鼻いんこう科	5	31	36	6	35	41	6	57	63	100.0	162.9	153.7
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
救急科	88	301	389	53	304	357	0	68	68	-	22.4	19.0
緩和内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
歯科	2	2	4	0	5	5	1	6	7	+	120.0	140.0
合計	1,538	1,192	2,727	1,653	1,442	3,095	2,011	1,543	3,554	121.7	107.0	114.8
一日平均	4.2	3.3	7.5	4.5	3.9	8.5	5.5	4.2	9.7	1.0	0.3	1.3

## 7 年齢別患者年報（年度別）

科別	令和4年度			令和5年度			令和6年度			前年度比		
	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	%	%	%
0～4	5,457	4,969	10,426	5,524	4,523	10,047	4,697	3,953	8,650	85.0	87.4	86.1
5～9	233	2,829	3,062	447	2,967	3,414	266	2,809	3,075	59.5	94.7	90.1
10～19	806	6,016	6,822	967	5,151	6,118	747	5,294	6,041	77.2	102.8	98.7
20～29	1,661	4,880	6,541	1,802	4,198	6,000	1,244	3,774	5,018	69.0	89.9	83.6
30～39	2,651	7,156	9,807	2,438	6,015	8,453	2,425	5,035	7,460	99.5	83.7	88.3
40～49	2,842	12,499	15,341	2,910	10,815	13,725	2,683	9,200	11,883	92.2	85.1	86.6
50～59	6,603	17,928	24,531	5,760	16,797	22,557	6,677	15,644	22,321	115.9	93.1	99.0
60～69	10,838	22,084	32,922	11,397	20,464	31,861	10,918	19,448	30,366	95.8	95.0	95.3
70～79	30,243	48,850	79,093	31,203	43,217	74,420	30,440	40,275	70,715	97.6	93.2	95.0
80～	44,532	33,896	78,428	44,042	33,830	77,872	48,162	34,995	83,157	109.4	103.4	106.8
合計	105,866	161,107	266,973	106,490	147,977	254,467	108,259	140,427	248,686	101.7	94.9	97.7

## 8 死亡・剖検数の疫病分類

### ① 入院（その1）

※ 下段（ ）は剖検数

疾病分類	診療科	内科	精神科	神内科	循環器	小児科	外科	血管外科	整形外科	脳外科	呼吸外
1 感染症及び寄生虫症		15 (1)					1				
2 新生物		81					34				
3 血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害		2									
4 内分泌、栄養および代謝 疾患		8									
5 精神および行動の障害											
6 神経系の疾患				1							
7 眼および付属器の疾患											
8 耳および乳様突起の疾患											
9 循環器系の疾患		28			7					20	
10 呼吸器系の疾患		95			3		2		3	1	
11 消化器系の疾患		16			1	1	8		1		
12 皮膚および皮下組織の疾 患		2									
13 筋骨格系の疾患											
14 尿路性器系の疾患		5			4					2	
15 妊娠、分娩および産褥											
16 周産期に発生した病態											
17 先天奇形、変形および染 色体異常											
18 症状、徴候および異常臨 床所見・異常検査所見で 他に分類されないもの		10			1						
19 損傷、中毒およびその他 の外因の影響		1				1			4	2	
20 傷病および死亡の外因											
21 健康状態に影響を及ぼす 要因及び保健サービスの 利用											
22 特殊目的コード		10									
合 計		273 (1)		1	16	2	45		8	25	

## ① 入院（その2）

疾病分類	診療科										計
	皮膚科	泌尿科	産婦科	眼科	耳鼻科	麻酔科	放射科	救急科	歯科		
1 感染症及び寄生虫症											16 1
2 新生物		11	2								128
3 血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害											2
4 内分泌、栄養および代謝 疾患		1									9
5 精神および行動の障害											
6 神経系の疾患											1
7 眼および付属器の疾患											
8 耳および乳様突起の疾患											
9 循環器系の疾患											55
10 呼吸器系の疾患	1										105
11 消化器系の疾患											27
12 皮膚および皮下組織の疾 患											2
13 筋骨格系の疾患											
14 尿路性器系の疾患											11
15 妊娠、分娩および産褥											
16 周産期に発生した病態											
17 先天奇形、変形および染 色体異常											
18 症状、徴候および異常臨 床所見・異常検査所見で 他に分類されないもの											11
19 損傷、中毒およびその他 の外因の影響											8
20 傷病および死亡の外因											
21 健康状態に影響を及ぼす 要因及び保健サービスの 利用											
22 特殊目的コード		(2)									12
合 計	1	14	2								387 1

## ② 外来（その1）

※ 下段（ ）は剖検数

診療科 疾病分類	内 科	精 神 科	神 内 科	循 環 器	小 児 科	外 科	血 管 外 科	整 外 科	脳 外 科	呼 吸 外
1 感染症及び寄生虫症										
2 新生物	8					1				
3 血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害										
4 内分泌、栄養および代謝 疾患	2									
5 精神および行動の障害										
6 神経系の疾患										
7 眼および付属器の疾患										
8 耳および乳様突起の疾患										
9 循環器系の疾患	33			1		8			5	
10 呼吸器系の疾患	12									
11 消化器系の疾患	1									
12 皮膚および皮下組織の疾 患										
13 筋骨格系の疾患										
14 尿路性器系の疾患	2									
15 妊娠、分娩および産褥										
16 周産期に発生した病態										
17 先天奇形、変形および染 色体異常										
18 症状、徴候および異常臨 床所見・異常検査所見で 他に分類されないもの	4									
19 損傷、中毒およびその他 の外因の影響	4					1			1	
20 傷病および死亡の外因	1					1				
21 健康状態に影響を及ぼす 要因及び保健サービスの 利用										
22 特殊目的コード										
合 計	67			1		11			6	

② 外来（その2）

診療科 疾病分類	皮膚科	泌尿科	産婦科	眼科	耳鼻科	麻酔科	放射科	救急科	歯科	計
1 感染症及び寄生虫症										
2 新生物								1		10
3 血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害										
4 内分泌、栄養および代謝 疾患										2
5 精神および行動の障害										
6 神経系の疾患										
7 眼および付属器の疾患										
8 耳および乳様突起の疾患										
9 循環器系の疾患								2		49
10 呼吸器系の疾患										12
11 消化器系の疾患										1
12 皮膚および皮下組織の疾患										
13 筋骨格系の疾患										
14 尿路性器系の疾患										2
15 妊娠、分娩および産褥										
16 周産期に発生した病態										
17 先天奇形、変形および染 色体異常										
18 症状、徴候および異常臨 床所見・異常検査所見で 他に分類されないもの										4
19 損傷、中毒およびその他 の外因の影響								1		7
20 傷病および死亡の外因					1			1		4
21 健康状態に影響を及ぼす 要因及び保健サービスの 利用										
22 特殊目的コード					(1)					1
合 計					2			5		92

## ③ 入院+外来（その1）

※ 下段（ ）は剖検数

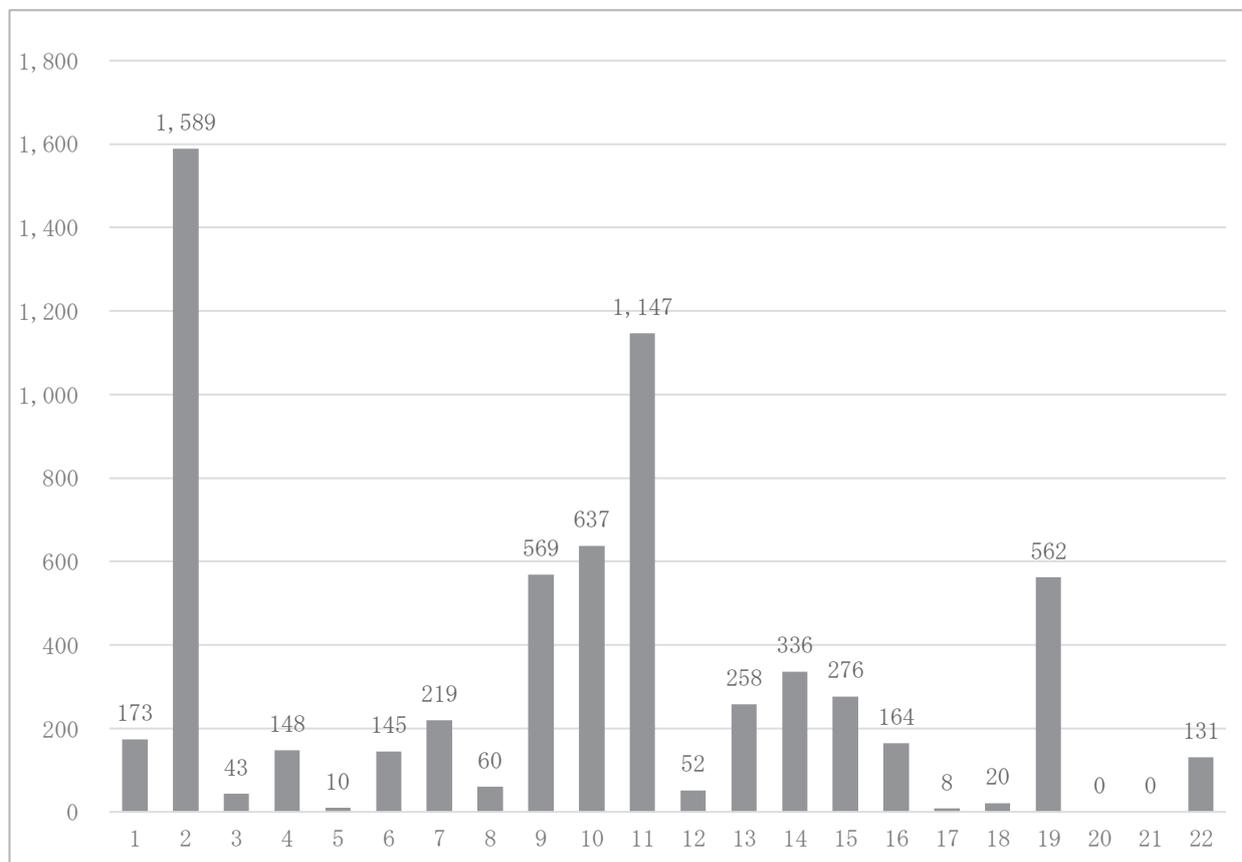
診療科 疾病分類	内 科	精 神 科	神 内 科	循 環 器	小 児 科	外 科	血 管 外 科	整 外 科	脳 外 科	呼 吸 外
1 感染症及び寄生虫症	15 (1)					1				
2 新生物	89					35				
3 血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害	2									
4 内分泌、栄養および代謝 疾患	10									
5 精神および行動の障害										
6 神経系の疾患			1							
7 眼および付属器の疾患										
8 耳および乳様突起の疾患										
9 循環器系の疾患	61			8		8			25	
10 呼吸器系の疾患	107			3		2		3	1	
11 消化器系の疾患	17			1	1	8		1		
12 皮膚および皮下組織の疾 患	2									
13 筋骨格系の疾患										
14 尿路性器系の疾患	7			4					2	
15 妊娠、分娩および産褥										
16 周産期に発生した病態										
17 先天奇形、変形および染 色体異常										
18 症状、徴候および異常臨 床所見・異常検査所見で 他に分類されないもの	14			1						
19 損傷、中毒およびその他 の外因の影響	5				1	1		4	3	
20 傷病および死亡の外因	1					1				
21 健康状態に影響を及ぼす 要因及び保健サービスの 利用										
22 特殊目的コード	10									
合 計	340 (1)		1	17	2	56		8	31	

③ 入院+外来（その2）

診療科 疾病分類	皮膚科	泌尿科	産婦科	眼科	耳鼻科	麻酔科	放射科	救急科	歯科	計
1 感染症及び寄生虫症										16 1
2 新生物		11	2					1		138
3 血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害										2
4 内分泌、栄養および代謝 疾患		1								11
5 精神および行動の障害										
6 神経系の疾患										1
7 眼および付属器の疾患										
8 耳および乳様突起の疾患										
9 循環器系の疾患								2		104
10 呼吸器系の疾患	1									117
11 消化器系の疾患										28
12 皮膚および皮下組織の疾患										2
13 筋骨格系の疾患										
14 尿路性器系の疾患										13
15 妊娠、分娩および産褥										
16 周産期に発生した病態										
17 先天奇形、変形および染 色体異常										
18 症状、徴候および異常臨 床所見・異常検査所見で 他に分類されないもの										15
19 損傷、中毒およびその他 の外因の影響								1		15
20 傷病および死亡の外因					1			1		4
21 健康状態に影響を及ぼす 要因及び保健サービスの 利用										
22 特殊目的コード		2			1					13
合 計	1	14	2		2			5		479 1

④退院患者疾病大分類統計

章	ICDコード 分類見出し	人
1	A00-B99 感染症および寄生虫症	173
2	C00-D48 新生物	1,589
3	D50-D89 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	43
4	E00-E90 内分泌, 栄養および代謝疾患	148
5	F00-F99 精神および行動の障害	10
6	G00-G99 神経系の疾患	145
7	H00-H59 眼および付属器の疾患	219
8	H60-H95 耳および乳様突起の疾患	60
9	I00-I99 循環器系の疾患	569
10	J00-J99 呼吸器系の疾患	637
11	K00-K93 消化器系の疾患	1,147
12	L00-L99 皮膚および皮下組織の疾患	52
13	M00-M99 筋骨格系および結合組織の疾患	258
14	N00-N99 尿路性器系の疾患	336
15	000-099 妊娠, 分娩および産じょく<褥>	276
16	P00-P96 周産期に発生した病態	164
17	Q00-Q99 先天奇形, 変形および染色体異常	8
18	R00-R99 症状, 徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	20
19	S00-T98 損傷, 中毒およびその他の外因の影響	562
20	V00-Y98 傷病および死亡の外因	0
21	Z00-Z99 健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	0
22	U00-U99 特殊目的コード	131
	合 計	6,547



## 9 手術

### (1) 科別・麻酔別手術件数

科別	麻酔別						合計	構成比
	全麻	腰麻	局麻	硬膜外	静脈	その他		
	件	件	件	件	件	件	件	%
内科	0	0	0	0	0	0	0	-
精神科	0	0	0	0	0	0	0	-
神経内科	0	0	0	0	0	0	0	-
循環器内科	0	0	16	0	0	0	16	0.7
小児科	0	0	0	0	0	0	0	-
外科	369	48	46	0	0	0	463	20.8
血管外科	0	0	0	0	0	0	0	-
整形外科	247	106	37	0	0	7	397	17.8
脳神経外科	40	80	0	0	0	0	120	5.4
呼吸器外科	0	0	0	0	0	0	0	-
心臓血管外科	0	0	0	0	0	0	0	-
乳腺外科	84	0	2	0	0	0	86	3.9
皮膚科	0	0	126	0	0	0	126	5.7
泌尿器科	69	324	25	0	0	0	418	18.8
産婦人科	116	97	1	0	9	0	223	10.0
眼科	12	0	226	0	0	0	238	10.7
耳鼻いんこう科	0	0	0	0	0	0	0	-
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	-
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	-
救急科	0	0	0	0	0	0	0	-
緩和内科	0	0	0	0	0	0	0	-
歯科	142	0	0	0	0	0	142	6.4
合計	1,079	655	479	0	9	7	2,229	
構成比	% 48.4	% 29.4	% 21.5	% 0.0	% 0.4	% 0.3		100.0

## (2) 科別・疾患別手術件数

科	部 位	病 名	術 名	件 数
循環器 内科	胸部	洞不全症候群	ペースメーカー植え込み術	4
		房室ブロック	ペースメーカー植え込み術	4
		徐脈性心房細動	ペースメーカー植え込み術	3
		ペースメーカーリード断線	ペースメーカー植え込み術	1
		ペースメーカー電池消耗	ペースメーカー電池交換術	4
		計		
外科	食道	食道癌	食道切除再建術	3 (3)
			その他	1
	胃・十二指腸	胃癌	噴門側胃切除術	1 (1)
			幽門側胃切除術	10 (10)
			胃全摘術 その他	4 5 (4)
		潰瘍性疾患	単純閉塞・大網被覆	4 (2)
	小腸	癌などの腫瘍性疾患		1
		非腫瘍性疾患		4
	虫垂	虫垂良性腫瘍		3 (2)
		虫垂炎		17 (17)
	大腸	結腸癌 直腸癌（肛門管癌・ 痔瘻癌を含む）	結腸癌手術（盲腸～S状結腸癌）	28 (15)
			高位前方切除	13 (6) [10]
			低位前方切除	6 (4) [1]
			直腸切除術 ハルトマン手術	2 (2) 2 (1) [1]
		非腫瘍性疾患		16 (2)
	人工肛門		人工肛門造設術	14 (7)
			人工肛門閉鎖術	5
腹壁疾患	鼠径ヘルニア	鼠径ヘルニア根治術	102 (55)	
	腹壁癒痕ヘルニア	腹壁癒痕ヘルニア根治術	4 (1)	
	その他のヘルニア（大 腿、閉鎖孔、臍等）	根治術	13 (2)	
その他	腸閉塞	腸閉塞手術	8 (1)	
	痔核	痔核根治術等	1	
	直腸脱	G a n t 一三輪法等の経肛門手術	1	
肝	転移性肝腫瘍	肝切除術	1	
胆・膵	胆膵腫瘍 胆嚢・胆管結石	その他	5 (5)	
		胆嚢摘出術	54 (43)	
		C Vポート造設術	44	
計			372 (183) [12]	

※外科手術件数の（ ）は鏡視下手術数、[ ]はロボット支援手術数

科	部 位	病 名	術 名	件 数
整形外科	上肢・肩甲帯	鎖骨骨折	観血的整復固定術	5
		肩関節脱臼	徒手整復	1
		上腕骨頸部骨折	観血的整復固定術	9
		上腕骨骨幹部骨折	観血的整復固定術	2
		上腕骨顆部部骨折	観血的整復固定術	5
		肘関節脱臼骨折	観血的整復固定術	1
		前腕両骨骨折	観血的整復固定術	3
		橈骨遠位端骨折	観血的整復固定術	12
		手指骨骨折、脱臼骨折	観血的整復固定術	9
		バネ指	腱鞘切開術	11
		挫滅	腱縫合術	2
			デブリードマン、洗浄	3
		軟部腫瘍	摘出術	2
		観血的整復固定術後	抜針術	25
	肘部管症候群	神経剥離術	1	
	下肢	大腿骨頸部骨折	人工骨頭置換術	29
			観血的整復固定術	11
		転子部	観血的整復固定術	42
		骨幹部	観血的整復固定術	5
		顆上骨折	観血的整復固定術	4
変形性膝関節症		人工膝関節置換術	6	
半月板損傷		関節鏡	4	
脛骨骨折		観血的整復固定術	3	
膝蓋骨骨折		観血的整復固定術	4	
足関節脱臼骨折		観血的整復固定術	7	
アキレス腱断裂		靭帯縫合術	6	
足趾骨折		観血的整復固定術	2	
壊疽		大腿切断	2	
		下腿切断	1	
		足部切断	2	
挫滅		デブリードマン、洗浄	1	
足部皮膚欠損		植皮	1	
観血的整復固定術後		抜針術	2	
子関節脱臼		非観血的整復術	1	
化膿性関節炎		洗浄術	1	
脊椎	頸椎症性脊髄症	頸部脊柱管拡大術	13	
		頸椎椎弓切除術	7	
		後方固定術	4	
	頸椎後縦靭帯骨化症	頸部脊柱管拡大術	1	
		頸椎後方固定術	6	
	頸椎椎間板ヘルニア	頸椎前方固定術	2	
	胸椎黄色靭帯骨化症	胸椎椎弓切除術	2	

科	部 位	病 名	術 名	件 数
整形外科	脊椎	胸椎椎間板ヘルニア 胸椎骨折 胸椎転移 胸髄腫瘍 脊柱変形 腰部脊柱管狭窄症	胸椎後方固定術	4
			胸椎後方固定術	1
			胸椎後方固定術	1
			腫瘍摘出術	1
			腰椎前方後方同時固定術	6
			内視鏡下椎弓切除術	18
		腰椎椎間板ヘルニア	腰椎椎弓切除術	15
			腰椎後方椎体間固定術	29
			腰椎後側方固定術	3
			内視鏡下椎間板摘出術	15
			椎間板内酵素注入	5
			胸腰椎椎体骨折	4
		術後感染 脊椎腫瘍、感染 その他	腰椎前方後方同時固定術	14
			腰椎後側方固定術	11
			経皮的椎体形成術	2
			デブリードマン、洗浄	1
			針生検	7
計				397
脳神経外科	脳血管障害	破裂脳動脈瘤	クリッピング術	9
			コイル塞栓術	4
		未破裂脳動脈瘤	コイル塞栓術	1
			脳内出血	内視鏡下血腫除去術
		頸部頸動脈狭窄症	開頭血腫除去術	2
			ステント留置術	6
		脳動脈閉塞症 もやもや病	血栓内膜剥離術	1
			血栓回収術	18
	腫瘍	脳腫瘍	塞栓術	1
			開頭腫瘍摘出術	4
			生検術	2
	外傷	急性硬膜外血腫 慢性硬膜下血腫	栄養動脈塞栓術	1
			開頭血腫除去術	4
	その他	水頭症	穿孔洗浄術	50
脳室腹腔短絡術			5	
脳室ドレナージ術			2	
シャント再建術			1	
顔面けいれん その他		微小血管減圧術	1	
計				7
計				120
乳腺外科	乳腺	乳癌	乳房切除	82
		乳腺腫瘍	腫瘍摘出	4
	計			

科	部 位	病 名	術 名	件 数	
皮膚科	皮膚悪性腫瘍 (27例)	基底細胞癌	切除術	20	
			有棘細胞癌	切除術	4
		表皮内癌 (9例)	隆起性皮膚線維肉腫	切除術+全層植皮術	2
				切除術	1
			ボーエン病	切除術	7
				切除術+全層植皮術	2
	皮膚良性腫瘍 (89例)	粉瘤	切除術	48	
		脂肪腫	切除術	11	
		色素細胞母斑	切除術	9	
		エクリン汗孔腫	切除術	4	
		血管脂肪腫	切除術	2	
		血管平滑筋腫	切除術	2	
		皮膚線維腫	切除術	2	
軟性線維腫		切除術	2		
その他		切除術	9		
皮膚生検			1		
計			126		
泌尿器科	副腎	副腎癌	腹腔鏡下副腎悪性腫瘍手術	1	
	腎臓	腎細胞癌	腹腔鏡下腎悪性腫瘍摘出術	9	
			腹腔鏡下腎悪性腫瘍部分切除術	2	
	腎盂・尿管	腎盂尿管癌	腹腔鏡下腎尿管悪性腫瘍摘出術	9	
	膀胱	膀胱癌	腹腔鏡下膀胱全摘除術(回腸導管)	6	
			腹腔鏡下膀胱全摘除術(尿管皮膚婁)	1	
			経尿道的膀胱腫瘍切除術	83	
			経尿道的膀胱結石砕石術	13	
		膀胱結石	膀胱瘻造設術	2	
		神経因性膀胱			
	前立腺	前立腺癌	ロボット支援下前立腺悪性腫瘍摘出術	11	
			腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍摘出術	11	
			精巣摘出術	3	
			前立腺生検	164	
			経会陰的放射線治療用材料局所注入	17	
			経尿道的前立腺切除術	21	
		前立腺肥大症	経尿道的前立腺高温度治療	4	
陰茎	包茎	環状切除術	4		
		背面切開術	5		
陰囊・精巣	精索静脈瘤	精巣悪性腫瘍手術	4		
		精巣固定術	2		
	陰囊水腫	陰囊水腫根治術	7		
	精巣捻転症	精巣捻転手術	5		
その他	骨盤臓器脱	腹腔鏡下仙骨固定術	3		
	膀胱損傷	腹腔鏡下膀胱閉鎖術	1		

科	部 位	病 名	術 名	件 数	
泌尿器科		慢性腎不全	内シャント造設術	14	
	計			402	
産婦人科	子宮（産科）		緊急帝王切開	49	
			選択帝王切開	25	
			流産手術	4	
			異所性妊娠手術	3	
			その他	2	
	子宮（婦人科）	良性子宮疾患		腹腔鏡下手術	7
				開腹手術	28
		性器脱		性器脱手術	2
		子宮体癌		開腹子宮全摘術	8
		子宮頸癌（頸部異形成）		開腹手術	1
				円錐切除術	18
		良性卵巣卵管疾患		腹腔鏡下手術	37
				開腹手術	10
悪性卵巣腫瘍			子宮附属器悪性腫瘍手術	16	
外陰疾患		外陰手術	1		
膣疾患		膣手術	1		
その他		その他の手術	11		
計			223		
眼科	水晶体	白内障	水晶体再建術（眼内レンズ挿入あり）	236	
	角膜	翼状片	翼状片手術（弁移植を要するもの）	1	
	眼筋	斜視	前転法及び後転法の併施	1	
	計			238	
歯科	顎口腔	埋伏歯	埋伏歯摘出術	93	
		上顎骨腫瘍	上顎骨腫瘍摘出術	3	
		下顎骨腫瘍	下顎骨腫瘍摘出術	5	
		歯根嚢胞	歯根嚢胞摘出術	10	
		上顎骨嚢胞	上顎骨嚢胞摘出術	3	
		下顎骨嚢胞	下顎骨嚢胞摘出術	3	
		顎骨骨隆起	下顎隆起形成術	5	
		顎関節習慣性脱臼	顎関節脱臼観血的手術	2	
		舌腫瘍	舌腫瘍切除術	1	
		その他（う歯など）	難抜歯術	6	
		う歯（障がい者）	う歯治療または抜歯	11	
		計			142
合計				2,122	

## 10 内視鏡患者数

検査種別	検査名	所在	令和4年度	令和5年度	令和6年度
上部消化管	上部消化管	外来	人 1,151	人 1,040	人 988
		入院	324	270	274
	内視鏡的超音波検査	外来	0	0	0
		入院	1	0	0
	内視鏡的注入硬化療法	外来	0	0	0
		入院	15	15	18
	食道静脈瘤結紮術	外来	2	1	3
		入院	4	3	2
	胃瘻造設	外来	0	0	0
		入院	17	5	12
	胃瘻交換	外来	56	37	36
		入院	1	2	4
	上部消化管止血術	外来	9	16	7
		入院	8	13	16
	胃粘膜切除術	外来	0	1	0
		入院	4	2	0
	胃ポリープ切除術	外来	1	1	0
		入院	4	2	2
	胃粘膜下剥離術	外来	0	0	0
		入院	26	34	27
	異物摘出術	外来	4	7	5
		入院	2	2	1
	食道拡張術	外来	0	0	0
		入院	17	4	17
	十二指腸拡張術	外来	0	0	0
		入院	1	1	0
	上部消化管（人間ドック）	外来	0	0	0
		入院	0	0	0
	幽門狭窄拡張	外来	0	0	0
		入院	0	0	2
上部消化管（健診）	外来	1,742	1,861	1,932	
	入院	0	0	0	
上部消化管（健診・経鼻）	外来	602	702	797	
	入院	0	0	31	
上部消化管内視鏡計	外来	3,569	3,703	3,768	
	入院	437	372	406	
胆膵内視鏡	逆行性膵胆管造影	外来	1	0	7
		入院	113	123	132
	乳頭括約筋切開術	外来	0	0	5
		入院	56	60	78

検査種別	検査名	所在	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	胆道結石除去術	外来	0	0	3
		入院	54	46	43
	胆道ステント留置	外来	1	2	5
		入院	68	59	87
	乳頭バルーン拡張術	外来	0	0	0
		入院	0	1	2
	経鼻胆管ドレナージ	外来	0	0	0
		入院	10	1	0
	胆膵超音波	外来	0	0	0
		入院	0	0	0
	胆膵超音波穿刺	外来	0	0	0
		入院	0	0	0
	胆膵内視鏡計	外来	0	0	20
		入院	303	290	342
下部消化管	大腸ファイバー	外来	1,120	1,270	1,196
		入院	149	173	130
	大腸超音波内視鏡	外来	0	0	0
		入院	0	0	0
	大腸ポリープ切除術	外来	356	403	346
		入院	23	13	7
	大腸粘膜切除術	外来	1	3	1
		入院	1	1	0
	大腸粘膜剥離術	外来	0	0	0
		入院	2	2	1
	下部消化管止血術	外来	2	3	3
		入院	9	10	7
	大腸拡張術	外来	1	1	1
		入院	5	7	0
下部消化管内視鏡計	外来	1,481	1,618	1,547	
	入院	189	206	145	
気管支	気管支ファイバー	外来	0	1	0
		入院	78	58	46
	経気管支肺生検	外来	0	0	0
		入院	5	1	0
	気管支異物除去術	外来	0	0	0
		入院	0	0	0
	超音波気管支鏡	外来	0	0	0
		入院	1	1	0
	気管支瘻孔閉鎖術	外来	0	0	0
		入院	0	0	0
	気管支肺胞洗浄	外来	0	0	0
		入院	5	2	5
	気管支鏡計	外来	0	0	0
		入院	89	62	52

## 11 分娩件数・内訳

項目	分娩件数	内訳			児体数	死産	
		単胎	双胎	品胎		22週未満	22週以降
	件	件	件	件	件	件	件
6年度	170	166	4	0	174	7	1
5年度	199	185	14	0	212	10	1
4年度	222	190	16	0	238	7	0

## 12 新生児未熟児センター

### (1) 入院数 (NICU+GCU)

体 重	令和4年度	令和5年度	令和6年度
g	人	人	人
0-999	5	7	10
1000-1499	17	7	12
1500-1999	18	23	15
2000-2499	41	28	26
2500-	64	68	51
計	145	133	114

注) GCUは令和7年2月から休床

### (2) NICU入院数

体 重	令和4年度	令和5年度	令和6年度
g	人	人	人
0-999	4	5	9
1000-1499	17	7	12
1500-1999	17	23	15
2000-2499	11	11	14
2500-	8	15	17
計	57	61	67

注) NICUは令和7年3月より9床(変更前6床)で運用

### 13 ICU・CCU入室患者数

科別 \ 年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
内科	58人	64人	34人
精神科	0	0	0
神経内科	1	0	2
循環器内科	31	27	37
小児科	9	15	15
外科	161	174	141
血管外科	0	0	0
整形外科	45	52	44
脳神経外科	97	111	98
呼吸器外科	0	0	0
心臓外科	0	0	0
乳腺外科	0	2	0
皮膚科	1	0	0
泌尿器科	53	52	62
産婦人科	31	46	56
眼科	0	0	0
耳鼻いんこう科	0	0	0
麻酔科	0	0	0
放射線科	0	0	0
救急科	5	3	0
緩和内科	0	0	0
歯科・口腔外科	0	0	0
計	492	546	489

### ICU・CCU稼働率

年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
稼働率	67.4 %	63.8 %	63.8 %

## 14 腎センター

### (1) 慢性透析の概要

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年比
	回	回	回	%
入院患者透析回数	429	634	569	89.7
外来患者透析回数	2,236	1,766	1,673	94.7
計	2,665	2,400	2,242	93.4
透析開始者数	7	16	14	87.5
死者数	5	4	11	275.0
転出者数	46	49	59	120.4
転入者数	56	37	54	145.9
急性透析患者数	46	49	54	110.2

## 15 人間ドック・健康診断等

### (1) 人間ドック・健康診断利用者数

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年比
	人	人	人	%
1日ドック	2,893	3,001	3,124	104.1
健康診断等	4,334	4,340	4,552	104.9
計	7,227	7,341	7,676	104.6

### ※ 再掲

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年比
	人	人	人	%
脳ドック	198	212	225	106.1
肺がんドック	38	36	27	75.0

## 16 薬剤部

### (1) 処方箋枚数と院外処方箋発行率

項目		年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
入院処方箋	枚数		33,980	33,572	33,065	98.5
	件数		68,607	67,944	66,134	97.3
外来院内処方箋	枚数		3,384	3,088	2,779	90.0
	件数		4,370	3,995	3,707	92.8
外来院外処方箋	枚数		76,810	76,251	74,734	98.0
	発行率%		95.8	96.1	96.4	100.3

### (2) 医薬品使用状況

医薬品		年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
内	用	剤	千円	千円	千円	
			88,326	116,938	99,157	84.8
外	用	剤	20,543	19,445	20,073	103.2
注	射	剤	1,279,186	1,307,974	1,121,637	85.8
そ	の	他	36,639	34,422	32,421	94.2
合	計		1,424,694	1,478,779	1,273,288	86.1

### (3) 麻薬施用状況

種類	製 剤 名	単 位	令和3.10.1	令和4.10.1	令和5.10.1	前年度比
			～ 令和4.9.30	～ 令和5.9.30	～ 令和6.9.30	
注射	フェンタニル注射液0.1mg	Amp	428	462	439	95.0
	フェンタニル注射液0.5mg	Amp	487	437	468	107.1
	モルヒネ塩酸塩注射液10mg	Amp	410	495	602	121.6
	モルヒネ塩酸塩注射液50mg	Amp	82	52	58	111.5
	ケタラール静注用50mg	Amp	108	103	83	80.6
	レミフェンタニル静注用2mg	V	841	843	998	118.4
	レミフェンタニル静注用5mg	V	96	100	89	89.0
	ペチジン塩酸塩注射液35mg	Amp	230	289	294	101.7
	オキシコドン注射液10mg	Amp	36	42	74	176.2
	オキシコドン注射液50mg	Amp	12	104	19	18.3
	ナルペイン注2mg	Amp	911	738	200	27.1
	ナルペイン注20mg	Amp	320	328	67	20.4

種類	製 剤 名	単 位	令和3.10.1	令和4.10.1	令和5.10.1	前年度比
			～ 令和4.9.30	～ 令和5.9.30	～ 令和6.9.30	
内用	コデインリン酸塩散10%	g	0	0	0	% -
	コデインリン酸塩錠20mg	錠	1,156	1,738	1,589	91.4
	MS コンチン錠10mg	錠	332	318	16	5.0
	MS コンチン錠30mg	錠	0	32	0	0.0
	オキノーム散2.5mg	包	2,725	1,266	940	74.2
	オキノーム散5mg	包	3,885	3,132	2,388	76.2
	オキノーム散20mg	包	459	390	327	83.8
	アヘンチンキ	mL	114	0	0	-
	オブソ内服液5mg	包	481	514	528	102.7
	オブソ内服液10mg	包	42	220	220	100.0
	オキシコドン徐放錠5mgNX	錠	6,401	3,497	2,474	70.7
	オキシコドン徐放錠20mgNX	錠	1,147	1,327	1,444	108.8
	ナルサス錠2mg	錠	628	1,204	634	52.7
	ナルサス錠6mg	錠	329	437	88	20.1
	ナルサス錠12mg	錠	443	91	45	49.5
	ナルサス錠24mg	錠	637	235	59	25.1
	ナルラピド錠1mg	錠	692	1,256	713	56.8
	ナルラピド錠2mg	錠	580	512	130	25.4
	ナルラピド錠4mg	錠	1,100	4,330	200	4.6
	メサペイン錠5mg	錠	581	39	0	0.0
メサペイン錠10mg	錠	0	309	0	0.0	
外用	アンペック坐剤10mg	個	181	115	134	116.5
	フェンタニルエン酸塩 1日用テープ 1mg	枚	498	315	243	77.1
	フェンタニルエン酸塩 1日用テープ 2mg	枚	465	582	440	75.6
	フェンタニルエン酸塩 1日用テープ 8mg	枚	23	52	0	0.0
	フェントステープ 0.5mg	枚	56	406	399	98.3
	フェントステープ 1mg	枚	0	176	200	113.6
	フェントステープ 2mg	枚	0	0	0	-
	フェントステープ 8mg	枚	0	0	0	-

(4) 薬事審議委員会審議医薬品件数

年度 医薬品	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
採用医薬品	181	233	164	70.4
削除医薬品	82	122	79	64.8

※ 採用医薬品(申請)医薬品：臨時採用品、製造中止による代替品などを含みます。

※ 削除医薬品：不変動による中止医薬品、製造中止品などを含みます。

## (5) D I (医薬品情報管理業務) への項目別問合せ件数

項目	年度			
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
	件	件	件	%
使用上の注意・副作用	29	21	12	57.1
薬剤の安定性	34	28	32	114.3
商品照合	10	8	5	62.5
疾患と使用薬剤	9	4	3	75.0
用法・用量	31	23	16	69.6
薬理作用	12	21	2	9.5
処方・調製法	14	13	2	15.4
中毒関係	0	0	0	-
注射剤配合変化	2	1	0	0.0
含量・単位	4	1	1	100.0
文献提供	1	1	2	200.0
消毒関係	0	0	0	-
新薬関係	1	0	0	-
薬物相互作用	7	7	1	14.3
麻薬関係	1	3	0	0.0
長期投与	0	0	1	+
薬価関連	1	2	0	0.0
オーダリング関係	0	0	0	-
T D M	1	2	1	50.0
がん化学療法	5	3	2	66.7
その他	0	0	0	-
計	162	138	80	58.0

## (6) 特殊調剤・特殊製剤

品目	年度	単位	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
						%
点眼剤・眼軟膏剤						
アトピオン点眼液0.5% 5mL		本	4	6	4	66.7
caputo点眼液 2mL		本	280	260	280	107.7
外用液剤						
塩化アルミニウム液20% 100mL		本	16	19	13	68.4
吸入液A		m L	885	735	855	116.3
トラマゾリン分注 5mL		本	44	66	88	133.3
プロピナ分注 5mL		本	250	266	243	91.4
ホスミン液5000倍 25mL		m L	138	0	0	-
ホスミン液5000倍 30mL		m L	30	165	195	118.2
滅菌グリセリン分注 10mL		本	270	230	240	104.3
滅菌ピオクタン1% 5mL		本	108	124	116	93.5
消毒剤・洗浄・保存剤						
キシトール液2倍 500mL		本	28	22	26	118.2
酢酸溶液3% 300mL		本	27	29	24	82.8
複方ヨードグリセリン分注 50mL		本	6	2	2	100.0
検査・診用剤						
パッチテスト		件	0	1	0	0.0
BTB溶液0.1% 100mL		本	4	4	4	100.0
ブリアントブルー-G液 5mL		本	150	139	120	86.3
ルゴール液 2.5% 40mL		本	3	4	0	0.0
ルゴール液 2.5% 60mL		本	0	2	2	100.0
滅菌墨汁 4mL		本	50	78	50	64.1
その他						
硝酸銀溶液20% 5mL		本	39	18	0	0.0
硝酸銀溶液20% 10mL		本	0	7	11	157.1
硝酸銀溶液20% 25mL		本	13	6	0	0.0

(7) 注射薬セット

① 入院注射 (TPN含む) 件数

病棟	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
		件	件	件	%
I C U ・ C C U		15,197	13,411	13,480	100.5
3 階 病 棟		15,509	16,126	21,393	132.7
4 階 東 病 棟		4,755	4,594	6,641	144.6
4 階 西 病 棟		14,463	13,111	13,546	103.3
5 階 西 病 棟		38,522	31,036	33,838	109.0
6 階 東 病 棟		18,492	18,857	19,573	103.8
6 階 西 病 棟		611	758	581	76.6
7 階 東 病 棟		27,255	30,077	30,337	100.9
7 階 西 病 棟		25,380	29,201	29,884	102.3
8 階 病 棟		6,218	368	0	0.0
合 計		166,402	157,539	169,273	107.4

② がん化学療法件数

	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
		件	件	件	%
入 院		4,725	3,978	4,746	119.3
外 来		11,513	10,668	7,870	73.8
合 計		16,238	14,646	12,616	86.1

(8) 薬剤管理指導業務

① 服薬指導件数

病棟	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
		件	件	件	%
I C U ・ C C U		270	214	54	25.2
N I C U		0	0	8	+
G C U		41	59	85	144.1
3 階 病 棟		1,160	1,350	1,244	92.1
4 階 東 病 棟					-
4 階 西 病 棟		1,533	1,482	1,336	90.1
5 階 西 病 棟		2,577	2,375	1,726	72.7
6 階 東 病 棟		1,408	1,384	1,362	98.4
6 階 西 病 棟					-
7 階 東 病 棟		2,084	2,530	2,273	89.8
7 階 西 病 棟		1,869	1,779	2,046	115.0
合 計		10,942	11,173	10,134	90.7

② 退院指導件数

病棟	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
		件	件	件	%
3 階 病 棟		572	710	597	84.1
4 階 東 病 棟					-
4 階 西 病 棟		325	319	300	94.0
5 階 西 病 棟		366	352	201	57.1
6 階 東 病 棟		289	246	239	97.2
6 階 西 病 棟					-
7 階 東 病 棟		403	436	286	65.6
7 階 西 病 棟		446	492	530	107.7
合 計		2,401	2,555	2,153	84.3

③ 病棟業務実施加算 1

病棟	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
		件	件	件	%
G C U		216	174	20	11.5
3 階 病 棟		1,795	1,949	2,147	110.2
4 階 東 病 棟					-
4 階 西 病 棟		1,886	1,916	1,854	96.8
5 階 西 病 棟		2,904	2,862	3,048	106.5
6 階 東 病 棟		2,147	2,195	2,248	102.4
6 階 西 病 棟					-
7 階 東 病 棟		2,627	2,873	2,943	102.4
7 階 西 病 棟		2,557	2,737	2,919	106.6
合 計		14,132	14,706	15,179	103.2

④ 病棟業務実施加算 2

病棟	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
		件	件	件	%
I C U ・ C C U		1,240	1,304	1,382	106.0
N I C U					-

(9) 持参薬報告件数

	年度	令和4年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
		件	件	件	%
入院前持参薬		1,473	1,584	1,604	101.3
入院時持参薬		3,863	4,434	5,739	129.4
合 計		5,336	6,018	7,343	122.0

注) 平成28年10月より持参薬システム導入

## (10) 無菌製剤調製

## ① 病棟別T P N件数

病棟	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
		件	件	件	%
I C U ・ C C U		236	165	174	105.5
3 階 病 棟		58	105	39	37.1
4 階 東 病 棟		6	113	39	34.5
4 階 西 病 棟		98	144	0	0.0
5 階 西 病 棟		680	452	604	133.6
6 階 東 病 棟		44	82	13	15.9
6 階 西 病 棟		0	1	0	0.0
7 階 東 病 棟		164	73	17	23.3
7 階 西 病 棟		110	144	135	93.8
8 階 病 棟		16	1	0	0.0
合 計		1,412	1,280	1,021	79.8

## ② 診療科別入院がん化学療法件数

診療科	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
		件	件	件	%
内 科		656	364	469	128.8
外 科		576	775	867	111.9
乳 腺 外 科		12	9	33	366.7
脳 神 経 外 科		9	9	5	55.6
泌 尿 器 科		85	86	90	104.7
産 婦 人 科		142	128	177	138.3
皮 膚 科		0	2	2	100.0
合 計		1,480	1,373	1,643	119.7

## ③ 診療科別外来がん化学療法件数

診療科	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
		件	件	件	%
内 科		1,332	1,144	731	63.9
外 科		987	663	470	70.9
乳 腺 外 科		520	350	478	136.6
脳 神 経 外 科		54	64	31	48.4
泌 尿 器 科		156	169	99	58.6
産 婦 人 科		216	170	230	135.3
整 形 外 科		10	0	0	-
皮 膚 科		18	14	10	71.4
合 計		3,293	2,574	2,049	79.6

## 17 リハビリテーション技術科

### (1) 理学療法

#### ① 年度別入院・外来患者数

項目	年度			
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
	件	件	件	%
入院	38,513	39,840	39,863	100.1
外来	4,233	4,236	2,847	67.2
合計	42,746	44,076	42,710	96.9

#### ② 年度別療法単位数

項目	年度			
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
	件	件	件	%
脳血管1単位	3,483	4,264	3,967	93.0
脳血管2単位	7,996	8,835	10,242	115.9
脳血管3単位	1,277	1,117	1,451	129.9
廃用1単位	4,191	3,894	4,060	104.3
廃用2単位	1,306	1,327	1,430	107.8
廃用3単位	139	83	75	90.4
運動器1単位	2,701	2,574	2,645	102.8
運動器2単位	13,030	12,867	9,958	77.4
運動器3単位	3,153	2,576	2,514	97.6
呼吸器1単位	3,510	4,024	4,355	108.2
呼吸器2単位	933	856	962	112.4
呼吸器3単位	55	74	219	295.9
がん患者リハ1単位	834	584	660	113.0
がん患者リハ2単位	140	114	150	131.6
がん患者リハ3単位	2	0	22	+
合計	42,750	43,189	42,710	98.9

### (2) 作業療法

#### ① 年度別入院・外来患者数

項目	年度			
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
	件	件	件	%
入院	13,230	13,536	13,481	99.6
外来	1,982	1,620	1,694	104.6
合計	15,212	15,156	15,175	100.1

② 年度別療法単位数

項目	年度			
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
	件	件	件	%
脳血管1単位	1,720	1,569	1,693	107.9
脳血管2単位	5,980	6,311	6,882	109.0
脳血管3単位	700	749	549	73.3
廃用1単位	1,333	1,234	1,327	107.5
廃用2単位	262	290	404	139.3
廃用3単位	5	3	33	1,100.0
運動器1単位	534	584	409	70.0
運動器2単位	3,202	2,634	2,097	79.6
運動器3単位	89	134	32	23.9
呼吸器1単位	111	290	587	202.4
呼吸器2単位	17	49	99	202.0
呼吸器3単位	0	0	1	+
がん患者リハ1単位	1,145	1,271	985	77.5
がん患者リハ2単位	113	38	77	202.6
がん患者リハ3単位	1	0	0	-
合計	15,212	15,156	15,175	100.1

(3) 言語療法

① 年度別入院・外来患者数

項目	年度			
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
	件	件	件	%
入院	7,158	7,594	7,868	103.6
外来	162	60	91	151.7
合計	7,320	7,654	7,959	104.0

② 年度別療法単位数

項目	年度			
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
	件	件	件	%
脳血管1単位	2,458	3,141	3,105	98.9
脳血管2単位	2,882	2,910	3,316	114.0
脳血管3単位	53	33	34	103.0
廃用1単位	459	464	363	78.2
廃用2単位	48	47	100	212.8
廃用3単位	0	0	0	-
呼吸器1単位	1,242	931	895	96.1
呼吸器2単位	110	109	61	56.0
呼吸器3単位	0	2	0	0.0
がん患者リハ1単位	66	17	82	482.4
がん患者リハ2単位	2	0	3	+
合計	7,320	7,654	7,959	104.0

## 18 放射線科・放射線技術科

### (1) 部門別年度別総件数

項目	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
		件	件	件	%
一般撮影部門		28,187	27,466	27,301	99.4
マンモグラフィ部門		1,889	1,812	1,962	108.3
ポータブル撮影部門		8,307	6,309	6,420	101.8
CT部門		14,974	13,895	14,104	101.5
MRI部門		6,247	6,346	5,857	92.3
血管撮影部門		160	201	189	94.0
透視部門		2,018	1,829	1,906	104.2
RI部門		489	434	394	90.8
放射線治療部門		5,028	3,245	2,952	91.0
骨密度検査部門		825	854	1,047	122.6
画像入出力部門		9,018	10,216	9,780	95.7
合計件数		77,142	72,607	71,912	99.0

### (2) 一般撮影部門

項目	年度	令和4年度				令和5年度				令和6年度				前年度比
		入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	%
頭頸部		36	49	0	85	46	60	0	106	41	50	0	91	85.8
脊椎		570	1,895	0	2,465	456	1,734	0	2,190	585	1,975	0	2,560	116.9
胸部・胸郭		2,270	11,005	4,038	17,313	2,124	11,166	4,103	17,393	2,041	11,445	4,196	17,682	101.7
腹部・骨盤		989	2,159	0	3,148	783	2,091	0	2,874	692	1,845	0	2,537	88.3
上肢		191	1,638	0	1,829	212	1,477	0	1,689	99	1,360	0	1,459	86.4
下肢		687	1,585	0	2,272	542	1,562	0	2,104	423	1,445	0	1,868	88.8
歯牙		120	955	0	1,075	165	945	0	1,110	176	1,019	0	1,195	107.7
合計件数		4,863	19,286	4,038	28,187	4,328	19,035	4,103	27,466	4,057	19,139	4,196	27,392	99.7
合計人数		4,154	17,274	4,038	25,466	3,949	17,199	4,103	25,251	3,691	17,424	4,196	25,311	100.2

### (3) マンモグラフィ部門

項目	年度	令和4年度				令和5年度				令和6年度				前年度比
		入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	%
撮影		5	656	1,224	1,885	1	576	1,232	1,809	4	622	1,335	1,961	108.4
バイオプシー		0	4	0	4	0	3	0	3	0	1	0	1	33.3
合計件数(人数)		5	660	1,224	1,889	1	579	1,232	1,812	4	623	1,335	1,962	108.3

## (4) ポータブル撮影部門

項目	令和4年度			令和5年度			令和6年度			前年度比
	入院	外来	計	入院	外来	計	入院	外来	計	
	件	件	件	件	件	件	件	件	件	%
頭頸部	0	0	0	0	0	0	1	0	0	+
脊椎	213	1	214	231	80	311	267	0	267	85.9
胸部・胸郭	5,374	107	5,481	3,907	80	3,987	4,141	123	4,264	106.9
腹部・骨盤	1,994	19	2,013	1,594	15	1,609	1,455	34	1,489	92.5
上肢	93	10	103	107	9	116	70	14	84	72.4
下肢	220	0	220	179	1	180	184	2	186	103.3
O-arm	34	0	34	54	0	54	68	0	68	125.9
C-arm	230	12	242	52	0	52	61	0	61	117.3
合計件数	8,158	149	8,307	6,124	185	6,309	6,247	173	6,420	101.8
合計人数	6,617	147	6,764	5,192	93	5,285	5,371	146	5,517	104.4

※令和元年度よりC-armの項目を透視部門より移動

## (5) CT部門

項目	令和4年度				令和5年度				令和6年度				前年度比
	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	
	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	%
頭部	997	2,980	0	3,977	946	2,713	0	3,659	953	2,832	0	3,785	103.4
体幹部	1,721	8,520	53	10,294	1,378	8,082	51	9,511	1,098	8,475	43	9,616	101.1
四肢部	133	502	0	635	114	529	0	643	64	560	0	624	97.0
心臓	3	65	0	68	10	72	0	82	6	73	0	79	96.3
合計件数	2,854	12,067	53	14,974	2,448	11,396	51	13,895	2,121	11,940	43	14,104	101.5
造影数	551	4,007	0	4,558	500	3,544	0	4,044	362	3,373	0	3,735	92.4
造影率 (%)	23.0	38.2	0.0	35.2	23.1	35.5	0.0	33.2	18.4	31.2	0.0	29.2	87.9
合計人数	2,398	10,499	53	12,950	2,165	9,971	51	12,187	1,965	10,804	43	12,812	105.1

## (6) MRI部門

項目	令和4年度				令和5年度				令和6年度				前年度比
	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	
	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	件	%
頭部	425	2,644	201	3,270	482	2,762	217	3,461	432	2,628	230	3,290	95.1
頸部	149	508	0	657	151	494	0	645	126	410	0	536	83.1
胸部	0	100	0	100	0	95	0	95	1	83	0	84	88.4
腹部	52	388	0	440	92	371	0	463	57	293	0	350	75.6
骨盤	23	611	0	634	26	513	0	539	35	505	0	540	100.2
脊椎	164	648	0	812	157	655	0	812	141	660	0	801	98.6
四肢部	36	265	0	301	49	261	0	310	31	185	0	216	69.7
軟部・皮膚	0	33	0	33	0	21	0	21	0	40	0	40	190.5
合計件数	849	5,197	201	6,247	957	5,172	217	6,346	823	4,804	230	5,857	92.3
造影数	107	1,003	0	1,110	93	917	0	1,010	96	827	0	923	91.4
造影率 (%)	15.6	21.2	0.0	19.8	11.8	20.8	0.0	18.6	13.9	18.6	0.0	17.2	92.4
合計人数	685	4,724	201	5,610	790	4,409	217	5,416	693	4,436	230	5,359	98.9

(7) 血管撮影部門  
(a) アンギオ検査室

項目		令和4年度			令和5年度			令和6年度			前年度比
		造影	治療	計	造影	治療	計	造影	治療	計	
内科	頭頸部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
	腹部	3	37	40	6	48	54	0	40	40	74.1
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
	計	3	37	40	6	48	54	0	40	40	74.1
外科	頭頸部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
	腹部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
	四肢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
脳神経外科	頭頸部	27	25	52	24	39	63	20	33	53	84.1
	腹部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
	計	27	25	52	24	39	63	20	33	53	84.1
泌尿器科	頭頸部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
	腹部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
	その他	0	3	3	0	6	6	0	3	3	50.0
	計	0	3	3	0	6	6	0	3	3	50.0
小児科	頭頸部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
	腹部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
合計		30	65	95	30	93	123	20	76	96	78.0

(b) 心臓カテーテル検査室

項目	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
					件
CAG		23	33	50	151.5
PCI・IVR		17	20	18	90.0
四肢部		3	5	1	20.0
ペースメーカー		12	20	24	120.0
合計件数		55	78	93	119.2
合計人数		53	68	81	119.1

## (8) 透視 (X-TV) 部門

項目	令和4年度				令和5年度				令和6年度				前年度比 %
	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	入院	外来	健診	計	
食道	38	4	0	42	20	0	0	20	42	0	0	42	210.0
胃	33	37	803	873	20	48	776	844	31	59	775	865	102.5
腸	53	37	0	90	49	51	0	100	35	51	0	86	86.0
肝胆膵	187	12	0	199	184	6	0	190	250	14	0	264	138.9
腎膀胱	87	119	0	206	76	124	0	200	82	147	0	229	114.5
脈管	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	+
ミエロ・ブロック	93	21	0	114	91	27	0	118	63	36	0	99	83.9
気管支	70	0	0	70	45	0	0	45	34	0	0	34	75.6
瘻孔	24	24	0	48	18	8	0	26	41	2	0	43	165.4
整復	6	20	0	26	0	18	0	18	2	19	0	21	116.7
カテ挿入	328	22	0	350	251	17	0	268	201	21	0	222	82.8
合計件数	919	296	803	2,018	754	299	776	1,829	782	349	775	1,906	104.2
合計人数	919	296	803	2,018	754	299	776	1,829	782	349	775	1,909	104.4

## (9) R I 部門

項目	令和4年度			令和5年度			令和6年度			前年度比 %
	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	
脳・脳血流	19	76	95	24	70	94	24	54	78	83.0
腎	0	7	7	0	9	9	0	3	3	33.3
甲状腺・唾液腺	2	6	8	0	3	3	1	4	5	166.7
心筋	26	28	54	22	41	63	41	19	60	95.2
骨	13	263	276	4	191	195	3	178	181	92.8
腫瘍	1	1	2	5	0	5	0	0	0	0.0
センチネルリンパ節	5	41	36	8	49	57	15	46	61	107.0
その他	0	1	1	0	2	2	4	2	6	300.0
RI内用療法	0	0	16	0	6	6	0	0	0	0.0
合計件数(合計人数)	66	423	489	63	371	434	88	306	394	90.8

## (10) 放射線治療部門

部位	年度			
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
	件	件	件	%
中枢神経	4	2	0	0.0
頭頸部	4	1	1	100.0
食道	12	11	7	63.6
肺・縦隔	41	27	18	66.7
乳腺	60	54	63	116.7
肝・胆・膵	3	3	1	33.3
消化器	8	6	4	66.7
造血リンパ	2	1	0	0.0
婦人生殖	1	7	3	42.9
泌尿生殖	55	24	31	129.2
皮膚・軟部	1	6	2	33.3
その他	0	3	5	166.7
合計件数	191	145	135	93.1
延べ照射件数	5,028	3,245	2,952	91.0

※ ただし、転移病巣を治療しても原発病巣をカウント

## (11) 骨密度検査部門

	年度			
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
	件	件	件	%
腰椎	21	28	33	117.9
大腿骨	12	13	13	100.0
腰椎+大腿骨	792	813	1001	123.1
合計件数（人数）	825	854	1,047	122.6

## (12) 画像入出力部門

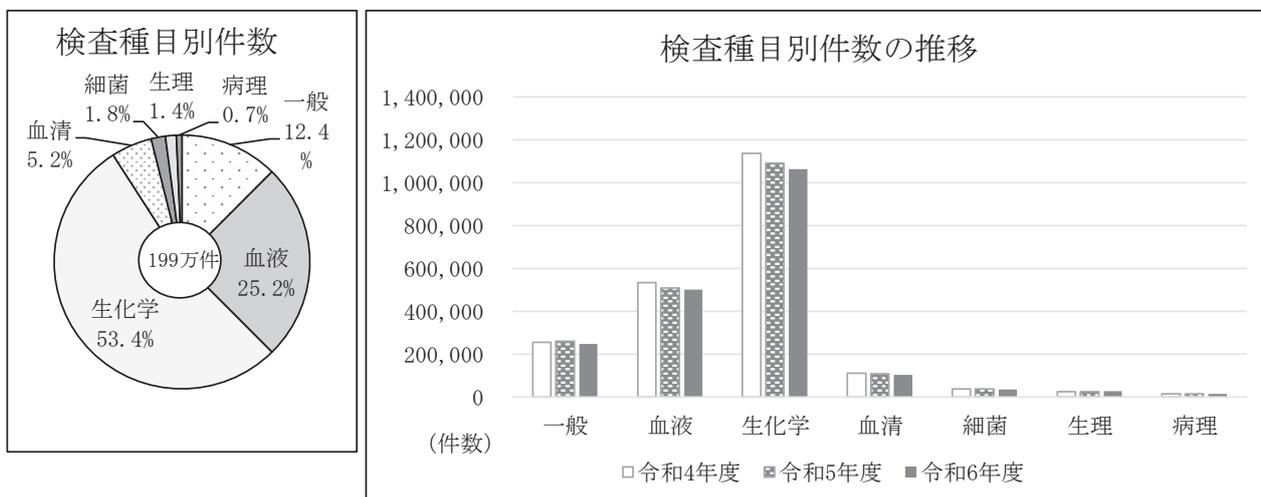
項目	年度				
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比	
	件	件	件	%	
画像取り込み	CD取り込み	5,649	5,930	6,134	103.4
	フィルム取り込み	38	64	17	26.6
	合計件数	5,687	5,994	6,151	102.6
画像出力	CD出力件数	3,331	4,222	3,629	86.0
合計件数		9,018	10,216	9,780	95.7

## 19 中央検査科・病理診断科

### (1) 検査種目別件数の推移

種目	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
		件	件	件	
一般		256,116	259,326	247,476	95.4
血液		533,732	507,474	500,821	98.7
生化学		1,136,309	1,091,331	1,062,751	97.4
血清		111,403	107,513	102,974	95.8
細菌		38,318	36,818	35,813	97.3
生理		25,107	24,651	27,342	110.9
病理		15,095	14,802	14,103	95.3
外来採血者数		42,184	40,189	37,665	93.7
合計		2,158,264	2,082,104	2,028,945	97.4

### (2) 検査種目別件数の構成比



## (3) 年度別検査項目別件数

種 別	検査項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
					件
尿検査	尿中一般物質検査（定性・半定量）	201,868	204,922	195,299	95.3
	尿中一般物質検査（定量）	6,630	5,999	5,183	86.4
	沈渣・潜血反応検査	34,004	34,388	33,424	97.2
	その他	3,086	2,840	2,666	93.9
	計	245,588	248,149	236,572	95.3
糞便検査	潜血反応	5,804	5,972	6,204	103.9
	虫卵検査	2	2	1	50.0
	その他	0	2	2	100.0
	計	5,806	5,976	6,207	103.9
血液一般検査	血液細胞学的検査	487,873	470,398	462,279	98.3
	凝固機能検査	42,228	33,222	34,800	104.7
	血液型検査	3,630	3,854	3,742	97.1
	その他	1	0	0	-
	計	533,732	507,474	500,821	98.7
髄液・穿刺液・胃・十二指腸液検査	脳脊髄一般検査	1,217	1,106	893	80.7
	穿刺液・精液一般検査	3,505	4,095	3,804	92.9
	計	4,722	5,201	4,697	90.3
生化学検査	蛋白代謝検査	404,579	389,860	384,003	98.5
	酵素・アインザイム検査	360,903	344,823	336,107	97.5
	無機成分検査	206,477	198,280	192,468	97.1
	脂肪代謝検査	83,245	81,103	77,716	95.8
	糖代謝検査	58,581	56,812	54,036	95.1
	内分泌学的検査	19,371	17,282	15,068	87.2
	血中薬物濃度測定検査	437	323	302	93.5
	血液ガス分析検査	2,396	2,615	2,796	106.9
	その他	320	233	255	109.4
	計	1,136,309	1,091,331	1,062,751	97.4
血清検査	感染症血清学的検査	53,256	53,035	52,702	99.4
	ウイルス抗原抗体検査	3,499	2,260	1,017	45.0
	交差適合試験他検査	5,379	5,395	5,480	101.6
	免疫グロブリンと補体検査	4,108	4,097	2,889	70.5
	腫瘍マーカー検査	28,479	27,334	25,749	94.2
	肝炎ウイルス検査	16,682	15,392	15,137	98.3
	計	111,403	107,513	102,974	95.8
細菌検査	一般細菌検査	26,576	29,006	27,793	95.8
	結核菌検査	1,576	1,945	2,008	103.2
	真菌検査	2,281	2,079	2,085	100.3
	その他	7,885	3,788	3,927	103.7
	計	38,318	36,818	35,813	97.3
生理検査	心電図・心音図検査	12,983	12,909	13,247	102.6
	脳波・筋電図脳幹反応検査	570	539	491	91.1
	超音波診断検査	7,349	6,951	6,735	96.9
	肺機能検査	2,918	3,074	5,524	179.7
	耳鼻科関連検査	851	813	1,036	127.4
	その他	436	365	309	84.7
	計	25,107	24,651	27,342	110.9
病理検査	病理組織検査	2,685	2,662	2,410	90.5
	細胞診検査	4,688	4,673	4,448	95.2
	特殊染色	7,722	7,467	7,245	97.0
	計	15,095	14,802	14,103	95.3
外来採血実施数		42,184	40,189	37,665	93.7
合 計		2,158,264	2,082,104	2,028,945	97.4

## (4) 剖検件数

項目	年度			
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
死亡件数	484件	440件	479件	108.9%
剖検件数	1	4	1	25.0
剖検率(%)	0.2	0.9	0.2	23.0

内科	
死亡件数	340件
剖検件数	1
剖検率(%)	0.3

## (5) 細胞診件数

項目	年度			
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
婦人科	2,919件	2,884件	2,670件	92.6%
喀痰	188	169	163	96.4
胸水	90	78	81	103.8
腹水	108	105	107	101.9
尿	1,142	1,260	1,249	99.1
膵液・胆汁	40	11	17	154.5
髄液	14	13	17	130.8
乳房穿刺吸引	7	4	7	175.0
リンパ節	18	7	11	157.1
甲状腺穿刺吸引	19	13	1	7.7
気管支擦過	81	59	46	78.0
その他	62	70	79	112.9
合計	4,688	4,673	4,448	95.2

## (6) 細菌同定検査情報

重複株を除外(月毎)にて抽出

菌名	口腔、気道呼吸器由来菌		消化器由来菌		泌尿器、生殖器由来菌		血液穿刺液由来菌		その他の部位からの由来菌	
	株数	比率	株数	比率	株数	比率	株数	比率	株数	比率
<i>Staphylococcus aureus MRSA</i>	36	5.7	0	0.0	9	1.0	4	2.1	22	9.9
<i>Staphylococcus aureus MSSA</i>	58	9.1	4	3.8	15	1.6	14	7.4	47	21.2
<i>Coagulase-negative Staphylococcus (CNS)</i>	77	12.1	9	8.6	18	1.9	31	16.4	19	8.6
<i>Streptococcus pyogenes (Group A)</i>	4	0.6	0	0.0	1	0.1	4	2.1	5	2.3
<i>Streptococcus agalactiae (Group B)</i>	33	5.2	0	0.0	54	5.8	1	0.5	7	3.2
Group A Streptococcus	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	1.8
Group C Streptococcus	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.9
Group F Streptococcus	1	0.2	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Group G Streptococcus</i>	3	0.5	0	0.0	8	0.9	0	0.0	9	4.1
<i>Streptococcus dysgalactiae</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	2.6	1	0.5
<i>Streptococcus anginosus</i>	0	0.0	1	1.0	6	0.6	3	1.6	6	2.7
<i>Streptococcus bovis</i>	0	0.0	1	1.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Streptococcus constellatus</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	1	0.5
<i>Streptococcus gallolyticus</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Streptococcus mitis group</i>	0	0.0	1	1.0	1	0.1	2	1.1	3	1.4
<i>Viridans Streptococcus</i>	1	0.2	2	1.9	7	0.8	1	0.5	4	1.8
<i>Streptococcus pneumoniae PSSP</i>	44	6.9	0	0.0	0	0.0	2	1.1	0	0.0
<i>Enterococcus faecalis</i>	5	0.8	6	5.7	82	8.9	4	2.1	6	2.7
<i>Enterococcus faecium</i>	0	0.0	2	1.9	13	1.4	1	0.5	0	0.0
<i>Enterococcus casseliflavus</i>	0	0.0	2	1.9	1	0.1	1	0.5	0	0.0
<i>Enterococcus raffinosus</i>	0	0.0	0	0.0	2	0.2	1	0.5	1	0.5
<i>Enterococcus avium</i>	0	0.0	2	1.9	2	0.2	1	0.5	0	0.0
<i>Enterococcus durans/hirae</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0
<i>Aerococcus urinae</i>	0	0.0	0	0.0	28	3.0	0	0.0	0	0.0
<i>Aerococcus viridans</i>	0	0.0	0	0.0	6	0.6	0	0.0	0	0.0
<i>Bacillus species</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	7	3.7	0	0.0
<i>Corynebacterium species</i>	11	1.7	4	3.8	19	2.1	3	1.6	10	4.5
<i>Nocardia species</i>	1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Gemella morbillorum</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Gemella species</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0
<i>Escherichia coli (ESBLを除く)</i>	20	3.2	20	19.0	242	26.1	34	18.0	5	2.3
<i>Escherichia coli ESBL</i>	5	0.8	2	1.9	49	5.3	7	3.7	3	1.4
<i>Escherichia coli (EHEC)</i>	0	0.0	3	2.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Escherichia fergusonii</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0
<i>Klebsiella pneumoniae (ESBLを除く)</i>	55	8.7	10	9.5	56	6.0	13	6.9	5	2.3
<i>Klebsiella pneumoniae ESBL</i>	2	0.3	0	0.0	3	0.3	0	0.0	0	0.0
<i>Klebsiella oxytoca</i>	12	1.9	1	1.0	13	1.4	3	1.6	3	1.4
<i>Klebsiella ozaenae</i>	2	0.3	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Citrobacter freundii</i>	1	0.2	0	0.0	5	0.5	0	0.0	0	0.0
<i>Citrobacter koseri</i>	2	0.3	1	1.0	11	1.2	1	0.5	0	0.0
<i>Citrobacter braakii</i>	1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Citrobacter farmeri</i>	0	0.0	1	1.0	0	0.0	1	0.5	1	0.5
<i>Citrobacter species</i>	1	0.2	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Proteus mirabilis (ESBLを除く)</i>	2	0.3	0	0.0	28	3.0	2	1.1	1	0.5

菌名	口腔、気道呼吸器由来菌		消化器由来菌		泌尿器、生殖器由来菌		血液穿刺液由来菌		その他の部位からの由来菌	
	株数	比率	株数	比率	株数	比率	株数	比率	株数	比率
<i>Proteus mirabilis ESBL</i>	1	0.2	1	1.0	3	0.3	0	0.0	0	0.0
<i>Proteus vulgaris</i>	1	0.2	1	1.0	13	1.4	1	0.5	1	0.5
<i>Providencia rettgeri</i>	0	0.0	0	0.0	6	0.6	0	0.0	1	0.5
<i>Providencia stuartii</i>	0	0.0	0	0.0	5	0.5	0	0.0	0	0.0
<i>Enterobacter aerogenes</i>	11	1.7	3	2.9	16	1.7	3	1.6	2	0.9
<i>Enterobacter cloacae</i>	12	1.9	1	1.0	19	2.1	4	2.1	3	1.4
<i>Enterobacter sakazakii</i>	1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Pasteurella multocida</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.9
<i>Kluyvera ascorbata</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Morganella morgani</i>	0	0.0	0	0.0	20	2.2	1	0.5	3	1.4
<i>Serratia marcescens</i>	7	1.1	0	0.0	12	1.3	0	0.0	1	0.5
<i>Serratia species</i>	1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Campylobacter species</i>	0	0.0	12	11.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Haemophilus influenzae</i> (BLNARを除く)	51	8.0	0	0.0	2	0.2	0	0.0	0	0.0
<i>Haemophilus influenzae</i> (BLNAR)	13	2.1	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Haemophilus parainfluenzae</i>	3	0.5	1	1.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0
<i>Moraxella catarrhalis</i>	46	7.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Aeromonas caviae</i>	1	0.2	2	1.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Neisseria species</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Aeromonas hydrophila group</i>	0	0.0	1	1.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Aeromonas species</i>	0	0.0	1	1.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	44	6.9	2	1.9	50	5.4	9	4.8	12	5.4
<i>Pseudomonas fluorescens/putida</i>	3	0.5	0	0.0	3	0.3	1	0.5	0	0.0
<i>Pseudomonas species</i>	2	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Acinetobacter baumannii/haemolyticus</i>	6	0.9	0	0.0	3	0.3	1	0.5	1	0.5
<i>Alcaligenes faecalis</i>	0	0.0	0	0.0	4	0.4	0	0.0	0	0.0
<i>Alcaligenes xylosoxidans</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Burkholderia cepacia</i>	2	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Empedobacter brevis</i>	1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Stenotrophomonas maltophilia</i>	2	0.3	0	0.0	3	0.3	0	0.0	0	0.0
<i>Salmonella species</i>	0	0.0	2	1.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Myroides species</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	1	0.5
<i>Pantoea agglomerans</i>	0	0.0	1	1.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5
<i>Wautersiella falsenii</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Yersinia enterocolitica group</i>	0	0.0	1	1.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Bacteroides fragilis group</i>	0	0.0	0	0.0	3	0.3	4	2.1	6	2.7
<i>Bacteroides thetaiotaomicron</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	1	0.5	2	0.9
<i>Bacteroides ovatus</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	1	0.5
<i>Bacteroides species</i>	0	0.0	2	1.9	2	0.2	2	1.1	3	1.4
<i>Bacteroides vulgatus</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Parabacteroides species</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Bifidobacterium species</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0
<i>Clostridium clostridioforme</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Clostridium tertium</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0
<i>Fusobacterium nucleatum</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5
<i>Fusobacterium species</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	1	0.5

菌名	口腔、気道呼吸器由来菌		消化器由来菌		泌尿器、生殖器由来菌		血液穿刺液由来菌		その他の部位からの由来菌	
	株数	比率	株数	比率	株数	比率	株数	比率	株数	比率
	件	%	件	%	件	%	件	%	件	%
<i>Fusobacterium varium</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Lactobacillus acidophilus</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Peptostreptococcus anaerobius</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	1	0.5	0	0.0
<i>Prevotella buccae</i>	0	0.0	1	1.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Prevotella species</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	2	0.9
<i>Propionibacterium acnes</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.1	0	0.0
<i>Parvimonas micra</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	2	0.9
<i>Anaerococcus prevotii</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	1	0.5
<i>Fingoldia magna</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Peptoniphilus species</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5
<i>Porphyromona species</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5
<i>Aspergillus fumigatus</i>	3	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Aspergillus niger</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.9
<i>Aspergillus species</i>	6	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
<i>Candida albicans</i>	31	4.9	1	1.0	38	4.1	1	0.5	0	0.0
<i>Candida glabrata</i>	5	0.8	0	0.0	17	1.8	1	0.5	1	0.5
<i>Candida parapsilosis</i>	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	1.1	1	0.5
<i>Candida tropicalis</i>	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
<i>Candida species</i>	4	0.6	0	0.0	5	0.5	0	0.0	3	1.4
計	634	100.0	105	100.0	926	100.0	189	100.0	222	100.0

前年度（令和5年度）株数	608		73		925		188		170	
前年度比(%)	104.3		143.8		100.1		100.5		130.6	

## (7) 外部委託検査件数

項目	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
		件	件	件	%
血液学的検査		168	163	118	72.4
生化学的検査		9,030	8,967	8,372	93.4
免疫学的検査		9,367	8,582	7,034	82.0
微生物学的検査		1,235	1,196	994	83.1
病理学的検査		225	194	238	122.7
尿・糞便等検査		152	170	142	83.5
遺伝子・染色体検査		1,267	327	325	99.4
その他		869	855	949	111.0
合計		22,313	20,454	18,172	88.8

## (8) 血液製剤使用状況

製剤種類		単位	令和5年度	令和6年度	前年度比
赤血球製剤	照射赤血球液		Bag数	Bag数	%
		1単位	3	1	
		2単位	980	1,011	
		合計	983	1,012	103.0
		合計(単位数)	1,963	2,023	103.1
血小板製剤	照射濃厚血小板	10単位	30	50	
		20単位	0	0	
		合計	30	50	166.7
		合計(単位数)	300	500	166.7
血漿製剤	新鮮凍結血漿	1単位	0	0	
		2単位	73	112	
		4単位	0	0	
		合計	73	112	153.4
		合計(単位数)	146	224	153.4

## (9) 血液製剤購入・廃棄状況

## ①納品状況

製剤種類		単位	令和5年度		令和6年度		前年度比 (金額)
			Bag数	円	Bag数	円	%
赤血球製剤	照射赤血球液	1単位	3	27,201	1	9,067	102.8
		2単位	985	17,860,020	1,014	18,385,848	
		合計	988	17,887,221	1,015	18,394,915	
血小板製剤	照射濃厚血小板	10単位	30	2,452,320	50	4,087,200	166.7
		20単位	0	0	0	0	
		合計	30	2,452,320	50	4,087,200	
血漿製剤	新鮮凍結血漿	1単位	0	0	0	0	143.4
		2単位	83	1,520,726	119	2,180,318	
		4単位	0	0	0	0	
		合計	83	1,520,726	119	2,180,318	

## ②廃棄状況

製剤種類		単位	令和5年度		令和6年度		前年度比 (金額)
			Bag数	円	Bag数	円	%
赤血球製剤	照射赤血球液	1単位	0	0	0	0	66.7
		2単位	3	54,396	2	36,264	
		合計	3	54,396	2	36,264	
血小板製剤	照射濃厚血小板	10単位	0	0	0	0	-
		20単位	0	0	0	0	
		合計	0	0	0	0	
血漿製剤	新鮮凍結血漿	1単位	0	0	0	0	63.6
		2単位	11	201,542	7	128,254	
		4単位	0	0	0	0	
		合計	11	201,542	7	128,254	

## (10) 自己血採血状況

	採血件数		患者実数・構成比	
	200mL	400mL	患者実数	構成比
	件	件	人	%
外科	0	0	0	0.0
整形外科	0	2	1	3.8
泌尿器科	0	22	22	84.6
産婦人科	1	1	1	3.8
血管外科	0	0	0	0.0
脳外科	0	2	2	1.6
合計	1	27	26	100.0
前年度合計	2	21	21	-
前年度比(%)	50.0	128.6	123.8	-

## (11) お手軽けんさ

## ① 受験者数

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
	人	人	人	
男性	64	64	38	59.4
女性	65	50	68	136.0
計	129	114	106	93.0

② 項目別件数

項目	年度			
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
	人	人	人	%
標準セット	24	24	7	29.2
糖脂質セット	7	6	9	150.0
貧血セット	1	2	2	100.0
肝機能セット	1	1	1	100.0
肝炎セット	0	0	1	+
血液型検査	1	1	1	100.0
前立腺検査	1	3	1	33.3
甲状腺検査	8	9	9	100.0
腫瘍マーカー	115	102	121	118.6
アレルギー1種類	0	1	1	100.0
アレルギー3種類	0	2	0	0.0
アレルギー5種類	1	0	0	-
便潜血検査	1	1	1	100.0
骨密度検査	2	1	3	300.0
頸部血管エコー検査	18	15	20	133.3
A B I 検査	7	7	15	214.3
ピロリ検査	1	5	4	80.0
ウイルス抗体1種	1	0	0	-
ウイルス抗体2種	3	0	0	-
ウイルス抗体3種	0	0	1	+
ウイルス抗体4種	7	2	1	50.0
B型肝炎ワクチン	5	0	2	+
合計	204	182	200	109.9

## 20 栄養管理科

### (1) 患者延食数

#### ① 総食数

内容	年度	令和4年度		令和5年度		令和6年度		前年度比 %
		延食数	一日平均	延食数	一日平均	延食数	一日平均	
一般食		125,935	345.0	124,859	341.1	129,094	353.7	104.1
一般食(嚥下調整食)		35,965	98.5	36,671	100.2	39,103	107.1	
特別食		103,273	282.9	107,107	292.6	103,255	282.9	96.4
経腸栄養剤 (濃厚流動食)		10,625	29.1	11,401	31.2	11,655	31.9	102.2
合計		275,798	755.6	280,038	765.1	283,107	775.6	101.1

※人間ドック食は稼働日1日あたりの平均。令和3年度より人間ドック食の提供を終了。

#### ② 特別食食数

内容	年度	令和4年度		令和5年度		令和6年度		前年度比 %
		延食数	一日平均	延食数	一日平均	延食数	一日平均	
肝臓病食		6,619	18.1	5,643	15.4	5,494	15.1	97.4
胆嚢・胆管炎食		3,574	9.8	3,967	10.8	4,463	12.2	112.5
膵臓病食		542	1.5	314	0.9	782	2.1	249.0
腎臓病食		6,624	18.1	6,527	17.8	6,177	16.9	94.6
糖尿病食 (カロリーコントロール食)		36,184	99.1	38,031	103.9	31,554	86.4	83.0
減塩食(心臓病含む)		25,126	68.8	26,376	72.1	26,572	72.8	100.7
胃・十二指腸潰瘍食		1,301	3.6	2,134	5.8	4,737	13.0	222.0
胃腸炎食		761	2.1	1,071	2.9	723	2.0	67.5
炎症性腸疾患 (低残渣食含む)		4,085	11.2	2,942	8.0	4,044	11.1	137.5
痛風食		22	0.1	4	0.0	222	0.6	5,550.0
貧血食		1,511	4.1	1,291	3.5	1,336	3.7	103.5
術後食		8,455	23.2	9,311	25.4	8,734	23.9	93.8
特別食		8,469	23.2	9,496	25.9	8,417	23.1	88.6
合計		103,273	282.9	107,107	292.6	103,255	282.9	96.4

#### ③ 経腸栄養剤食数

内容	年度	令和4年度		令和5年度		令和6年度		前年度比 %
		延食数	一日平均	延食数	一日平均	延食数	一日平均	
濃厚流動食		10,625	29.1	11,401	31.2	11,655	31.9	102.2

## (2) 個人指導件数

※( )は算定なし：合計を含む

品目	令和4年度			令和5年度			令和6年度		
	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計
糖尿病食	89 (17)	83	172 (17)	112 (8)	67	179 (8)	89 (8)	95	184 (8)
妊娠糖尿病		20 (1)	20 (1)		26	26 (0)	1	11	12 (0)
Eコントロール食(肥満)	4	10 (2)	14 (2)	8	6	14 (0)	1 (1)	12	13 (1)
糖尿病性腎症食	1	3	4 (0)	1 (1)	1	2 (1)	4 (1)	2	6 (1)
脂質異常症食	20	14	34 (0)	29 (2)	6	35 (2)	24	8	32 (0)
肝臓病食	6	3	9 (0)	4	3	7 (0)	4	6	10 (0)
膵臓病食	3 (1)		3 (1)	3		3 (0)	4		4 (0)
胆嚢炎・胆石症食	8 (1)	2	10 (1)	13	1	14 (0)	12		12 (0)
術後食	108 (6)	70	178 (6)	95 (2)	65	160 (2)	85 (1)	52	137 (1)
術前栄養相談	9	62	71 (0)	4	55	59 (0)	4	56	60 (0)
胃十二指腸潰瘍食	16 (2)	1	17 (2)	6		6 (0)	1		1 (0)
心不全食	4		4 (0)	1		1 (0)			0 (0)
心筋梗塞食	3	1	4 (0)	1		1 (0)	2	1	3 (0)
塩分制限食	33 (4)	8	41 (4)	61 (3)	5	66 (3)	47	10	57 (0)
腎臓病食・透析食	25 (2)	294	319 (2)	32 (2)	182	214 (2)	27 (1)	169	196 (1)
高尿酸血症食	(1)	1	1 (1)	1	1	2 (0)			0 (0)
炎症性腸疾患食	7	2	9 (0)	1	4	5 (0)	2 (1)	5	7 (1)
アレルギー食		12	12 (0)		6 (1)	6 (1)		1	1 (0)
消化器疾患食	4 (6)	2 (2)	6 (8)	6 (1)		6 (1)	10	3	13 (0)
ワーファリン食			0 (0)	(1)		(1)			0 (0)
栄養相談	(1)	1	1 (1)		4 (3)	4 (3)	4	2	6 (0)
貧血食	2	1	3 (0)		2	2 (0)		1	1 (0)
フェニールケトン尿症			0 (0)			0 (0)			0 (0)
低栄養	2	5	7 (0)	5		5 (0)	4	4	8 (0)
摂食嚥下障害	5 (7)		5 (7)	6 (3)	1	7 (3)	9 (3)	2	11 (3)
E S D後	9 (1)		9 (1)	24	1	25 (0)	24		24 (0)
低体重		4	4 (0)	1	3	4 (0)		4	4 (0)
便秘			0 (0)			0 (0)			0 (0)
食欲不振		1	1 (0)		(1)	0 (1)			0 (0)
がん	8	2	10 (0)	5	7	12 (0)	4	5	9 (0)
慢性閉塞性呼吸器疾患	4	1	5 (0)	5		5 (0)	2		2 (0)
腸内環境整備		31	31	1		1 (0)			0 (0)
透析予防		15	15 (0)		15	15 (0)		12	12 (0)
その他			0 (0)	1		1 (0)			0 (0)
合計	419 (49)	654 (5)	1,073 (54)	449 (23)	466 (5)	915 (28)	380 (16)	461 (0)	841 (16)

(3) 選択食延食数

年度 項目	令和4年度		令和5年度		令和6年度		
	年間総数	月平均	年間総数	月平均	年間総数	月平均	前年度比
延食数	食 13,178	食 1,098	食 13,594	食 1,133	食 13,467	食 1,122	% 99.1

※ 対象：常食・産科食・貧血食

(4) お祝い膳延食数

年度 項目	令和4年度		令和5年度		令和6年度		
	年間総数	月平均	年間総数	月平均	年間総数	月平均	前年度比
延食数	食 220	食 18.3	食 185	食 15.4	食 150	食 12.5	% 81.1

※ 対象：産科食

## 21 臨床工学科

### (1) 医療機器管理

項目	単位	令和4年度	令和5年度	令和6年度
点検件数	件	4,997	8,308	6,882
修理件数	件	95	124	122
機器研修会	回	17	11	11

### (2) 臨床技術提供

#### ① 呼吸療法部門

項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	件	件	件
呼吸器回診	994	777	907
RST回診患者数	8	10	21
RST回診件数	14	11	32

#### ② 循環器部門

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	件	件	件
心臓カテーテル検査	22	33	49
心臓カテーテル治療	17	20	18
経皮的心肺補助装置	0	0	0
大動脈内バルーンパンピング	0	0	0
血管内超音波診断	16	16	18
下肢動脈カテーテル治療	0	0	0
ペースメーカー植込み・交換	11	17	16
体外式ペースメーカー	5	8	10
ペースメーカー外来（定期）	170	151	162
ペースメーカー病棟点検（不定期）	34	35	37
植え込み型心臓モニタ	-	-	1

③ 血液浄化部門

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	件	件	件
血液透析(HD)	-	-	2,001
血液濾過(HF)	-	-	0
血液透析濾過(HDF)	-	-	211
出張血液透析(HD)	68	17	-
出張血液濾過(HF)	0	0	-
出張血液透析濾過(HDF)	0	0	-
持続的腎代替療法(CRRT)	21	15	14
血液吸着(HA)	12	20	22
血漿吸着(PA)	3	7	0
血漿交換(PE)	0	5	3
腹水濾過濃縮(CART)	35	52	40
白血球除去療法(GCAP)	0	0	0

④ 高気圧酸素部門

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	件	件	件
減圧症又は空気塞栓に対するもの	0	0	0
その他のもの	404	304	535
合計	404	304	535

⑤ 手術室部門

項 目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	件	件	件
回収式自己血輸血システム	0	0	0
手術用ナビゲーションシステム	9	13	11
手術用内視鏡システム	289	282	289
手術室不具合対応	55	47	35
術中神経モニタリングシステム	4	10	17
手術支援ロボット	-	-	19

⑥ NICU部門

項 目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	件	件	件
新生児呼吸器回診	492	520	409

## 22 訪問看護室

### (1) 訪問人数

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
	人	人	人	%
	-	40	37	92.5

### (2) 訪問件数

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
	件	件	件	%
	-	355	793	223.4

### (3) 診療科別人数

疾患名	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
内 科	人	-	21	21	100.0
脳 神 経 内 科	人	-	2	1	50.0
小 児 科	人	-	1	1	100.0
外 科	人	-	4	4	100.0
乳 腺 外 科	人	-	1	2	200.0
皮 膚 科	人	-	0	1	+
泌 尿 器 科	人	-	6	3	50.0
産 婦 人 科	人	-	5	3	60.0
耳 鼻 咽 喉 科	人	-	0	1	+
合 計	人	-	40	37	92.5

### (4) 疾患別人数

疾患名	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
癌 ・ 腫 瘍	人	-	32	27	84.4
呼 吸 器 疾 患	人	-	1	3	300.0
消 化 器 疾 患	人	-	1	1	100.0
腎 ・ 泌 尿 器 疾 患	人	-	3	2	66.7
小 児 慢 性 疾 患	人	-	1	1	100.0
皮 膚 科 疾 患	人	-	0	1	+
糖 尿 病	人	-	0	1	+
難 病	人	-	2	1	50.0
合 計	人	-	40	37	92.5

## (5) 年齢別対象者

内容	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
		人	人	人	%
～ 19 歳		-	1	1	100.0
20 ～ 29 歳		-	0	0	-
30 ～ 39 歳		-	0	0	-
40 ～ 49 歳		-	0	1	+
50 ～ 59 歳		-	1	2	200.0
60 ～ 69 歳		-	5	4	80.0
70 ～ 79 歳		-	17	11	64.7
80 ～ 89 歳		-	14	17	121.4
90 歳 ～		-	2	1	50.0
合 計		-	40	37	92.5

## (6) 訪問看護実施内容 (重複あり)

内容	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
		回	回	回	%
酸 素 療 法		-	6	8	133.3
人 工 呼 吸 器		-	1	0	0.0
人 工 肛 門		-	2	2	100.0
人 工 膀 胱		-	2	1	50.0
CV ポ ー ト		-	1	1	100.0
留置カテーテル		-	1	2	200.0
点滴・注射・採血		-	4	7	175.0
胃 婁・経管栄養		-	1	1	100.0
疼 痛・苦痛管理		-	13	13	100.0
褥 瘡 管 理		-	1	0	0.0
合 計		-	32	35	109.4

## (7) 終了者転帰

内容	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
		人	人	人	%
入 院		-	12	7	58.3
軽 快		-	6	5	83.3
死 亡		-	2	2	100.0
そ の 他		-	12	10	83.3
合 計		-	32	24	75.0

## 23 通院治療センター

(ケモ・ICI)

科別	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
		人	人	人	%
内 科		778	822	526	64.0
外 科		583	451	311	69.0
乳 腺 外 科		334	228	277	121.5
婦 人 科		130	112	129	115.2
皮 膚 科		11	14	10	71.4
泌 尿 器 科		157	171	100	58.5
脳 外 科		54	65	31	47.7
合 計		2,047	1,863	1,384	74.3

(レミケード・インフリキシマブ)

科別	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
		人	人	人	%
内 科		304	255	234	91.8
皮 膚 科		7	6	6	100.0
整 形 外 科		10	18	13	72.2
合 計		321	279	253	90.7

## 24 ヘルニアセンター

内容	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
		件	件	件	%
単径部切開法		-	45	48	106.7
腹腔鏡下ヘルニア修復術		-	65	57	87.7
腹腔鏡併用ヘルニア修復術		-	1	2	200.0
大腿ヘルニア		-	4	1	25.0
臍ヘルニア		-	1	3	300.0
腹壁癒痕ヘルニア		-	2	3	150.0
傍十二指腸ヘルニア		-	1	0	0.0
閉鎖孔ヘルニア		-	0	1	+
合 計		-	238	230	96.6

## 25 再診電話受付受診件数

### (1) 診療科別

内容	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
		人	人	人	%
内科		15	0	0	-
神経内科		0	0	0	-
循環器内科		0	0	0	-
精神科		0	0	0	-
小児科		13	10	19	190.0
外科		1	2	0	0.0
呼吸器外科		0	0	0	-
心臓血管外科		0	0	0	-
整形外科		4	1	0	0.0
脳神経外科		2	2	1	50.0
皮膚科		11	11	12	109.1
泌尿器科		11	14	11	78.6
産婦人科		15	12	18	150.0
眼科		4	6	3	50.0
耳鼻いんこう科		4	2	3	150.0
歯科・口腔外科		0	0	0	-
放射線科		0	0	0	-
麻酔科		0	0	0	-
受診件数		80	60	67	111.7
電話件数		86	62	68	109.7

※ 受診件数と電話件数の相違は、複数科の受診及びキャンセルのため

## (2) 市町村別

内容	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
					%
桐生市		人 34	人 22	人 32	145.5
新里町		9	4	2	50.0
黒保根町		0	3	0	0.0
みどり市		0	0	0	-
東町		0	0	0	-
大間々町		13	9	8	88.9
笠懸町		11	4	10	250.0
太田市		3	5	12	240.0
旧薮塚本町		6	3	0	0.0
前橋市		0	0	0	-
伊勢崎市		1	8	0	0.0
館林市		0	0	0	-
県内(その他)		1	1	1	100.0
足利市		2	1	2	200.0
県外		0	0	0	-
合計		80	60	67	111.7

## 26 診断書文書作成件数

内容	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
					%
内科		人 1,577	人 1,662	人 1,653	99.5
精神科		16	12	14	116.7
神経内科		585	626	598	95.5
循環器内科		144	172	170	98.8
小児科		353	322	296	91.9
外科		572	503	524	104.2
血管外科		6	18	3	16.7
整形外科		1,503	1,562	1,565	100.2
脳神経外科		753	791	802	101.4
呼吸器外科		18	12	16	133.3
乳腺外科		195	140	187	133.6
皮膚科		181	183	172	94.0
泌尿器科		534	508	500	98.4
産婦人科		352	348	318	91.4
眼科		143	123	113	91.9
耳鼻いんこう科		60	51	54	105.9
麻酔科		1	10	3	30.0
リハビリテーション科		42	12	12	100.0
放射線科		36	34	50	147.1
救急科		15	19	2	10.5
歯科・口腔外科		55	65	64	98.5
計		7,141	7,173	7,116	99.2

※ 診断書類内訳：生命保険・生活保護者の意見書・訪問看護指示書・傷病手当金請求書等

## 27 専門外来件数

内容	年度			
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
	人	人	人	%
助産師外来	225	200	181	90.5
フットケア外来	145	168	153	91.1
リンパ浮腫外来	24	31	36	116.1
ストーマ外来	280	372	444	119.4

※ 助産師外来：H29年度から産後検診を含む。

## 28 医療の質（臨床指標：クリニカル・インジケータ）

### （1）病院全体のクリニカル・インジケータ

#### ① 病床利用率、平均在院日数

項目	単位	令和4年度	令和5年度	令和6年度
入院延患者数 (A)	人	105,866	106,490	108,259
一日平均患者数 (B)	人	290	291	296
病床数 (C)	床	417	417	417
病床利用率 (B/C)	%	69.8	69.8	70.9
入院 (D)	人	6,720	6,834	7,384
退院 (E)	人	6,711	6,875	7,359
平均在院日数 (A/((D+E)/2))	日	15.8	15.5	14.7

#### ② 救急車搬入患者数

項目	単位	令和4年度	令和5年度	令和6年度
入院	人	1,538	1,653	2,011
外来	人	1,192	1,442	1,543
計	人	2,730	3,095	3,554

#### ③ 退院後4週間以内の緊急入院率

項目	単位	令和4年度	令和5年度	令和6年度
年間入院患者数	人	6,720	6,834	7,384
緊急再入院患者数	人	307	312	160
緊急入院率	%	4.6	4.6	2.2

※ 緊急入院とは、再発・悪化して再入院した患者をカウントしています。

#### ④ 24時間以内の再手術率

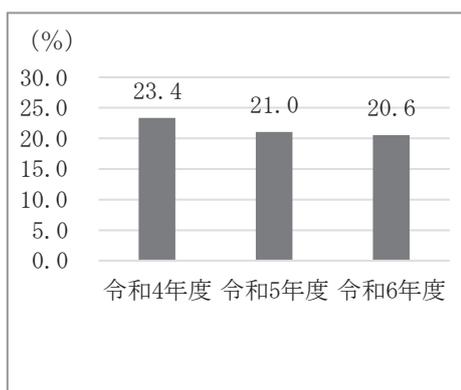
項目	単位	令和4年度	令和5年度	令和6年度
年間手術件数	件	892	1,032	1,008
再手術件数	件	1	4	1
再手術率	%	0.1	0.4	0.1

※ 手術件数は全身麻酔患者を基準にしています。

⑤ 年間退院患者に占めるがん患者の割合

項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	人	人	人
がん病名のある患者数	1,479	1,378	1,448
退院患者数	6,332	6,547	7,035
占有率	%	%	%
	23.4	21.0	20.6

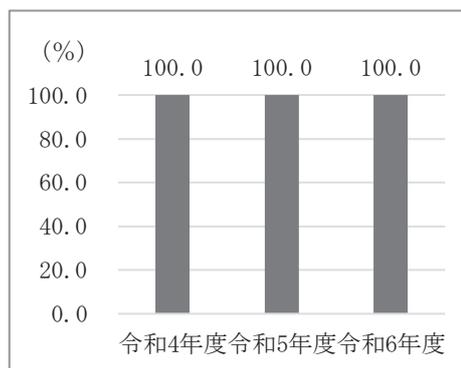
※ 退院患者数は転科を除いています。



⑥ 2週間以内の退院サマリー作成率

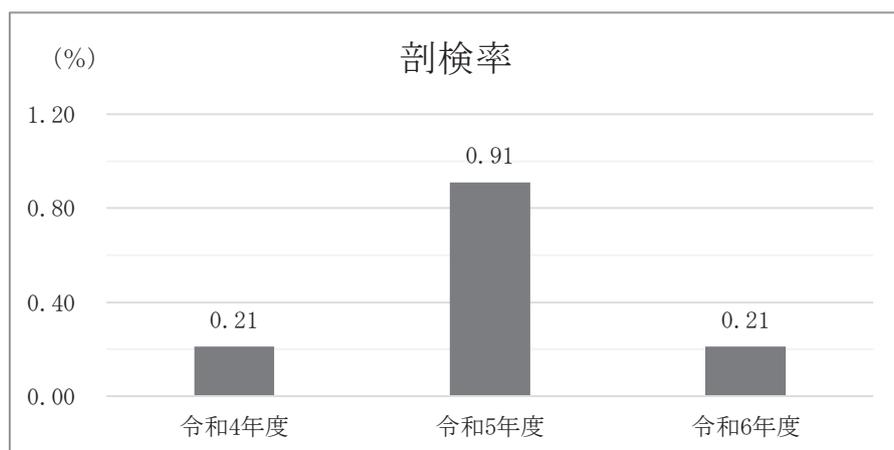
項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	件	件	件
退院後2週間以内のサマリー完成件数	6,332	6,547	7,035
年間退院患者数	6,332	6,547	7,035
作成率	%	%	%
	100.0	100.0	100.0

※ 退院患者数は転科を除いています。



⑦ 剖検率

項目	年度			前年度比
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
剖検率 (%)	0.21	0.91	0.21	23.1
剖検数 (人)	1	4	1	25.0
死亡患者数 (人)	484	440	479	108.9



病院の医学教育・研究の評価を示す指標です。剖検率は全国的に減少傾向にあり、画像診断などの検査の進歩により、正確な病状把握が可能になったことが理由と考えられています。

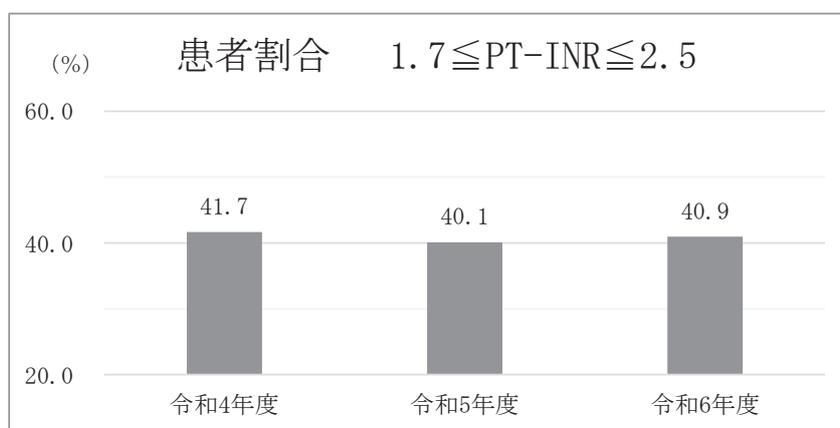
⑧ ワーファリン服用患者における出血傾向モニタリング（I N R）

ワーファリンによる血栓予防薬は、効果がなければ血栓が形成され、効きすぎれば出血傾向となります。

安全かつ有効なワーファリン血中指標として、PT-I N Rが1.7以上2.5以下を維持している割合、また、効きすぎた状態のPT-I N Rが5以上の割合を抑えることが指標となります。

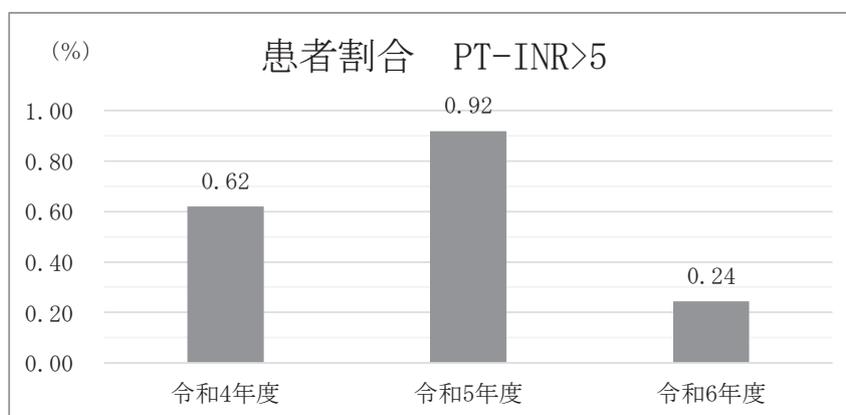
(ア) 外来でのワーファリン服用患者を対象としたPT-I N R値評価

1.7 ≤ PT-I N R ≤ 2.5			
	令和4年度	令和5年度	令和6年度
のべ患者数 (検査回数)	327	248	242
ワーファリンのべ 服用患者(処方回数)	785	618	591
患者割合 (%)	41.7	40.1	40.9



(イ) 入院・外来でのワーファリン服用患者を対象としたPT-I N R値評価

PT-I N R > 5			
	令和4年度	令和5年度	令和6年度
のべ患者数 (検査回数)	6	7	2
ワーファリンのべ 服用患者(処方回数)	969	762	819
患者割合 (%)	0.62	0.92	0.24



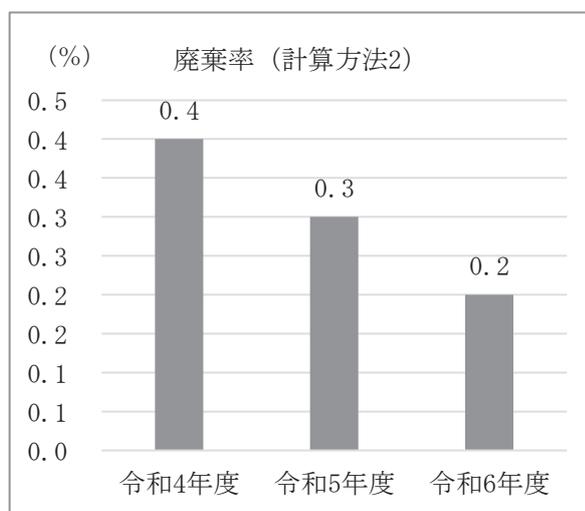
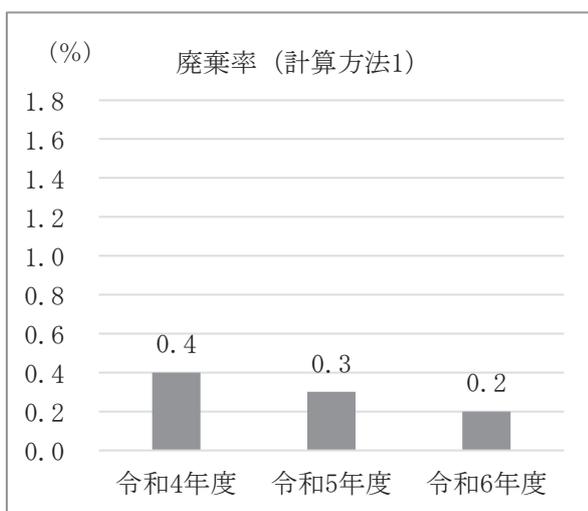
⑨ 輸血製剤廃棄率

計算方法 1：廃棄赤血球製剤単位数 / (輸血赤血球製剤単位数 + 廃棄赤血球製剤単位数)

年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比(%)
輸血製剤廃棄率(%)	0.4	0.3	0.2	66.7
廃棄赤血球製剤単位数	8	6	4	66.7
輸血赤血球製剤単位数 + 廃棄赤血球製剤単位数	1,988	1,969	2,027	102.9

計算方法 2：廃棄量(廃棄血液 + 日本赤十字社への返品血液) / 購入量(購入血液)

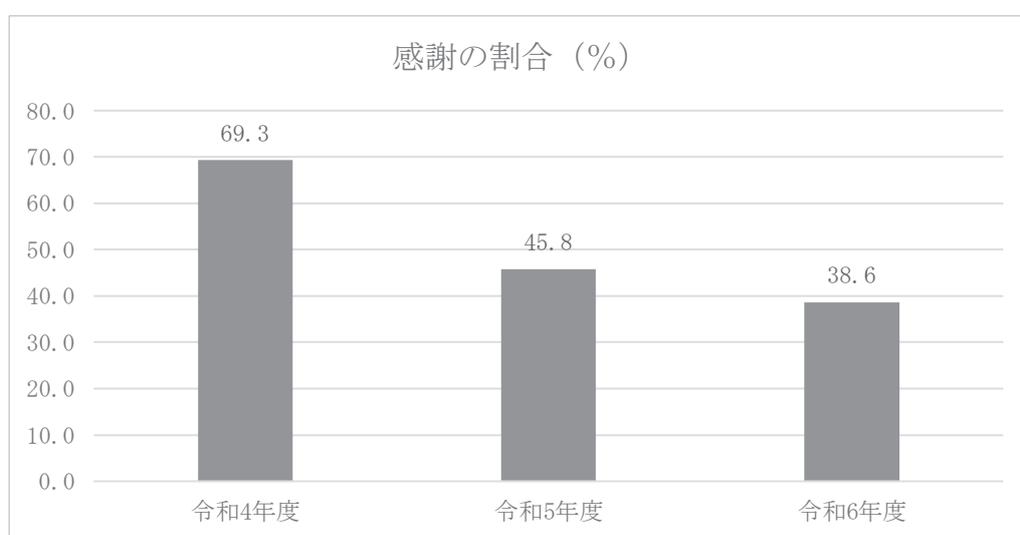
年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比(%)
輸血製剤廃棄率(%)	0.4	0.3	0.2	66.7
廃棄量(廃棄+日赤返品)赤血球製剤単位数	8	6	4	66.7
購入量(単位)	1,982	1,973	2,029	102.8



輸血用血液製剤の廃棄率は、提供された血液が無駄なく適切に使用されているかどうかを示すよい指標となります。

⑩意見箱投書(感謝の占める割合)

	感謝の割合	感謝件数	苦情件数	その他	投書件数合計
	%	件	件	件	件
令和4年度	69.3	140	55	7	202
令和5年度	45.8	65	70	7	142
令和6年度	38.6	68	63	45	176



⑪褥瘡発生率

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
発生率 { (ア) / (イ) }	1.18%	1.29%	1.54%	119.38%
患者数 (ア)	87	83	108	130.12%
入院患者数 (イ)	6,276	6,435	7,017	109.04%

※患者数は、入院中に発生した褥瘡患者数。

※入院患者数は、転科を含む患者数。

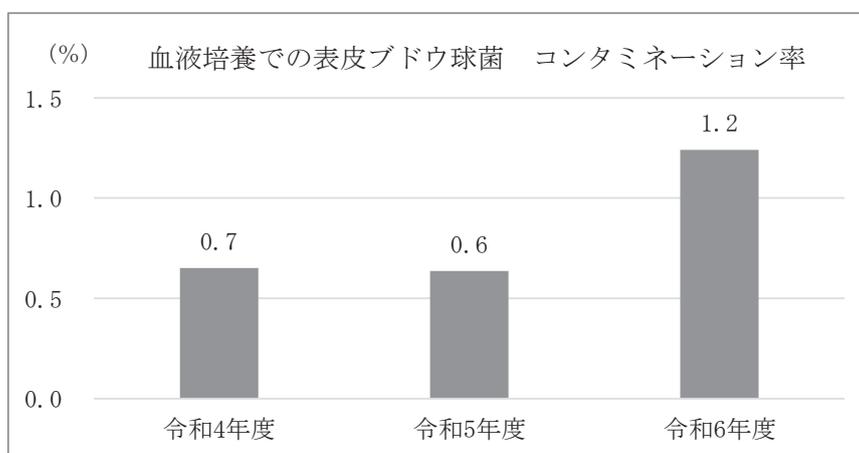
## (2) 感染のクリニカルインディケーター

### ① 血液培養での表皮ブドウ球菌コンタミネーション率

年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比(%)
血液培養での表皮ブドウ球菌 コンタミネーション率(%)	0.7	0.6	1.2	195.4
表皮ブドウ球菌による コンタミネーションの採血回数	14	15	26	173.3
血液培養ボトルが出された 患者の延べ採血回数	2,146	2,360	2,094	88.7

#### 血液培養のコンタミネーション率

▶ 表皮ブドウ球菌によるコンタミネーションの採血回数／血液培養ボトルが出された患者の延べ採血回数



血液培養は、いろいろな感染症の原因となる菌を検出したり、菌血症（血液中に細菌がいる状態）の診断のために重要な検査です。血液培養検査の際に問題となるのは、皮膚の常在菌が混入し、検出されることで、起因菌（感染の原因となっている菌）との判別が必要になることです。

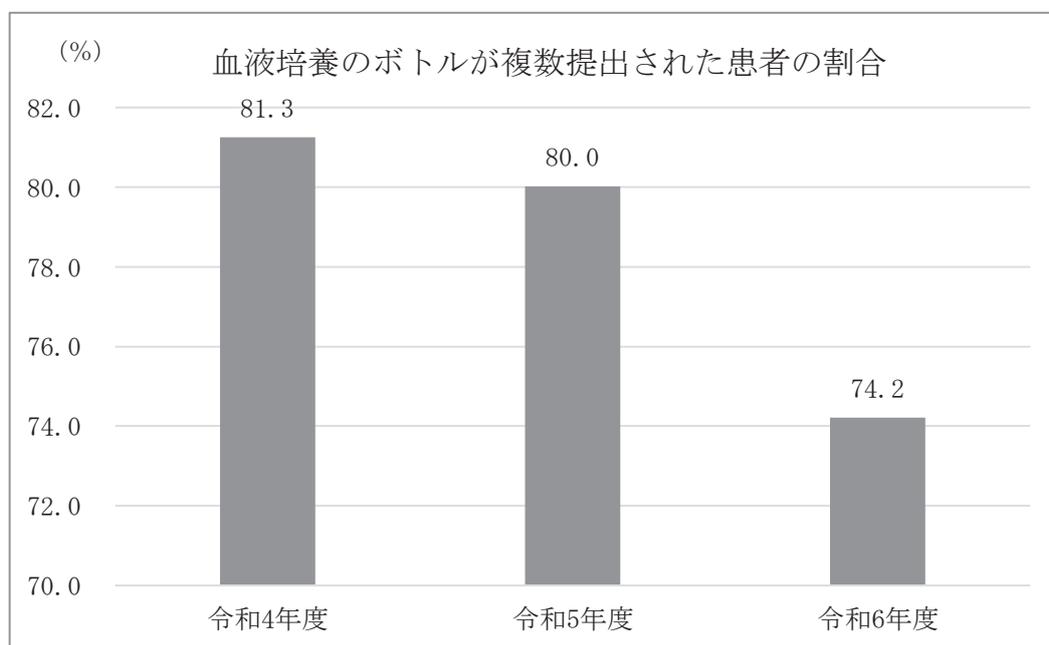
血液培養での表皮ブドウ球菌コンタミネーション率が低いほど起因菌との判別が容易となります。

② 血液培養のボトルが複数提出された患者の割合

年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比(%)
血液培養のボトルが複数提出された患者の割合(%)	81.3	80.0	74.2	92.7
複数の培養ボトルが出された延患者数(人)	962	1049	892	85.0
血液培養検査が行われた延患者数(人)	1,184	1,311	1,202	91.7

血液培養ボトルの複数提出率

- ▶ 複数の培養ボトルが出された延患者数／血液培養検査が行われた延患者数

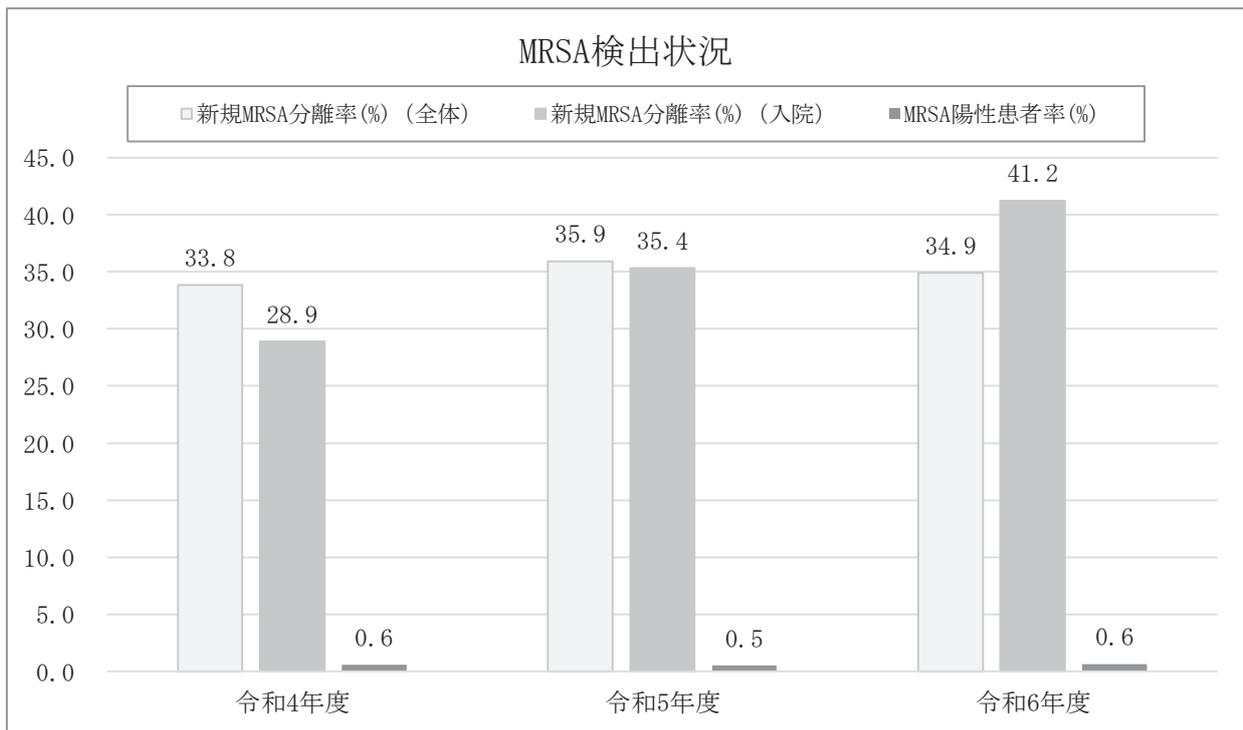


重症感染症の患者さんは、菌血症（血液中に細菌がいる状態）を伴うことが少なくありません。菌血症の原因菌を特定するためには、血液培養検査が必要であり、その精度（菌血症の原因菌検出率）を高めるためには、複数採取したボトルの提出が望まれます。

血液培養ボトルの複数提出は重症感染症の早期発見につながる指標となります。

③ MRSA検出状況

年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比(%)
新規MRSA分離率(%) (全体)	33.8	35.9	34.9	97.2
新規MRSA分離率(%) (入院)	28.9	35.4	41.2	116.6
MRSA陽性患者率(%)	0.6	0.5	0.6	124.3
新規MRSA患者数(人) (全体)	69	60	73	121.7
ブドウ球菌検出患者総数(人) (全体)	204	167	209	125.1
新規MRSA患者数(人) (入院)	37	35	47	134.3
ブドウ球菌検出患者総数(人) (入院)	128	99	114	115.2
MRSA入院患者数(人)	38	35	47	134.3
入院実患者数(人)	6,720	6,834	7,384	108.0



MSSA：メチシリン感受性黄色ブドウ球菌  
 MRSA：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

- ▶ MRSA陽性入院患者／入院患者数
- ▶ MRSA (新規：入院) / (MRSA入院+MSSA入院)
- ▶ MRSA (新規：全体) / (MRSA全体+MSSA全体)

MRSAは、院内感染の原因菌として有名であり、検出状況を把握し、予防対策を講じることが重要です。

(3) 医療安全のクリニカルインディケーター

※ 転倒・転落発生率 = (転倒・転落件数/入院延べ患者数) × 1000

	単位	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
					%
入院延べ患者数	人	105,866	106,490	108,259	101.7
転倒・転落発生件数	件	327	271	319	117.7
転倒・転落発生率	‰	3.08	2.55	2.55	100.0
骨折件数	件	6	7	7	100.0
骨折率	‰	0.06	0.07	0.06	98.4
頭蓋内出血件数	件	0.00	1.00	1.00	-
頭蓋内出血率	‰	0.00	0.01	0.01	-
手術が必要になった件数	件	2	1	2	200.0
手術率	‰	0.200	0.090	0.090	100.0

## VIII チーム医療

### 1 医療安全対策室

#### (1) 目的

桐生厚生総合病院における医療事故・紛争の予防対策等の推進を図る。

#### (2) あゆみ

2000年4月に設置されました。また、2006年からは下部組織として医療安全対策室を設置し、専従の医療安全管理者を配置しました。現在は、医療安全対策室の他、医薬品安全委員会・医療機器安全委員会の3つの下部組織がそれぞれの専門分野での問題点を検討し、安全管理の強化に努めています。

#### (3) 活動実績（令和5年度）

##### ① 医療安全対策委員会の開催（月1回）

下部組織の委員会で検討された内容の検証及び承認

##### ② 事例検討会の開催（週1回）

インシデント・アクシデント事例の検討

##### ③ 地域連携病院との相互チェック

群馬中央病院・原町赤十字病院：医療安全対策加算1取得病院同士の相互訪問チェック

西毛病院：医療安全対策加算2取得病院への訪問チェック

##### ④ 転倒転落3b以上の有害事象への取り組み

##### ⑤ 転倒転落発生率を下げる取り組み

##### ⑥ 職員研修会開催（年2回）

1回目：RRS 概論 e-ラーニング

2回目：医療安全の3つの柱 e-ラーニング

##### ⑦ 広報活動

院内広報への医療安全ニュース掲載

院内報告会での報告

#### (4) 今後の課題

多職種で構成されるチーム医療において、組織・体制・医薬品・医療機器・環境等、システム全体の安全性を高め、より質の向上に努めていきます。なお、令和7年度より、本委員会の医療安全管理委員会への改称、身体拘束最小化推進委員会との協働が予定されています。

## 2 感染対策室

### 感染制御チーム（ICT）・抗菌薬適正使用支援チーム（AST）

#### （1）目的

桐生厚生総合病院における外来および入院患者、職員の感染防止を図る。

#### （2）あゆみ

意思決定機関として院長を委員長とする病院感染対策委員会は月 1 回、その下部組織で感染対策の立案と実行を担当する ICT（インфекションコントロールチーム）は月 2 回の会議を行っています。また、各部署のリンクナースは、現場での感染対策の実行に努めています。感染対策室では専従の感染管理認定看護師が感染対策の実務にあたっています。

#### （3）活動実績

令和 6 年度は以下の活動を行いました。

##### ①病院感染の実態把握

###### （ア）感染情報レポート

耐性菌感染症の発生状況、無菌部位からの病原菌検出状況・抗菌薬使用状況

###### （イ）サーベイランス

全病棟での CV カテーテル関連血流感染・消化器外科手術での手術部位感染・5 階西病棟での尿道留置カテーテル関連尿路感染

###### （ウ）厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業

手術部位感染部門・ICU 部門・NICU 部門・検査部門の 4 部門

###### （エ）J-SIPHE 感染対策連携共通プラットフォーム事業

###### （オ）感染微候届出書などによる病院感染対策上、注意すべき患者の把握

##### ②感染対策の立案と実行

###### （ア）感染制御チーム（ICT）による感染対策に関する相談と指導（原則として平日毎日）

###### （イ）抗菌薬適正使用支援チーム（AST）による抗菌薬適正使用に関する抗菌薬選択の相談と提言（原則として平日毎日）

###### （ウ）注意すべき感染症発生時の対策協議・指導

###### （エ）感染対策マニュアルの適宜改訂

##### ③職員研修

###### （ア）全職員に対する感染対策研修を年 2 回実施（第 1 回：「糖尿病患者を診る際に役立つ感染対策のポイント」。第 2 回：「職業感染防止対策」・「抗菌薬の適正使用」）

###### （イ）新規採用職員に対する講習会を実施

###### （ウ）静脈注射院内認定看護師育成レベル別研修

###### （エ）看護部クリニカルラダー別専門コース研修

###### （オ）委託職員に対する感染対策研修を実施

##### ④職員感染防止

###### （ア）針刺し事故集計ソフト（Epinet）による実態把握・分析

###### （イ）新規採用者に対する流行性 4 疾患（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）のワクチン接種歴と抗体保持の調査およびワクチン接種の推進

(ウ) B型肝炎ワクチン接種歴と抗体保持状況の把握とワクチン接種の推進

⑤感染対策向上加算の対応

(ア) 週1回の2職種以上が参加したICT環境ラウンドの実施

(イ) 地域連携のための合同カンファレンスを年4回開催(感染対策向上加算1算定両機関との共催を含む)

(ウ) 地域医療機関への訪問指導

(エ) 感染防止対策加算1算定医療機関との相互チェックを群馬県立がんセンターと実施

(オ) 介護保険施設等を対象とした感染対策に関する研修と実地指導を実施

(4) 今後の目標と課題

感染対策の徹底のため、平時の定期的な研修と有事を想定した訓練を実施するとともに、感染症発生状況の把握・調査・分析に努め、必要時速やかに対応できるようにします。さらに、地域医療機関との連携を強化し、感染対策の向上を推進するとともに感染管理に係る人材育成に寄与します。

抗菌薬適正使用を推進し、副作用や耐性菌の出現を最小限、かつ最大限の治療効果が発揮できるような抗菌薬選択の相談と低減に努めます。

### 3 褥瘡対策チーム

(1) 目的

“委員会規程 第1条 院内褥瘡対策を討議・検討し、その効率的な推進を図るため、褥瘡対策委員会を設置する”すなわち、多職種の協働により適切な褥瘡対策を行える総合的な病院環境を整えます。

当院の基本理念「信頼され、心が通う地域医療」を実践する医療チームとして、患者QOL向上に寄与すべく、創傷治癒理論、看護技術などの基本的事項と最新の知見を学び、全スタッフに対し教育活動を行います。そして地域の中で褥瘡ケアの中心的役割を担います。

(2) あゆみ

2002年8月、褥瘡対策未実施減算の施行を機に、褥瘡対策委員会を組織しました。専門担当医師、皮膚・排泄ケア認定看護師(WOCN)、全病棟や部署の看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、作業療法士、事務方など多職種で構成されています。月1回の褥瘡対策委員会で、褥瘡発生の現況、症例検討、勉強会など、電子カルテシステムで、褥瘡危険因子評価、基本的看護計画、褥瘡発生報告、褥瘡経過表などを管理しています。

① 褥瘡チーム回診 2004年2月に開始、第1火曜14時、コアスタッフ数名と看護師2名が交代で参加。

② 褥瘡対策室 2006年5月より、大谷内千恵WOCNを専従の褥瘡管理者として設置。「褥瘡ハイリスク患者ケア加算」の施設認定を受け、ハイリスク患者に個別の看護計画を立案。

(3) 活動実績

【定例会】

毎月第3水曜16時。褥瘡対策に関わる諸事項を討議、褥瘡チーム回診の報告、メンバー

によるミニレクチャーなど。

#### 【褥瘡対策マニュアル】

日本褥瘡学会の褥瘡予防・管理ガイドライン、DESIGN-R®、MDRPU（医療関連機器圧迫創傷）ベストプラクティスなどを踏まえ、電子カルテ上でマニュアルを共有。

#### 【褥瘡発生の現況】

院内発生 107 件（発生率 1.52%、月平均 8.9 件）、持ち込み褥瘡 99 件。

#### 【体圧分散寝具】

高機能マットレスを中央管理化し、必要に応じて更新、新規購入している。

#### 【2024 年度学術活動】

- ・ 第 26 回日本褥瘡学会学術集会（2024. 9）  
岡田克之：シンポジウム 在宅における持続可能な褥瘡予防プログラムの実装  
～床ずれ予防プログラム委員会の動き～
- ・ 日本在宅医療連合学会第 6 回地域フォーラム四国（2024. 10）  
岡田克之：皆が褥瘡で苦しまないために～二三の大切なアセスメント～
- ・ 第 21 回日本褥瘡学会関東甲信越地区地方会学術大会（2024. 11）  
井上智子、大谷内千恵ほか：褥瘡対策におけるポジショニングの理解と実践～ポジ  
ショニングの標準化による実践の変化を知る～

#### （4）今後の課題

- ① 褥瘡発生動向の把握・解析に努め、有用な褥瘡予防策を図る。
- ② 栄養サポート、緩和ケア、感染制御、医療安全などのチーム医療と関わる。
- ③ 転院先への情報提供や指導を行い、地域医療連携室、訪問看護ステーション桐の芽と協働する。
- ④ 中央管理化した高機能体圧分散マットレスを有効に利用できる体制を継続。
- ⑤ 各種外用薬、ドレッシング材、創傷関連医療機器を適正に使用し、最新の創傷治癒理論を実践できる環境整備。
- ⑥ 電子カルテの更新に合わせ、褥瘡関連システムを改善。
- ⑦ 褥瘡関連の学会や講演会へ積極的に参加し、活動実績や研究成果を発表、院内にフィードバックする。
- ⑧ 地域向け褥瘡勉強会を再開する。
- ⑨ PUT メンバー、コアスタッフを育成。
- ⑩ 日本褥瘡学会・褥瘡認定師を取得できるよう指導。

## 4 栄養サポートチーム（NST）

### （1）目的

栄養サポートを必要とする患者に対し、栄養専門チームによる適切な栄養アセスメントと栄養指導を行い、栄養状態ならびに治療成績の改善、およびチーム医療の推進と医療の質の向上を図ることを目的とします。（NST 委員会設置規定）

### （2）あゆみ

2005年4月にNST委員会を設置、月1回の定例会を開催。入院患者の栄養サポートとして、全病棟型のNST回診を実施しています。

#### 【栄養サポートシステム】

入院時に『SGAシート』で栄養評価を行い、栄養サポートが必要ならNST介入依頼となります。NST回診の結果は職種ごとに『アセスメント・回診記録』に記載する電子カルテ・システムを運用。

#### 【栄養管理計画】

医師の指示の下、管理栄養士、看護師、薬剤師等のスタッフが協働して『栄養管理計画書』を作成し、患者・家族に概要を説明。

#### 【摂食嚥下チーム】

NST内でチーム編成し、摂食嚥下フローチャートを作成、スクリーニングから食形態の決定、嚥下リハビリ、耳鼻いんこう科受診に繋がるシステムを構築。摂食嚥下チームによる回診や嚥下評価も開始しました。

#### 【構成メンバー】

病院長、医師・歯科医師7名、看護師20名、管理栄養士4名、リハビリ5名、薬剤師1名、臨床検査技師3名、歯科衛生士2名、放射線技師1名、地域連携室1名、事務方1名、計46名。

#### 【施設認定】

JSPEN（日本臨床栄養代謝学会）NST稼働施設、JSPEN認定NST専門療法士教育施設。

### （3）活動実績

#### ① NST回診（週1回）

2024年度介入患者は63例、病棟の機能分担に合わせて転棟後の介入も重要でした。回診後に主治医へ報告書を作成。摂食嚥下チームの介入患者78名。

#### ② NST全体会（第4水曜）

ディレクターによるNST運営会議に続いて、NST委員会の本会議として開催。諸事項の討議、チームの現状報告や学会発表に準じた症例検討会、TNT受講医師による講義など。

#### ③ ランチタイムミーティング

知識とスキルの習得をめざして月1回の症例報告や講義・実習など。コロナ禍の中止を経て、再開を検討中。

#### ④ 学会活動

- ・岡田克之：栄養をみる、創傷をみる、：多職種で取り組みたい足病対策～足人かるたで市民啓発！～日本栄養治療学会関越支部第10回支部学術集会（2024.6月）
- ・岡田克之：口から食べることで知っておきたい知識：KTSM食事サポーター講座 in 桐生

(2024.5・6・7月)

#### (4) 今後の課題

- ① 入院時栄養アセスメントの重要性を啓発し、適切な栄養療法を速やかに開始できる体制を強化。
- ② 高齢者の栄養管理。介入患者が高齢化してきている。
- ③ 栄養サポートチーム加算を算定しているが、さらに介入を増やす。
- ④ 摂食嚥下チームの介入を増やしていく。多職種協働で回診、誤嚥性肺炎の予防、食形態の向上に繋げる。
- ⑤ 他のチーム医療（褥瘡対策、感染制御、医療安全、緩和ケアなど）と協働。
- ⑥ 基幹病院として栄養療法に関わる地域連携をさらに強化する。
- ⑦ がん拠点病院としての栄養サポート活動への取り組み。
- ⑧ 栄養関連学会に積極的に参加・発表し、知識・スキルを習得して向上心を維持。
- ⑨ NST 専門療法士の育成と、院外に向けた実地修練教育カリキュラムを検討。
- ⑩ 院外（医療従事者および一般市民）へ向けた NST 講演会を再開。

## 5 呼吸器サポートチーム（RST）

### (1) 目的

- ① 呼吸に関する知識を深め、診療・看護・リハビリテーションなどの質を向上させる
- ② 人工呼吸器に関する機能・知識・構造などを理解し、より安全な人工呼吸管理を行う
- ③ 呼吸に問題のある患者や呼吸不全患者に対するチーム医療の確立・推進
- ④ 呼吸・人工呼吸に関する各種マニュアルの整備、人工呼吸器の中央管理化と充実

### (2) あゆみ

呼吸器サポートチームは平成17年に設立され、設立当初は医師4名、看護師7名をコアメンバーとして活動を開始しました。徐々に構成メンバーを増員し、2018年にはRSTの施設認定を取得。現在は医師、看護師、理学療法士、臨床工学技士、薬剤師、歯科衛生士、栄養管理士など多職種で構成される大所帯の委員会となっています。

令和4年度にはRSTメンバーの院内周知と、委員同士の意識・結束向上のため、委員の臨床工学技士発案のデザインによりロゴが作成されました。

令和6年度には名札や白衣に付けるバッジを作成し、RST委員であることをアピールしています。

### (3) 活動実績

令和3年度までは、安全チーム、患者教育チーム、呼吸教育チーム、感染チームの4つのワーキンググループで活動を続けてきました。

令和4年度からは方式を変更し、事前アンケートによるメンバーの活動課題の認識により、新たな4チーム（①初診・救急受診の呼吸器患者への対応 ②呼吸器管理を要する患者管理 ③呼吸器管理機器の取扱い ④呼吸器入院患者のケア・リハビリ指導）の新体制で活動しました。

令和5年度は、①能動的な院内ラウンドの実施 ②レクチャーの企画・開催 ③各種マニュアルの整備の3項目を柱に活動を進めています。以前はコアメンバーの指示、主導型であると反省

点もありましたが、徐々にメンバーが自主的・主体的に目標を立てて活動を行えるようになってきました。①は新たな試みであり、RST 委員が能動的に各部署に出向き、チェックシートにより呼吸に関する機器・物品の整備や知識の確認を、スタッフから直接行って、呼吸管理の周知、向上を図っています（部署ラウンド）。

また、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響で制限されていた②については、全職員向けの講義を E-learning を使用して再開し、令和 5 年度は「呼吸困難とその対応」を、令和 6 年度には「人工呼吸器使用中チェックリスト」を配信し、多くの職員に有益な情報を届けることができました。さらに人工呼吸器の始業点検訓練を、呼吸器本体を使用した実技として、各病棟持ち回りで実習しています。

③についても担当チームの委員が、呼吸器疾患や呼吸管理の各項目についてマニュアルの作成に取り組み、議論や修正を加え、「酸素療法マニュアル」「ベンチュリーマスクの基礎知識」「ネーザルハイフロー (HFMC) マニュアル」を完成。院内端末にて全職員が閲覧できる形になりました。さらなる充実を目指して進めています。

院外活動としては、岩澤が引続き桐生大学での講義のなかで RST 活動について紹介し、小野は令和 6 年 11 月開催の第 34 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会で、RST 活動に関する演題を口演発表しました。

#### (4) 今後の目標

- \*呼吸管理、呼吸ケア、リハビリテーションに対する意識向上とリスクマネジメントの実践
- \*呼吸管理のチーム活動による、診療の質向上への寄与
- \*呼吸器ケアチーム加算を踏まえたラウンドの推進

各委員の取組みが、院内のあらゆる部署や場面で生かされるよう、積極的に活動して参ります。また、安全管理など他部門とも連携して、多角的な活動や質の向上も目指していきたいと考えています。

#### R S T 回診件数

	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
回診人数	8	10	19

#### 診療科別 内訳

内科	10	5	7
外科	0	1	3
循環器内科	1	1	2
脳外科	3	4	6
整形外科	0	0	1
神経内科	0	0	1
小児科	0	0	1
合計回診件数	14	11	32



## 6 緩和ケアチーム

### (1) 目的

生命を脅かす病を抱えている患者と家族のつらさや苦痛（身体的、精神的、社会的、スピリチュアル）を緩和することを目的にしています。また多職種で構成されたチーム医療を提供することで、その人らしい人生を送ることができるように支えていくことを目標としています。

### (2) あゆみ

厚生労働省による「がん診療連携拠点病院の整備指針」に従い、チームによる早期からの緩和医療の提供を実現するため、平成 17 年 6 月に緩和ケア勉強会を開催、平成 18 年 6 月に緩和ケア委員会を設置し、同 7 月には緩和ケアチームとしての活動を開始しました。

現在の緩和ケアチームは、医師、看護師（がん看護専門看護師・緩和ケア認定看護師）、薬剤師、管理栄養士、公認心理士が週 1 回の回診とカンファレンスを実施しています。

また緩和ケア委員会を医師 4 名（乳腺外科、泌尿器科、産婦人科、麻酔科）、看護師 16 名、薬剤師 1 名、理学療法士 1 名、作業療法士 1 名、管理栄養士 1 名、事務局 1 名、計 25 名で発足しており、3 か月に 1 回の定例会を実施しています。

### (3) 活動実績

緩和チームの活動は、コンサルテーション型で運用しています。がん患者やその家族だけではなく、非がん患者とその家族の対応も行っています。令和 6 年度の新規緩和ケアチーム介入数は 65 名でした。身体的・精神的な緩和への介入依頼が多くありますが、経済的な相談や在宅療養支援など幅広い介入の依頼に対応しています。

また、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、地域の医療関係者などを対象に、緩和ケアの基本的な知識・技術の習得を目指した緩和ケア研修会を年 1 回開催するほか、院内職員や地域の医療従事者向けの勉強会を開催し、院内・外を問わず緩和医療普及に努めています。

### (4) 今後の課題

- ① 緩和ケアチーム回診の充実
- ② カンファレンスの充実
- ③ 院内外の啓蒙活動

## 7 排尿ケアチーム

### (1) 目的

尿道カテーテルを 1 日でも早く抜去、尿路感染を防ぎ排尿自立を導き、寝たきり患者の減少を目指します。

### (2) あゆみ

2016 年 4 月に排尿自立指導料算定が開始されたのを機に、2017 年 5 月当院排尿ケアチームを結成し、2017 年 6 月に活動を開始しました。現在は、泌尿器科医師 1 名、看護師 4 名（脳神経外科病棟 1 名、消化器外科整形外科病棟 1 名、内科病棟 1 名、皮膚・排尿ケア認定看護師 1 名）、理学療法士 1 名の計 6 名で活動しています。

### (3) 活動実績

尿道カテーテル留置中の入院患者を対象患者とし、入院中の尿道カテーテル抜去、その後の排尿状況を確認することを主目的としています。我々チームが主導するのではなく病棟スタッフが中心になって、安心してカテーテル抜去を行うことを目指しています。

予約は週 1 回、木曜日に外来枠として設定、医師、コメディカルスタッフ誰でも紹介状なしに依頼が可能になっています。朝より情報収集（初診患者の確認、残尿測定など）、9 時 30 分よりミーティング、メンバー同士情報共有後回診、カンファレンスで方針決定、各病棟への指示、カルテ記載を行っています。また、機会に応じて講演会での発表活動も施行しています。

### (4) 今後の課題

尿道カテーテルの意義を理解することで、積極的に排尿管理に携わってもらい、院内に排尿ケア文化を根付かせることが長期的な課題と考えています。

## 8 摂食嚥下支援チーム

### (1) 目的

摂食および嚥下機能に障害のある患者さんに対し、摂食嚥下に係る専門知識を有した他職種から構成された摂食嚥下支援チームが診察することで、摂食嚥下機能の回復や誤嚥性肺炎、窒息等のリスクを回避した食支援を行い、生活の質の向上につなげることを目的としています。

### (2) あゆみ

近年、地域の超高齢化とともに、当院でも摂食嚥下機能障害を抱えた患者さんが増加しています。当院では2022年4月1日より、多職種編成の「摂食嚥下支援チーム」を結成し、活動を開始しました。現在は歯科医師1名、耳鼻いんこう科医師1名、摂食嚥下障害看護認定看護師1名、言語聴覚士1名、理学療法士1名、管理栄養士1名、歯科衛生士1名の計7名で活動しています。

### (3) 活動実績

2022年度は50名、2023年度は68名、2024年度は78名の介入実績がありました。

〈摂食嚥下支援チーム介入と評価の流れ〉

- ・毎週火曜日に昼食時の病棟回診と14時にカンファレンスを行い、病棟スタッフおよびチームで介入患者さんの情報共有を行います。
- ・カンファレンスでは口腔内環境、食事摂取状況、栄養状態などの評価を行います。
- ・必要に応じ、嚥下機能検査（嚥下内視鏡検査：VE、嚥下造影検査：VF）を行い、その評価をもとに必要な嚥下訓練や適した食形態の提案を行っています。
- ・退院支援時に患者さんやご家族、転院先施設担当者に嚥下状態について説明し、食事摂取に関する指導を行っています。

### (4) 今後の課題

摂食嚥下支援チームは、患者さんの「口から食べる」と「笑顔」を実現するためにチームで一緒に考え、日々研鑽に努めています。

## 9 骨折リエゾンサービスチーム (FLS)

### (1) 目的

高齢になるに従い骨密度は低下する傾向があり、骨粗鬆症になると転倒などの比較的軽度の外傷でも骨折してしまいます。転倒しなくても自身の重さに耐えられずに骨折してしまうことさえあります。骨折の治療が済んで退院すると骨粗鬆症の治療が中断してしまい、同じ部位や他の部位の骨折を何回も繰り返す患者さんがいます。このような骨粗鬆症性骨折の悪循環を断ち切るために、多職種が連携して治療に当たれることを目指しています。

### (2) あゆみ

2022年4月の診療報酬改定で、大腿骨近位部骨折に対して『二次性骨折予防継続管理料』が新設され、急性期の病院で大腿骨近位部骨折後の骨粗鬆症の評価と治療を行うことで『二次性骨折予防継続管理料1』を算定することができるようになりました。リハビリテーションを行う回復期病院に転院した場合には、『二次性骨折予防継続管理料2』を算定ことができ、骨粗鬆症の継続医療を行う外来、クリニックでは『二次性骨折予防継続管理料3』を算定することができます。

医師、看護師、薬剤師、放射線技師、理学療法士、栄養士、事務員などが連携し、チームとしてより強力に骨粗鬆症の評価や治療ができるよう、2023年にFLSチームを立ち上げました。

### (3) 活動実績

大腿骨近位部骨折の入院患者に対して、持参した骨粗鬆症薬を継続した患者と新たに治療を開始した患者の割合が、令和4年度が50%程度だったのが、令和6年度には75%まで上昇しました。

腰椎と大腿骨近位部の測定ができる骨密度測定装置 (DEXA : dual-energy X-ray absorptiometry) の施行率は、令和4年に70%弱程度だったのが、令和6年度には80%以上に上昇しています。

### (4) 今後の課題

これまで大腿骨近位部骨折の患者さんを中心に活動していますが、二次性骨折予防継続管理料の対象になっていない橈骨下端骨折や脊椎圧迫骨折などの患者さんも骨粗鬆症に関連していますので、対象疾患をさらに広げていきたいと思えます。

## IX 地域医療連携室

### 1 医療相談業務

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
					件
区分	入院	4,493	5,342	5,036	94.3
	外来	159	158	91	57.6
	合計	4,652	5,500	5,127	93.2
援助方法	面接	2,638	2,783	3,835	137.8
	電話	1,940	2,311	987	42.7
	訪問	8	69	230	333.3
	文書	0	2	0	0.0
	その他	66	335	75	22.4
	合計	4,652	5,500	5,127	93.2
相談者	個別（本人）	1,591	1,273	2,692	211.5
	家族	1,516	2,274	1,417	62.3
	合同面接	18	4	48	1,200.0
	院内スタッフ	92	22	106	481.8
	関係機関	1,198	1,145	557	48.6
	その他	237	782	307	39.3
	合計	4,652	5,500	5,127	93.2
相談・援助内容	転院・施設	2,156	2,328	2,736	117.5
	受診・入院	265	559	982	175.7
	在宅ケア	555	1,017	300	29.5
	入院療養生活	39	36	10	27.8
	心理・情緒	0	1	3	300.0
	家族関係	20	17	3	17.6
	虐待・暴力	28	1	0	0.0
	復職・復学	0	0	0	-
	情報提供	516	459	202	44.0
	医療費	12	0	4	+
	経済的問題	45	41	74	180.5
	理解促進	451	203	281	138.4
	住居	3	3	5	166.7
	退院	507	486	415	85.4
	がん相談	0	1	0	0.0
	遺族	0	0	5	+
	その他	55	348	107	30.7
合計	4,652	5,500	5,127	93.2	

病棟・外来別相談件数

病 棟	年 度			
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
	件	件	件	%
I C U ・ C C U	56	48	36	75.0
N I C U	6	19	39	205.3
G C U	38	39	18	46.2
3 階 病 棟	250	265	361	136.2
4 階 東 病 棟	240	734	334	45.5
4 階 西 病 棟	179	329	248	75.4
5 階 西 病 棟	823	1,573	905	57.5
6 階 東 病 棟	970	950	1,186	124.8
6 階 西 病 棟	472	371	240	64.7
7 階 東 病 棟	704	576	633	109.9
7 階 西 病 棟	759	450	1,026	228.0
8 階 病 棟	31	13	0	0.0
外 来	123	133	101	75.9
そ の 他	1	0	0	-
合 計	4,652	5,500	5,127	93.2

科別相談件数

科 別	入 院				外 来			
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
	件	件	件	%	件	件	件	%
内 科	1,709	1,728	2,112	122.2	46	55	46	83.6
精 神 科	0	0	1	-	0	0	0	-
神 経 内 科	34	32	84	262.5	6	11	2	18.2
循 環 器 内 科	88	26	146	561.5	0	0	0	-
小 児 科	81	76	89	117.1	14	1	5	500.0
外 科	480	621	357	57.5	10	1	3	300.0
血 管 外 科	0	0	0	-	0	0	0	-
整 形 外 科	840	1,494	955	63.9	11	6	5	83.3
脳 神 経 外 科	793	940	924	98.3	3	9	0	0.0
呼 吸 器 外 科	0	0	-	-	0	0	0	-
皮 膚 科	71	87	19	21.8	3	3	3	100.0
乳 腺 外 科	17	21	19	90.5	1.0	4	4	100.0
泌 尿 器 科	168	198	234	118.2	10	30	12	40.0
産 婦 人 科	14	35	32	91.4	19	11	5	45.5
眼 科	0	0	0	-	0	1	1	100.0
耳 鼻 い ん こ う 科	0	2	5	250.0	0	0	0	-
麻 酔 科	0	0	3	-	0	0	4	+
リハビリテーション科	164	61	53	86.9	0	0	0	-
放 射 線 科	0	0	0	-	0	0	0	-
救 急 科	70	45	0	0.0	0	1	1	100.0
歯科・歯科口腔外科	0	1	3	300.0	0	0	0	-
そ の 他	0	0	0	-	0	0	0	-
合 計	4,529	5,367	5,036	93.8	123	133	91	68.4

## 2 科別紹介患者数・入院

科 別	年度			
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
	件	件	件	%
内 科	552	588	722	122.8
精 神 科	0	0	0	-
神 経 内 科	3	7	9	128.6
循 環 器 内 科	20	20	43	215.0
小 児 科	102	166	158	95.2
外 科	150	115	121	105.2
血 管 外 科	0	0	0	-
整 形 外 科	105	111	124	111.7
脳 神 経 外 科	121	116	133	114.7
呼 吸 器 外 科	0	0	0	-
乳 腺 外 科	8	1	2	200.0
皮 膚 科	23	15	12	80.0
泌 尿 器 科	93	60	75	125.0
産 婦 人 科	68	81	85	104.9
眼 科	0	0	0	-
耳 鼻 い ん こ う 科	16	13	11	84.6
麻 酔 科	0	0	0	-
放 射 線 科	0	0	0	-
救 急 科	16	19	0	0.0
歯 科 ・ 歯 科 口 腔 外 科	2	3	2	66.7
合 計	1,279	1,315	1,497	113.8

## 3 科別紹介患者数・外来

科 別	年度			
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
	件	件	件	%
内 科	2,348	2,151	2,166	100.7
精 神 科	0	0	0	-
神 経 内 科	412	398	372	93.5
循 環 器 内 科	264	272	283	104.0
小 児 科	699	639	767	120.0
外 科	245	303	294	97.0
血 管 外 科	24	12	14	116.7
整 形 外 科	675	667	792	118.7
脳 神 経 外 科	309	303	258	85.1
呼 吸 器 外 科	62	38	43	113.2
乳 腺 外 科	323	252	216	85.7
皮 膚 科	610	660	678	102.7
泌 尿 器 科	903	883	908	102.8
産 婦 人 科	735	634	539	85.0
眼 科	648	636	638	100.3
耳 鼻 い ん こ う 科	343	352	403	114.5
麻 酔 科	13	11	9	81.8
放 射 線 科	709	865	967	111.8
病 理 診 断 科	0	0	0	-
救 急 科	90	66	11	16.7
歯 科 ・ 歯 科 口 腔 外 科	983	1,019	1,090	107.0
女 性 専 用 外 来	0	0	0	-
合 計	10,395	10,161	10,448	102.8

#### 4 地域別紹介患者数・入院

地域別	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
		件	件	件	%
桐 生 市		834	830	931	112.2
み どり 市		229	273	296	108.4
前 橋 市		6	14	17	121.4
伊 勢 崎 市		38	31	48	154.8
太 田 市		93	86	128	148.8
そ の 他 県 内		18	18	26	144.4
足 利 市		21	32	19	59.4
そ の 他 県 外		40	31	29	93.5
合 計		1,279	1,315	1,494	113.6

#### 5 地域別紹介患者数・外来

地域別	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
		件	件	件	%
桐 生 市		6,903	6,734	6,840	101.6
み どり 市		2,216	2,164	2,321	107.3
前 橋 市		69	79	87	110.1
伊 勢 崎 市		230	233	240	103.0
太 田 市		599	566	606	107.1
そ の 他 県 内		86	92	81	88.0
足 利 市		157	155	156	100.6
そ の 他 県 外		135	138	117	84.8
合 計		10,395	10,161	10,448	102.8

## 6 科別戻し・逆・新規紹介患者数

科別	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
		件	件	件	%
内科		2,994	3,023	2,955	97.8
精神科		15	11	15	136.4
神経内科		331	262	287	109.5
循環器内科		274	280	339	121.1
小児科		1,150	1,190	1,260	105.9
外科		800	841	822	97.7
血管外科		30	32	17	53.1
整形外科		821	783	997	127.3
脳神経外科		702	669	720	107.6
呼吸器外科		120	109	99	90.8
乳腺外科		115	167	177	106.0
皮膚科		274	245	278	113.5
泌尿器科		1,265	1,185	1,332	112.4
産婦人科		346	392	587	149.7
眼科		395	373	411	110.2
耳鼻いんこう科		163	134	152	113.4
麻酔科		4	4	0	0.0
放射線科		991	920	1,010	109.8
救急科		310	143	33	23.1
緩和ケア内科		0	0	1	+
歯科・歯科口腔外科		1,705	1,840	1,878	102.1
合計		12,805	12,606	13,370	106.1

## 7 地域別戻し・逆・新規紹介患者数

地域別	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
		件	件	件	%
桐生市		6,281	6,148	6,506	105.8
みどり市		2,384	2,351	2,754	117.1
前橋市		1,340	1,365	1,258	92.2
伊勢崎市		587	597	594	99.5
太田市		931	872	898	103.0
その他県内		304	334	366	109.6
足利市		215	214	203	94.9
その他県外		307	310	303	97.7
その他		459	413	488	118.2
合計		12,808	12,604	13,370	106.1

## 8 科別紹介患者数（当日救急対応分）

科別	年度			
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
	件	件	件	%
内科	191	295	583	197.6
精神科	0	0	0	-
神経内科	12	17	17	100.0
循環器内科	16	18	35	194.4
小児科	167	217	254	117.1
外科	80	78	85	109.0
血管外科	0	0	0	-
整形外科	66	76	84	110.5
脳神経外科	119	108	122	113.0
呼吸器外科	0	0	0	-
乳腺外科	4	0	3	+
皮膚科	34	21	9	42.9
泌尿器科	81	57	61	107.0
産婦人科	49	39	31	79.5
眼科	2	2	0	0.0
耳鼻いんこう科	15	14	17	121.4
麻酔科	0	0	1	+
放射線科	1	1	0	0.0
救急科	287	216	38	17.6
歯科・歯科口腔外科	6	2	2	100.0
合計	1,130	1,161	1,342	115.6

区分（再掲）	年度			
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
	件	件	件	%
新患	198	230	282	122.6
再来	932	933	1,060	113.6
救急室対応患者数	549	623	729	117.0
救急搬送数	268	248	275	110.9
入院患者数（再掲）	616	728	839	115.2

## 9 科別事前予約患者数

科別	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
		件	件	件	%
内科		959	1,494	1,384	92.6
精神科		0	0	0	-
神経内科		348	341	311	91.2
循環器内科		150	182	193	106.0
小児科		158	150	166	110.7
外科		109	168	143	85.1
血管外科		20	10	13	130.0
整形外科		414	449	521	116.0
脳神経外科		155	171	124	72.5
呼吸器外科		18	8	12	150.0
乳腺外科		217	134	90	67.2
皮膚科		238	287	253	88.2
泌尿器科		330	415	335	80.7
産婦人科		454	355	326	91.8
眼科		1	0	0	皆減
耳鼻いんこう科		161	171	160	93.6
麻酔科		2	8	3	37.5
放射線科		878	859	980	114.1
救急科		3	0	2	+
歯科・歯科口腔外科		2	0	3	+
女性専用外来		0	0	0	-
合計		4,617	5,202	5,019	96.5

## 10 オンライン検査予約

桐生おりひめネット

科別	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
		件	件	件	%
C	T	140	168	167	99.4
M	R I	103	158	99	62.7
合計		243	326	266	81.6

## 11 母体搬送・新生児搬送受入れ数

(母体搬送)

年度 地域別	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
	件	件	件	%
桐生市	1	2	1	50.0
みどり市	9	9	11	122.2
前橋市	3	3	3	100.0
高崎市	1	1	3	300.0
伊勢崎市	7	3	3	100.0
太田市	6	5	12	240.0
館林市	0	0	0	-
渋川市	1	3	4	133.3
藤岡市	0	0	0	-
その他県内	0	0	0	-
栃木県	0	0	0	-
埼玉県	0	0	0	-
その他県外	0	0	0	-
合計	28	26	37	142.3

(新生児搬送)

年度 地域別	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
	件	件	件	%
桐生市	1	2	3	150.0
みどり市	4	3	2	66.7
前橋市	2	0	4	+
伊勢崎市	3	4	6	150.0
太田市	0	0	2	+
渋川市	1	0	0	-
その他県外	0	0	0	-
合計	11	9	17	188.9

## 12 在宅医療未熟児等一時受入事業

年度 項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
	件	件	件	%
登録件数	0	0	12	+
利用件数	0	0	8	+

## 13 退院調整患者数

年度 項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
	件	件	件	%
退院調整件数	409	447	684	153.0
調整加算算定	1,460	3,135	2,856	91.1
連携指導料算定	30	71	47	66.2
共同指導料算定	17	28	27	96.4
入院時支援加算算定	565	861	636	73.9
患者サポート体制充実加算	5,405	5,523	5,963	108.0

## X 地域がん診療連携拠点病院

### 1 がん相談支援センター

がん相談支援センターとは、がん医療に関する幅広い相談対応や情報提供を行う窓口です。がんの相談・治療の状況にかかわらず、どんなタイミングでも、がんに関する様々なことを無料で相談することができます。

#### (1) 当院での代表的な相談内容

- ・がんに関する疾病・治療・検査の一般的な医療情報
- ・症状・副作用への対応
- ・セカンドオピニオン
- ・緩和ケア
- ・療養生活、制度やサービス
- ・看護・介護や在宅療養について
- ・医療費や経済的な相談
- ・就学・就労に関する相談
- ・がんゲノム医療や妊孕性温存について
- ・医療用かつらなどの整容や外見ケア
- ・家族や医療者とのコミュニケーション

#### (2) 相談員

当院では、がん看護専門看護師、緩和ケア看護師、社会福祉士、公認心理士が相談に対応しています。すべての相談員が、国立がん研究センターの相談員研修を修了しています。うち2名は認定がん専門相談員の資格を有し、うち3名は両立支援コーディネーター基礎研修を修了しています。

#### (3) 年度報告

令和6年度は、電話・面談・メールを合わせて222件となりました。

また、令和6年9月より、群馬産業保健総合支援センター及びハローワークと連携し、専門相談員による就労支援出張相談窓口を院内に設置しました。

#### (4) 今後の課題

- ① がん患者さん及びそのご家族の気持ちに寄り添い、正しい情報提供を行う。
- ② 知識の更新や相談の質の維持向上を行う。
- ③ 必要としている人に窓口の存在を知ってもらえるように、広報活動を充実させる。

## 2 院内がん登録

### (1) スタッフ

院内がん登録実務者研修を修了した有資格者（診療情報管理士 2 名）でおこなっています。地域がん診療連携拠点病院では、がん登録中級有資格者配置が必須事項です。

### (2) 年度報告

2023 年データ 706 件を国立がん研究センターに提出し、そのデータを元に地域がん登録にも登録データを送付しています。また、平成 25 年度から実施されている「予後情報付き集計」へデータ提出の協力をしています。

### (3) 今後の目標

より正確なデータ提出を目標に、予後調査を含め一層の精度向上を目指します。

## 3 化学療法・通院治療センター委員会

### (1) スタッフ

化学療法通院治療センター委員会は、化学療法と生物学的製剤に関連する診療科医師、薬剤師（がん薬物療法認定薬剤師含む）、看護師（がん看護認定看護師含む）、検査技師、臨床工学技士、管理栄養士、事務員（診療情報管理士）の計 18 名で構成され、原則月に 1 回の会合を開いています。

### (2) 年度報告

令和 6 年度の実績（内服抗がん剤のみの治療は除く）は、延べ人数で外来化学療法が 1,400 名（-26%）と昨年よりも大幅な減少傾向となりました。がん種別の人数では、入院外来合計（内服抗がん剤のみの使用者は除く）346 名（+3%）、多かった順に肺がん(66)、尿路上皮がん(65)、大腸・小腸がん(50)、乳がん(44)、卵巣がん(25)、胃がん(14)、肝臓がん(13)、前立腺がん(13)、食道がん(12)、子宮がん(11)、膵臓がん(9)、腎臓がん(7)、胆道がん(7)、脳腫瘍(3)、皮膚がん(1)でした。免疫チェックポイント阻害薬使用患者はこのうち 78 名（-8%）でやはり減少しました。生物学的製剤（インフリキシマブ／レミケード）の点滴の患者数は延べ 271 人（-13%）でした。外来化学療法診療料については、化学療法施行時に 800 点（1,400 件）、化学療法は施行しないが診療した日に 350 点が算定できますが、350 点の算定漏れをなくすことで、年間 266 件算定しました。味覚障害など抗がん剤副作用で食事が取れなくなっている患者さんへ外来栄養食事指導も施行し 6 件でした。

令和 6 年度の委員会の活動としては、新規レジメンの承認、委員会主催の講演会の年 2 回開催（ZOOM 併用ハイブリッド開催）、免疫関連有害事象やその他副作用への注意啓発として「irAE 報告会&ショートレクチャー会議」を 2-3 ヶ月に 1 回程度開催し、「免疫チェックポイント阻害薬使用患者データベース」の作成を開始した。

### (3) 今後の目標

- ① irAE 報告会&ショートレクチャー会議を年に 3-4 回程度開催
- ② 有害事象の見落としがない様に症状やデータをチェック
- ③ 患者が快適に過ごせる環境作り
- ④ 年 2 回の化学療法講演会の開催

## 4 緩和ケアチーム

VIII チーム医療 6 緩和ケアチームをご参照ください。

## 5 がん患者サロン（サロンあおぞら）

### (1) がん患者サロンとは

がん患者さん・ご家族を対象としたサポートグループであり、当事者同士で気軽に語り合う交流の場を提供するものです。自分の話をする・他の人の話を聞くということを通して孤独感が軽減したり、療養上の工夫を共有しあうことで問題への対処能力が向上するなどの効果があるとされています。

### (2) 当院のサロンの特徴

患者さん・ご家族のおはなし会を基本的な活動としています。開催時間中は出入り自由なオープン形式で、がん種を限定していないため様々ながんの方が参加しています。

群馬県がんぴあサポーターにも参加を依頼しており、サロン終了後にはスタッフとピアサポーターで振り返りを行っています。院内スタッフ以外の意見も取り入れることで、サロンがより良い場となるように心がけています。

### (3) 開催実績

令和 6 年度は奇数月の全 6 回開催され、計 14 名の方の参加がありました。

### (4) 今後の課題

- ・持続的なサロンの開催および、広報活動の強化
- ・参加者のニーズの把握

## 6 キャンサーボード

キャンサーボードとは、専門的な知識・技能を有して手術や放射線療法、化学療法などの集学的治療に携わる医師と、他の分野を専門とする医師等が、様々ながんに対して、がん患者さんの症状、状態及び治療方針等を検討・確認するためのカンファレンスをいいます。

「地域がん診療連携拠点病院」の指定要件として、キャンサーボードの設置や定期開催が求められていることから、当院でも臓器別のキャンサーボードが定期的に行われています。

医師を中心に放射線技師、薬剤師、看護師、診療情報管理士等が集まり、あらゆる側面からがん治療を検討し、患者さん中心の医療を目指しています。

# XI 地域支援活動

## 1 地域講演会

### (1) 市民公開講演

開催日	講演内容	講師	会場
令和 6. 7. 20	心不全もパンデミックを考える -注目される「心臓病」と「がん」のつながり-	群馬県立心臓血管センター 星野 圭治	美喜仁桐生文化会館 スカイホールA
	講演1 「がんと心不全の関係性を知っていますか？」		
	講演2 「がんも心臓も体を動かしたほうがいい7つの理由」	群馬県立心臓血管センター 安達 仁	
令和 7. 3. 15	がん治療の最前線 - ロボット手術と低侵襲手術 -	泌尿器科診療部長 上井 崇智	桐生商工会議所 ケービックホール6階
	講演1 「前立腺がんに対する低侵襲手術-手術支援ロボットは何が優れているのか-」		
	講演2 「消化器がんに対する低侵襲手術-手術支援ロボットがその能力を発揮する場面とは-」	外科診療部長 緒方 杏一	

### (2) 地域医療勉強会

開催日	演題	演者	会場
令和 6. 11. 13	治療と仕事の両立支援とは - 両立支援の進め方と事例を交えた実践方法の紹介 -	群馬県産業保健総合支援センター メンタルヘルス対策 両立支援相談員 早川 洋子	桐生厚生総合病院 2階講堂
7. 2. 26	専門・認定看護師による同行訪問 - 活動の概要と事例報告 -	皮膚・排泄ケア特定認定看護師 大谷内 千恵  緩和ケア認定看護師 五十嵐 千代子	

### (3) ハッピー健康相談室

	開催日	テーマ・内容	担当
第24回	令和 7. 3. 7	いつまでも元気に歩こう	整形外科診療部長 斯波 俊祐  リハビリテーション技術 理学療法士 石川 有理
		1 ロコモと健康寿命	
		2 簡単体操を続けることがロコモ対策！	
		3 要チェック！ロコモ度テスト	

(4) 認定看護師出前講座

日にち	講演内容	依頼病院・施設	分野	認定看護師名
令和 6. 5. 16	フットケア・爪の切り方	桐生協立診療所	糖尿病	豊嶋 瞳
6. 9. 5	高齢者施設の感染対策	住居型有料老人ホーム リストピア	感染管理	山田 あゆり
6. 11. 13	COVID-19対策、感染性 下痢への対策について	特別養護老人ホーム しみずの里	感染管理	須永 泰明
6. 12. 6	褥瘡の対処療法 皮膚のスキンケアについ て	訪問看護ステーション こころ	皮膚・排泄	大谷内 千恵
6. 12. 18	感染対策の基礎 COVID-19対策	グループホーム サンシャイン	感染管理	須永 泰明
7. 1. 29	高齢者施設の感染対策 インフル・コロナ・疥癬	介護老人保護施設 クララトーホー	感染管理	山田 あゆり
7. 2. 4	症状緩和・オピオイド	協立診療所	緩和ケア	五十嵐 千代子
7. 3. 12	ケアマネージャーに必 要な感染対策	居宅介護支援事業所 きりゅう	感染管理	山田 あゆり

## 2 地域への情報提供

### (1) TOWNわたらせ紙への掲載（桐生タイムス社発行）

発行年月日	執筆者	テーマ
令和 6. 4. 6	橋場 康弘 脳神経外科診療部長	あきらめないで！あなたの脳梗塞は治せるかも
6. 4. 20	小林 誠 栄養管理課科長（管理栄養士）	食物繊維のはなし
6. 5. 11	斯波 俊祐 整形外科診療部長	背骨の治療：脊椎センター
6. 5. 18	今井 正之 歯科口腔外科診療部長	<口腔の役割> 歯ブラシ古今東西
6. 6. 1	加藤 広行 院長	『医師の働き方改革』の施行を踏まえて
6. 6. 8	大木 康史 副院長兼小児科診療部長	つけてみませんか、お子さんの成長曲線
6. 6. 15	岡田 牧子 地域医療連携室看護師長	あきらめていませんか？在宅療養
6. 7. 6	岡田 克之 副院長兼皮膚科診療部長	世代のこと
6. 7. 13	田村 典子 中央検査科科長補佐（臨床検査技師）	輸血療法とABO血液型
6. 7. 20	今井 正之 歯科口腔外科診療部長	<口腔の役割>合谷（ごうこく）
6. 8. 3	福地 達 内科医長	自分では気付かぬうちに、肝臓病
6. 8. 10	見留 豊久 放射線技術科科長（診療放射線技師）	深刻なビタミンD欠乏（400年前のミイラの赤ちゃん）
6. 9. 7	栗原 麻奈美 薬剤部主任（薬剤師）	がんの痛みを和らげるお薬について
6. 9. 14	今井 正之 歯科口腔外科診療部長	<口腔の役割>牛の乳搾り
6. 9. 21	小池 彩香 リハビリテーション技術科（作業療法士）	高次脳機能障害という言葉はご存じですか？
6. 10. 5	緒方 杏一 外科診療部長	手術支援ロボット『Hugo RAS システム』導入のご報告
6. 10. 12	上井 崇智 泌尿器科診療部長	ロボット支援下前立腺全摘除術
6. 11. 2	石原 梨映 歯科衛生室主任（歯科衛生士）	ガムを噛もう
6. 12. 7	須永 泰明 感染管理認定看護師	冬に流行する感染症
6. 12. 21	今井 正之 歯科口腔外科診療部長	<口腔の役割>喫茶店のおみくじ器

発行年月日	執筆者	テーマ
令和 7. 1. 11	今井 正之 歯科口腔外科診療部長	<口腔の役割>丸呑みの表情
7. 1. 18	大木 康史 副院長兼小児科診療部長	電子処方箋と医療DX
7. 2. 1	岡田 克之 副院長兼皮膚科診療部長	社会への発信
7. 2. 8	加藤 優典 臨床工学科主査 (臨床工学技士)	呼吸器が不自由な患者さんを支える臨床工学技士の呼吸療法
7. 3. 1	今井 正之 歯科口腔外科診療部長	<口腔の役割>手ぶれ補正機能
7. 3. 8	橋場 康弘 脳神経外科診療部長	脳卒中を防ごう！
7. 3. 15	今泉 智博 中央検査科科長補佐 (臨床検査技師)	私の血液黒くないですか？

(2) 院外広報 ほほえみ

発行年月日	トピックス
令和 6. 4. 10	令和6年能登半島地震におけるDMAT活動報告 ..... 災害支援ナースの活躍 災害支援ナース 鏑木 恵美 ..... 脊椎センター開設のお知らせ ..... 新ロゴマーク募集のお知らせ ..... 第29回 市民公開講演
令和 6. 7. 1	特定認定看護師の活躍 糖尿病看護特定認定看護師 豊島 瞳 ..... マイナ保険証利用のお願い ..... 研修医の紹介 ..... 第29回 市民公開講演
令和 6. 10. 1	手術支援ロボット『Hugo RAS システム』導入のご報告 ..... ロボット支援下前立腺全摘除術について ..... 特定認定看護師の活躍 感染管理認定看護師 須永 泰明 ..... マイナ保険証の利用について
令和 7. 1. 1	新年の挨拶2025年 加藤 広行 院長 ..... 電子処方箋をご利用ください ..... ハッピー健康相談室再開のお知らせ ..... 第30回 市民公開講演 ..... 患者満足度調査結果報告

(3) 地域医療連携室だより きずな

発行年月日	執筆者	テーマ
令和 6. 4. 1	斯波 俊祐 整形外科診療部長	脊椎センター開設のお知らせ ----- FLS（骨折リエゾンサービスチーム）について
6. 7. 1	和田 渉 外科診療部長	DMATの活動内容
6. 10. 1	上井 崇智 泌尿器科診療部長	手術支援ロボット“Hugo”のご紹介
7. 1. 1	大木 康史 小児科診療部長	当院小児科の紹介 ----- 電子処方箋の運用開始について

### 3 母親学級

#### (1) 母親学級開催日時・内容

開催日時	内 容	講 師
第1水曜日 妊娠21週頃までの方 14:00～16:00	妊娠中の栄養 妊娠中の生活（妊娠初期） おっぱいのお手入れ マタニティヨーガ	栄養士 助産師
第2水曜日 妊娠22週から27週頃までの方 14:00～16:00	赤ちゃんの育て方 妊娠中の上手なお薬との つきあい方 妊娠中の生活（妊娠中期～後期）	小児科医師 薬剤師 助産師
第3水曜日 妊娠28週から34週頃までの方 14:00～16:00	産後の生活 赤ちゃんの生活 お産の準備	助産師
第4水曜日 妊娠32週からの方 14:00～16:00	お産の経過と呼吸法 産後の生活 入院案内	助産師

#### (2) 母親学級開催回数との延べ人数

開催回数	参加者数					
	妊婦	夫	子	母	父	計
24回	人 110	人 0	人 0	人 0	人 0	人 110

#### (3) 産後退院指導

開催日時	内 容	講 師
毎週火曜日 13:30～14:00 毎週金曜日 15:30～16:00	産褥期の日常生活 育児 家族計画 服薬指導	助産師 看護師 薬剤師
毎週水・金曜日 13:00～13:30	人工栄養（ミルク）の調乳法 消毒法	栄養士
毎週月・木曜日 13:30～14:00	沐浴指導	助産師 看護師

### 4 職場体験受入

学 校 名	体験内容	日 程	人数	実習場所
みどり市立笠懸南中学校	看護師体験	6/20 ～ 6/21	人 5	病棟看護体験
桐生市立商業高等学校	看護師体験	7/11 ～ 7/12	6	病棟看護体験
みどり市立笠懸中学校	看護師体験	9/3 ～ 9/4	5	病棟看護体験
桐生市立中央中学校	看護師体験	9/18 ～ 9/19	3	病棟看護体験

## 5 極低出生体重児の親の会「クラブ・プリミー」

### (1) 第47回

① 開催日	令和6年10月6日（日）			
② 参加家族	11家族（内：ロカヒ3組）	子供11人	大人18人	
③ スタッフ	医師	1人	看護師	8人
	臨床心理士	1人	管理栄養士	1人
	ボランティア保育士	1人		

## 6 桐生市堀マラソン大会の支援

令和7年2月8日（日）に開催されました第71回桐生市堀マラソン大会において、大会実行委員会委員長（事務局 桐生市教育委員会）から、不慮の事故への迅速な対応など安全な大会に向けて、救急医療体制の充実を図ることを目的に、医師・看護師の大会参加の協力依頼があり、ドクター・ナースランナーとして参加しました。

当日は、12人がドクター（ナース）ランナー用のゼッケンを付け、参加選手と共に走りまわりました。

## 7 リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2024 ぐんま

リレー・フォー・ライフとは、がん征圧を目指し、がん患者や家族、支援者らがリレー形式で24時間にわたって歩き、勇気と希望を分かち合うチャリティーイベントです。

当院は、地域がん診療連携拠点病院の取り組みの一環としてイベント趣旨に賛同し、チーム及び後援団体として参加しています。

令和6年度は、44名のチームで参加しました。

## 8 令和6年度（第5回）桐生厚生総合病院連携登録医大会

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い令和元年度から中止しておりましたが、令和4年度からWEB（ZOOM）での配信で再開しました。今年度は5年ぶりに9月11日（水）美喜仁市民文化会館において対面開催といたしました。

53名の登録医療機関の先生方にご参加いただき、報告会では外科診療部長の田中成岳先生が「ヘルニアセンター」について、整形外科診療部長の斯波俊祐先生が「脊椎センター」について、泌尿器科診療部長上井崇智先生が「手術支援ロボット」について報告しました。

久々の対面開催に各先生方の交流の場として、とても有意義な時間となりました。

来年度も登録医の先生方とより連携が深められるような会を企画したいと思います。

## XII 研修業績

### 1 学会及び院外研修会

#### (1) 医師

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
内科	5月	第67回 日本糖尿病学会年次学術集会	東京都	1人
	5	内科専門医試験	神奈川県	1
	6	第11回 日本アレルギー学会関東地方会	東京都	1
	6	第60回 日本肝臓学会総会	熊本県	1
	7	日本睡眠学会第48回定期学術集会	web開催	1
	9	第65回 日本人間ドック・予防医療学会学術大会	神奈川県	1
	10	第13回広島EMR/ESDハンズオンセミナー	広島県	1
	10	第23回日本先進糖尿病治療・I型糖尿病研究会	富山県	1
	10	第73回日本アレルギー学会学術大会	web開催	1
	10	第32回 日本消化器関連学会週間	兵庫県	1
	11	第34回 日本呼吸ケアリハビリテーション学会学術集会	愛知県	1
脳神経内科	3	第11回 総合アレルギー講習会	兵庫県	1
小児科	5	第10回 総合アレルギー講習会	web開催	1
	6	第35回 日本小児科医会総会フォーラム	埼玉県	2
	6	民間医局レジナビフェア2024東京～臨床・専門研修プログラム～	東京都	1
	7	第60回 日本小児循環器学会総会・学術集会	福岡県	1
	7	第60回 日本周産期・新生児医学会 学術集会	大阪府	1
	8	第15回 子ども虐待医学会	群馬県	1
	10	第73回 日本アレルギー学会学術大会	京都府	1
	11	第68回 日本新生児成育医学会学術集会	長野県	2
	12	日本産業衛生学会第1回関東地方学会	群馬県	1
外科	1	第43回 周産期シンポジウム	東京都	1
	4	GI Week2024/第20回 日本消化管学会総会学術集会	web開催	1
	6	第121回 日本外科学会定期学術集会	web開催	1
	6	第60回 前橋ICLSコース	群馬県	1
	7	第19回 群馬クリニカルパス研究会	群馬県	1
	7	第78回 日本食道学会学術集会	東京都	2
	8	多数傷病者対応・医療の修得	群馬県	1
	9	第22回 日本消化管学会教育講演会	web開催	1
	10	第62回 全国自治体病院学会in新潟	新潟県	1
	11	救急医学会認定コース第42回群馬ICLSコース	群馬県	1
	11	ロボット支援下手術の見学	東京都	1
11	第37回 日本内視鏡外科学会総会	web開催	2	
整形外科	4	第53回 日本脊椎脊髄病学会学術集会	神奈川県	2
	5	第97回 日本整形外科学会学術総会	福岡県/web	2
	6	第50回 日本骨折治療学術集会	宮城県	1

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
整形外科	月			人
	10	第26回 骨粗鬆症学会	石川県	1
	11	第49回 日本足の外科学会学術集会	東京都	1
	11	第27回 日本低侵襲脊椎外科学会学術集会	大阪府	1
	12	第2回 日本膝関節学会	沖縄県	1
	2	cadaver surgical training	シンガポール	1
脳神経外科	5	第44回 日本脳神経外科コンgres総会	web開催	1
	11	第40回 日本脳神経血管内治療学会 学術集会	熊本県	1
	3	STROKE2025	大阪府/web	2
乳腺外科	6	第29回 日本緩和医療学会学術集会	兵庫県	1
	7	第32回 日本乳癌学会学術総会	宮城県	1
	11	第34回 日本乳癌検診学会学術総会	群馬県	1
皮膚科	5	第40回 日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会	宮崎県	1
	5	MEDぐんま2024	群馬県	2
	5	第32回 群馬NST研究会	群馬県	1
	5	NPO法人 口から食べる幸せを守る会(KTSM)食事サポーター講座	群馬県	1
	6	第123回 日本皮膚科学会総会	京都府	1
	6	日本栄養治療学会関東支部 第10回支部学術集会	群馬県	1
	6	第26回 日本医療マネジメント学会学術総会	福岡県	1
	6	第19回 群馬クリニカルパス研究会	群馬県	1
	6	NPO法人 口から食べる幸せを守る会(KTSM)第12回全国大会	web開催	1
	7	第10回 日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会総会・学術集会	神奈川県	1
	7	第39回 日本皮膚外科学会総会・学術集会	京都府	1
	7	第39回日本環境感染学会総会・学術集会/第453回ICD講習会	京都府	1
	8	日本栄養治療学会 2024年度CNDセミナー	web開催	1
	8	第117回 日本皮膚科学会群馬地方会	群馬県	2
	9	第26回 日本褥瘡学会学術集会	兵庫県	1
	10	第75回 日本皮膚科学会中部支部学術大会	愛知県	1
	10	日本在宅医療連合学会 第6回地域フォーラム四国	香川県	1
	10	第62回 全国自治体病院学会in新潟	新潟県	1
	11	第21回日本褥瘡学会関東甲信越地方会学術集会および日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会(在宅協)2024年度関東甲信越地区床ずれセミナー	東京都	1
	11	令和6年度群馬県【皮膚の日】市民公開講座(第84回群馬実地皮膚科医会)	群馬県	1
	11	第15回 クリティカルケア研究会	群馬県	1
	11	第40回 日本臨床皮膚科医会 三ブロック合同学術集会	東京都	1
	11	第118回 日本皮膚科学会群馬地方会	群馬県	1
	11	第5回 日本フットケア・足病医学会 年次学術集会	兵庫県	1
	11	病院マーケティングサミットJAPAN2024 in 熊本	熊本県	1
	12	第54回 日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会	福島県	1
	1	日本医療マネジメント学会 第12回群馬県支部学術集会	群馬県	1
	2	第40回 日本栄養治療学会学術集会	神奈川県	1

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
皮膚科	月			人
	3	第18回 日本褥瘡学会関東甲信越地方会群馬支部学術集会	群馬県	1
	3	第11回 日本医療安全学会学術総会	愛知県	1
	3	第119回 日本皮膚科学会群馬地方会	群馬県	1
	4	第40回 日本臨床皮膚科医会 総会・臨床学術大会	栃木県	1
	4	第3回 日本フットケア・足病医学会 関東・甲信越地方会	埼玉県	1
泌尿器科	4	第111回 日本泌尿器科学会総会	神奈川県	3
	6	第69回 日本透析医学会 学術集会・総会	神奈川県	1
	6	ロボット支援下手術見学	東京都	2
	7	Hugoシステムテクニカルトレーニング	神奈川県	2
	8	第26回 日本女性骨盤底医学会	神奈川県	1
	10	第62回 日本癌治療学会学術集会	福岡県	1
	11	第39回 日本女性医学学会学術集会	栃木県	1
	11	第38回 日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会	千葉県	1
	1	第29回 群馬県内視鏡外科研究会	群馬県	1
眼科	4	第128回 日本眼科学会	東京都/web	2
	5	関東甲信越眼科学会	茨城県	1
	11	第78回 日本臨床眼科学会	京都府/web	2
耳鼻いんこう科	4	嚥下障害講習会	東京都	1
	5	第125回 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会	web開催	1
麻酔科	6	日本麻酔科学会第71回学術集会	兵庫県/web	4
	8	日本ペインクリニック学会 第58回学術集会	web開催	1
	11	日本臨床麻酔学会 第44回大会	東京都	4
リハ科	3	第15回 日本腎臓リハビリテーション学会学術集会	神奈川県	1
放射線科	4	第83回 日本医学放射線学会総会	神奈川県	1
歯科・ 歯科口腔外科	4	第21回 日本口腔ケア学会総会・学術大会	東京都	1
	10	日本歯科専門医機構主催共通研修	web開催	1
	11	第69回 日本口腔外科学会総会・学術大会	web開催	1
	11	第29回 日本口腔顔面痛学会学術大会	東京都	1
臨床研修医室	5	HeartCode BLS	千葉県	1
	6	日本麻酔科学会第71回学術集会	兵庫県	2
	6	第60回 前橋ICLSコース	群馬県	1
	6	第60回 日本肝臓学会総会	熊本県	1
	6	民間医局レジナビフェア2024東京～臨床・専門研修プログラム～	東京都	2
	6	第50回 日本骨折治療学術集会	web開催	1
	7	第40回 日本眼循環学会	福島県	1
	9	HeartCode ACLS	東京都	1
	10	第7回 虐待対応プログラムBEAMS Stage1	web開催	1
	10	虐待対応プログラム BEAMS Stage1	web開催	3
	11	第8回 虐待対応プログラム BEAMS Stage1	web開催	3
	11	第56回 ISLS/PSLSコース	群馬県	1

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
臨床研修医室	月			人
	11	JPTECプロバイダーコース	群馬県	1
	12	第45回 日本肝臓学会東部会	宮城県	1
	1	PEARSプロバイダーコース	東京都	1
	1	J-MELSベーシックコース	群馬県	2
	2	PAL Sプロバイダーコース	東京都	1
	3	ALSO	群馬県	1

(2) 薬剤部

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
薬剤部	月			人
	4	桐生薬剤師会 講演会・例会	桐生	2
	5	てんかん服薬指導Webセミナー	WEB開催	1
	6	桐生薬剤師会 講演会・例会	桐生	1
	6	第34回群馬県認知症疾患医療センター研修会	WEB開催	1
	6	令和6年度 第3回薬剤業務研修会	太田	3
	7	令和6年度 第4回薬剤業務研修会	渋川	3
	7	桐生薬剤師会 講演会・例会	桐生	1
	7	桐生厚生総合病院 第29回市民公開講演 桐生・みどり合同シンポジウム	桐生	3
	7	桐生市医師会学術講演会	桐生	1
	9	第104回 桐薬研究会	桐生	1
	9	令和6年度 第5回薬剤業務研修会	桐生	3
	10	令和6年度 第6回薬剤業務研修会	WEB開催	1
	10	群馬Pharmacy Director Web Seminar	WEB開催	1
10	桐生薬剤師会 講演会・例会	桐生	1	
3	第25回 桐生オンコロジーファーマシスト研究会	ハイブリッド	5	

(3) リハビリテーション技術科 (理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
リハビリテーション技術科	月			人
	4	脳卒中医療連携の会	前橋	3
	6	日本理学療法学会学術研修大会	WEB開催	1
	7	ADL評価研修 FIM講習会	WEB開催	5
	9	日本呼吸理学療法学会学術大会	WEB開催	1
	9	群馬県災害医療研修	前橋	1
	10	臨床実習指導者講習会	高崎	3
	10	群馬県理学療法士学会	太田	1
2	脳卒中連携パス会議	前橋	3	

## (4) 放射線技術科

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
放射線技術科	4	日本放射線技術学会第80回総会学術大会	横浜	2
	6	関東甲信越診療放射線技師学術大会	栃木	1
	11	第62回全国自治体病院学会in新潟	新潟	3
	11	診療放射線技師法改正に伴う告示研修（実技）	前橋	1
	12	日本放射線技術学会第71回関東支部研究発表大会	前橋	3

## (5) 中央検査科（臨床検査技師）

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
中央検査科	4	タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会（基礎研修）	WEB開催	2
	4	血液検査研究班4月例会①	WEB開催	1
	4	第33回臨床検査技師臨地実習指導者講習会（北日本支部）	WEB開催	2
	4	一般検査研究班4月例会①	WEB開催	1
	4	生理研究班 東毛分科会4月	太田市	1
	5	令和6年度 認定心電検査技師制度 行列のできるスキルアップ研修会PartXIII	石川県	1
	5	第73回日本医学検査学会 in 金沢	石川県	1
	5	一般検査研究班5月例会①	WEB開催	1
	5	微生物検査研究班5月例会①	WEB開催	2
	5	心エコー基本断面から計測 ～初心者向け～	WEB開催	1
	5	生理研究班 東毛分科会5月	太田市	1
	5	第71回日本輸血・細胞治療学会学術集会	東京都	2
	6	JSS北海道 第46回地方会研修会	WEB開催	1
	6	JSS四国 第46回地方会研修会	WEB開催	1
	6	医療安全研修	WEB開催	1
	6	輸血検査研究班6月例会①	前橋市	2
	6	病理細胞診研究班6月例会①	WEB開催	3
	6	第39回輸血検査基礎実技研修会	前橋市	2
	6	令和6年度群馬県感染症対策連絡協議会総会・特別講演会	前橋市	2
	6	一般検査研究班6月例会①	WEB開催	1
	6	生理研究班 東毛分科会 6月	太田市	2
	7	JSS北九州 第36回地方会研修会	WEB開催	1
	7	第70回日本不整脈心電学会学術大会	石川県	1
	7	第79回群馬臨床細胞学会	前橋市	3
	7	輸血検査研究班 7月例会①（中級編）	WEB開催	1
	7	輸血検査研究班 7月例会②（基礎編）	WEB開催	2

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
中央 検査科	月			人
	7	微生物検査研究班7月例会	WEB開催	1
	7	一般検査研究班7月例会①	WEB開催	1
	8	JSS四国 第34回地方会学術集会	WEB開催	2
	8	大規模災害時の支援人材育成講習会 その2	WEB開催	1
	8	第49回日本超音波検査学会学術集会	WEB開催	1
	8	輸血検査の中級実技研修会	前橋市	1
	9	第1回上州心エコー図セミナー	前橋市	1
	9	第21回群馬県災害医療研修(急性期)	前橋市	1
	9	第158回日本輸血・細胞治療学会関東甲信越支部例会	東京都	1
	9	JSS関東甲信越 第51回地方会学術集会	WEB開催	3
	9	令和6年度 認定心電検査技師育成研修会	WEB開催	2
	9	令和6年度 新人研修会	前橋市	2
	9	令和6年度中部圏支部病理細胞検査研修会	WEB開催	1
	9	血液検査研究班9月例会	WEB開催	1
	9	一般検査研究班9月例会	WEB開催	1
	9	生理研究班 東毛分科会 9月	太田市	2
	9	タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会)	前橋市	2
	9	令和6年度大規模地震時医療活動訓練	東京都	1
	10	日本超音波医学会第36回関東甲信越地方会学術集会	WEB開催	3
	10	日本医療検査科学会第56回大会	神奈川県	2
	10	JACLaS EXPO 2024	神奈川県	6
	10	令和6年度認定一般検査技師資格更新研修会	WEB開催	1
	10	認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師制度資格更新講習会	WEB開催	1
	10	2024年度都臨技一般検査スキルアップZoom研修会	WEB開催	1
	10	輸血検査研究班 中級勉強会	WEB開催	2
	10	令和6年度 関甲信支部・首都圏支部医学検査学会(第60回)	長野県	2
	10	令和6年度日臨技北日本支部 臨床一般部門研修会	WEB開催	1
	11	第63回日本臨床細胞学会秋期大会	千葉県	3
	11	臨床化学・免疫化学検査研究班 11月例会	WEB開催	1
	11	第2回 埼玉心電図スペシャリスト 2024 スマホで問題に挑戦! 実力確認!	WEB開催	1
	11	全国検査と健康展in群馬	前橋市	3
	11	病理細胞診検査研究班 11月例会③	前橋市	1
11	生理研究班 東毛分科会 11月	太田市	2	
12	第68回群馬県医学検査学会	高崎市	21	
12	令和6年度 群馬県感染症対策連絡協議会 合同カンファレンス	WEB開催	2	
12	輸血検査研究班 12月例会	WEB開催	1	
12	令和6年度群馬県禁煙支援県民公開講座	高崎市	2	
12	救急検査研究班12月例会	WEB開催	3	

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
中央 検査科	月			人
	12	第77回盛岡地区技師会研修会	WEB開催	1
	1	令和7年渉外部講演会（青年部会講演会）	前橋市	3
	1	輸血検査研究班 中級勉強会	WEB開催	2
	1	薬剤師からみた薬物検査の考え方	WEB開催	1
	1	輸血検査研究班1月例会	WEB開催	1
	1	第36回日本臨床微生物学会総会・学術集会	愛知県	2
	1	タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会	前橋市	2
	2	大規模災害時の支援人材育成講習会 その1	WEB開催	2
	2	2024年度 関甲信支部・首都圏支部人材育成研修会	山梨県	1
	2	第3回山梨県超音波研究班研修会	山梨県	1
	2	第2回輸血検査研究班研修会	山梨県	1
	2	令和6年度第7回生理検査研究班勉強会	WEB開催	1
	2	令和6年度 群馬県感染症対策連絡協議会 合同訓練	WEB開催	2
	2	令和6年度第8回生理検査研究班勉強会	WEB開催	1
	2	生理研究班 東毛分科会 2月	太田市	1
	2	第159回日本輸血・細胞治療学会関東甲信越支部例会	東京都	1
	2	日本輸血・細胞治療学会関東甲信越支部I&A視察員養成講習会	東京都	1
	3	令和6年度 群馬県臨床検査精度管理調査報告会	前橋市	1
	3	日本医師会令和6年度臨床検査精度管理調査報告会	東京都	1
	3	第89回日本循環器学会学術集会	神奈川県	1
	3	臨床検査技師育成における医療安全教育FD	WEB開催	4
	3	一般検査研究班3月例会	WEB開催	1
	3	R6年度 群馬県合同輸血療法委員会総会・講演会	前橋市	3
3	令和6年度 群臨技情勢報告会	前橋市	4	
3	医療安全対策講習会	WEB開催	1	

(6) 栄養管理科（管理栄養士・調理師）

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
栄養 管理科	月			人
	6	日本栄養治療学会2024年度第10回関越支部学術集会	群馬県	1
	1	第27回日本病態栄養学会年次学術集会	京都府	1
	2	第42回群馬栄養改善学会	群馬県	1
2	全国自治体病院協議会群馬支部栄養部研修会	藤岡市	1	

(7) 臨床工学技士

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
臨床工学科	月			人
	6	第69回日本透析医学会	神奈川県	2

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
臨床工学科	月			人
	6	北里大学 北里研究所病院Hugo症例見学	東京都	1
	6	第22回群馬県臨床工学技士会学術大会	高崎市	1
	6	Hugo RASシステム テクニカルトレーニング	神奈川県	1
	7	Hugo RASシステム テクニカルトレーニング	神奈川県	1
	7	虎ノ門病院Hugo症例見学	東京都	1
	9	2024年度周術期管理チームセミナー	東京都	1
	9	第4回関東甲信越臨床工学技士会	東京都	1
	10	太田記念病院専門認定看護師会主催研修会 人工呼吸器について	WEB開催	2
	2	埼玉県第24回人工呼吸器安全対策セミナー	WEB開催	1
	3	日本臨床工学技士会 実習指導者講習会	WEB開催	1

(8) 視能訓練士

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
視能訓練室	月			人
	6	第80回日本弱視斜視学会総会/第49回日本小児眼科学会総会	静岡県	1
	11	第65回 日本視能矯正学会	栃木県/web	2

(9) 看護部 (助産師・看護師)

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
看護部	月			人
	5	手術支援ロボットの見学	群馬県	1
	5	第34回 群馬県「看護の日」記念式典	群馬県	1
	5	認定看護管理者教育課程セカンドレベル オンライン事前研修	web開催	1
	5	外科領域におけるロボット手術の一連の流れを学ぶ	群馬県	1
	6	第92回 日本消化器内視鏡技師学会 一般演題1「看護・患者管理」発表	富山県	1
	6	第41回 群馬緩和医療研究会	群馬県	1
	6	日本輸血・細胞治療学会I&A視察員養成講習会運営	東京都	1
	6	認定看護管理者教育課程セカンドレベル 事前研修	群馬県	1
	6	群馬県看護協会 特別講演	群馬県	1
	6	ロボット支援下前立腺全摘除術見学	東京都	1
	6	令和5年度第4回群馬県合同輸血療法委員会輸血関連看護師会	群馬県	1
	6	第29回 日本緩和医療学会学術集会	兵庫県	1
	6	2024年度 認定看護管理者教育課程セカンドレベル	群馬県	1
	6	第35回 日本手術看護学会 関東甲信越地区学会	神奈川県	1
	6	令和6年度第1回病院看護業務研修会	群馬県	1
	6	第26回 日本医療マネジメント学会学術総会	福岡県	1
	6	令和6年度群馬県看護協会通常総会	群馬県	1
	6	令和6年度第11回群馬局地DMAT養成研修	群馬県	2

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
看護部	月			人
	6	今しか聞けない請求業務の基本	web開催	1
	6	ロボット支援下手術見学	東京都	1
	6	群馬がん看護フォーラムおよび総会	群馬県	1
	6	第20回 群馬がん看護フォーラム	群馬県	3
	6	第19回 群馬クリニカルパス研究会	群馬県	1
	6	ImSAFER分析研修	群馬県	1
	7	訪問看護実習	群馬県	1
	7	ICLS指導者養成WS	群馬県	1
	7	第2回 渋川医療センターICLS指導者養成ワークショップ	群馬県	1
	7	第15回 桐生厚生総合病院緩和ケア研修会	群馬県	1
	7	Hugoシステムテクニカルトレーニング	神奈川県	1
	7	緩和ケア研修会	群馬県	1
	7	2024年看護部会研修会	東京都	1
	7	第32回 日本乳癌学会学術総会	宮城県	1
	7	HugoRASシステムテクニカルトレーニング	神奈川県	1
	7	「理論編&分析Basic編&分析Advance編」3日間集中コース集合型セミナー	東京都	1
	7	院外施設実習 訪問看護 医療的ケア児	群馬県	2
	7	看護実習指導者養成講習会	群馬県	1
	7	訪問看護の見学・同伴	群馬県	1
	7	ロボット支援下直腸切除手術	京都府	1
	7	救護員	茨城県	1
	8	訪問看護実習	群馬県	3
	8	第41回サマーキャンプ(群馬県小児糖尿病の会ひまわり会)	群馬県	1
	8	ロボット支援下直腸切除手術(ヒューゴ)見学	東京都	1
	8	オンライン研修の形態とZOOMの使い方	群馬県	1
	8	訪問看護研修「入門プログラム」	群馬県	2
	8	日本看護教育学学会	web開催	1
	8	第39回 日本環境感染学会総会・学術集会	web開催	1
	8	24'「重症度、医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修	web開催	2
	8	医療安全ネットワーク	群馬県	1
	8	第39回 日本環境感染学会総会・学術集会	web開催	1
	9	看護専門職として必要な管理に関する基本的知識・技術・態度の修得	群馬県	1
	9	出前講座	群馬県	1
	9	小児在宅移行支援指導者育成研修<入退院支援加算3対応>	web開催	1
	9	令和6年度第2回群馬県合同輸血療法委員会輸血関連看護師会	群馬県	1
	9	第26回 日本褥瘡学会学術集会	web開催	1
	9	令和6年度群馬県小児保健会 研究集会	群馬県	1
	9	第26回 日本褥瘡学会学術集会	web開催	1
	9	訪問看護研修「入門プログラム」	群馬県	1
9	第21回 群馬県災害訓練研修	群馬県	1	

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
看護部	月			人
	9	群馬クリティカルケア研究会 集中ケア・クリティカルケア認定看護師研究会セミナー	群馬県	1
	9	院内訪問看護実習	群馬県	1
	9	第29回 日本糖尿病教育・看護学会学術集会	京都府	1
	9	第51回 日本脳神経看護研究学会	福岡県	1
	9	令和6年度大規模地震時医療活動	東京都	1
	9	第55回 日本看護学会 学術集会	熊本県	4
	9	認知症ケア学会	web開催	1
	9	産科～周産期看護研修会	web開催	1
	10	第26回 群馬県内病棟保育士ネットワーク協議会	群馬県	1
	10	訪問看護師養成研修〔ステップⅠ〕	群馬県	1
	10	令和6年度群馬県小児等在宅医療推進連携拠点事業研修会	群馬県	1
	10	2024年度 がん相談支援センター相談員指導者スキルアップ研修	web開催	1
	10	在宅療養支援研修レベルⅢ	群馬県	1
	10	第40回 群馬周産期研究会 理事会及び演題発表	群馬県	1
	10	第25回 NDC公開セミナー	東京都	1
	10	令和6年度 群馬がん看護研究会 スキルアップセミナー	群馬県	4
	10	第62回 全国自治体病院学会in新潟	新潟県	4
	11	感染予防対策リンクナース研修会	群馬県	1
	11	RIFCR研修	群馬県	1
	11	第14回 学会認定・臨床輸血看護師認定試験	大阪府	1
	11	令和6年度東毛ブロック難病患者支援実務者研修	群馬県	1
	11	第28回 群馬県看護学会	群馬県	1
	11	第21回 日本褥瘡学会関東甲信越地方会学術集会	東京都	1
	11	子どもがつくるまち ミニきりゅう 2024職業体験「看護」ブース手伝い	群馬県	1
	11	第33回 日本新生児看護学会学術集会参加	長野県	2
	11	支援が必要な子どもの保健指導(低出生体重児・医ケア・発達障害)	web開催	1
	11	感染症対策研修(感染管理認定看護師としての出前講座)	群馬県	1
	11	日本エンドオブライフケア学会 第7回学術集会	web開催	1
	11	第17回 ストーマリハビリテーション講習会 2024	群馬県	2
	11	第15回 クリティカルケア研究会	群馬県	1
	11	群馬県合同輸血療法委員会輸血関連看護師会 輸血研修会講師及び運営	群馬県	1
	11	第26回 救急看護学会学術集会	東京都	1
	11	訪問看護実習	群馬県	1
	11	医療安全ネットワーク	群馬県	1
	11	令和6年度 児童虐待防止研修	群馬県	2
	11	訪問看護実習	群馬県	1
	11	令和6年度第2回病院看護業務研修会	群馬県	1
	11	第19回 医療の質・安全学会学術集会	神奈川県	1
	11	令和6年度第1回群馬県特定行為研修修了者フォローアップ研修会	群馬県	1
12	医療安全管理者養成研修	群馬県	1	

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
看護部	月			人
	12	群馬県合同輸血療法委員会輸血関連看護師会	群馬県	1
	12	日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所 製造部門及び検査部門、物流の見学	埼玉県	1
	12	感染症対策研修(感染管理認定看護師としての出前講座)	群馬県	1
	12	2023年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル実践報告会	群馬県	2
	1	令和6年度第2回群馬県特定行為研修修了者フォローアップ研修会	群馬県	1
	1	災害支援ナース養成のための研修	群馬県	1
	1	ICLSコース受講	群馬県	1
	1	第22回渋川医療センターICLS	群馬県	1
	2	ELNEC-Jコアカリキュラム すべての看護師のためのエンド・オブ・ライフ・ケア研修会	群馬県	1
	2	日本輸血・細胞学会 I&A視察	群馬県	1
	2	ELNEC-Jクリティカルケアカリキュラム看護師教育プログラム	群馬県	1
	2	ELNEC-Jコアカリキュラム すべての看護師のためのエンド・オブ・ライフ・ケア研修会	群馬県	1
	2	第40回 日本栄養治療学会学術集会	神奈川県	1
	2	第46回 群馬病弱児療育研究会	群馬県	1
	2	令和6年度第5回関東ブロックDMAT技能維持研修	東京都	1
	2	第39回 日本がん看護学会学術集会	北海道	2
	2	令和6年度第3回病院看護業務研修会参加	群馬県	1
	2	第46回 群馬脳卒中医療連携の会本会議兼特別講演会	群馬県	1
	3	関東ブロック訓練	群馬県	3
	3	看護管理DXセミナー看護管理の”今”がわかる	東京都	1
	3	群馬県合同輸血療法委員会輸血関連看護師会 総会及び講演会	群馬県	1
	3	令和6年度 群馬県エイズ対策連携会議	群馬県	1
3	第25回 NDC公開セミナー NANDA- I /NIC/NOCの基本を学ぶ・NNNを事例に展開する	東京都	2	
3	みんなの視点で紡ぐ医療安全教育 看護基礎教育ワークショップ	群馬県	1	
3	グリーフサポート「Grief is normalを知る」研修会	群馬県	1	

(10) 事務

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
総務課	月			人
	6	民間医局レジナビフェア2024東京～臨床・専門研修プログラム～	東京都	1
	10	市町村等人事・給与担当課長会議	群馬県	1
	10	第62回 全国自治体病院学会 in新潟	新潟県	1
経営政策課	6	民間医局レジナビフェア2024東京～臨床・専門研修プログラム～	東京都	1
医事課	2	一般社団法人全国公私病院連盟 第20回DPCセミナー	東京都	1
	6	業務実践講演	群馬県	1
	6	第19回 群馬クリニカルパス研究会	群馬県	3
	10	第24回 日本クリニカルパス学会学術集会	愛媛県	1

所属	開催月	学会及び研修会名	開催地	出席人数
医事課	10月	院内がん登録実務中級者認定試験	群馬県	1人
地域医療連携室	10	令和6年度 群馬がん看護研究会 スキルアップセミナー	群馬県	1

## 2 学会発表・講演・論文

### ◇内科（著書・論文）

種類	タイトル	筆者	掲載誌, 巻号頁, 年月
症例報告	PCCRC 10年後に大腸内視鏡検査を受けた13例、および10年間の変化を同定した4例の大腸腺腫に関する単施設後方視的観察研究	相川 崇	progress of Digestive Endoscopy 105巻 118p, 杏林舎, 2024. 6
論文	Association Between Changes in Serum Uric Acid Level and Plasma Glucose Control Based on 10 Years of Observation in Participants with Normal Glucose Tolerance But Without Obesity	Shuichi O Koji K Junichi O Eijiro Y Kazuya O Tsugumichi S Koji K Tetsuro A Kihachi O	Journal of Ningen Dock San Preventive Medical Care, 2025;12:56-60

### ◇内科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名, 開催地, 年月日
口述発表	肝細胞癌に対するアテゾリズマブ・ベバシブマブ併用療法施行中にS状結腸穿孔を来した1例	吉田昌平 福地 達	日本肝臓学会, 熊本県, 2024. 4
口述発表	B型肝炎無症状キャリア妊婦へ母子感染予防目的に核酸アナログ製剤を投与、出産後に注した後に急性憎悪を来した症例	清水創一郎	日本肝臓学会, 兵庫県, 2024. 10
口演	CS II と isCGMを併用してTIR>80%を達成できている劇症1型糖尿病症例の経過と1型・2型糖尿病の当院の血糖コントロール	加嶋耕二 清水弘行	第67回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京都, 2024. 5
口演	生物学的製剤の変更により嗅覚障害が改善し、経口ステロイドを中止し得たEGPA合併気管支喘息の一例	清水大輔 小野昭浩 原健太郎 大澤 翔 澤田 英 松崎普一 松野敏孝 久田剛志	第11回日本アレルギー学会関東地方会, 東京都, 2024. 6
口演	膵β細胞機能が保たれた緩徐進行1型糖尿病 (SPIDDM) probableに対してGLP-1受容体作動薬が著効している3症例	加嶋耕二 清水弘行	第23回日本先進糖尿病治療・1型糖尿病研究会, 富山県, 2024. 10

### ◇小児科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名, 開催地, 年月日
口述発表	筋緊張低下を契機に遺伝子検査で早期に診断に至ったネマリンミオパチーの1例	吉川晟羽 吉田卓生 山口将邦 齋藤亜希子 関根和彦 浦野博央 袖野玲子 大木康史 荒川篤康 緒方朋実	第60回日本周産期・新生児医学会, 大阪府, 2024. 7
口述発表	妊娠中期の検査で母体梅毒反応陰性であった先天性梅毒症の一例	齋藤亜希子 中島悠吾 松井息吹 新井修平 関根和彦 浦野博央 袖野玲子 大木康史	第225回日本小児科学会群馬地方会, 群馬県, 2024. 7

◇小児科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
口述発表	妊娠中期の検査で母体梅毒反応陰性であった先天性梅毒症の一例	齋藤亜希子 中島悠吾 松井息吹 新井修平 関根和彦 浦野博央 袖野玲子 大木康史	第40回群馬周産期研究会,群馬県,2024.10
口述発表	コロナ禍前後の桐生医療圏での特発性中枢性思春期早発症の推移	中島悠吾 松井息吹 齋藤亜希子 新井修平 関根和彦 浦野博央 袖野玲子 大木康史	第226回日本小児科学会群馬地方会,群馬県,2024.12
講演	ダウン症のある方の健康管理 小児科から成人科への移行	大木康史	日本ダウン症協会群馬支部講演会,WEB,2025.2

◇外科（著書・論文）

種類	タイトル	筆者	掲載誌,巻号頁,年月
分担執筆	Esophageal cancer practice guidelines 2022 edited by the Japan esophageal society: part 1	Yuko K Ryu I Hitoshi I Yoshinori I Takashi O Tsuneo O Ken K Hiroyuki K Hirofumi K Hiroshi K Shiko K Koji K Takashi K Hiroya T Takahiro T Yasushi T Kenji N Eisuke B Tomoki M Satoru M Hisahiro M Masayuki M Keiko M Tatsuya M Manabu M Taiki Y Tomoki Y Masahiro Y	Esophagus, 20(3):343-372, 2023 Jul

◇外科（著書・論文）

種類	タイトル	筆者	掲載誌, 巻号頁, 年月
分担執筆	Esophageal cancer practice guidelines 2022 edited by the Japan Esophageal Society: part 2	Yuko K      Ryu I Hitoshi I    Yoshinori I Takashi O    Tsuneo O Ken K        Hiroyuki K Hirofumi K   Hiroshi K Shiko K      Koji K Takashi K    Hiroya T Takahiro T   Yasushi T Kenji N      Eisuke B Tomoki M     Satoru M Hisahiro M   Masayuki M Keiko M      Tatsuya M Manabu M    Taiki Y Tomoki Y     Masahiro Y	Esophagus, 20(3):373-389, 2023 Jul
分担執筆	Concurrent chemoradiotherapy using proton beams can reduce cardiopulmonary morbidity in esophageal cancer patients: a systematic review	Tetsuo N     Shohei K Hitoshi I     Yoshinori I Kenji N       Ryu I Takashi O     Tsuneo O Ken K        Hiroyuki K Hirofumi K    Hiroshi K Shiko K      Koji K Takashi K    Hiroya T Takahiro T    Yasushi T Eisuke B      Tomoki M Satoru M      Hisahiro M Masayuki Y   Yuko K Esophageal Cancer Practice Guidelines Preparation Committee	Esophagus, 20(4):605-616., 2023 Oct
論文	Conversion Surgery After Chemotherapy Plus Nivolumab as the First-Line Treatment for Unresectable Advanced or Recurrent Gastric and a Biomarker Study Using the Gustave Roussy Immune Score: A Multicenter Study.	Nakazawa N   Sohda M Hosoi N        Watanabe T Kumakura Y    Yamashita T Tanaka N       Saito K Kimura A       Kasuga K Nakazato K    Yoshinari D Shimizu H      Ubukata Y Hosaka H       Sano A Ogata H        Shirabe K Saeki H	Ann Surg Oncol. 2024 Dec;31(13):9023-9029

◇外科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
ポスター	85歳以上の超高齢者における大腸癌手術症例の検討	木村明春 緒方杏一 和田 渉 鈴木一設 森永暢浩 加藤広行	第124回日本外科学会定期学術集会, 愛知, 2024. 4. 20
ポスター	食道癌化学療法中に門脈腫瘍栓を来した1例	田中成岳 東海林久紀 笹本 肇 内田信之	第78回日本食道学会学術集会, 東京都, 2024. 7. 7
座長	消化器癌におけるバイオシミラーの現状と展望	加藤広行	第78回日本食道学会学術集会, 東京都, 2024. 7
会長	日本消化器病学会 関東支部第378回例会	加藤広行	日本消化器病学会 第378回例会, 東京都, 2024. 2
当番世話人	第19回群馬クリニカルパス研究会	緒方杏一	第19回群馬クリニカルパス研究会, メガネのイタガキ文化ホール伊勢崎, 2024. 6. 29
口演	単径ヘルニア術後の大腿ヘルニア嵌頓に対し腹腔鏡併用下に修復術を施行した1例	田中成岳 鈴木一設 緒方杏一 和田 渉 森永暢浩 加藤広行	第9回群馬ヘルニア研究会, 前橋, 2025. 1. 25
パネルディスカッション	Hugo RASシステムを病院で最初のロボットとして安全に導入するための工夫とチームビル	緒方杏一 田中成岳 鈴木一設 和田 渉 森永暢浩 加藤広行 上井崇智 小澤優樹 林 拓磨 岡本亘平 石井企美子 岡本慶太 太田節子 竹澤教人 栗原公美佳 佐藤祥代 加藤優典 黒尾良太	第17回日本ロボット外科学会学術集会, 宇都宮, 2025. 3. 8
講演	消化器がんに対する低侵襲手術、機能温存手術の最前線～手術支援ロボットがその能力を発揮する場面とは～	緒方杏一	桐生厚生総合病院 第30回市民公開講演, 桐生市, 2025. 3. 15

◇整形外科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
講演	脊椎手術の最新知見と骨粗鬆症ケア戦略	角田陽平	骨関節疾患セミナー, 前橋, 2024. 2
講演	骨粗鬆症性椎体骨折治療のコツ～薬物治療から手術治療～	角田陽平	Gunma Spine Expert Seminar, 前橋, 2024. 2

◇整形外科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
講演	骨粗鬆症性椎体骨折の最新知見と治療戦略	角田陽平	北関東Bone Conference, 太田, 2024.4
講演	脊椎手術における止血剤の使いわけ	角田陽平	2nd developing Gunma Orthopedic Surgeon Meeting, 前橋, 2024.6
ポスター	L5椎体圧潰に対してPLIF用Expandable cageを用いて後方から椎体再建を行った2例	角田陽平	第50回日本骨折治療学会 学術集会, 宮城県, 2024.6
講演	進化する脊椎矯正手術～CREOダブルヘッドの魅力～	角田陽平	Surgical Ingenuity with CREO AMP threaded in Deformity, WEB開催, 2024.8
ポスター	ロモソズマブ有効性の比較－骨密度の測定部位による違い－	角田陽平	第26回日本骨粗鬆症学会, 石川県, 2024.9
講演	骨粗鬆症治療 Up to Date～“All桐生”で支える骨粗鬆症治療を目指して～	角田陽平	桐生市骨粗鬆症連携セミナー, 桐生, 2024.10
講演	骨粗鬆症治療のコツ～なぜ“Anabolic First”が重要なのか～	角田陽平	新時代の骨折予防・治療戦略セミナー STOPくりかえし骨折! Special Week Seminar, WEB開催, 2024.10
講演	シームレスな骨粗鬆症治療を目指して～地域連携がもたらす骨粗鬆症治療の未来～	角田陽平	群馬県Severe Osteoporosisセミナー, 前橋, 2024.11

◇脳神経外科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
口演	ACC近傍dual AVFの1例	石井希和 宮本直子 高玉 真 岩井丈幸 内藤 功 横山貴大 荒井幸司	第71回北関東頭頸部血管内手術懇話会, 前橋, 2024.5.18
口演	延髄浮腫を生じた小脳AVMの1例	石井希和 宮本直子 高玉 真 岩井丈幸 内藤 功	第72回北関東頭頸部血管内手術懇話会, 前橋, 2024.11.2
ポスター	出血を繰り返す基底核AVMに対し、LSAからtarget embolizationを行った1例	石井希和 橋場康弘 曲澤 聡 宮本直子 高玉 真 岩井丈幸 内藤 功	第40回日本脳神経血管内治療学会学術集会, 熊本, 2024.11.22

◇乳腺外科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
ポスター	大量オピオイド使用を要した難治性疼痛の4症例の検討	森下亜希子 木村明春 岡本亘平 荒川 浩 五十嵐千代子 栗原麻奈美	第41回群馬県緩和医療研究会,群馬県,2024.6
口演	当院における大量オピオイド使用を要したがん患者の傾向	森下亜希子	第29回日本緩和医療学会学術大会,兵庫県,2024.6
ポスター	抗血栓薬服用継続した乳癌手術の検討	森下亜希子 塩谷智恵 加藤広行	第32回日本乳癌学会学術総会,宮城県,2024.7
口演	乳腺濃度の経時的変化の検討	森下亜希子	第34回日本乳癌検診学会学術総会,群馬県,2024.11
講演	「がん教育講演会」 がんという病気について まずはしることから ～原因、検診、治療～	森下亜希子	がん教育講演会,群馬県,2025.1

◇皮膚科（著書・論文）

種類	タイトル	筆者	掲載誌,巻号頁,年月日
分担執筆	褥瘡	岡田克之	今日の治療指針2025年版, pp. 1, 304-6, 医学書院, 2025. 1. 1
総説	高齢者に多い脚から足の皮膚病変	岡田克之	WOC Nursing 12(4):13-20, 2024, 医学出版, 2024. 10. 1
総説	物理化学的障害 睡眠・鶏眼	岡田克之	Monthly Book Derma.No. 354. 7-15, 2024, 全日本病院出版会, 2024. 11. 15
総説	一般病院におけるフットケア～多職種連携をめざすものの～	岡田克之	日本臨床皮膚科医会雑誌 42(3):415-8, 2025, 日本臨床皮膚科医会, 2025. 4. 15
新聞(連載)	健康設計図：第40回 アナフィラキシー～命に関わるおそれあり～	岡田克之	群馬建設新聞, 日本工業経済新聞社前橋支局, 2024. 4
新聞(連載)	健康設計図：第41回 ポツポツができた！～さまざまな原因あり～	岡田克之	群馬建設新聞, 日本工業経済新聞社前橋支局, 2024. 5

◇皮膚科（著書・論文）

種類	タイトル	筆者	掲載誌, 巻号頁, 年月日
新聞 (連載)	健康設計図：第42回 汗のこと～体温調節だけでなく～	岡田克之	群馬建設新聞, 日本工業経済新聞社前橋支局, 2024. 6
新聞 (連載)	健康設計図：第43回 文字をどう読むか?～目には同じに見えても～	岡田克之	群馬建設新聞, 日本工業経済新聞社前橋支局, 2024. 7
新聞 (連載)	健康設計図：第44回 皮膚のできもの～見ればわかる?～	岡田克之	群馬建設新聞, 日本工業経済新聞社前橋支局, 2024. 8
新聞 (連載)	健康設計図：第45回 休むということ～働くための休養～	岡田克之	群馬建設新聞, 日本工業経済新聞社前橋支局, 2024. 9
新聞 (連載)	健康設計図：第46回 食中毒～夏を過ぎても要注意～	岡田克之	群馬建設新聞, 日本工業経済新聞社前橋支局, 2024. 10
新聞 (連載)	健康設計図：第47回 足の健康を守る3～歩くことの啓発を～	岡田克之	群馬建設新聞, 日本工業経済新聞社前橋支局, 2024. 11
新聞 (連載)	健康設計図：第48回 いかに生きるか～誕生日の意味～	岡田克之	群馬建設新聞, 日本工業経済新聞社前橋支局, 2024. 12
新聞 (連載)	健康設計図：第49回 今年の時流～不易流行の心得～	岡田克之	群馬建設新聞, 日本工業経済新聞社前橋支局, 2025. 1
新聞 (連載)	健康設計図：第50回 節目を迎えて、世代を考える	岡田克之	群馬建設新聞, 日本工業経済新聞社前橋支局, 2025. 2
新聞 (連載)	健康設計図：第51回 骨粗しょう症～しっかり歩きましょう～	岡田克之	群馬建設新聞, 日本工業経済新聞社前橋支局, 2025. 3
新聞 (連載)	オピニオン21：プレゼンしよう！～他者を動かす言葉の力～	岡田克之	上毛新聞, 上毛新聞社, 2024. 4. 21
新聞 (連載)	オピニオン21：ポストコロナ時代～変化恐れず進化続ける～	岡田克之	上毛新聞, 上毛新聞社, 2024. 6. 16

◇皮膚科（著書・論文）

種類	タイトル	筆者	掲載誌, 巻号頁, 年月日
新聞 (連載)	オピニオン21：本を読もう～活字追う魅力伝えたい～	岡田克之	上毛新聞, 上毛新聞社, 2024. 8. 9
新聞 (連載)	オピニオン21：医療新時代～初心忘れず本質捉える～	岡田克之	上毛新聞, 上毛新聞社, 2024. 10. 3
新聞	健康カルテ：世代のこと	岡田克之	タウンわたらせ, 桐生タイムス社, 2024. 7. 6
新聞	健康カルテ：社会への発信	岡田克之	タウンわたらせ, 桐生タイムス社, 2025. 2. 1
群馬県 医師会報	いきいき広場：不易流行の心得	岡田克之	群馬県医師会報第910号 pp57, 群馬県医師会, 2024. 5. 25
群馬県 医師会報	ほっとタイム：医療ホスピタリティ	岡田克之	群馬県医師会報第911号 pp44, 群馬県医師会, 2024. 6. 25
群馬県 医師会報	マイホビー・マイライフ・マイタイム：猫の話	岡田克之	群馬県医師会報第912号 pp55, 群馬県医師会, 2024. 7. 25
群馬県 医師会報	特集（医療DX導入のメリット）：アナログな気持ちで医療DXとか考えてみる	岡田克之	群馬県医師会報第914号 pp50-51, 群馬県医師会, 2024. 9. 25
群馬県 医師会報	編集後記	岡田克之	群馬県医師会報第917号 pp63, 群馬県医師会, 2024. 12. 25
群馬県 医師会報	いきいき広場：足人と書いて“あしんちゅ”	岡田克之	群馬県医師会報第920号 pp48, 群馬県医師会, 2025. 3. 25
雑報	学会報告（同窓会補助）：第17回日本褥瘡学会関東甲信越地方会群馬支部学術大会を開催して	岡田克之	群馬大学医学部刀城クラブ会報第273号, pp10, 群馬大学医学部医学科同窓会, 2024. 4. 20
雑報	プライマリ・ケア医が知っておくべきクイズで学ぶ皮膚科診療の“新常識” 「褥瘡の新常識：創状態のアセスメント」	岡田克之	日本医事新報 No. 5210, 11-13, 2024, 日本医事新報社, 2024. 9. 28

◇皮膚科（著書・論文）

種類	タイトル	筆者	掲載誌, 巻号頁, 年月日
雑報	群馬で日臨皮とともに歩む	岡田克之	日本臨床皮膚科医会雑誌 41(6), 865-6, 2024, 日本 臨床皮膚科医会, 2024. 11. 15
雑報	床ずれ防止プログラムで知識向上を!	岡田克之	床ずれ新聞 vol. 14, pp1, 日本褥瘡学会・在宅ケア 推進協会, 2024. 12. 1
雑報	足と健康～足を見ましょう! 歩きましょう!～	岡田克之	健やかぐんま vol. 47, pp2-3, 群馬県健 康づくり財団, 2025 winter

◇皮膚科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名, 開催地, 年月日
講演	現代のアトピー性皮膚炎～治療とケアと生活指導～	岡田克之	桐生薬剤師会講演会, 桐 生市, 2024. 4. 26
講演	一緒にことば聴きませんか? Part7	岡田克之	MEDぐんま2024, 前橋市, 2024. 5. 12
講演	乾癬治療の今～どう選び、どうつながるか～	岡田克之	乾癬『つながる』セミ ナー, 前橋市, 2024. 5. 23
講演	口から食べることで知っておきたい知識	岡田克之	NTSM食事サポーター講座 in桐生(計3回開催), 桐 生市, 2024. 5. 26, 6. 26, 7. 14
講演	床ずれ予防プログラムの現在・過去・未来	岡田克之	WEBセミナー: ケアマネ ジメントに活かせる床ず れ予防の正しい知識, WEB開催, 2024. 6. 13
講演	ケアマネジャーを支える床ずれ予防プログラム	岡田克之	第10回日本褥瘡学会・在 宅ケア推進協会総会・学 術集会, 横浜市, 2024. 7. 6-7
講演	足人かるたでどうしよう?～あしんちゅの思い～	岡田克之	日本トータルフットマネ ジメント協会第24回足ゼ ミオンライン, WEB開催, 2024. 7. 6
講演	よくみる高齢者の皮膚疾患～乾皮症・褥瘡を中心に～	岡田克之	桐生市医師会学術講演 会, WEB開催, 2024. 7. 10

◇皮膚科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
講演	睡眠薬と転倒・転落の関連をみる～医療安全対策室とのチーム医療～	岡田克之	桐生市医師会学術講演会, WEB開催, 2024. 7. 26
講演	睡眠薬と転倒・転落の関連をみる～医療安全対策室とのチーム医療～	岡田克之	医療の質・安全セミナーin群馬, 前橋市, 2024. 8. 30
講演	読む	岡田克之	第7回まえばしプレゼンごっこ部, 前橋市, 2024. 8. 31
講演	皮膚科で関わる神経障害性疼痛～帯状疱疹と糖尿病足病変を中心に～	岡田克之	第12回特別養護老人ホーム配置医師の会学術講演会, 伊勢崎市, 2024. 9. 4
講演	みんなで活かそう！床ずれ予防プログラム～防いで、治して、幸せに～	岡田克之	第37回日本在宅医療連合学会褥瘡・創傷管理オンライン研修会, WEB開催, 2024. 9. 18
講演	病院皮膚科から地域に向けた働きかけ	岡田克之	第31回神奈川県皮膚科医会在宅医療勉強会, 横浜市, 2024. 9. 19
講演	足をみる。誰がどうみる？	岡田克之	第38回群馬県糖尿病セミナー, 藤岡市, 2024. 9. 23
講演	皆が褥瘡で苦しまないために～二三の大切なアセスメント～	岡田克之	日本在宅医療連合学会第6回地域フォーラム四国, 高松市, 2024. 10. 13-14
講演	乾癬の治療戦略と病診連携の重要性	岡田克之	桐生市医師会乾癬病診連携セミナー, 桐生市, 2024. 10. 29
講演	床ずれ予防プログラムの向こう側	岡田克之	日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会2024年度関東甲信越地区床ずれセミナー, 東京都, 2024. 11. 9
講演	床ずれ予防プログラムって何？～知識とスキルと連携と～	岡田克之	佐賀県保険医協会医科研究会, WEB開催, 2024. 12. 4
講演	きょうの足あしたの足 筋肉維持で健康な人生	岡田克之	令和6年度前橋市地域包括支援センター西部第4回他職種協学事例検討会, 前橋市, 2024. 12. 11
講演	足をみることの大切さ～フットケアの三位一体～	岡田克之	第16回日本褥瘡学会在宅褥瘡セミナー栃木県, 佐野市, 2025. 1. 18

◇皮膚科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
講演	足のカルタのお話です	岡田克之	ASHISM2025, 前橋市, 2025. 2. 24
講演	支部長講演：足人かるたで遊んで学ぼう！～ぐんま初の市民啓発～	岡田克之	第18回日本褥瘡学会関東甲信越地方会群馬支部学術大会, 前橋市, 2025. 3. 2
シンポジウム	三位一体のフットケア：一般病棟におけるフットケア～多職種連携をめざすものの～	岡田克之	第40回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会, 宇都宮市, 2024. 4. 20-21
シンポジウム	勤務医委員会企画：ここに長く勤めていて思う～チーム医療との関わり～	岡田克之	第40回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会, 宇都宮市, 2024. 4. 20-21
シンポジウム	comfortableからgrowth zoneへ活動の幅を広げよう：クラファンで創る「足人かるた」の現在・過去・未来～ぐんまでなんかやりてんねえ！～	岡田克之 木嶋千枝	第3回日本フットケア・足病医学会関東・甲信越地方会, さいたま市, 2024. 4. 28
シンポジウム	栄養をみる、創傷をみる：多職種で取り組みたい足病対策～足人かるたで市民啓発！～	岡田克之	日本栄養治療学会関東支部第10回支部学術集会, 高崎市, 2024. 6. 9
シンポジウム	社会を啓発するチカラ～次代に向かう発信力～：市民啓発の方法論「足人かるた」を作ろう！	岡田克之	第26回日本褥瘡学会学術集会, 姫路市, 2024. 9. 6-7
シンポジウム	在宅におけるサステイナブルな褥瘡予防プログラムの実装～ケアマネジャーとの協議～：床ずれ予防プログラム委員会の動き～日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会での取り組み～	岡田克之	第26回日本褥瘡学会学術集会, 姫路市, 2024. 9. 6-7
シンポジウム	足病診断学「この足病は何の病気？」炎症編：足がこんなに赤いのは？～“ほのお”と書いて炎症～	岡田克之	第5回日本フットケア・足病医学会年次学術集会, 神戸市, 2024. 11. 29-30
口述発表（筆頭）	人工肛門閉鎖部位の粘膜遺残より生じたと考えられた皮膚大腸癌の1例	中島理子	第40回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 宮崎市, 2024. 5. 10-11
口述発表（筆頭）	小腸出血を合併した抗NXP2抗体（抗MJ抗体）陽性成人皮膚筋炎の1例	中島理子	第54回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会, 福島市, 2024. 12. 20-22
口述発表（筆頭）	健康寿命の延伸に向けて足病の啓発をどう進めるか？～「足人かるた」というツールあり～	岡田克之	日本医療マネジメント学会第12回群馬県支部学術集会, 前橋市, 2025. 1. 26
口述発表（筆頭）	一皮膚科医としてフットケアにどう取り組んでいけるか	岡田克之	第119回日本皮膚科学会群馬地方会, 前橋市, 2025. 3. 23

◇皮膚科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
口述発表 (共同)	褥瘡対策におけるポジショニングの理解と実践～ポジショニングの標準化による実践の変化を知る～	岡田克之	第21回日本褥瘡学会関東甲信越地方会学術集会,東京都,2024.11.9
口述発表 (共同)	糖尿病フットケア外来、開設15年間の活動報告	岡田克之	第5回日本フットケア・足病医学会年次学術集会,神戸市,2024.11.29-30
口述発表 (共同)	年齢や運動習慣がもたらす足趾運動機能との関係～啓発活動者が意識すべきもの～	木嶋千枝 岡田克之	第5回日本フットケア・足病医学会年次学術集会,神戸市,2024.11.29-30
展示発表 (筆頭)	足人（あしんちゅ）かるたで足に関する市民啓発をめざす	岡田克之	第123回日本皮膚科学会総会,京都市,2024.6.6-9
展示発表 (共同)	当院における睡眠薬の使用状況と転倒・転落との関係について	大手直樹 岡田克之	第26回日本医療マネジメント学会学術総会,福岡市,2024.6.21-22

◇泌尿器科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	掲載誌,巻号頁,年月日
口演	桐生厚生総合病院における手術支援ロボット“Hugo”導入報告	上井崇智 小澤優樹 林 拓磨 岡本亘平	第97回日本泌尿器科学会群馬地方会,群馬県,2024.11
口演	難治性尿路真菌症に対してアムホテリシンBの局所洗浄を施行した2例	小澤優樹 橋本飛鳥 林 拓磨 岡本亘平 上井崇智	第97回日本泌尿器科学会群馬地方会,群馬県,2024.11
口演	桐生厚生総合病院における手術支援ロボット“Hugo”導入報告	上井崇智 小澤優樹 林 拓磨 岡本亘平	第29回群馬県内視鏡外科研究会,群馬県,2025.1
口演	膀胱破裂に対して腹腔鏡下膀胱修復術を施行した1例	小澤優樹 林 拓磨 岡本亘平 上井 崇智	第98回日本泌尿器科学会群馬地方会,群馬県,2025.2

◇産婦人科（著書・論文）

種類	タイトル	筆者	掲載誌,巻号頁,年月日
症例報告	腹式単純子宮全摘術後に発生した膀胱腔瘻に対して経腔的膀胱腔瘻修復術を行った一例	松田知子 鏡 一成 矢崎 淳 塚越真由	群馬県産婦人科医学会誌,32(1):27-32,2024

◇産婦人科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
症例報告	Zoom®を利用してリアルタイムに超音波画像を共有し、診療方針の決定を行った胎児胸部異常疑いの一例	齋藤史織 周藤 周 鏡 一成 上原理沙 京谷琢治 木暮さやか 諏訪裕人 塚越真由	第183回群馬県産婦人科学会群馬県産婦人科医会集談会,前橋,2024.10.5

◇リハビリテーション科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
座長	リハビリテーション/運動療法/身体機能,栄養	有阪真由美	第69回日本透析医学会学術集会・総会,神奈川県,2024.6

◇薬剤部（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
ポスター	当院における睡眠薬の使用状況と転倒・転落との関係性について	大手直樹	第26回日本医療マネジメント,福岡市,2024.6
口演	当院における泌尿器科レジメン	細谷 潤	第25回オンコロジーファーマシスト研究会,桐生市,2025.3

◇放射線技術科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
口述発表	MAGNETOM Altea使用経験と人工知能再構成の撮影条件の検討	藤生敦哉	第25回群馬CT・MRI研究会,前橋,2024.8
口述発表	MRIのdeep learning reconstructionの異なる条件におけるラダー法を用いた空間分解能評価	藤生敦哉	第71回放射線技術学会関東支部研究発表大会,高崎,2024.12
講演	実務者から見た核医学におけるタスクシフト/シェアの導入と運用	藤生敦哉	第71回放射線技術学会関東支部研究発表大会,高崎,2024.12
講演	世話人施設プロトコル比較～腰椎・腰髄編～	藤生敦哉	2024年度群馬MAGNETOM研究会,伊勢崎,2025.1

◇中央検査科（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
講演 (共同)	I&Aの視察について	横濱章彦 渡邊千秋 加藤裕一 梶田幸夫 飛田 規 水島智子 坊池義浩 土居靖和 鷹野壽代	第72回日本輸血・細胞学会 学会学術総会, 東京都, 2024. 5
口述発表	群馬県公式アプリ「G-WALK+」を活用 した取り組み	梶田幸夫 野上智治 山岸 徹 金井敬幸 長岡 出 関根美智子 井田伸一	令和6年度 日臨技 関甲 信支部・首都圏支部医学 検査学会（第60回）, 長 野県, 2024. 10
口述発表	STACIA CN10を用いたクロスミキシングテストの 実際と数値判定法を併用した結果報告 について	今泉智博 矢島千晶 小森谷勇人 中島美紀 田村典子 梶田幸夫	第68回群馬県医学検査学 会, 高崎市, 2024. 12
口述発表	日本輸血・細胞治療学会の輸血機能評 価認定制度（I & A制度）を受審して	矢島千晶 小森谷勇人 中島美紀 今泉智博 田村典子 梶田幸夫	第68回群馬県医学検査学 会, 高崎市, 2024. 12
口述発表	当院における肝炎ウイルス陽性患者へ の対応について	渡邊 陸 太谷修平 長嶋友海 根岸早紀 繁田尚香 高田 剛 鈴木晶子 梶田幸夫	第68回群馬県医学検査学 会, 高崎市, 2024. 12
講演	能登半島地震における臨床検査技師に よる活動と県内の災害対策	高田 剛	第68回群馬県医学検査学 会, 高崎市, 2024. 12
講演	検査室における医療安全の必要性、臨 床検査技師に求められる医療安全の知 識・スキル、教育現場へ求めるもの	鈴木晶子	臨床検査技師育成におけ る医療安全教育FD, WEB 開催, 2025. 3

◇呼吸器サポートチーム・RST（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
口演	主体性のあるRST活動を目指して	小野昭浩	第34回日本呼吸ケア・リ ハビリテーション学会学 術集会, 名古屋, 2024. 11. 16
講義	チーム医療論～当院RST活動の紹介～	岩澤恵美	大学授業講義, 桐生, 2024. 12. 3

◇看護部（学会発表・講演）

種類	演題名	演者・発表者	学会名,開催地,年月日
口演	終末期がん患者の家族支援における、 がん看護専門看護師の関り ～アキュラとメズミックの危機の問題解 決モデルを用いての考察～	荒川 浩 高橋三美 岡田牧子	第20回群馬がん看護 フォーラム, 前橋市, 2024. 6
示説	スピリチュアルペインを抱えた終末期 がん患者への看護支援 -村田理論を活用して-	荒川 浩	第41回群馬緩和医療研究 会, 高崎市, 2024. 6
示説	重層的支援対象者となった親子との関 わり -病院としてできる支援について考え る-	五十嵐千代子 岡田牧子	第41回群馬緩和医療研究 会, 高崎市, 2024. 6
示説	終末期がん患者の家族支援における、 がん看護専門看護師の関り ～アキュラとメズミックの危機の問題解 決モデルを用いての考察～	高橋三美 荒川 浩 岡田牧子 岡村美幸	第26回医療マネジメント 学会, 福岡, 2024. 6
示説	医療的ケア児の退院支援における訪問 看護師とGCU看護師の連携の現状 ～訪問看護師へのインタビュー調査か ら～	福島真由美 小林葉子 布川 純 吉澤真由美	第55回日本看護学会学術 集会, 熊本, 2024. 9
示説	外来における効果的な支援体制の構築 に向けて ～QC技法を用いた対策の検討～	西場里香 大川三登利	第55回日本看護学会学術 集会, 新潟, 2024. 10
示説	終末期がん患者との死にまつわる対話 への看護師の困難感軽減に向けた教育 プログラムの開発	京田亜由美 瀬沼麻衣子 近藤由香 塚越徳子 小池 瞬 荒川 浩 小林智美 清原 文 野村亜矢 八木智子 神田清子	第39回日本がん看護学会 学術集会, 札幌, 2025. 2
示説	抗がん剤治療で頭皮冷却装置を用いる ことを選択した乳がん患者の導入から 完遂までの体験	西場里香 太田小百合 萩原亜矢子 多田理恵	第39回日本がん看護学会 学術集会, 札幌, 2025. 2

### 3 主な講演会・研修会

#### (1) 医薬品安全委員会

開催日	研修名	演題名	開催地	講師	参加人数
2/7～ 3/14	医薬品安全研修会	薬剤情報の調べ方 ー医薬品添付文章ー	e-ラーニ ング	ナーシングス キル	人 449

#### (2) 医療安全対策委員会

開催日	研修名	演題名	開催地	講師	参加人数
4月1日	新入職者研修	医療安全の基礎知識 患者認証の基本 薬剤について	講堂	高橋 紀子 橋本 綾子 森田由香利	人 20
4月1日	新人研修	医療安全基礎 IRISについて	講堂	高橋 紀子	12
5月23日	新人研修	KYTについて	講堂	セーフティ委員 坂本 雅美 橋本 綾子	5
6月1日	医療安全研修	IMSAFER分析	講堂	伊勢崎市民病院 塚原 みどり	39
6月5日	医療安全研修 レベルⅠ	事故分析の基礎知識 KYTについて	講堂	セーフティ委員 橋本 綾子	7
6月7日	医療安全研修 レベルⅢ	安全文化の醸成について 自部署の問題を解決する には	講堂	野村 美菜子	17
6月13日	パース大学 医療安全研修	病院の医療安全	放射線 技師室	高橋 紀子	4
6月17日	静脈注射院内認定 看護師育成	静脈注射に関する 安全管理について	5東 会議室	高橋 紀子	4
6月27日	新人研修	新人の起こしやすい事故	講堂	高橋 紀子	5
7月17日	研修医勉強会	医療安全管理	講堂	高橋 紀子	8
7/24～ 8/9	第1回医療安全研修	RRS概論	e-ラーニ ング	セーフティプ ラス	
9月3日	出前講座	医療安全について KYT インシデントアクシデン トレポート	桐生協立 診療所	高橋 紀子	10

開催日	研修名	演題名	開催地	講師	参加人数
10月8日	桐生高等看護学校 統合実習	医療安全の基礎知識	講堂	高橋 紀子	21
11月5日	医療安全研修 レベルⅢ	安全文化の醸成 最終評価	講堂	セーフティ委員会	17
11月12日	医療安全研修 レベルⅡ-1	ImSAFER分析 ・時系列事象関連図の作成 ・問題点の抽出	講堂	高橋 紀子 セーフティ委員 会	28
11月13日	看護補助者として 就業するための基 礎研修	病院の医療安全	講堂	高橋 紀子	10
11月13日	事務部勉強会	病院の医療安全	講堂	高橋 紀子	56
12月6日	医療安全研修 レベルⅡ-2	ImSAFER分析 ・背後要因分析	講堂	高橋 紀子 セーフティ委員 会	28
1月29日	委託業者研修	病院の医療安全	講堂	高橋 紀子	28
2月4日	医療安全研修 レベルⅢ	安全文化の醸成 最終評価	講堂	高橋 紀子 セーフティ委員 会	15
2月4日	医療安全研修 レベルⅢ	安全文化の醸成 最終評価	講堂	高橋 紀子 セーフティ委員 会	15
2/14～ 2/28	医療安全研修	医療安全の3つの柱 ・人は誰でも間違える ・失敗から学ぶ ・情報を共有する	e-ラーニ ング	セーフティプ ラス	

### (3) 感染対策委員会

開催日	研修名	演題名	開催地	講師	参加人数
4月2日	オリエンテーショ ン	感染対策の基礎知識	講堂	須永泰明	20人
5月23日	看護部現任教育委 員会研修会	針刺し切創・皮膚粘膜汚 染	講堂	須永泰明	5
6月13日	パース大学放射線 科講義	放射線科における感染管 理	放射線科 休憩室	山田あゆり	4
6月17日	静脈注射院内認定 看護師レベルⅡ研 修	点滴に関する感染管理留 置針の留置期間 静脈血液培養について	講堂	山田あゆり	5
6月27日	高齢者施設等リー ダー育成研修会①	標準予防策と感染経路別 予防策	桐生保健 福祉事務 所	山田あゆり 須永泰明	38
7月23日	高校生セミナー	「感染対策について」 手洗いチェッカー手技	講堂	須永泰明	4

開催日	研修名	演題名	開催地	講師	参加人数
8月2日	合同カンファレンス	2023年度 薬剤部・検査部活動報告 感染対策実施状況 その他（外来感染対策向上 上加算提出データ報告）	講堂 ZOOM	ICT・AST	65施設
8月23日	高齢者施設等リーダー育成研修会②	感染症別感染対策 職業感染対策	桐生保健 福祉事務 所	山田あゆり 須永泰明	38
8月28日	高崎健康福祉大学 看護実践開発センター 感染管理認定看護師 教育課程講義	領域別感染対策（手術 室） 手術部位感染対策 手術部位感染サーベイラ ンス	高崎健康 福祉大学	山田あゆり	30
9月5日	出前講座	高齢者施設の感染対策	住宅有料 老人ホー ムリスト ピア	山田あゆり	24
9月10日	専門コース研修	尿道留置カテーテルの取 り扱い	講堂	須永泰明	11
9月11日	事務部勉強会	感染防止対策について	講堂	須永泰明	42
10月9日	桐生高等看護学院 講義	感染管理の取り組み	桐生高等 看護学院	山田あゆり	30
10月18日	専門コース研修	感染疾病別感染対策	講堂	山田あゆり	21
10月16日 10月28日 ～11月29 日	第1回感染対策研修	糖尿病患者を診る際に役 立つ感染対策のポイント	講堂 ZOOM eラーニ ング	ICT・AST	558
10月21日 10月28日	桐生高等看護学院 講義	感染対策総論	桐生高等 看護学院	山田あゆり	30
10月24日	高齢者施設等リーダー 育成研修会③	実習「防護具・嘔吐処 理」 演習「新型コロナウイルス クラスター発生時の対 応」	桐生保健 福祉事務 所	山田あゆり 須永泰明	38
10月30日 ～11月28 日	高崎健康福祉大学 看護実践開発セン ター 感染管理認定看護師 教育課程講義	実習受け入れ		山田あゆり	2
11月13日	看護補助者確保対 策研修	看護補助者における感染 防止講義・演習	講堂	須永泰明	10

開催日	研修名	演題名	開催地	講師	参加人数
11月13日	出前講座	COVID-19対策、感染性下痢への対策について	特別老人ホームしみずの里	須永泰明	22
12月4日	看護補助研修	感染防止対策について	講堂	須永泰明	19
12月10日	合同訓練	桐生地域新興感染症発生時対応訓練	講堂 ZOOM	ICT・AST	59施設
12月18日	出前講座	感染対策の基本 COVID-19対策について	講堂 ZOOM	須永泰明	27
1月29日	出前講座	高齢者施設における感染対策	特別養護老人ホームクララトーホー	山田あゆり	17
1月29日	委託業者勉強会	感染防止対策について	講堂	須永泰明	28
2月14日 ～3月14日	第2回感染対策研修	①職業感染防止対策 ②抗菌薬の適正使用について	eラーニング	ICT・AST	
3月12日	出前講座	感染対策研修 ケアマネージャーに必要な感染対策	桐生総合福祉センター	山田あゆり	27

## 4 研修実績

### (1) 院内学術集談会

	開催日	内 容
第 回 338	令和 6.6.25 (火)	<p>1 当院における急性期脳梗塞に対する脳血栓回収術 脳神経外科 橋場康弘 石井希和 曲澤聡</p> <p>2 de novo 肝炎とその対策について 内科 福地達</p>
339	6.9.24 (火)	<p>1 ロボット支援下手術導入報告 ～ロボット支援下前立腺全摘除術～ 泌尿器科 上井崇智 小澤優樹 林拓磨 岡本亘平</p> <p>2 妊娠中期の検査で母体梅毒反応陰性であった 先天梅毒症の一例 小児科 松井息吹 中島悠吾 新井修平 齊藤亜希子 関根和彦 浦野博央 大木康史</p>
340	6.12.24 (火)	<p>1 尿管ステントカテーテル挿入下の手術中に尿管離断 吻合修復した、卵巣癌および巨大子宮筋腫の一例 産婦人科 周藤周 鏡一成 齋藤史織</p> <p>2 手術支援ロボットHugo RASシステム導入の 道程とチームビルディング 外科 緒方杏一 田中成岳 鈴木一設 和田渉 森永暢浩 加藤広行</p>
341	7.3.25 (火)	<p>1 声門上器具について 麻酔科 塚越裕</p> <p>2 脳食いアメーバによる髄膜脳炎 群馬県確認第一例目の剖検例 病理検査室 城下尚 伴聡</p>

(2) C. P. C (臨床病理検討会)

	開催日	内 容
第 回 180	令和 6.10.22 (火)	<p>《主病変》</p> <p>肺アスペルギルス症、膿瘍形成性気管支肺炎 左肺上葉のアスペルギローマ(径12cm)</p> <p>左肺下葉、右肺上葉アスペルギルス症 (Aspergillus fumigatus) 気管支肺炎、膿瘍化、器質化肺炎 (左500g:右440g)左胸水 30ml</p> <p>《副病変》</p> <p>1 心褐色萎縮(260g) 心のう液(50ml) 心嚢炎 2 肺うっ血、肝細胞萎縮(960g) 3 腎うっ血(左160g, 右160g) 4 慢性増殖性脾炎(120g) 5 大腸憩室症 6 副腎萎縮 7 大動脈粥状硬化症 8 皮膚の低栄養状態</p> <p>《死因》</p> <p>肺アスペルギルス症に加えて気管支肺炎および 気管支肺炎の膿瘍化による呼吸不全</p>

(3) 剖検状況

剖検No. 月日	年齢	性別	科名	臨床診断	病理解剖学的診断
1037 6月18日	65才	M	内科	肺アスペルギルス 症	肺アスペルギルス症 膿瘍形成性気管支肺炎 左肺上葉アスペルギローマ 1. 心褐色萎縮 2. 肝うっ血 3. 腎うっ血

## (4) 院内勉強会・研修会

## ① 医療技術部 院内勉強会

開催月	名称	担当者	参加人数
月			人
4	X線TV室の紹介	放射線技術科	22
5	回復期リハビリテーション病棟について	リハビリテーション技術科	42
6	呼吸療法業務の紹介	臨床工学科	32
7	入院給食について	栄養管理科	33
9	輸血部門の紹介	中央検査科	22
10	DPCと核医学について	放射線技術科	23
11	地域リハビリテーションの紹介	リハビリテーション技術科	28
12	高気圧酸素治療の紹介	臨床工学科	18
1	栄養食事指導について (2型糖尿病)	栄養管理科	20
2	周術期口腔ケアについて	歯科衛生室	19
3	病理細胞診検査について	中央検査科	21

## ② 薬剤部 院内勉強会

開催月	名称	担当者	参加人数
月			人
6	クイントバック水性懸濁注射用	外部講師	15
6	アブストラル舌下錠	外部講師	16
9	ベイフォータス筋注50mgシリンジ・100mgシリンジ	外部講師	12
10	ビロイ点滴静注用100mg	外部講師	14
10	レプロジル皮下注用25mg/75mg	外部講師	13
3	ヘマンジオルシロップ小児用0.375%	外部講師	12
3	アブリスボ筋注用	外部講師	13

## ③ リハビリテーション技術科 院内勉強会

開催月	名称	担当者	参加人数
月			人
6	症例検討「デスクンファ」	小林	9
6	文献抄読「肩関節」	黒澤	5
6	呼吸器疾患の患者様の統計について	橋場	3
7	全体構造法について	荒牧	15
7	文献抄読「肩関節」	橋場	5
7	パーキンソン病について	佐藤	5
7	深部静脈血栓症について	星野	9
7	人工呼吸器患者へのRSTの役割について	広木	3
8	症例検討「小児」	新井・登坂	6

開催月	名称	担当者	参加人数
月			人
8	オピオイドについて	吉田	8
8	高次脳機能障害	小池	10
8	尿の色と考えられる疾患	丹羽	5
9	症例検討「小児」	新井	6
9	急性期と回復期での取り組み	田端	11
9	不眠と薬剤	勝山	5
9	症例検討「脳転移」	村岡	8
9	息切れと呼吸困難	木村	3
10	脳卒中急性期における離床の診方	村岡	10
10	腎リハの概論について	臼田	5
10	がんのリスク管理	土澤	8
10	呼吸指導のパンフレット紹介～呼吸の自主トレ、セルフケア～	橋場	3
11	カニューレについて	鈴木	10
12	乳癌の化学療法・治療について	土澤	8
12	人工呼吸について～基本的な用語、設定について～	広木	3
12	ペアトレについて	新井	6
12	外来呼吸リハの取り組みについて	橋場	3
1	中咽頭癌について	井田	9
2	がんと栄養	石川	8
3	肩関節について	黒澤	8
3	介護保険について	瀬谷	10

④ 放射線技術科 院内勉強会

開催月	名称	担当者	参加人数
月			人
6	PDR MIBGについて	外部講師	10
7	PDR カーディオデオポについて	外部講師	12
2	Centargo CTインジェクションシステムについて	外部講師	6

⑤ 中央検査科 院内勉強会

開催月	名称	担当者	参加人数
月			人
4	MINOCAとINOCA	大川	17
5	2級臨床検査士（血液学）対策	ベックマン コールター 社	7
5	最近話題の予防接種について、いくつか・・・	藤生	18
6	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	星野	14

7	臨地実習報告会	臨地実習生 4名（群馬 パース大 学）大澤・ 木村・中 村・早川	21
7	ヘアドネーションについて	中野	14
8	インスリン抵抗性と分泌能について	根岸	14
9	PFASとは？健康への影響は？	小森谷	12
10	心電図 パニック値について	高木	11
11	言葉ダイエット	長嶋	12
12	血液塗抹標本作製について	矢島	11
1	肝炎医療コーディネーターの紹介	渡邊	14
3	臨地実習報告会	臨地実習生 （帝京大 学）安達	10
3	院内マニュアル等の格納場所変更について	梶田	10

⑥ 臨床工学科 院内勉強会

開催 月	名称	担当者	参加 人数
月			人
5	ラジオメーター PC02モニターデモ	院外講師	5
7	カンガルーポンプデモ	院外講師	6
7	経腸栄養ポンプ Amikaデモ	院外講師	6
7	ICU CRRTレクチャー	加藤	15
8	HFTデバイス勉強会	加藤	4
8	フクダ電子手動式除細動器	院外講師	6
10	nCPAPドライバーCNO	院外講師	20
10	シーメンス血ガス装置デモ	院外講師	10
3	NICU AIRVO勉強会	木村	13

⑦ 事務部 院内勉強会

開催 月	名称	担当課	参加 人数
月			人
5	事務部門の役割	院長	61
	病院政策課の業務について	経営政策課	40
6	診療報酬制度について	医事課	58
	情報システム推進系の業務について	医事課	38
7	契約管財課の業務について	契約管財課	39
8	事業報告「手術支援ロボットの導入」等	総務課	45
	市町村共済に関する業務について	総務課	42
10	病院指針について	医事課	56

11	経営政策課の業務について（出納業務）	経営政策課	34
12	事業報告「病院経営強化プラン」	経営政策課	51
	医事課の業務について	医事課	33
1	電子処方箋と医療DXについて	医事課	53
	地域医療連携室の業務について	地域医療連携室	35
2	健康診断の種類と構成について	検診室	38
3	契約管財課 施設系の業務について	契約管財課	33

⑧ 医療技術部・事務部合同 院内勉強会

開催月	名称	担当課	参加人数
月			人
4	第2回ダイアログ・カフェ（テーマ：地域に愛される病院になるために）	医療技術部 事務部管理職	25
6	第3回ダイアログ・カフェ（テーマ：地域に愛される病院になるために）	医療技術部 事務部管理職	20
7	薬剤師（部）の現状と、今後の展望について	薬剤部	49
9	感染防止対策について	感染対策室	42
	第4回ダイアログ・カフェ（テーマ：地域に愛される病院になるために）	医療技術部 事務部管理職	23
11	病院の安全管理	医療安全対策室	42
2	リハビリテーションとは	リハビリテーション技術科	49
	第5回ダイアログ・カフェ（テーマ：地域に愛される病院になるために）	医療技術部 事務部管理職	20
3	訪問看護について	訪問看護室	43

⑦看護部

・看護研究発表会

演題名	担当部署	発表者・共同研究者
短時間で的確な意思疎通を図るための分娩期支援の課題	4階西病棟	坂庭梓 射越智子 杉田藍子 井上理恵 大川里美
デスカンファレンスにおける実施方法の改善と勉強会の評価	7階西病棟	樋下田和希 高木愛 小島陽子 石原渉太 伊藤さやか
在宅療養支援における急性期病棟看護師の実践衣関する現状調査	訪問看護室	田中愛 竹澤玲子 村田絹代
看護計画立案前に患者基礎情報の記録の追加入力ができない要因を知る～回復期リハビリテーション病棟から退院に向けた看護ケアを目指して～	6階西病棟	長岡百合子 浅井眞夕美 戸谷瑠実香 渡辺貴子
A病院ICUにおける身体的拘束最小化に向けての現状調査	ICU	関沢圭祐 清水友美 川田直也 岡田理絵子
育児休暇を取得した父親に対する母親の期待と現状～新生児センターを退院した児の母親への調査から～	GCU	武井深雪 小林早苗 鶴谷明恵 柳香織
A病院のタスクシフト/シェアにおける看護師・看護補助者の現状調査から得た課題	5階西病棟	金子理恵 小坂橋絵里香 川田愛美 本橋由香
終末期がん患者とヤングケアラーとなった高校生の子への支援 -渡辺式家族アセスメントモデルを用いて重層的支援対象となった家族の全体像を捉える-	地域医療連携室	清水直美 五十嵐千代子 齋藤昌子
A病院救急体制の問題点と改善に向けた取り組み	救急治療室	岡村佳恵 田澤博枝 新国尚香
せん妄のある患者に対する身体抑制解除に向けた看護援助を振り返る	3年目	吉田美紀 伊藤日菜 世取山美帆

・教育研修

(ア) 現任教育委員会

研修名	対象者	目的	内容	実施日
新人研修	卒後1年目 看護師	職業人としての自覚を養うと共に、患者への安全・安楽な看護実践ができる	接遇、組織の一員としての役割、看護実践、感染、医療安全、記録、倫理、スキンケア、多重課題等。	4月 1, 2, 3
				5月 23
				6月 27
				10月 21
				11月 19
				2月 18

看護論	レベルⅡを目指す看護師	理論的知識と臨床経験を患者家族のケアの場面で統合できる	看護論について。看護論を用いての課題事例討議。	6月 14 7月 12 10月 11 1月 17
メンバーシップ	レベルⅡを目指す看護師	自分の持てる力を十分発揮しながらチームの一員として行動できる	メンバーシップの役割を理解する。コミュニケーションスキルを磨く。チームメンバーとしての行動を振り返り役割を考える。	5月 16 6月 20 9月 26 2月 13
チーム支援	レベルⅠ認定以上の看護師	チーム支援シップを発揮して現場で活かせる	チーム支援シップを理解する。自己のチーム支援シップを振り返る。事例検討	4月 25 5月 24 8月 8 10月 24 2月 17
リーダー	レベルⅢを目指す看護師	日替わりリーダーとしての役割を理解し、リーダーシップを発揮できる	リーダーの役割を学ぶ。自己の行動パターンを分析し弱点を知る。ケアの受け手のニーズにこたえる。PDCAサイクルをまわす。	5月 9 6月 6 10月 4 2月 7
チームリーダー	レベルⅢを取得し、レベルⅣを目指す看護師	社会情勢と病院経営を理解し、病院組織の一員としてリーダーシップを発揮できる	病院経営の視点で問題を明確化し具体化していく。職場で抱える問題の解決に向けた目標発、意見交換。	5月 29 6月 26 7月 17 10月 17 2月 6
リーダーレベルⅤ	レベルⅣを取得し、レベルⅤを目指す看護師	リーダーレベルⅤ取得看護師として役割モデルとなる	4つの力（ニーズをとらえる力、ケアする力、協働する力、意思決定を支える力）について考え、それを踏まえて行った看護について症例発表。	5月 17 7月 5 9月 27 11月 11 1月 20
コーチング	レベルⅡを取得し、レベルⅣ取得を目指す看護師	地域に愛され、長期的に存続できる、持続可能な病院を職員のプライドと対話で創る	聴く力～心に寄り添う技術、アサーティブコミュニケーション、コーチングについて、プロジェクト目標設定と実施評価、成果報告会	9月 2 10月 1 11月 25 12月 23 1月 23
看護助手	看護助手	看護助手としての必要な知識・技術を習得し業務を円滑に行なうことが出来る	病院組織とチーム医療における役割、看護補助者の業務上の責任、倫理、医療安全、感染対策、労働安全衛生、環境調整、全身清拭、寝衣交換、排泄援助、食事援助、安楽の確保、移動の援助、安全に関する基礎知識と技術	4月 3 5月 1 6月 5 7月 3 8月 7 9月 4 10月 2

フィジカルアセスメントⅠ	レベルⅡを目指す看護師	急変予兆を見抜くフィジカルアセスメントについて学び、各々のレベルで看護実践に活かすことができる	講義と実技	6月 18
フィジカルアセスメントⅡ	レベルⅢを目指す看護師	急変予兆を見抜くフィジカルアセスメントについて学び、各々のレベルで看護実践に活かすことができる	講義と実技	8月 29
フィジカルアセスメントⅢ	レベルⅣを目指す看護師	急変予兆を見抜くフィジカルアセスメントについて学び、各々のレベルで看護実践に活かすことができる	講義と実技	10月 30
フィジカルアセスメントⅣ	レベルⅤを目指す看護師	急変予兆を見抜くフィジカルアセスメントについて学び、各々のレベルで看護実践に活かすことができる	講義と実技	11月 6

(イ) 在宅療養支援委員会

研修名	対象者	目的	内容	実施日
在宅療養支援研修レベルⅠ	レベルⅡ以上を目指す人	在宅療養に関する知識を習得し、指導を受けながら退院支援を実践することができる	入退院支援における病棟看護師の役割、病棟看護師が行う入退院支援、事例紹介、意見交換、発表、研修を通しての学びの整理と共有	8月 22
在宅療養支援研修レベルⅡ	レベルⅢ以上を目指す人	患者・家族の状況に沿った意思決定支援・在宅療養支援において指導的役割を果たすことができる	入退院支援における病棟看護師の役割、病棟看護師が行う入退院支援、事例紹介、意見交換、発表、研修を通しての学びの整理と共有	11月 18
在宅療養支援研修レベルⅢ	レベルⅣ以上を目指す人	自部署の中心的役割として地域と連携した在宅療養支援が実践できる	入退院支援における病棟看護師の役割、病棟看護師が行う入退院支援、事例紹介、意見交換、発表、研修を通しての学びの整理と共有	6月 12月 1月 30

## (ウ) 倫理委員会

研修名	対象者	目的	内容	実施日
倫理Ⅰ	ラダーⅡを目指す看護師	倫理的な検討方法が理解できる	問題の情報整理 倫理的な検討 倫理原則 インフォームド・コンセントと意思決定支援 アドバンス・ケアプランニング	7月 2
倫理Ⅱ	ラダーⅢを目指す看護師	看護場面における倫理問題に気が付き、倫理対応ができる	倫理問題を分析し解決するための看護実践や行動について	7月 16
倫理Ⅱ	ラダーⅣを目指す看護師	倫理問題解決までのプロセスを理解し、部署内の役割モデルとなれる	倫理問題を分析し解決するための看護実践や行動について 倫理カンファレンスについて、ファシリテーターの役割	7月 30

## (エ) 記録委員会

研修名	対象者	目的	内容	実施日
看護記録Ⅰ	レベルⅠ以上	看護診断への理解を深め、看護実践に活用できる	看護診断について 看護診断（事例検討）	6月 11、21
看護記録Ⅱ	レベルⅡ以上	看護記録について理解を深め、看護実践に活用できる	質的監査、面接監査について 看護記録（事例検討）	9月 3 10月 3、9
看護記録Ⅲ	レベルⅡ以上	患者急変時の記録の書き方が理解できる	事例を通して急変時の記録を学ぶ	12月 6

## (オ) 看護研究委員会

研修名	対象者	目的	内容	実施日
看護研究	卒後3年目（必須） 及びラダーレベルⅡ～Ⅳの希望者	看護研究の基本的な知識を学び研究的な視点で看護を見直すことができる	看護研究とは、テーマの見つけ方、研究方法（質的研究、量的研究）研究計画書（倫理的配慮と研究計画書）、統計とデータ分析、論文執筆と研究発表、看護研究発表会	4月 22
				6月 24
				7月 22
				8月 26
				10月 28
				3月 8

看護研究 支援者育成	ラダーレベ ルⅣ以上、 または管理 ラダーⅠ・ Ⅱ	自部署の看護研究 支援ができる	看護研究とは、テーマの見つ け方、研究方法（質的研究、 量的研究）研究計画書（倫理 的配慮と研究計画書）、統計 とデータ分析、論文執筆と研 究発表、看護研究をするス タッフへのサポート、看護研 究査読会に参加	4月	24
			6月	24	
			7月	22	
			8月	26	
			10月	28	
			3月	8	

(カ) セーフティマネジメント委員会

研修名	対象者	目的	内容	実施日
医療安全Ⅰ	ラダーⅡを 目指す看護 師	看護師個々のリス ク感性を高める ヒューマンエラー 発生のメカニズム を知り、日常的に 事故防止に努めた 行動がとれる	ヒューマンエラーとは エラー防止を図るには 事例分析	6月 5
医療安全Ⅱ	ラダーⅡを 取得し、レ ベルⅢを目 指す看護師	医療安全における 事例分析法を理解 し、再発防止に向 けた原因を分析す ることができる	ImSAFER 時系列事例関連図の作成、問 題点の抽出、背後要因の探索	11月 12 2月 6
医療安全Ⅲ	ラダーⅢを 取得し、レ ベルⅣを目 指す看護師	「医療安全文化の 醸成を図るとは」 を理解することが できる	安全文化の醸成を図るとい うことは、どの様なことか 自部署の問題を解決するには	6月 23 11月 8 2月 6

(キ) 認定看護師委員会

研修名	対象者	目的	内容	実施日
認定看護師 専門	レベルⅡ以 上の全看護 師	各分野における専 門的知識・技術を 習得し、看護の質 の向上が図れる	認知症看護	9/20、11/15
			救急看護・集中ケア	11/1、12/5
			皮膚・排泄ケア	5/8、22、6/5、10/24
			脳卒中リハビリテーション看護	6/21、7/11
			感染看護	9/10、10/18
			乳がん看護	5/1、13、6/10、17
			がん化学療法	11/7、12/4
			緩和ケア	9/3、17
			摂食嚥下障害看護	5/14、21
			糖尿病看護	7/4
			手術看護	11/22
がん看護	12/3、17			

## (ク) トピックス研修

研修名	対象者	目的	内容	実施日
新生児集中ケア	全看護師	専門的知識・技術を習得し、看護の質の向上が図れる	赤ちゃんの呼吸を優しく整えるケア	7月 25

## (ケ) 専門看護師研修

研修名	対象者	目的	内容	実施日
がん分野	がん看護経験2年以上	終末期がん患者との死にまつわる対話への看護師の困難感の解消を図る	終末期がん患者とのコミュニケーションを考える	9月 5 1月 7

## (コ) 臨床指導者育成研修

研修名	対象者	目的	内容	実施日
臨床指導者育成研修	学生指導に興味のある、携わる予定の看護師	次世代の指導者を育成する	青年期の特徴、成人学習者の特徴、実習指導者とは、指導者の役割、教育課程、困った事例、指導者になるまでの過程、ほめるスキル、コーチングスキル	6月 4、17

## (サ) 静脈注射院内認定看護師養成研修

研修名	対象者	内容	実施日
レベルⅡ①	全職員	薬剤の知識	6月 26
レベルⅡ②		CVポートおよび化学療法固定法	7月 24
レベルⅡ③		造影剤について	8月 21
レベルⅡ④ (Ⅲ)		血液製剤について	9月 8
レベルⅡ実技		血管確保技術の評価	9月 29
レベルC		CVポートおよび化学療法急変時の対応	10月 29 2月 2

## XIII 災害拠点病院

### 1 指定要件

災害拠点病院とは、災害が発生し、通常の医療体制では適切な医療の提供が困難な場合に各都道府県知事の要請に対して傷病者の受入れや医療救護班の派遣等を行う病院であり、当院は、平成9年3月27日に災害拠点病院の指定を受け、令和4年3月末現在では、群馬県内に1つの基幹災害拠点病院と16の災害拠点病院があります。

平成7年1月の阪神・淡路大震災を契機として、災害拠点病院の整備、広域災害・救急医療情報システム（EMIS）の整備、災害派遣医療チーム（DMAT）の養成等が行われ、平成23年3月の東日本大震災後においては、災害指定病院の指定要件が見直しされ、災害時における一層の医療体制の充実が図られています。

### 2 群馬県の災害拠点病院

基幹災害拠点病院	前橋赤十字病院
災害拠点病院	群馬大学医学部附属病院、群馬県済生会前橋病院、群馬中央病院、高崎総合医療センター、日高病院、桐生厚生総合病院、太田記念病院、公立館林厚生病院、伊勢崎市民病院、伊勢崎佐波医師会病院、沼田病院、利根中央病院、渋川医療センター、公立藤岡総合病院、公立富岡総合病院、原町赤十字病院

### 3 DMAT

#### (1) 設置目的

DMAT（Disaster Medical Assistance Team）とは、災害の超急性期（概ね48時間以内）に活動できる機動性を持った専門的な研修・訓練を受けた災害派遣医療チームであり、災害拠点病院には設置が義務付けられていて、医師、看護師、業務調整員（医師、看護師以外の医療職及び事務職員）で構成されています。

当院は、医師2名、看護師10名、業務調整員5名が隊員として活動しています。

#### (2) 活動の概要

##### ① 訓練実績

年 月 日	訓練名称	場 所
令和6年9月28日	令和6年度大規模地震時医療活動訓練	東京都立墨東病院

年間を通じて災害医療研修等を行い、病院全体が災害医療活動の重要性を認知し、取り組んでいくよう活動していきたいと考えます。

## XIV 各部署の紹介

### 1 内科

#### (1) スタッフ

令和6年度は呼吸器内科と肝臓内科、消化器内科に1名ずつ減員があり、常勤医10名で診療にあたりました。

専門分野別では、呼吸器3名（小野、大澤、横田）、消化器3名（野中、相原、鎗木）、肝臓1名（福地）、糖尿病・内分泌1名（加嶋）、一般内科1名（飯田）です。

今年度も群馬大学医学部附属病院から非常勤医師を派遣いただき、外来診療・検査・治療・当直業務を担当して頂きました。

#### (2) 年度報告

各専門分野の疾患はもちろん、肺炎や尿路感染症、脱水症といった Common disease から脳梗塞、症候性てんかん、めまい症といった疾患まで幅広く診療しました。入院が必要な新型コロナウイルス感染症患者の診療も年間を通して行いました。

消化器分野では、2015年より開始した消化管早期悪性腫瘍に対するESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）や胆膵鏡は、今年度からは外勤の先生と協力して規模を縮小して可能な範囲で担当しております。

#### (3) 今後の目標

現在常勤医が大幅に減員となりました。そのため、日常診療や入院加療、検査治療に関して最大限取り組んでおります。また、救急搬送となる急患患者さまも常勤医減員のため可能な範囲で受け入れを行っております。そのため、今までと同様の診療や入院、検査や治療体制ができず、近隣の病院への紹介搬送となる場合もあります。

今後、当院での紹介新患患者さま、急患患者さま、救急搬送患者さまの受け入れなども近隣の救急病院や消防とも連携を取り、救急診療体制の見直しも含め必要な状況です。そのため、近々の課題としては、常勤医の増員、確保が最優先の課題と考えております。

診療部長 飯田 智広

## 2 神経内科

### (1) スタッフ

令和6年度常勤医師は1名（高田）です。

非常勤医師3名（伊勢崎福島病院 近藤進先生 群馬大学医学部附属病院 牧岡幸樹先生・岩崎理先生）と診療にあたりました。

### (2) 年度報告

外来診療ではパーキンソン病や多発性硬化症などの神経難病の follow up を中心に頭痛、ままい、てんかん、しびれ、認知症などの common disease の精査加療を行いました。抗アミロイド抗体療法中のアルツハイマー病患者さんのフォローアップを開始しています。

入院に関しては、院内診断の中枢神経感染症や高齢てんかん、変性疾患の精査や脱髄・神経筋接合部疾患の治療、レスパイト入院も少数ですが受け入れました。

### (3) 今後の目標

東毛地域の患者さんが在宅を中心に安心して療養できるよう、地域連携を大切にしながら、専門知識を持って診療を努めたいと思います。引き続き常勤医師増員を大学病院へ依頼していきます。

診療部長 高田 しのぶ

## 3 循環器科

### (1) スタッフ

常勤医師 桑原 渉、千吉良 彩花（2名）

非常勤医師 3名

### (2) 年度報告

令和6年度主な診療実績

心臓カテーテル検査	50件	経皮的冠動脈形成術	17件
ペースメーカー植え込み術	12件	一時ペーシング	10件
ペースメーカー電池交換術	4件	下大動脈フィルター留置術	1件

### (3) 今後の目標

他科・他院・地域開業医の先生方と連携をはかり、働き方改革を実施しながら可能な範囲で地域医療に貢献できるよう診療を行いたいと思います。

診療部長 桑原 渉

## 4 小児科

### (1) スタッフ (8名)

大木康史、袖野玲子、浦野博央、齊藤亜希子（時短勤務）、関根和彦、\*新井修平、\*松井息吹、\*中島悠吾（\*：新任）

### (2) 年度報告

- ① 新生児未熟児センター：総入院数 114名。超低出生体重児 10名、極低出生体重児 12名、NCPAPを含む呼吸管理数 35でした。
- ② 一般病棟：総入院数 432名とコロナ禍前の令和元年と同程度に回復しました。主な内訳は、呼吸器疾患 139、消化器感染症 24、感染症以外の消化器疾患 16、川崎病 16、神経 60、腎尿路 15、アレルギー 66、内分泌・代謝 42、循環器 1、小児精神 3、平均在院日数は5.2日でした。
- ③ 小児神経医（本島総合病院、両毛整肢療護園）との神経検討会（隔月）、新生児蘇生法講習会（県主催1回、院内4回の計5回）を継続しました。
- ④ 地域貢献として、桐生市乳幼児健診、桐生市特別支援教育委員会、桐生・みどり市の要保護児童対策協議会等に協力しました。
- ⑤ 新たな試みとして、桐生市養護教諭向けに「小児科に相談するってどんなとき？」の勉強会を開催しました。

### (3) 今後の目標

少子化の傾向は続くが、東毛地域の小児科、周産期医療における中核施設として必要な機能や地域との連携は可能な範囲で維持したい。

診療部長 大木 康史

## 5 外科

### (1) スタッフ

常勤医 一般外科 6名 (加藤広行、森永暢浩、和田 渉、緒方杏一、木村明春、鈴木一設)

非常勤医

心臓血管外来 阿部知伸教授：第 2、4 水曜日

呼吸器外科外来 河谷奈津子先生：毎週木曜日

外科手術補助 木村明春先生：毎週木曜日

群馬大学総合外科後期研修医：火曜日 (当直)

令和 6 年度は、木村明春医師が群馬大学消化管外科へ異動となり、原町赤十字病院から田中成岳医師が赴任されました。医師全員が消化器・一般外科を担当いたしますが、専門分野として加藤：食道、森永：大腸、和田：肝胆膵、緒方：胃、食道、田中：食道、胃、ヘルニアの診療、手術を得意としております。後期研修医は、乳腺手術にも参加して、術者も経験しています。呼吸器外科常勤医は不在ですので、外科で呼吸器外科領域の入院患者を担当していますが、呼吸器外科手術が必要な症例は群馬大学病院にお願いすることが多くなっています。

毎週木曜日に外科、内科、放射線科合同でカンサーボードを開催し、症例の提示、検討を行っています。また、毎週木曜日に外科術前カンファレンスを行い、次週の手術症例全例を詳細に検討し術式の最終決定や問題点、注意点などを全員で共有しています。

### (2) 年度報告

令和 6 年度の手術件数は 486 症例とほぼ横ばいでした。結腸癌手術、直腸癌手術がやや増加しましたが、胃癌手術はほぼ横ばいながらも少ないまま推移しています。令和 5 年 6 月よりヘルニアセンターを立ち上げ、成人の腹部ヘルニア (単径ヘルニア、大腿ヘルニア、閉鎖孔ヘルニア、腹壁癒痕ヘルニアなど) の診療を専門に行っています。毎週月曜日午後、火曜日午後にヘルニア外来を開設しております。それに伴い単径ヘルニア手術は 117 件と、令和 5 年度よりさらに増加しました。特に腹腔鏡下ヘルニア修復術の件数が増加しております。また、手術支援ロボット導入への準備を進め、令和 6 年 4 月に Medtronic 社の Hugo RAS system を導入しました。外科では直腸手術をロボット支援下に行っており、令和 6 年 9 月に第一症例を行い、令和 7 年 3 月までに 8 例のロボット支援下直腸切除術を施行しました。

### (3) 今後の目標

一般外科常勤医 6 名で引き続き診療を行います。令和 5 年にヘルニアセンターを開設し、単径部ヘルニアの件数は増加してきましたので、外来受診から入院・手術、術後までのさらなる診療の充実を図ります。また、北関東で初となる手術支援ロボット Hugo RAS システムが令和 6 年 4 月に導入され、直腸手術を開始しました。ロボット支援下手術のさらなる症例増加、安全な術式の確立・定型化をはかるとともに、積極的に鏡視下手術を取り入れていきます。また、多職種との連携を深めて、安全で合併症のない丁寧な診療を行い、各々の患者さんに最善の治療を提供してまいります。

診療部長 緒方 杏一

## 6 整形外科

### (1) スタッフ

常勤医 5 名 : 斯波俊祐、角田陽平、上野哲、工藤千佳、齋田竜太

非常勤医 2 名 : 片山雅義 (木曜日隔週)

### (2) 年度報告

常勤 5 人と非常勤 1 人の体制で診療を行いました。一般的な外傷の治療を中心に、専門的な脊椎外科の診療も積極的に行っています。

令和 6 年度の手術件数は 397 件でした。対象疾患は外傷や変形疾患など多岐にわたり、最も多かったのは高齢者に多い“大腿骨近位骨折”で 82 件の手術を行いました。この骨折は二次骨折を起こすリスクが高いため、術後の骨折予防を行うことが重要です。令和 5 年 4 月に骨折リエゾンサービスチーム (FLS : Fracture Liaison Service) を立ち上げました。医師、看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、放射線技師など多職種が連携し、骨粗鬆症の治療継続や二次骨折予防に力を入れています。

当院には脊椎脊髄外科指導医が 2 名在籍しており、令和 5 年度は約 200 件の脊椎手術を実施しました。令和 6 年 4 月には、専門性の高い治療を提供するため『脊椎センター』を開設しました。近隣の医療機関とも連携しながら、地域の脊椎疾患医療の中心的な役割を担っていきたいと考えております。

### (3) 今後の目標

地域の整形外科医療の支えとして、特に外傷の診療に力を入れていきます。脊椎センターとして、O-アーム、ナビゲーションシステムや術中神経モニタリングなどの高度な医療機器を活用し、より安全で精度の高い脊椎手術を提供してまいります。

また、臨床研修医や医学生への指導にも注力し、若手医師の育成にも取り組んでまいります。

診療部長 角田 陽平

## 7 脳神経外科

### (1) スタッフ

令和6年度は常勤脳神経外科医師3名（曲澤 聡、橋場康弘、石井希和）で診療にあたりました。また、火曜日と金曜日の午後に群馬大学から非常勤医師3名（栗原健吾、横山響、中里公紀）に手術の手伝いに来ていただきました。

### (2) 年度報告

外来患者数は4937人、入院患者は脳血管障害206人（くも膜下出血19人、脳出血74人、脳梗塞104人、その他9人）、脳腫瘍16人、頭部外傷118人、その他28人の計368人でした。

手術件数は120件で、主要な手術件数は下記の如くでした。

脳動脈瘤クリッピング術	9件	脳腫瘍摘出術	4件
血管内手術	31件		

### (3) 今後の目標

令和6年度は新型コロナウイルス感染症による病棟閉鎖が2回ほどありましたが、大きな滞りなく診療を継続することができました。

令和7年度には手術用顕微鏡が更新される予定です。術者はより鮮明に見え、助手もより立体的に見えるようになります。安全で確実な手術を心がけて行きたいと思いをします。

引き続き各診療所や病院との連携をしっかりと行い、桐生、みどり地域の脳神経系患者の診療を行ってまいりたいと思いをします。

診療部長 曲澤 聡

## 8 乳腺外科

### (1) スタッフ

常勤医 森下亜希子

### (2) 年度報告

外来患者数3,334人、入院患者数858人、手術件数86件、うち乳癌手術80件でした。外来件数は昨年度とほぼ同様で、入院・手術件数は増加傾向です。

### (3) 今後の目標

乳がんの患者数は年々増加しています。若年者にも発症し、また高齢者にも多く、幅広い世代の発症があります。総合病院として幅広い年代などに見合った治療を行うことをこころがけています。当院は放射線や病理部、リハビリ科などあり、検診や診断、入院、薬物療法や緩和的治療等に総合的に対応できる施設です。高齢な方や合併症を持った方など、患者さんの個々の状態をよく把握し乳がんの積極的な治療を行ってまいります。

乳腺外科としてはいまだ一人体制が続きますが、外科や他科のスタッフの協力のもと診療を行っております。今後も、他院・地域の先生方と連携をお願いし、地域の皆様に最良の医療が提供できるように努力してまいりますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

診療部長 森下 亜希子

## 9 皮膚科

### (1) スタッフ

常勤医 2 名（岡田克之、中島理子）

非常勤医 2 名（東田芳乃、南舘真里那）

### (2) 年度報告

- ① 外来 患者数 11,029 人（うち新患 816 人）、一日平均 45.4 人。  
稼働している医療機器：紫外線照射装置（UVA/B、エキシマライト）、炭酸ガスレーザー装置
- ② 入院 6 階東病棟 6 床。新規入院 45 人、一日平均 2.3 人、平均在院日数 19.0 日
- ③ 手術 中央手術室で 126 例（良性腫瘍 89 例、表皮内癌 9 例、悪性腫瘍 27 例、皮膚生検 1 例）  
外来にて皮膚生検 79 例、腫瘍切除 10 例、陥入爪手術 2 例などを実施
- ④ 地域連携 他院からの診療情報提供書 531 通
- ⑤ 研修 日本皮膚科学会認定「専門医」研修指定病院

### (3) 今後の目標

- ① 専門性 地域の皮膚科診療の中核として、診療所や病院、老人介護施設などと有機的な連携を図り、皮膚科の専門性を発揮する。
- ② 医療機器 ターゲット型紫外線照射装置（エキシマライト）を、各種の皮膚疾患に導入していく。
- ③ 生物学的製剤 乾癬に対する生物学的製剤の投与症例数は、県内で群馬大学皮膚科に次ぐ。臨床的、学術的に乾癬治療をリードしたい。  
また、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹に対する新規製剤も導入しており、皮膚科の地域連携で症例を重ねたい。
- ④ 患者サービス 紹介患者の診療体制を充実させ、患者さんの声を聞き、地域のニーズに応える医療を実践する。
- ⑥ 褥瘡対策 皮膚科専門医として褥瘡の予防と治療をリードし、皮膚排泄ケア認定看護師（WOCN）と協働して全職員の啓発を図る。  
さらに近隣の訪問看護師やケアマネージャーと協働して褥瘡の充実を進め、地域の褥瘡対策のレベルアップを図る。
- ⑦ フットケア 「足外来」を通じて、糖尿病患者や透析患者の足病変に関わる。多科・多職種連携したフットケアチームを構築する。
- ⑧ チーム医療 褥瘡対策、栄養サポート、フットケア、感染制御、医療安全などに皮膚科の専門性を生かし、積極的に協力していく。

診療部長 岡田 克之

## 10 泌尿器科

### (1) スタッフ

常勤医 4 名（上井 崇智、岡本 亘平、林 拓磨、松本 昂樹）

非常勤医 2 名（堀 慶典、森村 友樹）

### (2) 年度報告、今後の目標

#### ① 泌尿器科部門

癌治療（手術、化学療法、緩和）、排尿障害治療、急性尿路感染治療を中心に治療を施行しました。手術件数は 415 例でした。癌手術治療においては腹腔鏡手術治療が中心になり、腎臓癌 11 例、腎盂尿管癌 9 例、前立腺癌 22 例、膀胱癌 8 例など計 55 例の腹腔鏡手術を施行しました。昨年 7 月からは前立腺癌に対してロボット支援下前立腺腺全摘除術を導入、順調に症例を増やしています。ほかにも経尿道的膀胱腫瘍切除術 83 例、経尿道的前立腺切除術 21 例、前立腺生検 164 例を施行しました。最近では腎癌、尿路上皮癌に対しての薬物療法として分子標的薬治療、免疫チェックポイント阻害薬治療を行う症例も急激に増加しています。

桐生地区は高齢化が進んでおり、健康志向が高まった現在も進行癌が見つかる割合が多い上、複雑性尿路感染症が増加している印象があります。検診受診等の啓発、介護サービスの介入など活動が必要と思われれます。

#### ② 血液浄化部門

維持血液透析患者は 10 名で、月水金 2 クール、火木土 1 クールで施行しています。

急性期病院の特徴として臨時、急性血液浄化が多く、新規維持血液浄化導入は難しい状況が続いています。維持血液透析患者は多くはないが、他院維持血液透析患者の当院入院や、エンドトキシン血症、神経疾患などの臨時血液浄化は 54 名に施行しており、バリエーションに富んでいます。

診療部長 上井 崇智

## 11 産婦人科

### (1) スタッフ

令和6年度の産婦人科常勤医は、鏡一成先生、周藤周先生、齋藤史織先生の3名でした。非常勤医は、上原先生、三井田先生、須藤先生、矢崎先生、内田先生にご協力をいただきました。

令和7年度からは、鏡一成先生に代わり諏訪裕人が産婦人科筆頭部長を務めさせていただいております。諏訪、内山陽介先生、周藤周先生の常勤医3人体制で診療にあたっています。

### (2) 診療実績

分娩件数は170件と、減少傾向が続いております。しかしながら、医学的ハイリスク症例や社会的配慮を要する症例の割合は高く、医療スタッフの負担が軽減しているということはありません。婦人科手術は140件と前年同様でした。

### (3) 今後の目標

少子化の影響もあって分娩件数の減少は続いておりますが、小児科の先生方のお力添えがあってハイリスク妊娠症例の受け入れは機能しております。産科、婦人科問わず、質の高い診療を行うことで、患者様や他施設からの信頼を得て、症例数の確保につながると考えております。目の前の症例に真摯に向き合い、ひいては病院の経営にも寄与できるよう努めてまいります。

診療部長 諏訪 裕人

## 12 眼科

### (1) スタッフ

常勤医2名 丸山泰弘、田村明洋

非常勤医（水曜日の外来と手術担当）1名 視能訓練士 3名

### (2) 年度報告

外来患者数は、延14,620人でした。初診患者は418人（+3.7%）でした。

外来手術はレーザー網膜光凝固術（裂孔原性網膜裂孔、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症など）が53件、後発白内障手術（YAGレーザー）は109件でした。入院手術の詳細は、科別手術件数の項目を御参照ください。

糖尿病網膜症や加齢黄斑変性に対する抗VEGF抗体（ルセンティス®、アイリーア®など）の硝子体内注射は353件でした。

当院は東毛地区の周産期医療の中核施設なので、未熟児網膜症の対応も行っています。重症網膜症に対するレーザー治療や抗VEGF抗体（ルセンティス®）の硝子体内注射も対応しています。

### (3) 今後の目標

外来受診での待ち時間と手術待機期間が長くなりがちです。他の診療機関との連携をますます進め、質の高い眼科医療を提供できるよう努力を続けます。今後ともよろしく願いいたします。

診療部長 丸山 泰弘

## 13 耳鼻いんこう科

### (1) スタッフ

令和6年度の耳鼻いんこう科常勤医師は2名です。(梅村 崇、山田 由貴)  
非常勤医師1名(木曜日:萩原先生(群馬大学医学部付属病院))と診察にあたりました。

### (2) 年度報告

主に外来診療を行い、耳鼻いんこう科全般的疾患を診療しています。突発性難聴は麻酔科と連携し、高気圧酸素治療、星状神経節ブロックも通院治療を行っています。急性炎症、めまい急性期は、病状により入院点滴治療も行っています。

### (3) 今後の目標

総合病院の特性を活かし、地域医療機関、当院各科と連携し、群馬大学医学部付属病院、近隣病院とも連携を取りながら、地域医療に貢献できるように努力して参ります。

診療部長 梅村 崇

## 14 麻酔科

### (1) スタッフ

手術室での業務は、佐藤淳、塚越裕、入内島伸尚、高瀬友彰の4名の常勤医師と5名の非常勤医師。そのうち麻酔標榜医は、常勤4名、非常勤5名。麻酔専門医は、常勤4名、非常勤5名。麻酔指導医は、常勤4名、非常勤4名。また、院内の研修医10名の麻酔研修を受け入れ、427件の麻酔の指導を行いました。ペインクリニックでは、4名の常勤医師が交替で診療を行っています。

### (2) 年度報告

手術件数は、前年度より8.0%増加して2473件。そのうち麻酔科管理症例は1582件で、全身麻酔1001件、脊椎麻酔581件。患者全体の年齢構成を見ると、70歳以上の症例が1493名(60.4%)で昨年より14.4%増加、90歳以上の症例が87名(3.5%)で昨年より20.8%増加と、高齢者の割合が手術症例全体でも前年の高齢者割合からも増加しています。

ICU・CCU室は、麻酔科、外科、泌尿器科、循環器科が分担して常時、専任の担当医師によりハイケアユニットとして運用しています。前年と同様に重症患者が多く入室しています。

ペインクリニックでは、突発性難聴、顔面神経麻痺に対して星状神経節ブロックを行っています。腰下肢痛、肩こり、頸部痛、三叉神経痛、帯状疱疹後神経痛、糖尿病性神経障害などに対して硬膜外ブロック、傍脊椎神経ブロック、トリガーポイント注射、筋膜リリースなど、多種の神経ブロック療法や近赤外線的光線治療、超短波の照射、薬物治療を行っています。また、ボツリヌス毒素注射では片側顔面痙攣、眼瞼痙攣、上肢痙縮、下肢痙縮の治療を行っています。

高気圧酸素治療は、突発性難聴、末梢循環障害、脳外科的疾患、四肢の難治性潰瘍、放射線照射後障害、腸閉塞、一酸化炭素中毒などを対象として治療を行っています。なるべく初診当日から治療を開始できるように、また、緊急時にも対応できるよう努力しています。

### (3) 今後の目標

- ・より安全な麻酔を行うとともに、周術期管理チームを整備します。

- ・麻酔科関連分野である、ペインクリニックや集中治療を充実させます。
- ・医師臨床研修において呼吸・循環管理を習得させます。
- ・周術期疼痛管理チームを立ち上げ、術後鎮痛を管理します。

追記：令和7年3月をもって、診療部長の佐藤淳医師が定年退職されました。それに伴い、令和7年度からは塚越裕が診療部長を拝命いたしました。

診療部長 塚越 裕

## 15 放射線科

### (1) スタッフ

常勤医は1名（診断専門医）。放射線治療は非常勤医で対応しています。

診断業務では、群馬大学から週1日（月曜日午後）、隔週土曜日の非常勤に加え、遠隔画像診断も利用し業務を行いました。

### (2) 年度報告

令和6年度の診療業績については、別に掲載されている資料を御参照ください。

### (3) 今後の目標

適切な診断・治療が遅滞なく行えるよう中央部門としての機能を果たすとともに、病院内外の関係各所と密に協力しながら、日々の診療に当たって参ります。

診療部長 小林 茂

## 16 救急科

### (1) スタッフ

令和6年度は、常勤医の退職に伴い、非常勤医として群馬大学の先生に毎週金曜日診療していただきました。その他の曜日は、各科で対応をしています。

### (2) 年度報告

令和6年度は救急外来および入院の診療を行いました。

### (3) 今後の目標

救急科常勤医退職後も引き続き、病院全体で桐生医療圏の中核病院として、入院を必要とする緊急性の高い患者さんの受入れを積極的に行い、圏域内の救命搬送受入率の向上に向け、努力していきます。

救急センター

## 17 歯科・歯科口腔外科

### (1) スタッフ

常勤歯科医師 2 名

### (2) 年度報告

令和 6 年度の 1 日平均外来受診患者数は 44.9 人、年間外来新患者数は 2,404 人、再来受診患者数は延べ 8,502 人でした。年間手術室使用件数は 142 件、年間入院患者数は延べ 751 人で、令和 2 年から 4 年までの新型コロナウイルス感染症拡大に伴う患者減少から昨年度に引き続き増加しました。

### (3) 今後の目標

当科は医療局歯科・歯科口腔外科の診療、運営方針とは異なる医療技術部歯科衛生士室との 1 科でありながら 2 元化された全国でも極めて珍しい科です。

総合病院における歯科・歯科口腔外科の役割は一般に、① 口腔外科医療 ② 有病者（障害者、要介護老人を含む）、入院患者に対する歯科医療 ③ 救急医療があげられます。

①に関しては、学会活動やセミナーへの参加、他院の手術見学・研修等を通じ、常に最新の医療知識、技術を取り入れ、患者への最新の口腔外科医療を提供しています。

②高齢者や全身疾患を有する患者の歯科治療（主に抜歯などの観血処置）の需要は他域の超高齢者の増加に伴いすべて対応しています。

平成 24 年より稼働した桐生市歯科医師会と共同で行われる三次障害者歯科治療は歯科医師会登録医とともに手術室を使用し、集約的な歯科治療を行っています。令和 6 年度の全身麻酔による障害者の歯科治療は 11 件でした。

周術期口腔機能管理については周術期の口腔ケアを要する患者の増加に対応し、かかりつけである一次医療機関と連携を図り、医療技術部歯科衛生士室のスタッフとともに誤嚥性肺炎等の周術期の合併症の予防、患者の QOL の向上に努めています。

院内のチーム医療としては、栄養サポートチーム（NST）、摂食・嚥下支援チーム（SST）の一員として参加しています。

③の救急医療は、当科ではオンコール態勢をとり、顎骨骨折などの外傷、抜歯後出血、急性歯性感染症など、一次医療機関や当直医の要請にはすべて対応しています。

今後も歯科医療を提供すべく病院の機能を生かし、他科との連携をスムーズに行い、総合的な歯科診療に取り組む所存です。

診療部長 今井 正之

## 18 薬剤部

### (1) スタッフ

薬剤師 15名、助手（会計年度任用職員・派遣職員） 計4名、SPD 1名

### (2) 年度報告

- ① 院外処方せん発行率は、96.4%で前年比+0.3%になりました。
- ② 薬剤管理指導件数は10,201件、退院指導件数2,153件となりました。
- ③ 患者さん向け情報誌「くすり箱」の発行
  - (ア) 第72号（令和6年 6月発行）◇バイオシミラー（バイオ後発品）
  - (イ) 第73号（令和6年 9月発行）◇“常用薬の入院前確認”について
  - (ウ) 第74号（令和7年 12月発行）◇“電子処方せん”について
  - (エ) 第75号（令和7年 3月発行）◇“FLS チーム”について
- ④ 薬・薬連携

桐生薬薬連携検討委員会に参画し、桐生薬剤師会、東邦病院、恵愛堂病院の薬剤師と月に1回の情報交換を続けております。ヒヤリハットなどの事例を共有して医療安全に努めております。

会議は、対面とZoomのハイブリッド開催で行っています。引き続き、薬薬連携を深め、病院と薬局でシームレスに患者さんをフォローできる体制を作ることを目標に継続して情報共有していきます。

### (3) 2025年度の目標

1. 院内で行われる薬物療法に積極的に関与します。
2. 薬剤部の業務を見直し、働きやすい職場環境を作ります。
3. バイオシミラーを積極的に採用し、置換率80%以上を目指します。
4. カリキュラムに沿った新人職員の教育研修を行います。
5. 地域の病院や薬局の薬剤師との連携を強め、情報共有できる環境を更に進めます。

部長 阿部 正樹

## 19 リハビリテーション技術科

### (1) スタッフ

理学療法士 22 名、作業療法士 7 名、言語聴覚士 3 名、助手 2 名の合計 34 名。

### (2) 年度報告

- ① 年間総単位数は 111, 490 単位-前年比 1.9%減 (理学 74, 014 作業 25, 969 言語 11, 507)
- ② 延べ患者件数は、外来 4, 632 件 (一日平均 18.9)、入院 61, 212 件 (一日平均 197.5)
- ③ 新患者数は 2, 283 人(外来 160 人、入院 2, 443 人)
- ④ 疾患別リハビリ割合は、脳血管リハ 47.5%、廃用症候群リハ 11.8%、運動器リハ 26.8%、呼吸器リハ 10.9%、がんリハ 3%。

### (3) 今後の目標

「建設的に取り組む、患者ファースト、生産性向上」

1. 専門性を高め、臨床に活かす (教育、接遇、実績作り、啓発、リスク管理等)
2. 業務効率の向上 (弾力的・柔軟な対応及び、診療報酬収入 3%アップを目指す)
3. 各自が意識して感染対策に取り込む (職員側・患者側の対応、環境面の対応等)
4. 科外 (院内外) と積極的に関わりを持つ (委員会、地域活動等)

科長代理 橋場 聡志

## 20 放射線技術科

### (1) スタッフ

診療放射線技師は 21 名、会計年度任用職員 1 名のです。看護師は CT 室、治療部各 1 名、透視造影等の検査は他部署より応援をいただいています。事務は診断、治療に各 1 名の体制です。

### (2) 年度報告

令和 6 年度放射線部門の業績については、別に資料が掲載されていますのでご覧ください。  
骨密度測定検査、検診でのマンモグラフィ、脳ドックが増加傾向です。

当科スタッフは、タスク・シフト/シェア (CT、MRI、RI における静脈路の確保、インジェクターによる注入、抜針) に貢献しています。

### (3) 今後の目標

『技術の研鑽と被ばく線量の低減』を理念として

1. 画質を担保して医療被ばく低減
2. チーム医療への貢献とタスクシフト・シェアの推進
3. 接遇強化
4. 地域診療拠点病院にふさわしい放射線機器の整備

科長 見留 豊久

## 21 中央検査科

### (1) スタッフ

臨床検査技師 28 名、非常勤臨床検査技師 4 名、非常勤事務職員 1 名

### (2) 年度報告

- ① 一般社団法人日本輸血・細胞治療学会の輸血機能評価認定制度（I&A 制度）を更新
- ② 外部団体による臨床検査精度管理調査（日本医師会、日本臨床衛生検査技師会、群馬県精度管理調査協議会）へ参加
- ③ 群馬県臨床検査技師会の学術研究奨励者表彰を所属技師が受賞
- ④ 認定輸血検査技師（認定輸血検査技師制度協議会）認定試験に所属技師 1 名が合格
- ⑤ 二級臨床検査士「血液学」（日本臨床検査医学会・日本臨床検査同学院）資格試験に所属技師 1 名が合格
- ⑥ 二級臨床検査士「循環生理学」（日本臨床検査医学会・日本臨床検査同学院）資格試験に所属技師 1 名が合格
- ⑦ 植え込み型心臓不整脈デバイス認定士（日本不整脈心電学会）認定試験に所属技師 1 名が合格
- ⑧ 更新した主な臨床検査機器
  - ・「全自動尿中有形成分分析装置：シメックス株式会社 UF-5000」
  - ・「全自動尿分析装置：栄研化学株式会社 US-3500」
- ⑨ 臨地実習生の受入れ
  - ・群馬パース大学保健科学部検査技術学科 4 年 4 名  
実習期間：令和 6 年 5 月 20 日～7 月 12 日（8 週間）
  - ・帝京大学医療技術部臨床検査学科 3 年 1 名  
実習期間：令和 7 年 1 月 14 日～3 月 21 日（10 週間）
- ⑩ 臨床検査情報誌「四つ葉のクローバー」を 3 号発行
  - 5 月発行 第 64 号「脳波検査」について
  - 9 月発行 第 65 号「神経伝導検査」について
  - 1 月発行 第 66 号「新生児聴覚スクリーニング検査」について

### (3) 理念・目標

- ① 理念 「臨床検査の質的向上と信頼性の確保」
- ② 目標
  - (ア) スキルアップを目指し患者サービスとチーム医療に貢献する
  - (イ) 業務の改善意識を高め効率化・省力化を推進する
  - (ウ) 地域住民の健康管理に貢献する
- ③ 年度目標 「確認不足によるミスをなくす」

科長 梶田 幸夫

## 22 栄養管理科

### (1) スタッフ

令和6年4月～：管理栄養士6名、臨時管理栄養士1名、調理師6名、調理員1名 合計14名

### (2) 年度報告

#### ① 栄養食事指導

- ・入院・外来栄養食事指導841件、対前年度比92.0%
- ・管理栄養士6名が担当し1枠1時間、午前3枠・午後4枠、各枠1件。当日予約、当日臨時増枠にも対応しました。

#### ② 給食管理業務

- ・令和6年8月1日より株式会社JBMに労務委託先の変更を行いました。  
労務委託における業務区分  
病院側 …献立作成、食材の発注及び検収、食後の下膳、食器の洗浄消毒  
受託側 …食材管理、下処理、仕込み、食数管理、調理、配膳（病棟配送まで）
- ・常食系喫食者を対象に食事アンケート調査を実施（夏献立、冬献立）  
調査結果「病院食の満足度…5（良い）～1（悪い）とした5段階評価」  
7・8月実施 5点33.0% 4点23.2% 3点34.8% 2点8.0% 1点0.9%  
1・2月実施 5点31.4% 4点23.3% 3点33.7% 2点10.5% 1点1.7%

### (3) 今後の目標

- ① 衛生的で安心・安全・適正経費で、患者さんによるこんでもらえる食事の提供
  - ・季節が感じられる食材、地元で生産される食材等を積極的に取り入れる
  - ・適切な衛生管理を行い、食中毒を発生させない
  - ・経費高騰への適切な対応を意識して食材納入先を選定する
- ② 栄養管理・栄養指導における質と技術の向上
  - ・多様化する食生活に合わせた、具体的で継続しやすい内容の指導を心掛ける
  - ・NST、RST、摂食嚥下等の多職種によるチーム活動に積極的に参加する
  - ・院内院外の勉強会に積極的に参加し知識を広げる
- ③ 効率的・効果的な業務遂行のための科内体制整備
  - ・科員内でのコミュニケーションを増やし、全員で協力して業務を遂行する

科長代理（医療技術部長） 大木 康史

## 23 臨床工学科

### (1) スタッフ

常勤臨床工学技士7名

### (2) 年度報告

- 基本理念：「最新の知識と技術の習得に励み、安全で信頼性の高い医療技術を提供する」  
部門目標：「1. 機器管理部門として医療機器の効率的運用と一元管理を推進する」「2. 業務の情報共有強化を行う」を基に下記の業務にあたっています。

業務件数については業務概要の項を参照ください。

① 呼吸療法業務

人工呼吸器の操作・保守および管理する業務。多職種で連携し、治療の質向上に努めています。また呼吸器サポートチーム（RST）の一員として事故防止対策、職員教育、RST 回診に参加しています。

② 心臓カテーテル業務

検査・治療中のバイタルモニタリング、血行動態検査、血管内超音波検査、補助循環装置等を操作・保守管理をしています。

③ ペースメーカー関連業務

体内式ペースメーカーデバイス管理と外来業務。植え込み患者の手術立ち会い、外来でのフォローアップ、MRI 撮影や手術前後の立ち会いをしています。

④ 血液浄化業務

一般透析は腎センターへ技術提供を行っています。重症透析については ICU や病棟での出張透析を実施。その他、持続的腎代替療法、血液・血漿吸着療法、腹水濾過濃縮再静注療法など特殊血液浄化療法を担っています。

⑤ 高気圧酸素業務

麻酔科に配置されている一人用治療装置（第一種高気圧酸素治療装置）1 台を運用。突発性難聴・末梢循環障害・網膜動脈分岐閉塞症・一酸化炭素中毒・腸閉塞などの治療をしています。

⑥ 手術室業務

手術用ナビゲーションシステム、自己血回収返血装置、内視鏡システム業務、術中神経モニタリングシステム、麻酔器やフットポンプの管理のほか、手術にまつわる機器のトラブル対応を行っています。また、今年度より手術支援ロボットシステムの運用・保守管理業務を開始しました。

⑦ 医療機器管理業務

人工呼吸器、補助循環装置、血液浄化装置などの生命維持管理装置や、血液ガス分析装置、セントラルモニターなどの高度医療機器の保守管理を行っています。

また、輸液ポンプ、シリンジポンプ、超音波ネフライザ、低圧持続吸引器等、使用箇所が多岐に渡る ME 機器の中央管理を行う事により、院内医療機器の効率的かつ安全な運用を図っています。

⑧ 教育業務

ME 機器使用者への安全情報発信、研修を行うことにより ME 機器に対する関心と知識と技術の向上を図っています。特に、新機種導入時には研修会を開催。診療部・看護部を始め、医療機器に関する研修会の講師派遣を行っています。

(3) 今後の目標

地域中核総合病院の臨床工学技士として呼吸・循環・代謝といった生命を代行する装置を手広く扱っています。必要な時に必要な知識・技術・機器を提供できるよう、臨床工学科基本理念の基、ゼネラルに活躍できる臨床工学技士を目指しています。

係長 三木 康正

## 24 看護部

### (1) 看護部の配置状況

令和7年3月31日現在 看護要員 366人

	助産師	看護師	准看護師	看護助手	合計
正職員	人 19	人 291	人 4	人 0	人 314
非常勤	1	43	3	5	52
合計	20	334	7	5	366

### (2) 年度報告

#### 【令和6年度 看護部目標】

- ① 各部署の専門性を発揮し、安全で良質な看護を提供する
- ② 高い倫理観を持ち、患者さんの尊厳を守る温かい看護を提供する
- ③ 患者さんが安心して入院、退院、在宅療養を継続できるよう、地域とつながる看護を提供する
- ④ 心理的安全性の高い職場をつくり、就業継続できる環境を整える

目標①については、自部署の専門性を高めるための研修や研究に勤しむとともに、職員1人ひとりが継続学習し看護の質向上に努めました。目標②については、相手を慮る心を大切にされた対応を心掛け、看護を語る会でその思いを共有しました。目標③については、地域医療連携室が要となり多職種による在宅療養支援を実践することで、地域とつながる看護を提供することができました。また、病棟と訪問看護室が連携を強化することで、前年度比で訪問看護件数が倍増しました。目標④については、ハラスメント対策委員会を中心に啓発活動を行いました。課題は残りますが、今後も継続してまいります。

#### 【令和6年度 看護部重点取り組み事項】

- ① 急性期一般入院料1を維持するための効率的な病床管理を実践する
- ② 働き方改革を推進し、職務継続可能な環境を整える

看護師長会を中心に上記2点に取り組みました。①については、経営的視点をもって急性期病床を確保するとともに、重症度、医療・看護必要度を維持するための退院支援、地域包括ケア病棟や回復期リハビリ病棟への院内転棟を実践しましたが、施設基準を満たせず、急性期一般入院料2に変更となりました。②については看護師長会で、メンタルヘルス、タスクシフト、業務改善、人材育成・確保等に取り組んでおり、今後も継続してまいります。

### (3) 今後の目標

今後も地域住民のニーズに応えられるよう、優しさと思いやりのある温かい看護の提供を心掛けるとともに、看護職員一人ひとりが安心して働き続けられる職場環境の整備に努めてまいります。

部長 粕川 由貴子

## 24-1 外来

### (1) スタッフ

常勤看護師 12 名、再任用看護師 4 名、非常勤看護師 28 名 計 44 名

### (2) 年度報告

令和 6 年度の部署目標として、

- ① 患者の思いに寄り添った温かい看護を提供する
- ② 地域でその人らしく暮らすことを支える質の高い看護を提供する
- ③ 誰もが思いやりを持てる職場環境を築く

を掲げ、3 チームに分かれて活動しました。

倫理カンファレンスの開催及びトーキングサークルを取り入れ、事例検討を各診療科で実施しました。また、在宅療養支援では、外来において看護計画の立案に積極的に取り組み、継続看護の実施への円滑に繋げることができました。さらに、働きやすい職場環境の実現を目指し、ホワイトボードを活用した支援体制の構築に取り組むとともに、継続的な見直しと改善を行っています。そして、その取り組みを院外にて発表することが出来ました。

### (3) 今後の目標

地域の中核病院として、患者一人一人に寄り添う温かい看護の実践を大切にしながら、継続的な支援と多職種連携の充実に努めてまいります。今後も、地域に根差した看護の提供を通じて、安心と信頼に繋がる外来看護を目指してまいります。

師長 西場 里香

## 24-2 救急外来

### (1) スタッフ

看護師 19 名 准看護師 2 名 非常勤事務 1 名 計 22 名

### (2) 年度報告

令和 6 年度救急外来の目標は、

- ① 効果的な救急体制を構築し専門性を発揮する
- ② 育成・協働のための業務改善を推進する
- ③ 心理的安全性が高く働きやすい職場づくりを行う

と掲げ、活動しました。救急患者の受け入れが円滑に行えるよう、体制の見直しを行い、緊急内視鏡対応のための人材育成にも力を入れました。冬の新興感染症の流行により病床のひっ迫がありましたが、年間の受け入れ率は上昇しました。内視鏡件数の増加にも対応しております。また、慌ただしくなった現場でも、ゆとりを持って患者対応ができるようトレーニングを行い、対話やコミュニケーションを大切にしています。

### (3) 今後の目標

地域とつながる医療・看護を実践するため、専門性や接遇を強化し、緊急事態に適切に対応してまいります。

師長 武田 智子

## 24-3 手術室

### (1) スタッフ

看護師 18 名 計 18 名

### (2) 年度報告

令和 6 年度は、「患者・家族の尊厳を守り、専門性を発揮した周術期看護を提供する」を目標に、

- ① 手術支援ロボットにおける安心・安全な看護を提供する
- ② 心理的安全性のある職場対策の見直しと実践をする
- ③ 術後疼痛管理チーム加算の取得と実践をする
- ④ 血管造影室看護における質の高い看護を提供する

を掲げ、活動しました。

ロボット支援下手術の導入に伴い、多職種と協働シミュレーションを重ね、初症例を迎えることが出来ました。さらに、ブリーフィングを行い、安心・安全なロボット支援下手術に繋がっています。心理的安全性の高い職場環境では、手術室グランドルールを作成、唱和を行うことで共通認識できました。術後疼痛管理チーム加算については、コアメンバーを選出し、加算取得に向けて情報収集を行いました。血管造影室看護については、実践可能なスタッフが 9 名となり、緊急カテ・アンギオに対応しています。

専門的知識と技術の向上に向け、特定認定看護師（手術看護）1 名、手術看護実践指導看護師 3 名、周術期管理チーム看護師 7 名が在籍しています。術前外来を通して術後回復機能促進に向けた関わりを行い活躍の場を広げています。

### (3) 今後の目標

今後、職場環境を整え、高い倫理観のもと地域貢献できるようにスタッフ一丸となり、質の高い周術期看護の提供を目指していきます。

師長 佐藤 祥代

## 24-4 ICU・CCU

### (1) スタッフ

看護師 20 名（集中治療認定、特定行為取得看護師 1 名を含む）

### (2) 年度報告

令和 6 年度は「ICU 病棟として専門性を活かし、患者が早期回復するように支援する」を目標に、

1. クリティカル領域における患者の強化として、
  - ① 認知症患者への対応力強化
  - ② 倫理カンファレンスを充実させ、急性期における看護力強化
  - ③ KYT カンファレンスを行い、事故防止能力強化を図る
  - ④ 重症患者における対応力強化として処置や看護の強化を図る
2. 学習プログラムを使用したスタッフ教育の推進
3. 心理的安全性を高めるスタッフ教育の推進

#### 4. 効果的なベッドコントロールの推進

を掲げ、活動しました。

クリティカル領域における患者の強化を図るため、認知症対応能力向上や倫理カンファレンスを行い、急変時にある患者や家族の対応について勉強会を行いました。重大事故を未然に防ぐため、KYT カンファレンスはインシデントレポート提出後 1 週間以内に実施し、周知を努めました。クリティカル領域にある治療の勉強会を定期的に行うことが出来ました。

#### (3) 今後の目標

地域の急性期医療を担うため、専門性を強化しながら、患者、家族に寄り添う暖かい看護の提供を目指し、質の高いクリティカルケアの提供をスタッフ全員で取り組みたいと思います。

師長 小野里 貴子

## 24-5 腎センター

#### (1) スタッフ

看護師 8 名 臨床工学技士（交替で勤務）

#### (2) 年度報告

令和 6 年度は、外来患者透析 1,673 回、入院患者透析 569 回実施しました。緊急透析患者数は 54 名でした。目標に安全で良質な透析看護の提供を掲げ活動しました。安全面では、0 レベルのレポートを多く出すことをスタッフに呼びかけ、さらに KYT を行う事で、大きな事故を未然に防ぐよう対策を取っていました。透析技術マニュアル等、4 冊のマニュアルを改訂し、さらに災害ポケットマニュアルも改訂でき、患者とともに災害訓練が実施できました。倫理面では他部署やアドバイザーを交えて倫理カンファレンスを実施することが出来ました。病棟へのタスクシフトとして、透析後に病棟患者送迎を行う事を定着することが出来ました。心理的安全性の高い職場を目指し、アサーティブコミュニケーション等の勉強会を行いました。

#### (3) 今後の目標

今後も安全で良質な透析看護の提供と、患者中心の看護の提供に努めていくと共に、心理的安全性の高い職場を目指していきたいと思ひます。

師長 小林 葉子

## 24-6 NICU

#### (1) スタッフ

看護師 16 名（新生児集中ケア認定看護師 2 名含む） 臨床心理士 1 名（非常勤）

#### (2) 年度報告

令和 6 年度は、

##### 1. 安全で良質な看護を提供する

- ①安全な看護を提供するためのコミュニケーション理解
- ②安全文化の醸成

2. 急性期から地域につながる看護の充実
  - ①倫理的配慮のある看護実績と質の高い記録ができる
  - ②小児在宅医療パスの作成により、統一した看護が提供できる
3. 周産期連携を確立し、継続した看護援助を提供する
  - ①円滑な周産期連携を確立し、児と家族が安心できる看護の提供
4. 専門性を発揮し、質の高い看護を提供する
  - ①専門的な知識と技術を習得するための教育支援体制を整備し、質の高い看護が提供できる

の4つの目標を挙げ活動いたしました。

安全については、ヒヤリハット提出件数が62件と前年度より増加するなど、安全文化の醸成に向けた取り組みの成果がありました。感染対策では、感染マニュアル（NICU版）の改訂を実施しました。退院支援加算（1・3）に関しては、掲示板・電子カルテ内で周知し、1期日内カンファレンスの実施100%達成することができました。倫理事例カンファレンスの看護計画への反映は73%と前年度よりタイムリーに実施できています。周産期連携では、産科病棟でもらい母乳の勉強会を実施し、超低出生体重児の母乳栄養の必要性を伝えることができました。また、入院オリエンテーション動画を導入し、入院時のベッドサイドでのケア時間の拡大につなげることができました。教育支援では、NCPRのシナリオを4クール計29回医師と共同で実施することができました。

### （3）今後の目標

今後も地域周産期母子医療センターとして、急性期から在宅を見据えた専門性の高い看護を提供することを目指し、児と家族の育ちを支援できるよう、知識・技術の向上に努めていきます。

師長 阿左美 まゆ美

## 24-7 3階病棟

### （1）スタッフ

看護師19名 准看護師1名 看護助手4名 保育士1名

### （1）年度報告

令和6年度の目標は、

- ① ケアの充実を図り心のこもった看護を提供する
  - ② 安心・安全な看護の提供を行う
  - ③ 退院を見据えたカンファレンスを実施し在宅療養支援・継続管理の充実を図る
  - ④ 心理的安全性の高い職場をつくりスタッフ全員が働きやすい環境を整える
- とし、各チームで活動をしてきました。

ケアの充実を図るため、Drを交え事例検討会を実施し、新たな治療についても勉強会を開催し知識・技術の向上に努めました。また、レスパイト入院の受け入れも定期的に行っています。DPCを意識し、カンファレンスを行い在宅療養支援・継続看護の充実を図りました。安全な看護が提供できるよう、環境整備の徹底や看護助手へのタスクシェア等行い、転倒事故の減少に努めました。心理的安全性について、スタッフ全員が理解し実践できるよう環境を

整えました。

小児科では、保育士と協働し季節の飾り物やクリスマス会などの行事を行い、入院中の患儿にも楽しんでももらいました。

(2) 今後の目標

知識・技術の向上を図り専門性を発揮し、患者・家族の視点に立った温かい看護を提供できるように取り組んでいきます。

師長 鈴木 ひろ美

## 24-8 4階東病棟

(1) スタッフ

看護師 23名 看護助手 3名

(2) 年報報告

令和6年度病棟目標は、

- ① 自分の役割、責任を自覚し患者さんに安全な看護を提供する
- ② 患者さん、ご家族の思いを尊重し、寄り添う看護を提供する
- ③ 多職種と連携を図り、安心して退院できる看護を提供する
- ④ 心理的安全性の理解を深め、心理的安全性の高い職場をつくると掲げ、1年間活動しました。

患者家族の思いに寄り添い、適切なタイミングでの在宅療養支援を行うことができました。また、認知症認定看護師参加によるカンファレンスの開催や勉強会を継続して行い、個別性を重視した看護の提供に努めました。働きやすい職場環境を構築するためにスローガンを掲げ、スタッフの意識付けができました。

(3) 今後の目標

当部署の専門性・独自性を発揮し、地域とつながる医療・看護の提供、安全・安心な質の高い看護の提供ができるように努めていきます。

師長 山口 景子

## 24-9 4階西病棟

(1) スタッフ

助産師 11名 看護師 12名（乳がん看護認定看護師1名含む）非常勤看護師2名  
日勤看護助手 2名 夜勤看護助手2名

(2) 年度報告

令和6年度の病棟目標は、

- ① 安心で安全な看護の提供
  - ② 専門性、質の高い看護の提供
  - ③ 在宅療養支援の充実
  - ④ アサーティブに発言ができ、明るく元気な職場環境をつくることのできる
- を病棟目標に掲げ1年間スタッフ全員で勉強会を行いながら活動してきました。

アクシデント発生に対して再発防止に向けて、時系列でのカンファレンスも行えるようになりました。安全への意識が高まってきていると思われまます。産後ケアを実際に受け入れた

ことで明らかになった問題点を抽出し、マニュアルを改訂することが出来ました。また、新入職看護師を迎え、スタッフ全員で関わり、意見交換ができ、心理的安全性についても意識付けが来ています。

(3) 今後の目標

女性専門の病棟として、女性の健康への意識を高めていけるよう、活動していきたいと思っています。また、安心して療養生活が送れるよう、多方面の知識を充実させ、連携を取り、主体的に行動していくよう努めてまいります。

師長 鈴木 由美子

## 24-10 5階西病棟

(1) スタッフ

看護師 24名 日勤看護助手4名 夜勤看護助手3名

(2) 年度報告

令和6年度は、

- ① 看護・家族の意向を尊重した優しい看護を提供する
- ② 専門職として自立し安全・安心な質の高い看護を提供する
- ③ 心理的安全性を高めてより働きやすい職場環境を整える

の3つの目標を掲げ、1年間取り組みました。

優しい看護を目標に、倫理・接遇に関する勉強会や心理的安全性の高い職場を目指し共通意識が持てるよう勉強会を行いました。また、環境ラウンドを行い安全な療養環境の整備や手指衛生への意識の強化を図りました。患者さん・ご家族の意向を尊重したうえで退院支援を行うよう多職種と連携しカンファレンスの充実に努めました。

(3) 今後の目標

当事者意識を持って、専門的知識・技術を習得し、安全で優しい看護が提供できるように努めていきます。

師長 石関 しのぶ

## 24-11 6階東病棟

(1) スタッフ

看護師 24名 日勤看護助手2名 夜勤看護助手2名

(2) 年度報告

令和6年度は、

- ① 専門性を活かした安全で良質な看護を提供する
- ② 高い倫理観を持ち、接遇向上に努め丁寧な看護の提供
- ③ 心理的安全性の高い働きやすい環境を作る

の3つの目標を掲げ活動してきました。

患者さん、家族の意向を踏まえた看護の提供・退院支援に取り組みました。多職種でのリハビリカンファレンスを行い、退院に向けての支援を行いました。また、インシデント・ア

クシデントの中から誤薬について取り組み、対策を徹底し減少に繋げることが出来ました。

(3) 今後の目標

倫理観を高め、患者さん家族に寄り添える思いやりの看護を提供していきます。

師長 深井 昌美

## 24-12 6階西病棟

(1) スタッフ

看護師 17名 日勤看護助手 3名 夜勤看護助手 1名

(2) 年度報告

令和6年度の病棟目標は、

- ① リハビリ看護を実践し、安全で質の高い看護を提供する
- ② 倫理観を持ち、患者さんの尊厳を守り温かい看護を提供する
- ③ 患者さんの退院後の生活を見据えて退院支援を実践する
- ④ 健康で安全な職場で継続して働けるよう職場環境を整える

の4つの目標を掲げ全員で取り組みました。

当病棟は回復期リハビリテーション病棟であり、急性期の治療が終了し、在宅・社会復帰を視野に入れて、医師、理学療法士の多職種と連携を図り、集中的にリハビリテーションを行い、日常生活動作能力の向上に繋がるように看護援助を行っております。退院後は問題なく生活を送れているのかを外来看護師と連携を図り、受診時に確認することが出来ました。

(3) 今後の目標

早期から日常生活動作獲得へ向けて、多職種と連携し情報共有を図り、質の高いリハビリテーション、看護援助を行い安心して退院できるように努めていきます。

師長 秋間 由博

## 24-13 7階東病棟

(1) スタッフ

看護師 25名 日勤看護助手 1名 夜勤看護助手 2名

(2) 年度報告

令和6年度は、

- ① 専門性のある充実した看護ケアを提供する
- ② 在宅医療につながる効果的な退院支援の強化
- ③ 心理的安全性の強化による働きやすい環境を整える
- ④ 安全な看護を提供する

の4つを目標に掲げ活動しました。

多様化する患者さんに対応できるよう、他職種と連携を図り、カンファレンスを充実することができ、患者ケアにつなぐことができました。また、アクシデント発生時のカンファレンスも早期に実施し、対応することで事故件数の減少につながりました。

多様な働き方のスタッフがいる中で、互いが協力し合い業務を遂行することができました。

(3) 今後の目標

日々のケアに不足しているところを充実させながら、看護力の向上に向け病棟全体で取り組み、患者さん、ご家族にあたたかいケアを提供できるよう努めていきたいと思ひます。

師長 小澤 裕美

## 24-14 7階西病棟

(1) スタッフ

看護師 25名 日勤看護助手 3名 夜勤看護助手 3名

(2) 年度報告

令和6年度病棟目標は、

- ① 専門性を活かした質の高い看護を提供する
- ② 安心安全な看護を提供する
- ③ 倫理観と思いやりを持った看護の提供
- ④ 意思決定支援能力を高め、患者の安心に繋がる退院支援の実施
- ⑤ 統一した看護が提供できる記録の充実
- ⑥ 効果的な病床管理と働きやすい職場環境を整える

の6つを目標に掲げ、活動しました。

今年度は肝臓専門の医師の監修のもと、看護師による肝炎の勉強会を開催し、病棟の専門性を高めるべく、改めて学習し知識を深めました。また、看護研究でデスカンファレンスをテーマに取り上げ、カンファレンスの持ち方を見直しました。看取りの看護をじっくりと振り返ることで、より倫理観が高まり、患者だけでなく家族に寄り添う意識が高まったと思ひます。

(3) 今後の目標

引き続き、専門的知識・技術の向上に努め、患者さん、ご家族に寄り添う、温かい看護を提供できるように努めていきます。

師長 小倉 直子

## 24-15 訪問看護室

(1) スタッフ

看護師 3名

(2) 年度報告

令和6年度は、

- ① 利用者の価値観を尊重し、安心して在宅で過ごせるように、質の高い訪問看護を実施する
  - ② スタッフが安心して働ける、やりがいのある職場づくりをする
- を目標に掲げ活動しました。

利用者に関わる主治医、院内多職種の方、院外の関係職種の方と連携を図りながら訪問看

護を実施しました。また、看護研究に取り組み、急性期病院看護師の在宅医療支援の現状を知ることができ、連携を図るための課題を見出すことができました。研究の成果を実践に活かしていきたいと思えます。

### (3) 今後の目標

令和 7 年 5 月に訪問看護ステーション桐の芽が開設となります。医療保険対象者だけでなく、介護保険対象の方の訪問看護も実施します。引き続き、利用者さんの尊厳を守る、質の高い訪問看護が実践できるよう努力していきます。

師長 村田 絹代

## 24-16 感染症病床

### (1) 病床の現況

平成 11 年 4 月 1 日から感染症及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 38 条第 2 項の規定に基づき群馬県知事から第二種感染症指定医療機関として 4 病床指定され、二次医療圏の中核病院として感染症患者の受入を行っています。

平成 14 年 12 月から翌年 2 月まで、群馬県の補助を受け感染症病棟の改修工事を着工し、平成 15 年 2 月 3 日から新病床の使用許可を受けました。

平成 15 年 12 月 20 日に桐生保健福祉事務所と合同による県内初の S A R S 対策シミュレーションを感染症病床にて試行いたしました。

平成 27 年 6 月 29 日及び 7 月 2 日に中東呼吸器症候群 (M E R S) 患者及び疑似症例来院時対応シミュレーションを同じく試行いたしました。

令和元年 9 月 19 日に桐生保健福祉事務所と合同で、新型インフルエンザ等医療提供訓練を実施し、患者受入れ時のシミュレーションを実施いたしました。

### (2) 過去の受入状況

平成 12 年 9 月 21 日～平成 12 年 9 月 23 日 (腸チフス疑似)

平成 13 年 4 月 22 日～平成 13 年 5 月 8 日 (腸チフス)

平成 16 年 12 月 6 日～平成 16 年 12 月 8 日 (細菌性赤痢)

令和 2 年 2 月 11 日～令和 5 年 5 月 8 日 (新型コロナウイルス感染症)

## 25 事務部

### 25-1 総務課

#### (1) スタッフ

総務課長以下庶務係4名、人事係5名、臨時職員1名、派遣職員1名の計11名です。

#### (2) 年度報告

令和6年4月から医師の働き方改革が全面施行されたことに伴い、「医療従事者等負担軽減委員会」及び「医師の働き方改革検討部会」をそれぞれ年4回開催し、医師の時間外勤務状況や休暇取得状況などの把握に努めると共に、併せて医師及び看護職員の負担を軽減するために、業務のタスクシフト・シェアの見直しを行い、負担軽減計画の更新を行いました。

企業団議会の開催については、令和6年10月25日に令和5年度病院事業会計決算を中心とした審議を行い、令和7年2月18日には、令和7年度病院事業会計予算を中心とした審議を行いました。

また、令和5年度から開催しております「桐生地域医療企業団開設者協議会(企業長及び構成市長(桐生市長・みどり市長)出席)」につきましては、第3回を令和6年10月4日に、第4回を令和7年1月31日に開催いたしました。主な内容は、その後に開催されます企業団議会に上程する議案及び令和6年度に行った主要事業並びに令和7年度に予定する新規事業・主要事業についての報告などを行いました。

課長補佐 石井 理彦

### 25-2 経営政策課

#### (1) スタッフ

主幹2名(病院政策担当1名、経営政策担当1名)、病院政策係2名、経営推進係3名、会計年度任用職員1名が配置。

#### (2) 年度報告

病院政策係では、当院は群馬大学医学部附属病院・公立館林厚生病院の協力病院となっているため、群馬大学医学部附属病院から1名を受入れました。当院研修医と併せて15名の臨床研修医が当院で研修を行い、様々な支援や調整を行いました。その他臨床研修に関する医学生対象のガイダンスや様々な情報提供をオンラインで行うなど、初期研修医確保に努めています。

また、病院見学・実習では、随時医学生の受入を行っています。

このほか、「院内広報」を毎月、「院外広報(ほほえみ)」を年4回発行するほか、医療と健康に関する市民向け情報紙への原稿提供なども行っています。

経営推進係では、出納管理に加え、企業債の申請、議会の議決対象である決算、予算の調整、構成団体からの繰出金の請求、会計監査等を行いました。会計監査は年3回実施し、監査委員の了承を得ました。

(3) 今後の目標

県内外の臨床研修合同ガイダンスなどに積極的に参加するほか、情報発信に努め、構成団体の医師確保事業を活用し、初期研修医の一層の確保を支援します。

健全な病院運営のため院内全体での取組みに積極的にに関わり、今後とも構成団体との連携を強化しながら、経営の安定・効率化をすすめていきます。

課長補佐 石井 理彦

## 25-3 契約管財課

(1) スタッフ

令和6年度のスタッフは、課長、契約管財係2名、施設係3名、派遣職員1名の計7名で、物品管理、施設設備管理、清掃、洗濯、滅菌業務等で多くの委託職員を抱えています。

(2) 年度報告

医療機器整備委員会で購入の承認を得て予算措置された北関東では初の導入となる手術支援ロボット（Hugo）及び過酸化水素低温プラズマ滅菌機4種4台、そのほか修理不能な診療上必要な機器などで全身麻酔器や造影剤注入装置等を始めとした臨時的購入4種4台、計8種8台の医療機器を購入しました。さらに、医療用備品についても、シリンジポンプ、輸液ポンプ、移動式検査処置台などを始めとした23種66台を購入しました。

購入整備のほかにも、既存機器や備品類の点検や修繕手配、加えて薬品、診療材料、給食材料、印刷物、消耗品などの調達管理を行い、価格交渉などについての対応も行いました。

さらに、大規模な改良工事として、病棟地下2階 CVCF 設備更新工事や駐車場街路灯更新工事を行いました。

この他にも、新病院建設に関する委員会の事務局を担当し、新病院建設基本構想を完成させるための調整業務を行っております。

(3) 今後の目標

今後も病院維持のための建設改良工事計画、必要となる医療機器等購入計画など、継続となる事業や物品購入の調査・調整等、限られた予算をどう生かしていくか、状況の変化を察知し「最小の経費で最大の効果」を念頭に、患者さんには「安心、安全で最良の療養環境の提供」を、また、職員には「より働きやすい職場環境づくり」を考え、取り組んでまいります。

課長補佐 藪田 達也

## 25-4 医事課

### (1) スタッフ

令和6年度の医事課スタッフは、課長、医事係7名（臨時事務3名含む）、診療情報管理係13名（臨時職員4名含む）、情報システム推進係2名、合計23名となりました。

また、総合受付、各科受付、外来算定、入院業務、電算オペレーター業務は業務委託、医師事務作業補助は一部派遣業務で運営しております。

### (2) 年度報告

令和6年12月2日以降、健康保険証が新たに発行されなくなることを受け、当院ではマイナンバーカードによるオンライン資格確認の利用促進を目的として、顔認証付きカードリーダー（以下、「マイナ受付機」といいます。）を増設いたしました。新たに正面出入り口付近へマイナ受付機を設置したことで、再診時の「保険証確認→受付→受診」の動線がよりスムーズになり、患者さんの待ち時間短縮や利便性向上につながっています。さらに、救急受付および健診受付にもマイナ受付機を配置し、緊急時や健診受診時にもスムーズに資格確認が行える環境を整えました。

### (3) 今後の目標

- ① 施設基準の継続的見直しと新規加算取得
- ② DPCデータの精度向上と分析力強化
- ③ 増収・コスト削減の両立
- ④ 情報システムの安全稼働と最適化
- ⑤ 苦情対応・カスタマーハラスメント対策の強化
- ⑥ 医師事務作業補助体制のさらなる充実
- ⑦ 未収金削減と適切な債権管理の強化

係長 島田 博文

## 25-5 健診室

### (1) スタッフ

室長（参与兼放射線科医長）、部長、看護師、主幹、係長、主査、健診係7名（うち臨時看護師2名、会計年度任用職員1名、派遣事務4名）で業務を行っています。

### (2) 年度報告

日帰りドック、健康診断等（企業健診、脳ドック、肺ドック等）多岐にわたる健診業務を行っています。各検査項目は専門の医師が判定を担当し、異常が認められた場合は、かかりつけ医もしくは当院で精密検査や治療を受けることができるよう運用しています。

令和6年度の件数は、日帰りドック3,124件、健康診断等4,552件で、前年度件数と比較して、健康診断等の件数は増加しています。令和2年度導入から右肩上がりに増加している経鼻内視鏡検査の件数は770件で、これからも増加していくと考えています。

今年度から一泊二日ドックは廃止とし、短時間で気軽に健康診断を受けられるようにしました。

### (3) 今後の目標

今後も、検査項目等につきましても様々なご意見を取り入れ、健康診断を受けやすくして、多くの方にご利用していただけるよう取り組んでいきたいと思っております。

室長補佐 金子 孝進

## 25-6 地域医療連携室

### (1) スタッフ

室長（兼副院長兼脳神経外科部長）、主幹（兼副看護部長）、地域医療担当看護師 8 名（患者支援窓口担当 2 名・臨時職員 1 名）、医療相談係 7 名（社会福祉士 4 名・看護師 8 名）地域連携係 3 名（公認心理士 1 名、看護師 2 名）、で業務を行っています。

### (2) 年度報告

「地域医療支援病院」として、紹介率 65%及び逆紹介率 45%以上の維持確保と地域の医療機関との連携強化を図っています。また、オンライン検査予約システム「桐生おりひめネット」も活用され、院外からの共同利用による放射線検査は、令和 6 年度 計 972 件（CT 442 件、MRI 493 件、RI 36 件）と令和 5 年度より約 17%増加し、多くの地域の諸先生方にご利用いただいています。地域医療連携室だより『きずな』は、診療の特集を始め各部門のエキスパートを紹介するなど病院内の情報を掲載、定期刊行に加えトピックス臨時号も刊行し、地域の医療機関に配付しています。また、地域の医療従事者向けの研修は新型コロナ感染症流行前の形式に戻し、多くの病院、施設の医療従事者の方々が参加して下さいました。地域医療勉強会も対面形式で 2 回開催し、好評をいただきました。

「地域がん診療連携拠点病院」としては、令和 6 年度からがん患者の就労に関する総合支援事業として、ハローワークと産業保健総合支援センターの出張相談を毎月 1 回開始しました。また、緩和ケア研修会を開催し、院内外から 21 名の医師・看護師に参加していただきました。

「登録医大会」については、5 年ぶりに対面で行うことができ、50 名以上の地域の先生方にご参加いただきました。

入退院支援においては、予定・緊急入院患者さんの入院支援および病棟担当者への情報提供、早期から介入可能な退院支援体制を整えています。桐生市医師会と共同で作成した「桐生地域退院調整ルール」に則り、地域との連携のもと在宅療養支援につないでいます。

さらに、桐生市・みどり市の要保護児童対策協議会には、オブザーバーとして小児科医師と MSW が毎月参加しています。また、ハイリスク妊婦へ積極的に介入し、児童相談所や自治体保健師との連携をより強固なものとして、継続して地域の児童虐待対策に取り組んでいきます。

令和 6 年度は学校におけるがん教育の外部講師の依頼を受け、緩和ケア委員会委員長の森下乳腺外科部長が新里東小学校で講演してきました。

また、小児科と協働し、桐生市の養護教諭向けに小児に多い疾患や対処法について、小児科 4 名の医師が講師となり、養護教諭定例会に出向き勉強会を開催しました。

### (3) 今後の目標

- ① 地域医療支援病院指定要件の維持
- ② 地域がん診療連携拠点病院指定要件の維持
- ③ 紹介元への速やかなご報告およびお返事の徹底
- ④ 集患へ向けての地域との連携と広報活動
- ⑤ 地域包括ケアシステムの推進における病病・病診・看看連携の強化
- ⑥ 専門知識（看護師、MSW 等）を有する職員の育成

主幹 上原 美奈子

## 25-7 医師確保対策推進担当

### (1) スタッフ

2名

### (2) 年度報告

医師の確保に向けた取り組みとして、院長、事務長、総務課長を中心として群馬大学教授への訪問活動を行っています。各科の教授と直接面談を行い、特に重点目標となる診療科には複数回の訪問を行うなどして、医師確保に向けて積極的に働きかけを行いました。教授訪問後に各診療科部長と院長面談を実施し、情報共有を図りました。

### (3) 今後の目標

医師確保については引き続き病院の最優先事項と捉え、構成市とも連携して関係大学等に対する要望活動を継続して行います。また、定年年齢に達した医師に対する勤務延長の働きかけや、民間医局を利用可能な診療科に対する紹介会社の利用等の医師確保を推進するとともに、医師の働き方改革に則り医師の勤務環境を改善や、各種手当の整備を行う等して、職場の魅力を高めていきたいと考えています。

医師確保対策推進担当（副） 横倉 靖

## XV 病院施設及び医療機器

### 1 建設改良工事等

#### (1) 病棟地下2階CVCF設備更新工事

CVCF設備は院内の重要設備に無停電で安定した電源を供給するための設備です。設置から15年が経過し、部品製造期間の終了が迫っており、故障時に修理ができなくなる恐れがあることから更新を行いました。

#### (2) 駐車場街路灯更新工事

桐生厚生総合病院の駐車場に設置されている街路灯が、経年劣化で故障が発生しております。照明が減少していくと、ご利用される患者さんの安全を損ない、また付近を通行する人の防犯効果に影響を及ぼすことから、更新を行いました。

## 2 病院施設設備の概要

設備名	設置機械	数量	規格及び内容
空調設備	ボイラー	4	ガス貫流式ボイラー 三浦工業(株) SQ-2000AS 定格出力 2,000kg/H、最高使用圧力0.98Mpa ガス消費量 113.4m <sup>3</sup> N/H
		1	ガス貫流式ボイラー 三浦工業(株) SQ-1200ZS 定格出力 1,200kg/H、最高使用圧力0.98Mpa ガス消費量 69.4m <sup>3</sup> N/H
	冷凍機	1	蒸気吸収式冷凍機 QAW-HS100FS 蒸気圧0.78Mpa、冷凍能力 100Rt
		2	蒸気吸収式冷凍機 TSA-DW-HS400FS 蒸気圧0.78Mpa、冷凍能力 400Rt
		1	ターボ冷凍機 三菱重工(株) ETI-20 冷凍能力 703.3kW / 200USRT 冷水流量 120.7m <sup>3</sup> /h 冷却水流量 141.9m <sup>3</sup> /h 電源 3相 400V 50Hz 電源容量 117kW
	冷水一次ポンプ	4	片吸込渦巻型 80×65φ×1,010ℓ/min×14mAq 1台 150×150φ×4,040ℓ/min×14mAq 2台 150×100φ×2,012ℓ/min×14mAq 1台
	冷却塔	4	超低騒音型 角型 冷却能力 200Rt (SDC-U200ASSD) 1台 400Rt (SDW-U405ASSD) 2台 100Rt (SDW-U100ASSD) 1台
	冷却水ポンプ	6	片吸込渦巻型 冷却水ポンプ 100×80φ×1,670ℓ/min×12mAq 1台 125×100φ×1,300ℓ/min×45mAq 2台 200×150φ×6,670ℓ/min×24mAq 2台 150×100φ×2,358ℓ/min×20mAq 1台
	冷水二次ポンプ	2	片吸込渦巻型 150×150φ×2,000ℓ/min×30mAq 1台 " (INV) 150×100φ×2,000ℓ/min×31mAq 1台
	熱交換器	3	蒸気温水交換熱量 1,320,000kcal/H シェルアンドチューブ式
	温水一次ポンプ	3	片吸込渦巻型 200×200φ×4,450ℓ/min×10mAq 3台
	温水二次ポンプ	2	片吸込渦巻型 150×100φ×1,500ℓ/min×30mAq 1台 " (INV) 150×100φ×1,500ℓ/min×32mAq 1台
冷温水ポンプ	3	片吸込渦巻型 150×100φ×3,200ℓ/min×30mAq 2台 " (INV) 150×100φ×3,200ℓ/min×32mAq 1台	

設備名	設置機械	数量	規格及び内容	
空調設備	真空給水ポンプ	2	複式型、相当放熱面積500cm <sup>2</sup>	
	薬注装置	13	清缶剤用6台、脱酸剤用3台、防錆剤用4台	
	空調機	70	冷水コイル、温水コイル、冷温水コイル、加湿器組込 39台、パッケージ型空調機 31台	
	フィルユニット	5	RI密閉型サイトアクセスユニット他	
	全熱交換器	12	380A 2台、150A 1台、100A 6台、65A 2台、30A 1台	
	ファンコイルユニット	750	冷温水コイル、個別制御方式	
	クリーンローユニット	69	天井セットコイル組込型 HEPAフィルター使用 冷暖房能力、風量調節スイッチ	
	ターミナルコイル	18	ダクト型冷温水コイル 3台、温水コイル 15台	
	定風量装置	22	電気式 給気 11台、排気 11台	
	給気、排気ファン	179	シロッコファン 他 給気ファン 35台、排気ファン 139台 (ブラスターファン 2台) 排煙ファン (片吸込リミットロードファン型) 5台	
電気設備	電力引込設備	2	本線 (清瀬線)、予備線 (三原線) 2回線受電 6.6kV 引込開閉器盤 (2面)	
	受変電設備	1	主変電室、第二変電室、X線変電室、外来変電室 主遮断機 2-PC方式 受変電設備容量 6,000kVA、契約電力 1,360kW	
	非常用 自家発電設備	1	ディーゼル16気筒、1,500rpm、 6.6kV50Hz、3φ3W、1,500kVA (1,200kW) 自動起動確立 40秒	
	無停電電源装置	1	CVCF装置 100kVA、100V、対処時間5分 蓄電池 MSE-800、UP300-12R	
	電話配管設備	1	端子盤 (MDF含) 46面、回線口 478口	
	院内PHS設備	1	PHS 321台	
	放送設備	3	一般及び非常用放送アンテナ 1,200W 各所ローカルアンテナ装置、非常時25回線一斉	
	ナースコール設備	1	ナースコール制御機10台、ナースコールホート型親機Z型60局5台、 80局5台、ナースコール子機535台、メテリカルアンテナ 55台	
	衛生設備	給水設備	10	上水受水槽 180m <sup>3</sup> 1基 中間水槽 (除鉄除マンガン処理後) 21m <sup>3</sup> 1基 処理水槽 (井水処理装置設備) 2m <sup>3</sup> 1基 MF膜ろ過装置 (井水処理装置設備) 1基 雑用水槽及び消防用水槽 370m <sup>3</sup> 1基 上水高架水槽 36m <sup>3</sup> 1基 雑用水高架水槽 27m <sup>3</sup> 1基 感染症系統上水高架水槽 1.1m <sup>3</sup> 1基 感染症系統雑用水高架水槽 0.65m <sup>3</sup> 1基 消防用補給高架水槽 0.5m <sup>3</sup> 1基
給湯設備			3	ストレージタンク (鋼板製内面プレート) 5,000ℓ 3基

設備名	設置機械	数量	規格及び内容
衛生設備	排水設備	1	(屋内)汚水雑排水分流式 (屋外)汚水雑排水雨水一管式 汚水集中ポンプ 10台、湧水ポンプ 12台、 雑排水ポンプ 20台、雨水ポンプ 4台 ※(排水処理施設)接触酸化方式 RI排水処理施設24.6m <sup>3</sup> /d 処理水量 厨房、化学排水処理施設56m <sup>3</sup> /d 処理水量 感染排水処理施設30m <sup>3</sup> /d 処理水量(散水3方式)
	都市ガス	1	中圧ガス 100φ(ボイラー用) 低圧ガス 100φ(厨房、検査用)
	中央集じん設備	1	乾式濾布方式集じん機、吸引弁 288個
	医療ガス設備	1	液体酸素タンク 1,690m <sup>3</sup> 1基、警報機 14基、 シャットオフバルブ 43個、アウトレット(ハットユニット含む) (壁付、天吊、リール式、シーリングモジュール) 1,204個
	人工空気	1	人工空気タンク 4m <sup>3</sup> 1基
	吸引機	3	吸引装置 2台、歯科用吸引装置 1台
消防用設備	自動火災 報知設備	1	R型受信機(R-24C)予備電源内蔵 550回線、表示機30回線13台、発信機P型一級 熱感知器、差動式 273個、定温式 267個 煙感知器、光電式 928個
	院内非常電話設備	1	電話機 59台(地下火災通報装置防災センター直通)
	屋内、屋外 消火栓設備	1	屋内消火栓 43台、屋外消火栓 5台 900ℓ/min×78m×18.5kW(屋内ポンプ 1台) 750ℓ/min×53m×11kW(屋外ポンプ 1台)
	スプリンクラー設備	1	ヘッド数 3,265個、流水作動弁 12個、ポンプ 1台 900ℓ/min×99m×30kW、ヘッド溶解72°
	ハロゲン化物消火 設備	1	ハロゲンガス 1301 容器 19本、FK-5-1-12 容器 1本、 噴射ヘッド数 18個、スピーカー 12個
	防火、防排煙 設備	1	連動制御器 1台 自動開閉装置 245個(ダンパー、排煙口含む) 自動起動装置 119個(煙感知器、熱感知器) 音響装置(電子ブザー) 23個
	簡易粉末消火設備	1	厨房外消火用 簡易自動消火装置 12台

設備名	設置機械	数量	規格及び内容
昇降機設備	エレベーター	8	乗用 750kg 11名 90m/min 9stop 1台 450kg 6名 60m/min 9stop 1台 寝台用 1,000kg 15名 60m/min 9stop 2台 1,000kg 15名 45m/min 4stop 1台 荷物用 1,000kg 60m/min 9stop 1台 非常用 1,150kg 17名 90m/min 10stop 1台 " 2,000kg 30名 90m/min 10stop 1台 自家発電連動、火災地震停電時自動着床、 遠隔監視(東京)
	ダムウェーター	3	30kg 30m/min 2stop 2台、7stop 1台
中央監視設備	中央監視装置	1	Savic-net FX 監視用PC、23.8インチディスプレイ、カラーレーザープリンター、グラフィックパネル、システム制御盤

### 3 主な医療機器購入一覧

申請部署	設置場所	医療機器名(規格)	製造会社名等	数量
手術室	手術室	手術支援ロボット(Hugo)	メドトロニック(株)	1
手術室	中央材料室	過酸化水素低温プラズマ滅菌機	ASPジャパン(合同)	1
手術室	中央材料室	逆浸透装置(屋内仕様)	東西化学産業(株)	1
臨床検査科	病理検査室	全自動尿統合型分析システム	シスメックス	1
麻酔科	手術室	全身麻酔器	GEヘルスケアジャパン	1

# XVI 図書

## 1 受入図書

### (1) 図書

	図書名/出版社名
1	消化器内視鏡 2024年1月(Vol. 36 No. 1) /東京医学社
2	パワーアップ拡散MRI /学研メディカル秀潤社
3	呼吸器ジャーナル 2024年1号(Vol. 72 No. 1) /医学書院
4	リンパ腫アトラス 第5版 /文光堂
5	外科病理学 第5版 /文光堂
6	鼻アレルギー診療ガイドライン 2024年版 /金原出版
7	結核診療ガイドライン 2024 /南江堂
8	医療福祉サービスガイドブック 2024年度版 /医学書院
9	女性のがんサバイバーフォローアップQ&A /メジカルビュー社
10	発熱性好中球減少症(FN)診療ガイドライン 改訂第3版 /南江堂
11	侵襲性カンジダ症に対するマネジメントのための臨床実践ガイドライン /日本医真菌学会
12	成人肺炎診療ガイドライン 2024 /メディカルレビュー社
13	性感染症診断・治療ガイドライン 2020 /診断と治療社
14	関節リウマチ診療ガイドライン 2024改訂 /診断と治療社
15	変形性股関節症診療ガイドライン 2024 /南江堂
16	鼠径部ヘルニア診療ガイドライン 2024 /金原出版
17	尿道狭窄症診療ガイドライン 2024年版 /医学図書出版
18	膠原病診療ノート 第5版 /日本医事新報社
19	臨床微生物検査ハンドブック 第5版 /三輪書店
20	臨床に直結する血栓止血学 改訂3版 /中外医学社
21	神経筋疾患の超音波検査実践マニュアル /南江堂
22	必携!よくわかる尿検査・腎機能検査 /中外医学社
23	皮膚科手技大全 /医学書院
24	遺伝性乳癌卵巣癌(HBOC)診療ガイドライン 2024年版 /金原出版
25	大腸癌治療ガイドライン 医師用 2024年版 /金原出版
26	遺伝性大腸癌診療ガイドライン 2024年版 /金原出版
27	非がん性慢性疼痛に対するオピオイド鎮痛薬処方ガイドライン 改訂第3版 /文光堂
28	ギラン・バレー症候群, フィッシャー症候群診療ガイドライン 2024 /南江堂
29	慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー, 多巣性運動ニューロパチー診療ガイドライン 2024 /南江堂
30	炎症性腸疾患関連消化管腫瘍診療ガイドライン 2024年版 /金原出版
31	日本病理剖検輯報 第65輯 /日本病理学会
32	脳腫瘍診療ガイドライン 成人脳腫瘍編 2024年版 /金原出版
33	必携脳卒中ハンドブック 改訂第4版 /診断と治療社
34	BRAIN and NERVE 2024年5月増大号 (Vol. 76 No. 5) /医学書院
35	小児循環器入門 /日本医事新報社
36	小児臨床検査ガイド 第3版 /文光堂

	図 書 名/出版社名
37	小児救急標準テキスト basic編 /中外医学社
38	日常診療に役立つ小児感染症マニュアル 2023 /東京医学社
39	小児・思春期糖尿病コンセンサス・ガイドライン 2024 /南江堂
40	小児の鎮静・鎮痛ガイドランス /中外医学社
41	Dr. 夏秋の臨床図鑑 虫と皮膚炎 改訂第2版 /Gakken
42	皮膚科診療秘伝の書 /南江堂
43	麻酔科学レビュー 2024 /総合医学社
44	乳がん患者ケアパーフェクトブック /学研メディカル秀潤社
45	女性性を支えるがん看護 /医学書院
46	専門家をめざす人のための緩和医療学 改訂第3版 /南江堂
47	実践・心不全緩和ケア /日経BP社
48	実践小児薬用量ガイド 第4版 /じほう
49	授乳婦と薬 第2版 /じほう
50	糖尿病診療ガイドライン 2024 /南江堂
51	新小児薬用量 改訂第10版 /診断と治療社
52	新違いがわかる!同種・同効薬 上巻 /南江堂
53	新違いがわかる!同種・同効薬 下巻 /南江堂
54	国民衛生の動向 2024/2025 /一般財団法人 厚生労働統計協会
55	「重症度、医療・看護必要度」解説書 2024年度診療報酬改定対応 /日本看護協会出版会
56	臨床微生物検査技術教本 第2版 /丸善出版
57	IVRのすべて /メジカルビュー社
58	訪問看護業務の手引 令和6年6月版 /社会保険研究所
59	実践IGRT 【放射線医療技術学叢書(40)】 /公益社団法人 日本放射線技術学会
60	できる訪問看護師と言われるために3年目までに知っておきたい105のこと /Gakken
61	訪問看護師のための診療報酬&介護報酬のしくみと基本 2024(令和6)年度改定対応版 /メディカ出版
62	家族看護学：理論と実践 第5版 /日本看護協会出版会
63	会議・カンファレンス35のスキル /日本看護協会出版会
64	エビデンスに基づくIPMN国際診療ガイドライン：日本語版 2024年版 /医学書院
65	「洗う」文化史 /吉川弘文館
66	文人と歯恩 /一世出版
67	続・義経はやなぎの薬効を知っていた：やなぎの樹液からアスピリンへ /医学情報社
68	歯科医学史の検証 /一世出版
69	歯科業界ハンドブック 2024年版 /日本歯科新聞社
70	新編顎関節症 第3版 /永末書店
71	“痛み”の臨床推論：診断過程を可視化するための教科書 /デンタルダイヤモンド社
72	ココだけ・コレだけ・だれでもわかる酸素療法 /Gakken
73	動画と写真でまるわかり!ペースメーカー 【臨床工学技術ヴィジュアルシリーズ】 /Gakken
74	カテーテルスタッフのためのPCI必須知識 3rd edition /メジカルビュー社

	図 書 名/出版社名
75	これさえあれば自信をもって心カテ室に入れる心臓カテーテルのギモン104 /メディカ出版
76	患者さんにご家族のためのCKD療養ガイド 2024 /東京医学社
77	脳血管障害のリハビリテーション医学・医療テキスト /医学書院
78	内部障害のリハビリテーション医学・医療テキスト /医学書院
79	運動器疾患・外傷のリハビリテーション医学・医療テキスト /医学書院
80	社会活動支援のためのリハビリテーション医学・医療テキスト /医学書院
81	リハビリテーション医学・医療における栄養管理テキスト /医学書院
82	これからはじめよう!顔面神経麻痺リハビリテーション /インテルナ出版
83	五十肩の評価と運動療法 【運動と医学の出版社の臨床家シリーズ】 /運動と医学の出版社
84	脳卒中運動学 /運動と医学の出版社
85	PT・OTのための脳卒中に対する臨床 upper limb 機能アプローチ /三輪書店
86	NANDA-I 看護診断:定義と分類 2021-2023 /医学書院
87	嚥下障害診療ガイドライン 2024年版 /金原出版
88	糖尿病医療者のための災害時糖尿病診療マニュアル 2024 /文光堂
89	がん患者における気持のつらさガイドライン 2024年版 【がん医療におけるこころのケアガイドラインシリーズ4】 /金原出版
90	単純X線撮影における品質管理マニュアル 【放射線医療技術学叢書(41)】 /公益社団法人 日本放射線技術学会
91	胃癌取扱い規約 第15版 /金原出版
92	看護に活かす 基準・指針・ガイドライン集 2024 /日本看護協会出版会
93	便失禁診療ガイドライン 2024年版 /南江堂
94	肺癌診療ガイドライン:悪性胸膜中皮腫・胸腺腫瘍含む 2024年版 /金原出版
95	がん患者診療のための栄養治療ガイドライン 総論編 2024年版 /金原出版
96	上腕骨外側上顆炎診療ガイドライン 2024 /南江堂
97	標準眼科学 第15版 【Standard textbook】 /医学書院
98	標準脳神経外科学 第16版 【Standard textbook】 /医学書院
99	標準小児科学 第9版 【Standard textbook】 /医学書院
100	異常値の出るメカニズム 第8版 【Laboratory medicine】 /医学書院
101	内科レジデントの鉄則 第4版 /医学書院
102	救急外来ただいま診断中! 第2版 /中外医学社
103	肝胆膵画像診断の鉄則 /医学書院
104	見て学ぶ一般検査学アトラス /医学書院
105	診療報酬・介護報酬のしくみと考え方 第7版 /日本看護協会出版会
106	MRI一問一答 【Gakken keybook beginners】 /Gakken
107	CT診断一問一答 【Gakken keybook beginners】 /Gakken
108	ビギナーのための1カ月/30Stepで学ぶCT診断入門 /メジカルビュー社
109	看護介入分類(NIC) 原著第8版 /エルゼビア・ジャパン
110	看護成果分類(NOC) 原著第7版 /エルゼビア・ジャパン
111	今日の治療薬:解説と便覧 2025 /南江堂
112	当直医マニュアル 2025 /医歯薬出版

	図 書 名/出版社名
113	臨床・病理肺癌取り扱い規約 第9版 /金原出版
114	薬学生のための病院・薬局実務実習テキスト 2025年版 /じほう
115	臨床検査データブック 2025-2026 /医学書院
116	喘息予防・管理ガイドライン 2024 /協和企画
117	小児消化管感染症診療ガイドライン 2024 /診断と治療社
118	胆道閉鎖症診療ガイドライン 第2版 /へるす出版
119	若年性特発性関節炎診療ガイドライン 2024-25 /メディカルレビュー社
120	全身性強皮症診療ガイドライン 2025年版 /金原出版
121	患者さんのためのリンパ浮腫ガイドライン 2025年版 /金原出版
122	小児・AYA世代がん患者等の妊孕性温存に関する診療ガイドライン 第2版 /金原出版
123	NANDA-I看護診断 定義と分類 2024-2026 /医学書院
124	がん患者さんのための栄養治療ガイドライン 2025年版 /金原出版
125	中皮腫瘍取り扱い規約 第2版 /金原出版
126	感染症プラチナマニュアル Ver. 9 2025-2026 Grande /メディカルサイエンスインターナショナル
127	胃癌治療ガイドライン：医師用 2025年3月改訂 第7版 /金原出版
128	日本臨床栄養代謝学会JSPENテキストブック /南江堂
129	死後画像読影ガイドライン 2025年版 /金原出版
130	日本人の食事摂取基準 2025年版 /第一出版
131	救急診療指針 上巻 改訂第6版 /へるす出版
132	救急診療指針 下巻 改訂第6版 /へるす出版
133	緩和医療薬学 改訂第2版 /南江堂
134	がん薬剤師外来マニュアル /医学書院
135	免疫関連有害事象irAEマネジメント /金芳堂
136	免疫関連有害事象irAEマネジメントmini /金芳堂
137	がん化学療法副作用対策ハンドブック 第4版 /羊土社
138	がん化学療法レジメンハンドブック 改訂第8版 /羊土社
139	緩和ケア 改訂第3版 【看護学テキストnice】 /南江堂
140	がん看護 改訂第2版 【看護学テキストnice】 /南江堂
141	美しい画像で見る内視鏡アトラス 上部消化管 /羊土社
142	美しい画像で見る内視鏡アトラス 下部消化管 /羊土社
143	がん患者のスキントラブル 予防ケアと発生後ケア /Gakken
144	がん緩和ケアに活かす 5大症状診断術 /じほう
145	がん疼痛緩和の薬がわかる本 第4版 /医学書院
146	研修医・総合診療医のためのがん化学療法ファーストタッチ /じほう
147	診察ができる vol. 1 身体診察 第1版 /Medic Media
148	診察ができる vol. 2 鑑別診断 第1版 /Medic Media
149	病気がみえる vol. 1 消化器 第7版 /Medic Media
150	病気がみえる vol. 4 呼吸器 第4版 /Medic Media
151	病気がみえる vol. 8 腎・泌尿器 第4版 /Medic Media
152	病気がみえる vol. 11 運動器・整形外科 第2版 /Medic Media
153	標準外科学 第17版 【Standard textbook】 /医学書院

	図 書 名/出版社名
154	2025年版 消毒と滅菌のガイドライン /へるす出版

## 2 受入雑誌

### (1) 和雑誌

	科	タイトル	配架
1	内科	臨床雑誌 内科	図書室
2		胃と腸	
3		胆と膵	
4	精神科	臨床心理学	図書室
5		こころの科学	
6	脳神経内科	脳神経内科	図書室
7	循環器内科	Heart View	図書室
8	小児科	小児科	図書室
9		小児内科	
10		小児科診療	
11	外科	臨床雑誌 外科	図書室
12		臨床外科	
13		手術	
14		消化器外科	
15	整形外科	臨床雑誌 整形外科	図書室
16		臨床整形外科	
17		整形・災害外科	
18		脊椎脊髄ジャーナル	
19		整形外科SURGICAL TECHNIQUE	
20		MB Orthopaedics(月刊 オルソペディクス)	
21	脳神経外科	Neurological surgery 脳神経外科	脳神経外科
22		脳神経外科速報	
23	皮膚科	臨床皮膚科	図書室
24		皮膚科の臨床	
25		皮膚病診療	
26	泌尿器科	臨床泌尿器科	図書室
27		泌尿器外科	
28		腎と透析	
29	産婦人科	産婦人科の実際	産婦人科
30		周産期医学	
31		産科と婦人科	
32	眼科	臨床眼科	図書室
33		眼科ケア	
34		あたらしい眼科	
35		眼科手術	
36	耳鼻いんこう科	JOHNS	耳鼻いんこう科

	科	タイトル	配架
37	麻酔科	臨床麻酔	麻酔科
38		ペインクリニック	
39		LISA	
40		INTENSIVIST	
41	麻酔科	救急・集中治療	麻酔科
42	放射線科	臨床放射線	放射線科
43		画像診断	
44	病理診断科	病理と臨床	病理診断科
45	歯科・ 歯科口腔外科	歯界展望	図書室
46		デンタルハイジーン	
47	臨床研修医	レジデントノート	研修医室
48	薬剤部	月刊薬事	薬剤科
49		調剤と情報	
50		薬局	
51		レシピプラス	
52	リハビリ テーション 技術科	総合リハビリテーション	リハビリ テーション 技術科
53		理学療法ジャーナル	
54		理学療法	
55		作業療法ジャーナル	
56		Clinical Rehabilitation	
57	放射線技術科	INNERVISION	放射線技術科
58	中央検査科	臨床検査	中央検査科
59		検査と技術	
60		Medical Technology	
61		日本臨床検査医学会誌	
62		臨床と微生物	
63	栄養管理科	臨床栄養	栄養管理科
64		Nutrition Care	
65	臨床工学科	Clinical Engineering	臨床工学科
66		みんなの呼吸器Respica	
67		ハートナーシング	
68	看護部	看護	図書室
69		看護展望	
70		看護管理	
71		看護部長通信	看護部長室
72		月刊ナースマネジャー	
73		看護人材育成	外来
74		継続看護を担う外来看護	
75		エマログ	救急外来
76		オペナーシング	手術室
77		透析ケア	腎センター
78		重症集中ケア	ICU

	科	タイトル	配架
79	看護部	赤ちゃんを守る医療者の専門誌 with NEO	N I C U
80		小児看護	G C U
81		エキスパートナース	3F
82		地域連携 入退院と在宅支援	4 東
83		助産雑誌	4 西
84		消化器ナーシング	5 西
85		ブレインナーシング	6 東
86		リハビリナース	6 西
87		みんなの呼吸器Respica	7 東
88		ハートナーシング	7 西
89		コミュニティーケア	訪問看護室
90	医療安全対策室	病院安全教育	医療安全対策室
91	感染対策室	INFECTION CONTROL	図書室
92		感染対策ICTジャーナル	
93	図書室	病院	
94		医学のあゆみ	
95		日本医事新報	
96		癌と化学療法	
97		全国自治体病院協議会雑誌	
98		日本病院会雑誌	
99		臨床リウマチ	

(2) タブロイド誌

	科	タイトル	配架先
1	薬剤部	薬事日報	薬剤科
2	中央検査科	MTJ (メディカルテストジャーナル)	中央検査科

(3) 洋雑誌

	科	タイトル	購読形態
1	内科	Hepatology	OJ
2		Liver Transplantation	OJ
3		Gastroenterology	冊子
4		GIE (Gastrointestinal Endoscopy)	冊子
5	脳神経内科	Annals of NEUROLOGY	冊子・OJ
6	小児科	The Journal of Pediatrics	冊子
7		Pediatrics	OJ
8	整形外科	Bone & Joint Journal	冊子
9		JBJS	冊子
10	脳神経外科	Journal of Neurosurgery/J. Neurosurgery : Spine	OJ
11		Neurosurgery	OJ
12	産婦人科	Obstetrics and Gynecology	冊子
13	図書室	JAMA	冊子
14		New England Journal of Medicine	冊子
15		The Lancet	冊子

# XVII 病 院 行 事

## 1 主な行事

実施年月日	行 事 名
R6 4. 1	新規採用職員辞令交付・昇格辞令等交付
7. 20	第29回市民公開講演「心不全もパンデミックを考える －注目される「心臓病」と「がん」のつながり－」
24	献血
8. 6	令和6年度病院事業 第4四半期及び決算監査
21	利根川プログラム臨地実習バスツアー
9. 6	防災避難訓練及び防火訓練
11	第6回登録医大会
27	職員による環境美化整備ボランティア
10. 25	第 195 回桐生地域医療企業団議会（定例会）
11. 26	令和6年度病院事業上半期（第1、第2四半期会計監査）
12. 14	災害訓練
27	職員による環境美化整備ボランティア
R7 2. 10	永年勤続職員表彰式
10	開院記念祝賀会
18	第 196 回桐生地域医療企業団議会（定例会）
3. 6	利根川プログラム臨地実習バスツアー
11	関東信越厚生局による適時調査
13	洪水時等の避難訓練
15	第30回市民公開講演「がん治療の最前線～ロボット手術と低侵襲手術～」
18	防火訓練（夜間想定避難訓練）
24	献血
25	令和6年度病院事業 第3四半期会計監査
28	医学部医学科をめざす高校生の職場体験セミナー
31	定年退職者感謝状贈呈式・定年退職者辞令交付
毎月1回（月末）	院内報告会

## 2 職員健康管理

実施年月日	行 事 名
R6 6. 10～14	職員定期健康診断（胸部X線撮影、血液・尿検査等）
8. 28～30	HBワクチン接種（第1回）
9. 25～27	HBワクチン接種（第2回）
9. 25～10. 1	HBワクチン接種者抗体検査（1回接種者）
10. 18～24	インフルエンザ予防接種
11. 11	歯周病疾患検診
12. 1～7	職員定期健康診断（深夜業務従事者、放射線業務従事者）
19	がん予防検診（胃がん・大腸がん）
R7 1. 29	がん予防検診（乳がん・子宮がん）
2. 5～7	HBワクチン接種（第3回）
3. 5～11	HBワクチン接種者抗体検査（3回接種者）
毎月1回	栄養管理科職員検便

### 3 職員共済会

#### (1) 目的

地方公務員の規定に基づき、職員の福利厚生制度の適切な運営を図り、能率増進に資することを目的とします。

#### (2) 事業

##### 1. 共済給付事業

- (1) 傷病見舞金 (2) 死亡弔慰金 (3) 出産見舞金 (4) 災害見舞金  
(5) 結婚祝金 (6) 退会給付金 (7) 勤続祝金 (8) 成人祝金

##### 2. 福利厚生事業

- (1) 福利厚生事業

#### (3) 専門部

1. 総務部
2. 厚生部
3. 体育部
4. 文化部

#### (4) 実施行事

専門部名	行事名	実施日
総務部	○開院記念祝賀会	R7.2.10
厚生部	○職員旅行（日帰り）	中止
体育部	○ソフトバレーボール大会	中止
	○ボウリング大会	中止
文化部	○クリスマスリース作成	中止
	○日帰り旅行	中止

# XVIII 付 属 施 設 等

## 1 群馬県立赤城特別支援学校桐生厚生総合病院内教室

### (1) 概要

当院の桐生厚生総合病院内教室は、群馬県立赤城特別支援学校の院内教室で、入院治療を要する児童生徒のために、継続して教育が受けられることを目的として設置されました。

設置に至る経緯は、昭和48年に入院治療中の一教師の献身さと、小児患者の保護者の熱意と病院の理解と協力により、開設されました。

### (2) 沿革

昭和49年	3月	桐生厚生総合病院敷地内の旧看護婦宿舎西側1階の7部屋及び洗面所等(延面積175.5㎡)を病弱学級として改装し提供
昭和49年	4月9日	桐生市立昭和小学校病弱学級を開級(許可学級1、教諭2)
昭和50年	4月1日	桐生市立昭和小学校(病弱学級)となる。(許可学級2)
昭和52年	7月9日	分校の後援会「みずはなびの会」が発足
昭和53年	3月27日	分校初の卒業式(2名)
昭和54年	3月3日	中学部設置準備のため小学部の2階7部屋等(延面積175.5㎡)を改装し提供
昭和54年	3月31日	昭和小学校分校が県移管のため廃校
昭和54年	4月1日	群馬県立東毛養護学校桐生厚生総合病院分教室小・中学校設置(延面積351㎡、認可学級4、教諭4)
昭和55年	4月1日	群馬県立東毛養護学校桐生分校に昇格(認可学級5、教頭・教諭5)
昭和55年	7月18日	音楽室の使用(1階1部屋延面積17.6㎡)を開始する。
昭和61年	4月8日	入学式・始業式(認可学級6、教頭・教諭8)
昭和61年	8月28日	桐生厚生総合病院増改築工事に伴う新校舎竣工(平屋1棟面積582.71㎡)
昭和61年	9月1日	第2学期から新校舎で授業(使用)開始
平成元年	4月1日	認可学級6(小学部3、中学部3)教頭・教諭9人となる。
平成9年	4月1日	東毛養護学校及び西毛養護学校の統合により群馬県立赤城養護学校に校名変更となる。
平成17年	4月1日	認可学級5(小学部3、中学部2)教頭・教諭8人となる。
平成21年	4月1日	認可学級5(小学部3、中学部2)教頭・教諭7人となる。
平成27年	4月1日	群馬県立学校設置条例改正により、群馬県立赤城特別支援学校に校名変更し許可学級5(小学部3、中学部2)教諭5人となる。

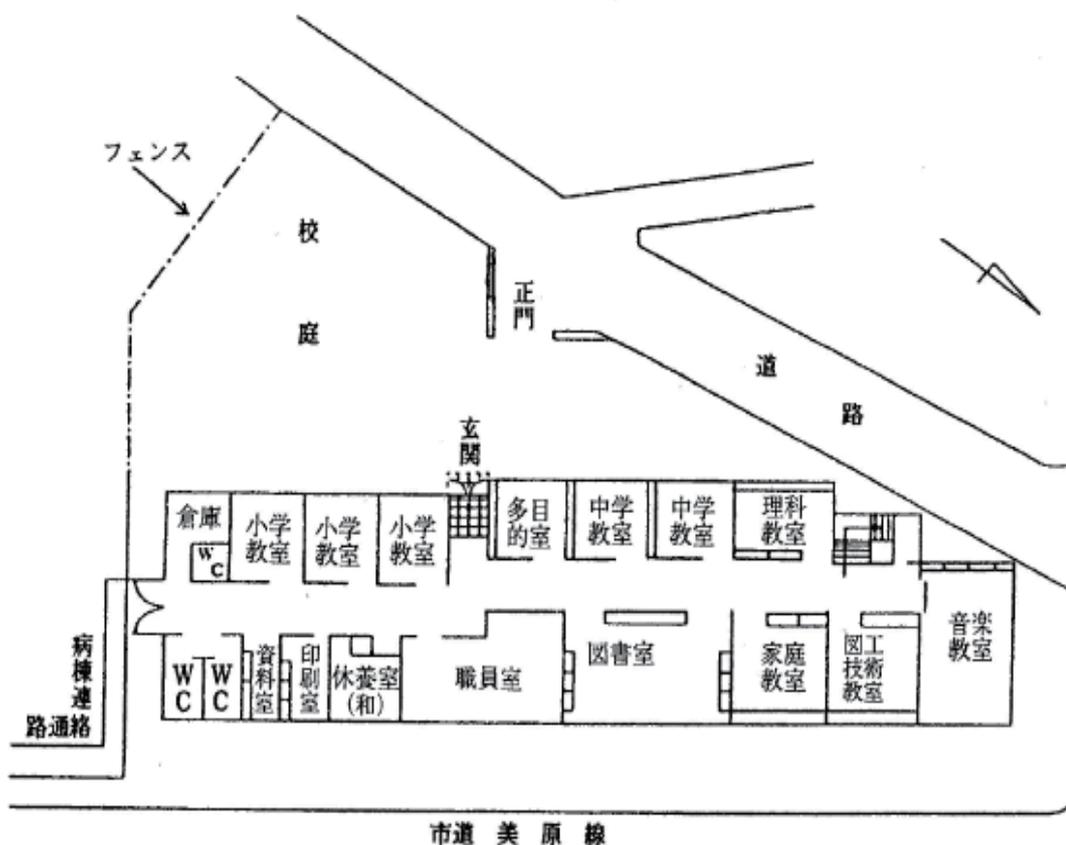
### (3) 児童生徒数

年度 内訳	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小学部	0人	3人	4人	3人	1人
中学部	3人	7人	1人	1人	1人
児童生徒数	3人	10人	5人	4人	2人
延在学者数	3人	11人	5人	4人	2人

(4) 連絡会議

桐生厚生総合病院内教室の円滑的運営に資するため、学校病院連絡会議を毎月(年 11 回)開催して相互理解を深め、児童・生徒の学校及び病院での生活、病状などの諸事項にわたり連携して指導、育成につとめています。

群馬県立赤城特別支援学校 桐生厚生総合病院内教室



## XIX 編集委員・部員名簿

### 【編集委員】

役職名	職名	氏名
委員長	院長	加藤 広行
委員	副院長	曲澤 聡
〃	内科部長	飯田 智広
〃	整形外科部長	斯波 俊祐
〃	外科部長	田中 成岳
〃	リハビリテーション技術科長代理	橋場 聡志
〃	放射線技術科長	見留 豊久
〃	中央検査科長	梶田 幸夫
〃	栄養管理科長代理	大木 康史
〃	臨床工学科係長	三木 康正
〃	薬剤部部長	阿部 正樹
〃	看護部部長	粕川 由貴子
〃	医療安全管理者	高橋 紀子
〃	感染対策室看護師	山田 あゆり
〃	総務課長	宮田 晋一
〃	契約管財課長	宇津野 貴
〃	医事課長	新井 教弘
〃	地域医療連携室主幹	上原 美奈子
〃	総務課課長補佐	石井 理彦

### 【編集部員】

役職名	所属	職名	氏名
部会長	脳神経外科	副院長	曲澤 聡
部会員	整形外科	診療部長	斯波 俊祐
〃	外科	診療部長	田中 成岳
〃	リハビリテーション技術科	主査	小池 彩香
〃	放射線技術科	科長補佐	小林 誠
〃	中央検査科	主査	大川 恭平
〃	栄養管理科	管理栄養士	茂木 端畝
〃	臨床工学科	主査	加藤 優典
〃	薬剤部	科長補佐	根岸 由美
〃	看護部	副看護部長	鈴木 由美子
〃	看護部	看護師長	小倉 直子
〃	総務課	課長補佐	石井 理彦
〃	総務課	主査	横倉 靖
〃	経営政策課	課長補佐	高草木 有里子
〃	契約管財課	課長補佐	藪田 達也
〃	契約管財課	主査	福田 豊和
〃	医事課	係長	島田 博文
〃	医事課	主査	古舘 千秋
〃	医事課	室長補佐	金子 孝進
〃	地域医療連携室	室長補佐	剣物 裕司

### 【事務局】

総務課庶務係主事	大津 恵
----------	------